目次

測定結果のレポート.....1
測定結果のレポート: 概要.....1
レガシーのハイパービュー レポートを使った作業.....2
レガシー(ハイパービュー)レポートの移行.....2
レガシー(HyperView) レポートを使用します.....3
レポート作成の手順.....3
レポート ウィンドウについて.....5
[レポート]ツール バー.....6
レポート ウィンドウ内のヒントの使用.....12
レポート ウィンドウのコンテンツの変更.....13
標準レポートの使用.....23
レガシー レポートの表示.....27
レポート済みの形状測定結果の公差領域.....29
レポートページの並べ替え.....30
標準テンプレートの変更.....31
生成されたレポートの.DATファイルを使用.....32
レポートのヘッダー変更.....33
レポートのテキスト色変更.....36
注釈をレポートに追加.....37
レポート エディタおよびフォーム エディタについて.....41
レポート エディタおよびフォーム エディタについてのメニューバー.....41
フォント バー.....45

オブジェクト バー 46
円弧オブジェクト 51
AnalysisWindow オブジェクト 52
境界オブジェクト 61
Bitmap オブジェクト 62
ボタンオブジェクト 63
CadImageObject 64
[ラベルのレイアウト]ウィザード 73
CommandTextObject 80
チェックボタンオブジェクト 82
コンボボックス オブジェクト 83
[寸法カラーキー]オブジェクト 84
測定結果情報オブジェクト 86
EditBox オブジェクト 90
EditDblBoxオブジェクト 91
EditLongBox オブジェクト 91
楕円オブジェクト 92
フレーム オブジェクト 93
ヒストグラム オブジェクト 107
Label オブジェクト 115
引き出し線オブジェクト 118
線オブジェクト 120
ListBox オブジェクト 121

MultiEditBox オブジェクト 122
[ポインタ]オブジェクト 131
PointInfo オブジェクト 132
[ポリライン]オブジェクト 134
[Radiobutton]オブジェクト 134
[選択]オブジェクト 136
[スライダ]オブジェクト 142
[スピナ]オブジェクト 144
TextReportObject 145
[テキスト]オブジェクト 147
TextVar Object 147
レイアウト バー 148
グリッドを使用した操作 154
オブジェクトのプロパティについて 156
[ユーザー指定のプロパティ]を使用した操作 170
テンプレート関連データの消去 174
イベントの例1: EventClickイベントを使用したコードの呼び出し 177
イベントの例 2: Triggered イベントでのオブジェクト属性変更 178
レポート テンプレート エディタの説明 182
セクションについて 183
ラベル テンプレート エディタについて 185
カスタム レポート エディタについて 187
フォーム エディタの説明 188

テンプレート作成 190
レポートとレポート テンプレートについて 190
チュートリアル — レポート テンプレートの作成 191
レポート テンプレートの適用、または、除去 203
レポート テンプレートの共有 206
ラベルとラベル テンプレートについて 207
チュートリアル - ラベル テンプレートの作成 207
レポート内でのラベルの使用 219
レポート ウィンドウでのラベル配置 221
テーブル形式コマンドの使用 222
規則系統図エディタについて 223
ルール ツリー エディタにルールを定義します 224
規則のインポートとエクスポート 228
規則のコピーと貼り付けて 229
[テーブル形式のプロパティ]ダイアログ ボックスの使用 231
[テンプレートのプレビュー]サムネイルアイコンの変更 235
テンプレートまたはフォームを以前のバージョンで保存 237
チュートリアル — レポート テンプレートの利用 238
フォームの作成 245
フォーム エディタの説明 246
チュートリアル - フォームの作成 247
レポート内でのフォームの使用 261
カスタム レポートの作成 262

チュートリアル — カスタム レポートの作成.....262
カスタム レポートの作成.....273
レポート オブジェクトの配置.....273
データをカスタム レポートへドラッグおよびドロップ.....274
ルールの使用.....283
複数のページを使用した作業.....283
カスタム レポートの表示および印刷.....284
カスタム レポートの削除.....285
他の測定ルーチンからのカスタム・レポートの使用.....285
式レポートについて.....286
関数および演算子.....286
レポート式の例.....300
文字列の色を変更.....305
データ タイプ使用でのレポート式検索.....308
使用可能なデータ タイプ一覧.....310
型インデックスを使用した特定のデータ表示.....350
既定定数.....351
標準テンプレートで使用される式.....353
PC-DMIS ActiveXコントロールの使用.....355
チュートリアル - 報告を強化するためにスクリプトを使用します.....361
Excelテンプレートの作成または編集.....373

測定結果のレポート

測定結果のレポート: 概要

部品を測定した後、他の人と寸法を通信できるようにすることが重要です。PC-DMISは、デフォルトでは、パートプログラムで測定した各要素についての包括的なデータが含まれ、検査報告書と呼ばれる標準的なテキストレポートに測定データを送信します。このレポートをプリンタまたはファイルに出力し、後で**表示 | Inspection Report**を選択することで保存されたレポートを表示することが可能です。「検査報告を見る」と「検査報告を印刷する」を参照してください。

多くのタスクにとって、標準的な検査レポートはユーザーの要求を十分に満たしています。しかし、PC-DMISではユーザー独自のインタラクティブなレポートを作成する強力なツールが用意されています。これらのツールでは、テンプレートを使用してレポートの外観およびどのデータをレポートに含めるかを正確に定義することが可能です。また、これらのテンプレートを使用して複数のレポートに共通した外観や印象を保つことができます。

さらに、「カスタムレポート」と呼ばれる測定ルーチン固有のレポートを作成する機能も用意されています。これは、レポート作成する必要があるときにレポートテンプレートを使用する必要のない便利なソリューションです。

この章では主に以下のトピックを取り扱います：

- HyperViewレポートの移行
- レポート作成の手順
- レポート ウィンドウについて
- 標準レポートの使用
- レガシー テキスト限定レポート閲覧
- レポート済みの形状測定結果の公差領域
- レポート ページ再編
- 標準テンプレートの移行
- 生成されたレポートの.DATファイルを使用
- レポートのヘッダーの変更
- レポートのテキスト色変更

- 注釈をレポートに追加
- レポート エディタおよびフォーム エディタについて
- テンプレート作成
- フォームの作成
- カスタム レポートの作成
- 式レポートについて
- PC-DMIS ActiveXコントロールの使用
- チュートリアル - 報告を強化するためにスクリプトを使用します
- Excelテンプレートの作成

レガシーのハイパービュー レポートを使った作業

レガシーレポートは(以前HyperViewレポートとして知っている)パソコンDMISの古い3.xバージョンに存在します。これは4.xおよびそれ以降のバージョンで使用されるテンプレート新しいの基礎、フォームや環境報告を提供します。

デフォルトで、PC-DMISレポートへのテンプレートアプローチを使用します。従来のハイパーレポートで、この意味は何ですか？PC-DMISは以下の能力を提供します：

- HyperViewのレポートをカスタムレポートまたはフォームのいずれかに移動します。「レガシー(ハイパービュー)レポートの移行」を参照してください。
- HyperView レポートで直接作業を続けます。レポートを作成および編集できます。「レガシー（HyperView）レポートの使用」を参照してください。

レガシー(ハイパービュー)レポートの移行

PC-DMIS 4.3 MR1以降のHyperView レポートを作成と編集できる場合、you may want to migrate your legacy HyperView reports into PC-DMISの新しいレポート環境にレガシーHyperViewレポートを移行したいので、代わりにそれらと作業できます。

旧式のハイパービュー レポートの変換方法:

1. **ファイル | レポート | 編集| レガシーレポート**を選択してハイパービュー レポートを開きます。レポートには、実行モードで開きます。

2. **ファイル| 変換** を選択してまた**レポート** または**フォーム**のいずれかを選択します。

   - **レポート**を選択したら、PC-DMISはハイパービュー レポートを変換して **カスタム レポート**
     エディタと作業します。しかし、すべてのオブジェクトは変換されません。カスタム レポートに適用されるオブジェクトは変換されます。「カスタム レポートの作成」を参照してください。

   - [**フォーム**]を選択した場合は、 PC-DMISは、**フォームエディタ**で動作するようにハイパービュー レポートに変換されます。ただし、すべてのオブジェクトが変換されない場合があります。フォームでサポートされるオブジェクトのみが変換されます。「フォームの作成」を参照してください。

これで、レポートまたはフォームを、適切なエディタで変更することが可能です。変換前のハイパービュー レポートは変更されません。

注記: ハイパービュー
レポートに表示される特定オブジェクトは選択された移行経路でサポートされないことを確認してください。例えば、ハイパービュー レポートにボタン オブジェクトが含まれ、それをカスタム レポート
エディタに移行した場合、ボタンはエディタに表示されますが[レポート]ウィンドウでは機能しません。

レガシー(HyperView) レポートを使用します

version 4.3 MR1以降のは、PC - DMISが再び作成とHyperViewレポートの編集をサポートします。

- 新しいレガシーレポートを作成するには、 **ファイル| レポート| 新規| ガシーレポート**を選択します。

- 既存のレガシーレポートを編集するには、 **ファイル| レポート| 編集| レガシーレポート**を選択してください。ハイパービューレポートは、実行モードで開きます。CTRL + Eキーを押すと編集モードのレポートの編集と実行モードでのテストの間で切り替わります。

HyperViewレポートは従来の機能であるため、このドキュメントでは積極的にトピックとして取り扱いません。 代わりに、ヘルプファイルからこの同じトピックのリンクに従って、HyperViewドキュメントのPDFをダウンロードすることができます。

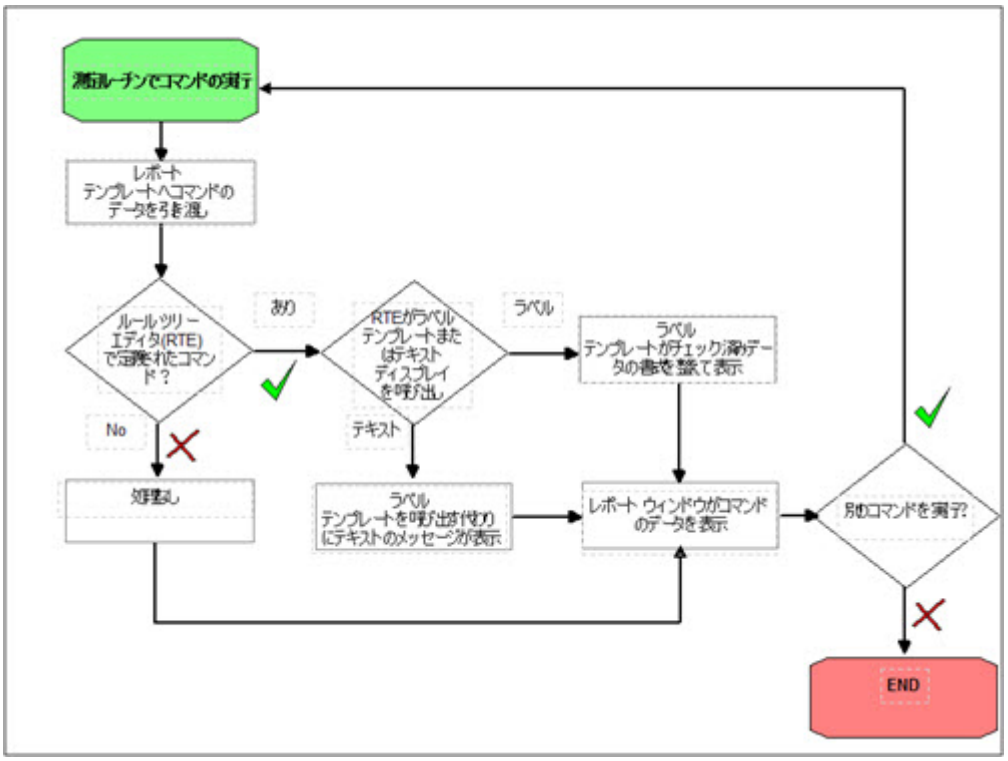
レポート作成の手順

このトピックでは、レポート作成処理の間、レポート テンプレート内のレポート
オブジェクトが測定データと連動し、レポート
ウィンドウに表示される処理について説明します。

- 測定ルーチンから各コマンドが実行されます。
- 各コマンドの情報は可能な処理のレポートテンプレートに行きます。
- レポートテンプレートのレポートオブジェクトは要求されますが、また情報が来たコマンドは **ルール ツリー エディタ**(詳細については
「ルールツリーエディタでのルールの定義」を参照してください)に定義されてラベル
テンプレートをコールして、 そのラベル
テンプレートはコールされます。違う場合はそのデータは最終レポートに表示されません
。
- 呼び出されたラベル テンプレートに引き渡されたデータは、ラベル テンプレート内の
GridControlObject およびその他のレポート
オブジェクトの設定に従い、全て書式を整えられて表示されます（詳細は、「オブジェクトバー」を参照してください）。
- 最後に、レポート テンプレート内に、呼び出されてデータの書式設定を行ったラベル
テンプレートが表示され、レポート
ウィンドウに固有のデータおよび不変の要素が表示されます。

次のダイアグラムを参照してください:

注記: 以下は全画面表示の場合に最適に表示されます。

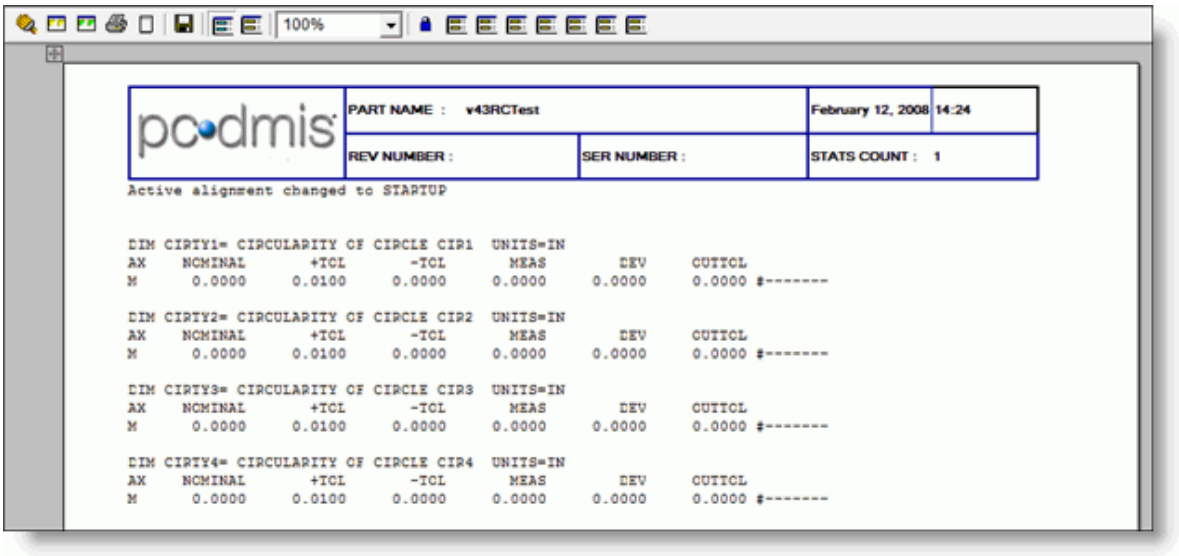


レポート ウィンドウについて

ビュー | レポート
ウィンドウを選択して最終レポートを表示します。このウィンドウには測定結果が表示されます。レポートウィンドウはPC-DMIS
アプリケーションの他のウィンドウとして動作し、ウィンドウのメニューの操作にも同様に対象となります。レポートウィンドウのタイトルバーは現在読み込まれたレポートテンプレートのパスとファイル名を表示します。レポートウィンドウは独自の レポート ツール バーを持ちます。

レポート テンプレートで

レポートテンプレートを使用している場合、測定ルーチン実行の後に、このウィンドウは測定結果を表示し、そして、デフォルト設定のレポート
テンプレートに応じて、出力内容を自動的に設定します。任意のレポートテンプレートを既定のレポートテンプレートに設定できますが、最初、PC -
DMISは「TEXTONLY.RTP」テンプレートを使用します。



TEXTONLY.RPTからの標準的なテキストベースのレポートを表示するレポートウィンドウ

レポートウィンドウが選択したレポートテンプレートと現在測定ルーチンに基づくタティック内容を含まれます。「テンプレート作成」を参照してください。

カスタム レポートで

カスタムレポートを使用する場合は、このウィンドウはレポートテンプレートを使用してデータの設定または表示を行いません。代わりに、保存されたカスタムレポートで定義されている情報をロードします。「カスタム レポートの作成」を参照してください。

[レポート]ツール バー

[レポート]ツール バー

レポートウィンドウの **レポート** ツールバーはこれらの関数を実行します:

1. **サポートを再描画 -**
   レポートを新規に追加された変更で再描画して更新します。現在のレポートテンプレート、ラベル テンプレート、またはカスタムテンプレートを変更した場合、あるいは測定ルーチンが変更された場合、このアイコンをクリックするとレポートが再表示され、新たに変更されたテンプレートまたは新しいプログラムのデータに更新されます。

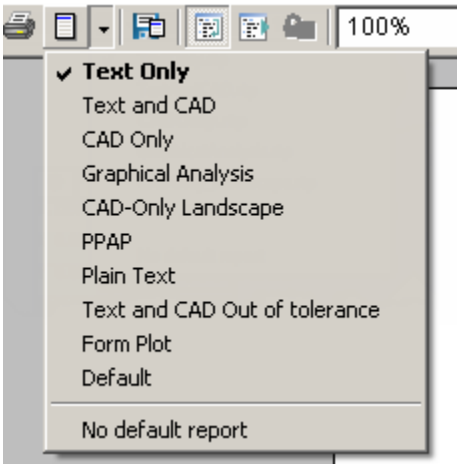
2. **テンプレート選択 -**
テンプレートを管理してレポート出力を生成するテンプレートを選できるダイアログボックスを表示します。「レポート テンプレートの適用または解除」を参照してください。

3. **カスタム レポート選択** アイコンを選択してカスタム
レポートが表示する可能なダイアログ ボックスを表示します。「カスタム
レポートの作成」を参照してください。

4. **レポートを印刷 -**
レポートウィンドウ用に定義される出力設定に基づき、レポートを印刷します。出力の定義に関しては、「基本的なファイルオプション」の章にある「レポートウィンドウの出力および印刷オプションの設定」トピックを参照してください。

5. **このレポートをデフォルトレポートとして設定 -**
現在使用されているテンプレートを、現在の測定ルーチンの新規デフォルトテンプレートに設定します。後に測定ルーチンを開いたときに、PC-
DMISはこの定義済みのデフォルトレポートテンプレートを使用します。最初、このデフォルトレポートはTEXTONLY.RTPに設定されています。

メニューこのアイコンの隣のドロップダウンでは、最初にロードしなくてもデフォルトのレポートを設定できます。すべて保存されたレポートのレイアウトが表示されます。デフォルトレポートを設定するには、リストから項目を選択します。PC-DMISはその隣にチェックマークを配置して新しいデフォルトのレポートとしてそれを表示します。現在読み込まれたレポートは太字フォントで表示されます。



例えば上の画像では、チェックマークはTextOnly.rtpがデフォルトのレポートであり、CADOnly.rtpが現在読み込まれているレポートであることを示します。

レポートデフォルトなしを選択すると次回に測定ルーチンをロードしてレポートウィンドウにアクセスする時には、レポートのウィンドウには何にも表示しません。

すべてのパーツのプログラムのデフォルトレポートの設定:

すべての測定ルーチンのデフォルトのレポートを設定する場合、PC-DMIS設定エディタを使用して、**FileMan** セクションにアクセスして、使用したい名前に `DefaultReportTemplate`レジストリエントリを設定します。付録「レジストリエントリの変更」を参照してください。

6. **テンプレートをツールバーに追加 -**
現在のレポートテンプレートまたはカスタムレポートを保存済みレポートとして保存すると、新規に保存されたレポートアイコン がテンプレートまたはカスタムレポートを同じ名前で標準レポートアイコンの右側に現れます。追加されたアイコンをクリックすると、レポートウィンドウは自動的に保存されたテンプレートまたはカスタム レポートを使用してレポートを表示します。

7. **ビュー レポートモード** - PC-DMISが最後にどのようにプログラムを実行したかにかかわらず、測定ルーチンの最初のコマンドからレポートを生成します。

8. **最後の実行レポートモード -**
直前の測定ルーチンの実行で実行された項目のみを表示します。また、コマンドも実行された順番で表示されます。ループによりコマンドが複数回実行された場合は、複数回の実行として同様に表示されます。

PC-DMIS設定エディタの[**レポート**]セクションにある`SaveExecuteList`レジストリエントリは、後で部品のプログラムを再度開いたときにこの情報が保持されるかどうかを決定します。デフォルトでは、この機能が有効になっています。

- 1に設定すると、 PC- DMISは、簡単に**最終実行レポートモード**アイコンを選択することにより、後でそれらを表示できるように、測定ルーチン内で、最後の実行中に報告された項目を格納します。

- 0に設定した場合は、PC -DMISは一時的に情報を保存します。測定ルーチンを閉じる場合、PC-DMISはこの情報をクリアします。

部分実行と前回実行分レポート モード

部分的に実行する場合、PC-DMISは実行リストにレポートされた項目を追加して、潜在的にレポートされる必要がない項目をレポートさせます。フル実行して保存された実行リストからすべての部分実行項目をクリアできます。

9. **最後に保存されたレポートを表示 -**
保存されたレポートデータを最後にロックされた時の状態に復元します。これには実行リスト、一時的に行われた変更、および(レポートモードまたは最終実行レポートモードで)最後に使用されたモードが含まれます。

10. 100%
このドロップダウンリストから項目を選択するとレポートの倍率がレポートウィンドウに設定されます。拡大率はレポートの印刷結果に影響しませんが、これらの機能はレポートをプレビューしたり使用するテンプレートを決定する場合に便利です。

- 小さなパーセンテージに設定すると、ページは最初は横一列に、次に縦方向に並べられます。また、任意の倍率を入力することも可能です。小さなパーセンテージを使用すると簡単にページの並べ替えができます。「レポートページ再編」を参照してください。
- 大きなパーセンテージについては、レポートのある部分にズームインされる場合、スクロールバーを使用して、Ctrlキーを押して、レポート（ラベルにドラッグするのはラベルを削除できます）のメインページにドラッグすることで、簡単にレポートをパンすることができます。PC-DMISはマウスを引く方向にマウスを引く方向にイメージをドラッグします。

11. **レポートをロック -**
ウィンドウ内のレポートに変更を行うことができないようにレポートウィンドウをロックします。加えて、このアイコンをクリックするといつでもPC-DMISは以下を保存します。

- 一時的な変更
- 実行リスト
- 使用したレポートモードのタイプ (**レポートモード** または **最終実行レポートモード**)

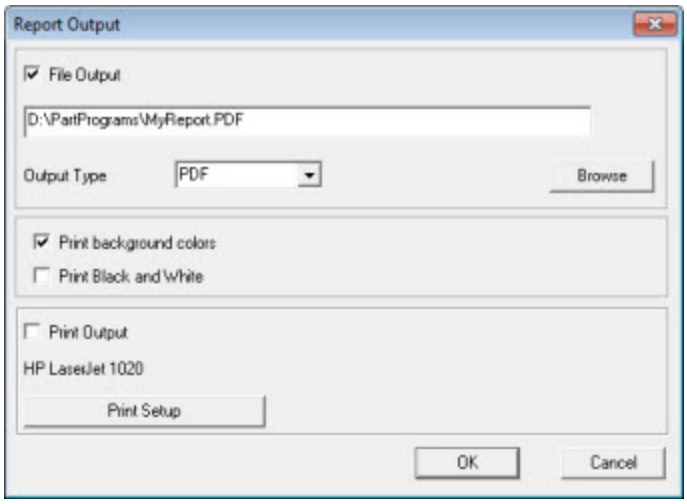
[**最後に保存されたの表示 レポート**]アイコンをクリックして、この保存された情報を復元することができます。

「押された」ときには、PC-DMISがアイコンを表示してそれがロックされたのを示します:

また、ウィンドウをロックして、マウスをウィンドウの上に移動してレポートがロックされて変更されない状態を表示する場合には、マウスポイントはこのシンボルに変更します:

レポートウィンドウで項目をスクロール、印刷、ビューできますが、再度にこのアイコンをクリックしてウィンドウを解除するまで、レポートを変更できません。

12. **レポートを印刷/保存 - レポート出力**ダイアログボックスを表示してレポートを .pdf、.rtf、または.txt
ファイルに保存するか、あるいはデフォルトプリンターに送信します。



ファイル出力 -
OKをクリックした時にソフトウェアがレポートをファイルに送信するかどうかを決定します。このチェックボックスの下のボックスではファイルに保存するためのパスおよびファイル名を定義できます。このボックスのファイル名に有効な拡張子がリストに表示されているか確認してください。

出力タイプ -
レポートをファイルとして保存した時に生成される出力タイプを定義します。異なる拡張子を入力した場合、レポートはファイルとして保存されません。

PDF - 出力用に現在のレポートテンプレートを使用して .pdf ファイルを生成します。

RTF - 出力用に現在のレポートテンプレートを使用して .rtf ファイルを生成します。

TXT - default.rtp
テンプレートを使用してシンプルなプレーンテキストレポートを生成します。フォーマットはありません。

背景色を印刷および**白黒で印刷** -
背景色のあるレポートを生成するか、白黒のレポートを生成するかを決定します。詳しくは、「基本的なファイルオプション」の章にある「レポートウィンドウの出力および印刷オプション設定」に記載の説明を参照してください。

出力を印刷 -
OKをクリックした時に、レポートウィンドウに表示されるレポートを選択したプリンターに送信します。最初、これはデフォルトのプリンターに設定されています。

印刷設定 - 標準の Windows
印刷設定ダイアログボックスを表示し、異なるプリンターを選択したり印刷オプションを変更したりできるようにします。

標準レポートの説明と例(このリストの項目13-22)については、以下の「標準レポートの使用」を参照してください。

13. テキストのみ
14. テキストおよび **CAD**
15. **CAD** のみ
16. グラフィックス分析
17. 横置き **CAD** のみ
18. **PPAP**
19. プレーンテキスト
20. テキストおよび**CAD** 公差範囲外
21. フォームプロット
22. デフォルト

23.
このアイコンのスタイルが**デフォルト**アイコンの右にある場合、ツールバーに保存されたレポートテンプレートの変更を示しています。レポートテンプレートエディタを使用して既存のテンプレートを修正したり新規に作成したりできます。詳しくは「レポートテンプレート エディタの説明」を参照してください。

24.
このアイコンのスタイルが**デフォルト**アイコンの右にある場合、ツールバーに保存されたカスタムレポートの変更を示しています。カスタムレポートについての説明は、「カスタム レポートの作成」を参照してください。

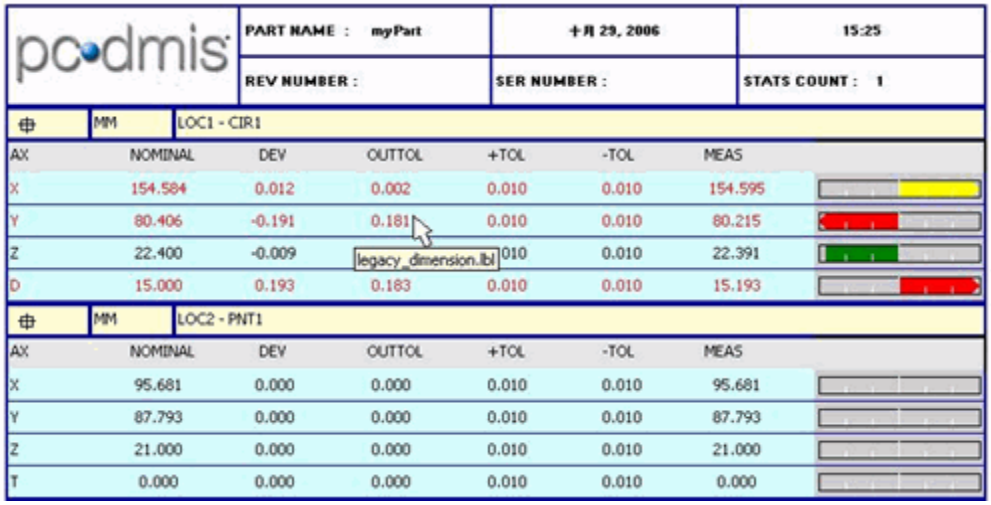
ツールバーのカスタマイズおよび復元

上述した**[テンプレートをツールバーに追加]**アイコンを使用して、独自のテンプレートやカスタムレポートを追加できます。これは、ツールバーの右側に現れ、それぞれが保存されたカスタムレポートまたはカスタムレポートテンプレートを表しています。

- ツールバーからカスタムアイコンを削除するには、Shiftキーを押しながらアイコンをツールバーのそとにドラッグします。これはテンプレートまたはツールバーからレポートを削除するだけであり、システムからは項目を削除しません。
- ツールバーをすべてオリジナルのツールバーアイコンを伴うデフォルトの工場出荷時の設定に戻すには、以下の操作を行います。
    1. PC-DMISを閉じて下さい。
    2. C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Local\WAI\PC-DMIS\<バージョン> に進みます、ここで、<ユーザー名> はお使いの Windows ユーザー名であり <バージョン> は使用している PC-DMIS のバージョンです。
    3. reportingtoolbar.dat を削除します。
    4. PC-DMIS を再起動します。

注記:
レポートウィンドウ内には**レポート**ツールバーのみが存在します。これを表示するにはレポートウィンドウにアクセスする必要があります。メイン PC-DMIS インターフェイスのツールバーエリアから選択することはできません。

レポート ウィンドウ内のヒントの使用



pc-dmis	PART NAME : myPart	十月 29, 2006	15:25
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1

	MM	LOC1 - CIR1					
AX	NOMINAL	DEV	OUTTOL	+TOL	-TOL	MEAS	
X	154.584	0.012	0.002	0.010	0.010	154.595	
Y	80.406	-0.191	0.181	0.010	0.010	80.215	
Z	22.400	-0.009	legacy_dimension.lbl	010	0.010	22.391	
D	15.000	0.193	0.183	0.010	0.010	15.193	

	MM	LOC2 - PNT1					
AX	NOMINAL	DEV	OUTTOL	+TOL	-TOL	MEAS	
X	95.681	0.000	0.000	0.010	0.010	95.681	
Y	87.793	0.000	0.000	0.010	0.010	87.793	
Z	21.000	0.000	0.000	0.010	0.010	21.000	
T	0.000	0.000	0.000	0.010	0.010	0.000	

使用されているラベルの名前を示すヒントが表示されたレポートの例

レポートウィンドウのさまざまなパートにマウスを移動することで、使用されている ラベル のツールチップのフォーム情報を取って,
ラベルがない場合、ツールチップは、オブジェクトまたは現在のページ番号のいずれかの名前が表示されます。

- オブジェクトがラベルの場合、ヒントはラベル テンプレート ファイルの名前を表示します。
- オブジェクトがラベルではない場合、たとえば、 **TextReportObject** または **CadReportObject**、ツールチップはレポートテンプレートで定義されたオブジェクト名を表示します。
- マウスをページの空くスペースに押す場合、 (技術的な **ページ** オブジェクト) 、ツールチップはページ番号を表示します。

これらのヒントを使用して、レポートにどのオブジェクトが使用されているか簡単に知ることができます。

オブジェクトの詳細については、「オブジェクトバー」を参照してください。

レポート ウィンドウのコンテンツの変更

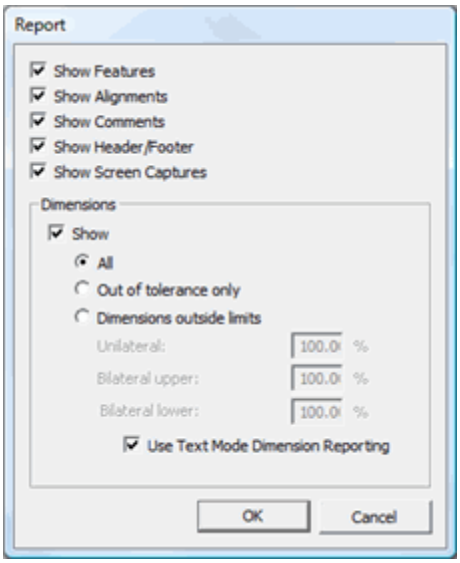
ヒント:
迅速かつ容易にこのトピックとそのサブトピックに説明されるいくつの変更を実行する機能リストについて、「レポートウィンドウのショートカットメニュー」トピックを参照してください。

基礎的なテンプレートを変更することと使用されるルールでレポートウィンドウでどのようにどのような情報が表示されるのを永久に変更することができますが、以下のトピックで提供される情報

を使用してレポートウィンドウ内で直接にレポートウィンドウのオブジェクトへの変更を行うことができます。

重要:
カスタムレポート、テンプレート、ラベルテンプレート、およびその他のレポートの修正は元に戻すことができません。

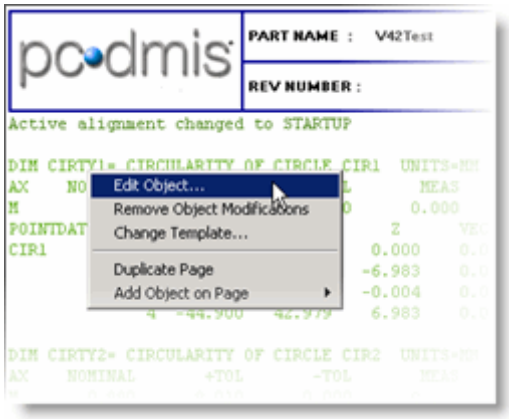
テキスト レポートの編集



レポートダイアログ ボックス

レポート ダイアログ ボックス(レポートテンプレートで使用可能) で、PC-DMISがレポートウィンドウに含めるとそれたどのように表示されるの総合的な情報を定義できます。これらの方法でこのダイアログボックスにアクセスすることができます：

- テキストのみのレポートテキストまたはレポートウィンドウの末尾の白紙の部分を右クリックし、ショーカットメニューが**表示**されたら[**オブジェクトの**編集...]メニュー項目を選択します。



このショートカットメニューの詳細について、「ショートカットキーとショートカットメニューの使用：紹介」の付録の「
レポートのウィンドウのショートカットメニュー」トピックを参照してください。

- SHIFTを押してレポートウィンドウに任意のラベルオブジェクトを右クリックし、 **編集オブジェクト...** メニュー項目を選択します。

以下のチェックボックスでは、様々な商品を表示または非表示にします：

要素を表示
このオプションは、測定ルーチンですべての要素測定が表示されます。

デフォルトのレポート
テンプレート、textonly.rtpが使用され、測定ルーチンが要素の最小限の測定点より多くの測定点を持つ場合、要素をプロットしたフォームが表示されます。

整列の表示
このオプションは、測定ルーチンで起こるパーツ配置変更を表示します。測定寸法、または、フィーチャー一覧内での、パーツ配置変更全部が表示されます。

コメントの表示
このオプションは、測定ルーチンに加えられたコメントを表示します。(より詳しい情報については、「レポート
コマンド挿入」の章の「プログラマーのコメント挿入」を参照して下さい。)

ヘッダー/フッター
このオプションは**[ルール ツリー エディタ]**の**[ファイルのヘッダー]**ルールで定義したラベルテンプレートを適用し、レポートのヘッダーおよびフッターを表示します。デフォルトでは、PC-DMISに標準装備のラベル テンプレート、FILE_HEADER.LBLが使用されます。

スクリーンキャプチャを表示
このオプションは、DISPLAY/METAFILE およびANALYSISVIEW
コマンドに関連するあらゆるグラフィックをレポートに表示します。(「CAD表示の編集」の章の「グラフィック表示ウィンドウでのスクリーン
キャプチャの使用」を参照してください)

寸法領域は、レポートの寸法の表示を制御することができます。寸法を表示するには、**[表示]**チェックボックスを選択します。一度選択すると、このエリアの他の項目が選択可能になります。以下が含まれます。

すべて
[公差範囲外の値のみ表示]および**[制限範囲外の寸法を表示]**の両方を選択したのと同様に作用します。

公差範囲外の値のみ表示
このオプションがマークされると、公差範囲外の寸法のみ表示されます。([寸法の表示]がオンに設定されている必要があります。)

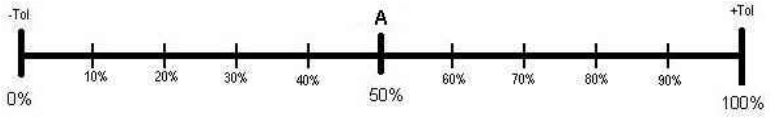
寸法を表示する を選択してまた*制限範囲外の寸法を表示*
を解除した場合のみ、このオプションは使用可能です。

制限範囲外の寸法を表示
このオプションを選択すると、公差範囲外のパーセンテージを超える寸法のみが表示されます。

制限範囲外の寸法を表示
チェックボックスを選択する場合、耐性率は編集可能になり、片側公差の1%と両側公差の大文字と小文字は許可されます。

理論域は0～100%の範囲も考えることができます(ディメンションの色は公差域の地域に適用される方法また寸法のエンドに色付きのバーグラフが描画される方法と同じです)。下限は（理論 - マイナス
トウル）は0%と上限（公称+プラストウル）は100%に対応します。グラフの中央にAが理論値を表示する次の表を考慮してください。

チャート



許容ゾーン外の偏差を持つ寸法は0より小さくまたは100パーセントより大きくになります。

*片側*寸法(丸みのようで、プラス耐性のみ持ちます)について、ゼロ偏差が0%で、許容範囲外のは100パーセントよりも大きいです。

片側の寸法の例

理論値: 0.0000

測定値:0.0028

偏差:0.0028

正の公差:0.0050

負の公差:0.0000

この偏差が許容範囲の56%であるため、片側の割合は56%未満である場合、それが表示されます。

(正と負の両方の公差を持つ距離のように)*両側の*測定結果の場合、ゼロ偏差は0と100の間の任意の値を取ります。理論値が等しい場合、ゼロ偏差は50%の位置になります。

両側上限の例

理論値:3.0000

測定値:3.0075

偏差:0.0075

正の公差:0.0100

負の公差:0.0100

割合はレバールールを使用して計算されます：

(測定値 – 下限値) / (上限 - 下限) * 100.

このデータについて、それは以下のようになります：

*(3.0075-2.9900) / (3.0100-2.9900) * 100. = 87.5%*

両側アッパーの割合は87.5%を *超えている*
場合、この寸法は検査レポートに表示されます。

両側下限の例

公称値: 3.0000

測定値:2.9925

偏差:0.0075

正の公差: 0.0100

負の公差:0.0100

割合はレバールールを使用して計算されます：

(測定値 – 下限値) / (上限 - 下限) * 100.

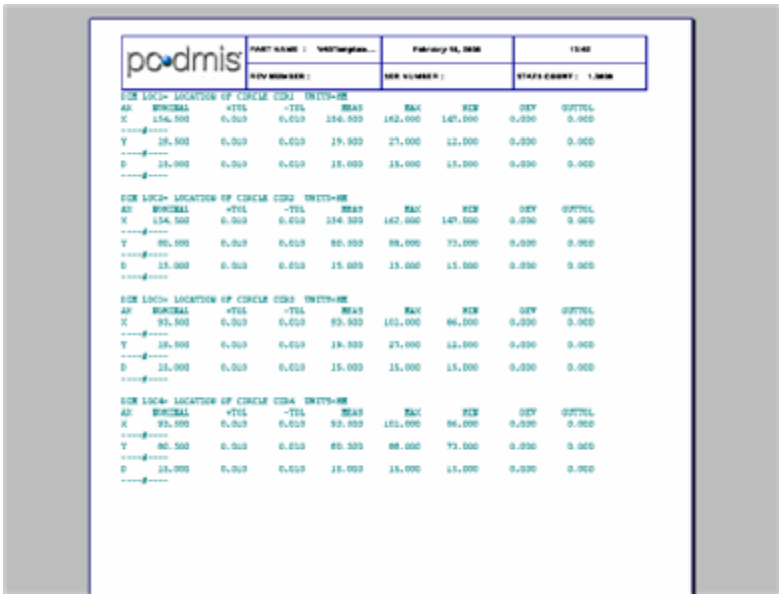
このデータについて、それは以下のようになります：

*(2.9925-2.9900) / (3.0100-2.9900) * 100. = 12.5.%*

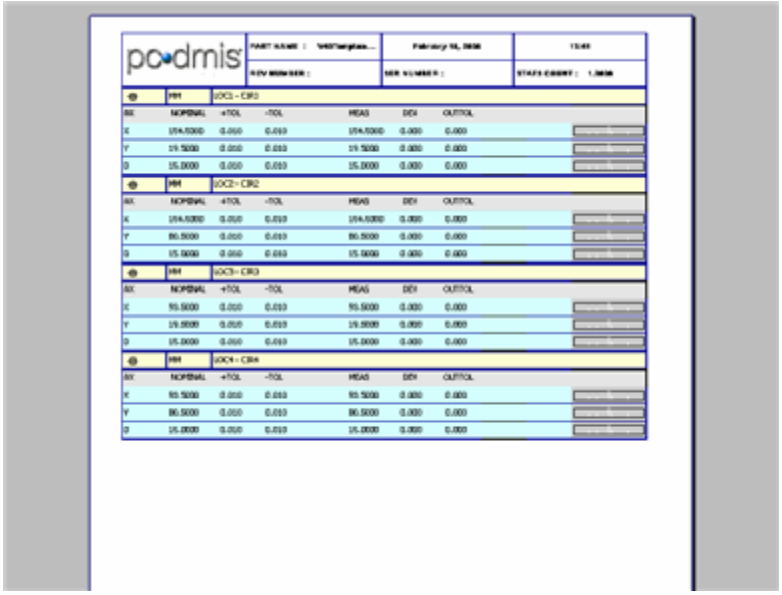
両側下の割合は12.5% *未満*
である場合、この寸法は検査レポートに表示されます。

テキストモードの寸法レポートを使用
このチェックボックスはPC-DMISが寸法を表示するためにフォーマット(選択された)
されたテキストまたはグラフィックテーブル（選択されなかった）を使用するかどうかを定義します。

選択された「テキストモード寸法レポートを使用」 サンプルレポート:



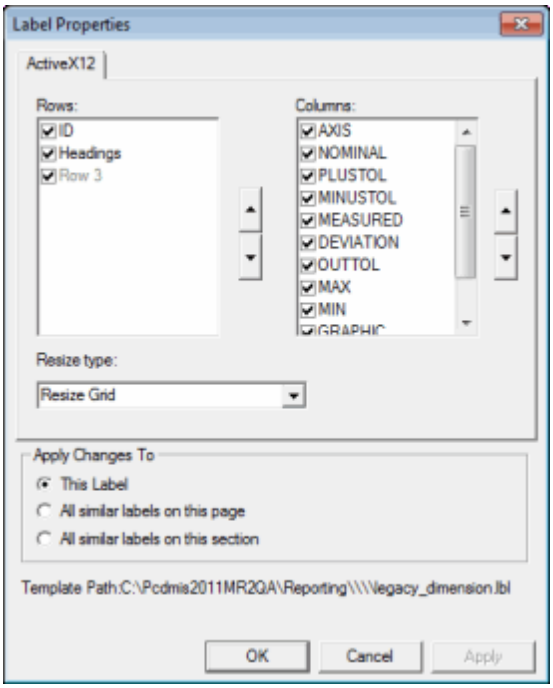
選択されなかった「テキストモード寸法レポートを使用」 サンプルレポート:



重要: 指定されたレポート テンプレートが見つからない場合、PC-DMISは"default.rtp"の名前のテンプレートを使用します。この標準テンプレートは最も基本的なテキストベースのレポートを作成します。default.rtpはテキストベースのレポートのみサポートするので、このチェックボックスをオフにした場合、何も実行されません。

ラベル レポートの編集

ラベルを右クリックして**[オブジェクトの編集...]**をクリックすると、**[ラベルのプロパティ]**ダイアログ ボックスが表示されます。



ラベルプロパティダイアログ ボックス

ダイアログ
ボックスに列と行の順序を変更でき、または個々の列と行の表示状態をコントロールできます。

順序を変更するには -行または列を選択して、または上矢印か下矢印をクリックしてください。

項目を非表示または表示するには -
項目の横のチェックボックスをクリックしてそれを非表示にします。チェックボックスを選択してそれを表示します。

一旦ラベルに必要な変更を作成した場合、
下部にあるオプションボタンを選択して現在ラベル、現在のページ上のすべての同様のラベル、全体セクション内のすべて同様のラベルへの変更を適用します。

リサイズ型の一覧からアイテムを選ぶことにより、カラムを隠すか示す場合は常に、ラベルが何を行うか決めてください。CadReportObject
に関連したラベルについては、**グリッドのリサイズ**は、ただ一つのオプションです。他のラベル・コンテキストについては、これらの3つのアイテムが用意されています:

グリッドをサイズ -
これは既存の列のサイズを保持して新しい幅に合わせてラベルのサイズを変更します。

合わせるために列のサイズを変更します -
これは既存の幅のサイズを保持して既存の幅に合わせて均等に各列のサイズを変更します。

テキストを非表示にします -
これはラベルまたは列のサイズを変更していません。これは単にテキストを非表示にします。

OK をクリックしてPC-DMISは表示を変更します。

ラベルの位置およびサイズの編集

ラベルは、リーダーの行があるまたはそれが無料のラベルである場合(それはTextReportObjectのパーツではない)、CTRLを押してまたあるラベルをクリックする場合、(またはマウスをドラッグしてラベルをボックスに選択します)、それが選択になるのを表示されます。一旦選択されたら、それを新しい場所にドラッグでき、またはクリックでそれを再サイズでき、また選択されたラベルを囲む黒い四角形ハンドルをドラッグできます。

CADモデル レポートの編集

CADReportObjectをダブルクリックすると"アクティブ"状態になります。すなわち、グラフィックの表示ウィンドウ内で行ったのと同様に、CADモデルを回転または拡大縮小することが可能です。CADReportObjectの外でクリックすると新しい方向とズームレベルを使用できます。詳しくは、「CadReportObject」を参照してください。

レポート
ウィンドウのCadReportObjectを右クリックし、[**オブジェクトの編集...**]を選択すると、[**ラベル レイアウト ウィザード**]が表示され、レポート
ウィンドウ内でラベルの配置およびCADモデルの位置を直接変更できます。このウィザードを使用する方法の詳細については「CadReportObject」下の「ラベルのレイアウトウィザード」トピックを参照してください。

「ラベルの位置とサイズの編集」に説明されるようにCADReportObject
にサイズ変更及び移動を行います。

FLYにラベルテンプレートを変更します

PC-DMISにはレポートで使用するラベル
テンプレートをオンザフライで変更する方法が用意されています。

シングルラベルテンプレートの変更

レポートウィンドウから (**ビュー | レポートウインドウ**)、ラベル
テンプレートを選択してそれを右クリックしてまた**テンプレートを変更...**
メニュー項目を選択します。**開く** ダイアログ
ボックスから新しいテンプレートを選択して使用します。

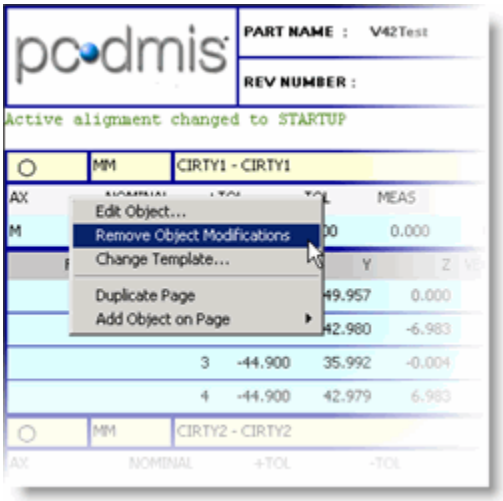
同じページに複数のラベルの変更

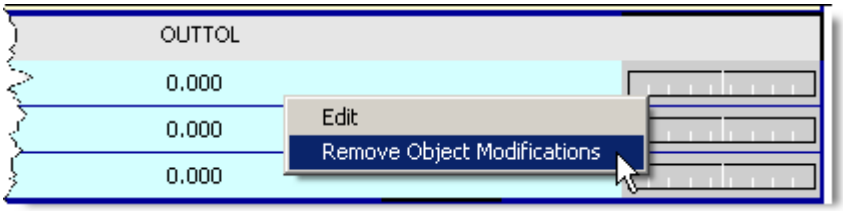
同じページに複数のラベルを選択して置き換えるには、
CTRLキーを押したまま複数のテンプレートを選択し、**テンプレートを変更...**
メニュー項目を選択します。代わりに、 **マッチングラベルを選択**
を選択して同じラベルを使用し、かつ同じページにあるCADReportObjectのすべてのラベルを選択することもできます。

レポート・ウィンド・変更を移行しています

あるオブジェクトに変更を削除します

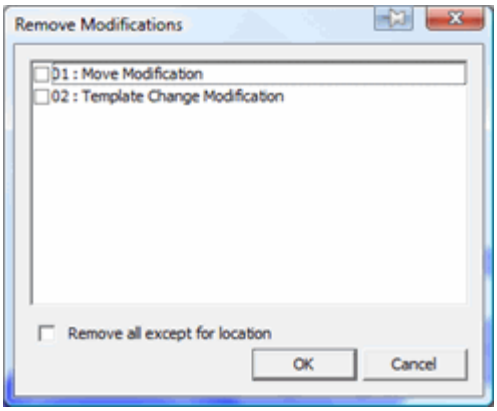
レポートのオブジェクト(TextReportObject、CADReportObject、またはLabel
オブジェクト)に対して行った変更を即座に削除するには、目的のオブジェクトを右クリックし、**[オブジェクトの変更を削除]** メニュー項目を選択します。





- オブジェクトにつだけの変更が行われた場合、PC-DMISはレポートオブジェクトをそのデフォルトの状態に戻ります。
- ひとつ以上の変更をした場合、PC-DMISは**変更を削除**ダイアログボックスを表示します。ダイアログボックスは作成された変更の各タイプの隣のチェックボックスを含み、変更を選択して削除することでレポートオブジェクトにターゲットされた変更を削除して**OK**をクリックできます。**場所を除いてすべてを削除**

チェックボックスは再配置の変更を除いてオブジェクトに加えられたすべての変更を削除します。



サンプルを削除変更ボックスダイアログはオブジェクトの異なる2つの変更を表示します。

すべての変更を削除します

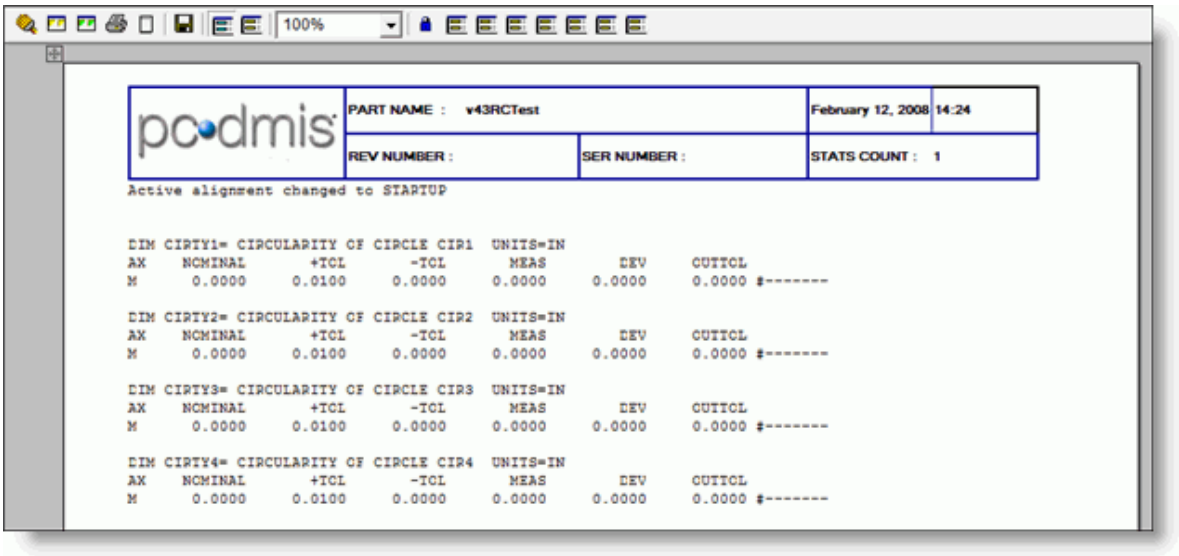
レポート テンプレートのすべてのオブジェクト変更をすぐに消去するには、**ファイル| レポート| テンプレート関連データをクリア** メニュー項目を選択してください。

CADオブジェクトのパン、ズーム、回転の修正を除去する

または、単に、CADReportObjectためのパン、ズーム、回転の修正を削除しことができます。これを行うには、レポート･ウィンドウでオブジェクトを右クリックし、それから**CADレポートオブジェクトのパン削除/ズーム/削除/回転の変更**を選択すれば、その他の変更（例えば切断面、様々なラベル定義、立体またはワイヤー表示など）は影響を受けません。

標準レポートの使用

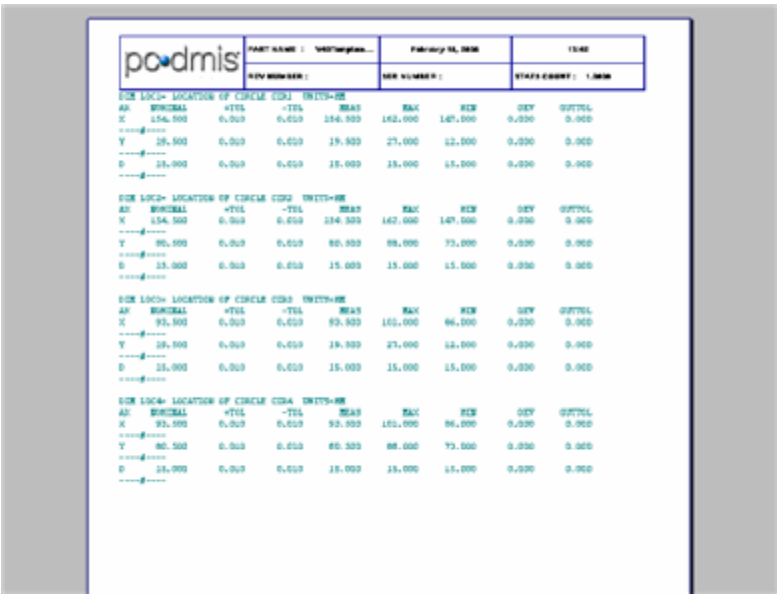
デフォルトの標準レポートテンプレート、TEXTONLY.RTP、本当に何も簡単なテンプレート以上のもので、測定データを**TextReportObject** にプラグして PC-DMISの以前のバージョンにどのようにテキストベースのレポートが表示されたのを模倣します。



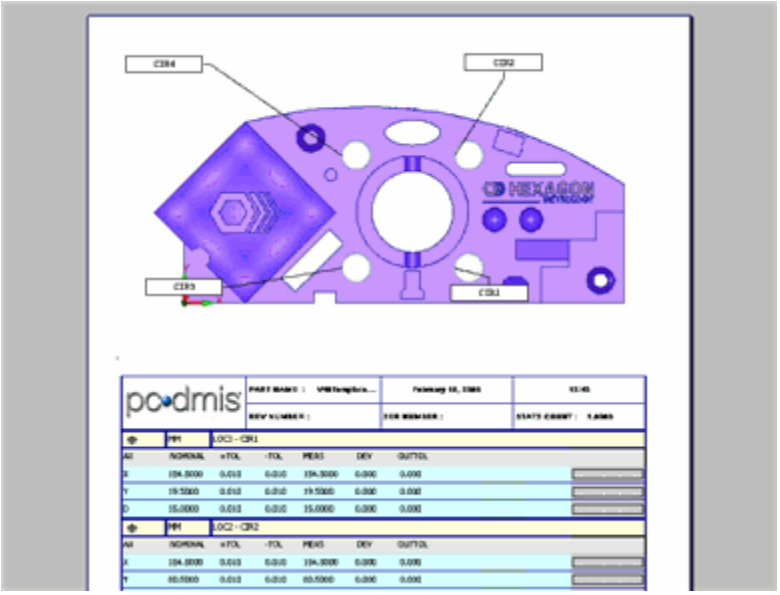
標準のテキストベースのレポートが表示されたレポート ウィンドウの例

標準のTEXTONLY.RTPレポートテンプレートが必要な内容を表示しない場合、PC-DMISは追加の標準レポートテンプレートも同梱しているため、これが役に立つかも知れません。
レポート ツール
バーから適切なアイコンをクリックして、現在のレポートに使用するレイアウトを簡単に変更することができます。以下は標準のレポートテンプレートです：

- テキストのみ (TEXTONLY.RTP) -
  このテンプレートは複数の標準ラベルを含むTextReportObject を使用します。



- **テキストおよびCAD** (TEXTANDCAD.RTP) -
  このテンプレートは複数のラベルを含むTextReportObjectおよびCadReportObjectを使用します。



- **CADのみ** (CADONLY.RTP) -
  このテンプレートは複数の標準ラベルを縦置きレイアウトに含むCadReportObjectを使用します。このテンプレートはCADONLY_LANDSCAPE.RTPより少ないラベル(最大10)をサポートしていますので、ラベルはより詳細く大きくなっています。

- **画像分析**(GRAPHICALANALYSIS.RTP) -
  このテンプレートは分析オブジェクトを使用してレポートに発送された各形状の寸法のグラフィカルな分析（平坦性、真円度など）を提供します。形状以外の寸法の分析は表示されません。PC-DMIS
  は使用される寸法向けにそれぞれ個々のヒットの偏差をグラフィックに表示します。レポートには、各ヒットの個々の矢印の形でエラーが表示されます。これらの矢印は色付き、矢印付きで、方向とともに誤差の相対的なサイズを示します。

- **縦置きCADのみ** (CADONLY_LANDSCAPE.RTP) -
  CADONLYと似ていますが、テンプレートが縦置きレイアウトで表示される点が異なります。このテンプレートはCADONLY.RTPよりも多い数のラベルをサポートしているため(最大30個)、各ラベルはより小さく要約されて表示されます。

- **PPAP** (PPAP.RTP) -
  このテンプレートはレポートを生成して、それは生産部品承認プロセス（PPAP）を使用することができます。

- プレーンテキスト (PLAINTEXT.RTP) -
  このテンプレートは書式なしのシンプルなレポートを生成します。レポートはテーブル様の構成です。

- 形状プロット (FORM PLOT.RTP) -
  このテンプレートはグラフィカル分析レポートと非常に似たレポートを生成しますが、出力が大きく、１ページあたりに形状分析を表示する点が異なります。形状の寸法
  (真円度、円筒度、平坦度、直線度、線のプロファイル、または面のプロファイル)
  を使用してこのレポートにデータを表示できます。

- テキストおよび**CAD**公差範囲外 (TEXTANDCAD_OOT.RTP) -
  このテンプレートは公差範囲外の測定結果を示すテキストおよびCADレポートを作成します。

- デフォルト (default.rtp) -
  このテンプレートは生テキスト(旧式)レポートを生成します。これは、ソフトウェアが指定のレポートウィンドウを持たない場合に旧バージョンのPC-DMISで使用されたレポートと似ています。他のレポートテンプレートが見つからない、または表示できない場合、PC-DMISはこのレポートをデフォルトにします。

これらのテンプレートはデフォルトでは**レポートテンプレート**ダイアログボックスからアクセス可能です。このダイアログボックスのアクセスと使用の情報については、「レポートテンプレートの適用と削除」を参照してください。実際のテンプレートファイルは公開された*レポートサブディレクトリ*内にあります。

レポートウィンドウが使用するテンプレートすべてを含むレポートディレクトリの場所は以下のとおりです。

- **Vista/Windows 7:**
  C:\Users\Public\Documents\WAI\PC-DMIS\<version>\Reporting
- **XP:**
  C:\Documents and Settings\All Users\Documents\WAI\PC-DMIS\<version>\Reporting

<バージョン> とは PC-DMIS
のバージョンを意味します。既存のテンプレートをカスタマイズ、または新規のテンプレートを作成したい場合、このディレクトリで行います。

PC-DMIS に同梱されたテンプレートのバックアップが必要な場合、PC-DMIS
インストールディレクトリ内にある DefaultReportingTemplateBackup
ディレクトリからコピーしてレポートディレクトリに貼り付けることができます。バックアップディレクトリのテンプレートは変更しないようにしてください。

注記: レポート
テンプレートを使用する測定ルーチンを読み込んだが、指定されたレポート用ディレクトリまたはPC-
DMISのインストールディレクトリに該当するテンプレートが存在しない場合、オンザフライで"default.rtp"と呼ばれるテキストのみのレポート
テンプレートが作成されます。これで、いつでも、指定されたレポートテンプレートを持っていないレポートウィンドウでレポートを表示することができます。default.rtpはテキストのみの形式で情報を表示します。これは**レポート**ダイアログボックスの**テキストモードの寸法レポートの使用**チェックボックスの選択を解除できないと意味します。**レポート**ダイアログボックスのアクセスと使用については、「レポートウィンドウの内容を変更する」を参照してください。

レガシー レポートの表示

```
DATE=6/26/2013                          TIME=12:38:09 PM
PART NAME  : 2013 MR1 QA - Width Construction
REV NUMBER : REV123
SER NUMBER : SER456
STATS COUNT : 3

Active alignment changed to STARTUP

PLN3=PLANE MEASURED FROM 3 HITS
PLN1=PLANE MEASURED FROM 3 HITS
PLN2=PLANE MEASURED FROM 3 HITS
CIR1=CIRCLE MEASURED FROM 4 HITS
CIR2=CIRCLE MEASURED FROM 4 HITS
CIR3=CIRCLE MEASURED FROM 4 HITS
CIR4=CIRCLE MEASURED FROM 4 HITS
PLN4 = PLANE BUILT FROM FEATURE PLN3
CIR5=CIRCLE MEASURED FROM 7 HITS
PLN5=PLANE MEASURED FROM 3 HITS
PLN6=PLANE MEASURED FROM 3 HITS
PLN7=PLANE MEASURED FROM 3 HITS
PLN8=PLANE MEASURED FROM 10 HITS
Active alignment changed to A1

LIN1=LINE MEASURED FROM 4 HITS
DIM ANGL1= 2D ANGLE FROM PLANE PLN6 TO PLANE PLN7
AX        MEAS     NOMINAL        +TOL        -TOL         DEV      OUTTOL
A      316.1003    316.1003      0.0100      0.0100      0.0000      0.0000 ----#----

DIM ANGL1= 2D ANGLE FROM PLANE PLN6 TO PLANE PLN7
AX        MEAS     NOMINAL        +TOL        -TOL         DEV      OUTTOL
A      316.1003    316.1003      0.0100      0.0100      0.0000      0.0000 ----#----
```

レポートウィンドにレガシーテキストレポートを表示

このトピックでは、レガシー(旧式)のテキストのみのレポートをバージョン4.x以降のレポートウィンドウに表示する方法を説明します。このレポート形式はバージョン3.7およびそれ以前で使用されていました。この方法を進める場合、測定ルーチンでは*旧式の寸法*のみを使用する必要があることにご注意ください。このテンプレートと.DATファイルを使用する方法については、「生成されたレポートで .DATファイルを使用」を参照してください。

挿入 | 測定結果 | 旧式の測定結果
メニュー項目を選択することで、旧式の測定結果の使用と新しい要素コントロールフレームの測定結果を切り替えることができます。

1. **[ビュー | レポート ウィンドウ]** を選択してレポート ウィンドウにアクセスします。

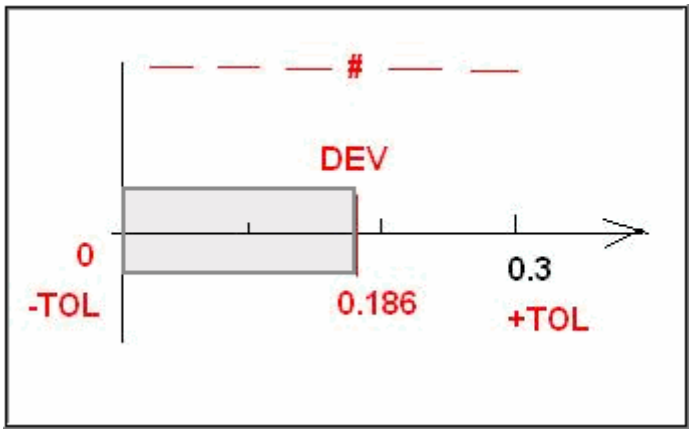
2. **レポート**ツールバーから**デフォルト**アイコン をクリックします。

3. *この手順は省略可能です。*
   RTFエディタ内で完成したレポートを修正する場合、RTFファイルの変換方式で修正する必要があるかもしれません。PC-DMIS設定エディタで、**印刷**セクションを展開して、**DoNotUseAmyUniRTF**を**2**に設定します。**設定を保存**をクリックして、**OK**をクリックします。これにより、レポートのテキストがバージョン3.7およびそれ以前で使用されていたようにRTFファイルに出力されます。0(デフォルト)に設定した場合、テキスト ボックス内に文字が表示されます。

レポート済みの形状測定結果の公差領域

PC-DMISはフォーム寸法の公差領域をリニアグラフィックとして表示します。テキストモードのレポートについて、このゾーンは番号記号（#）誤差の量を示す文字で構成されます。非テキストモードのレポートでは、偏差が増加する場合、これはバーグラフとしてバーが大きく左から右へ伸びているのが表示されます。テキスト以外のモード寸法について、偏差が公差以外に移動する場合にはバーグラフの色が変更します。

重要なことは、フォーム寸法(真直度, 平坦度, 真円度,また円筒度)から負の公差はないので、だからリニアグラフィックは完全なフォーム（0公差）の誤差を表示し、グラフィックの左端の公差は0またグラフィックの右端の公差は許可される公差最大値です。



両方のテキストモードと非テキストモードの許容ゾーンを描いた例

上記の指定されたグラフィカル例で、公差領域はテキストモードと非テキストモードで0.186の誤差と最大値0.3で表示されます。

ここでは円形のディメンションの公差領域がPC-DMIS内にそれぞれにテキストモードと非テキストモードのレポートとして表示される方法を示すいくつかの追加の例です。

```
FCFCIRTY1 = CIRCULARITY OF CIR1   UNITS=MM
AX    NOMINAL       +TOL       -TOL       MEAS        DEV     OUTTOL
M       0.000       0.030      0.000      0.027      0.027      0.000 -------#
```

テキストモード公差領域の例

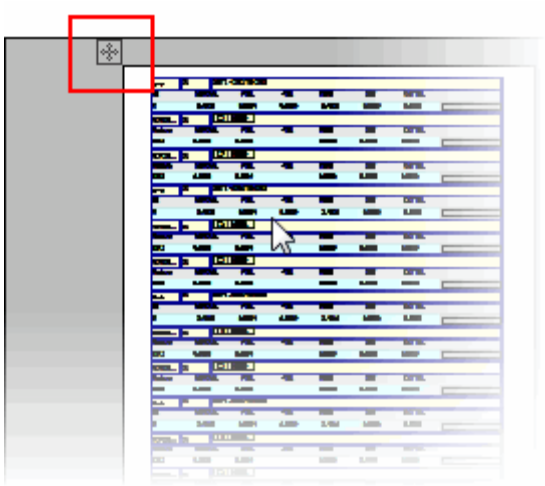
FCFCIRTY1	MM	◯ 0.03				
Feature	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
CIR1	0.000	0.030		0.027	0.027	0.000

テキストモード公差領域なしの例

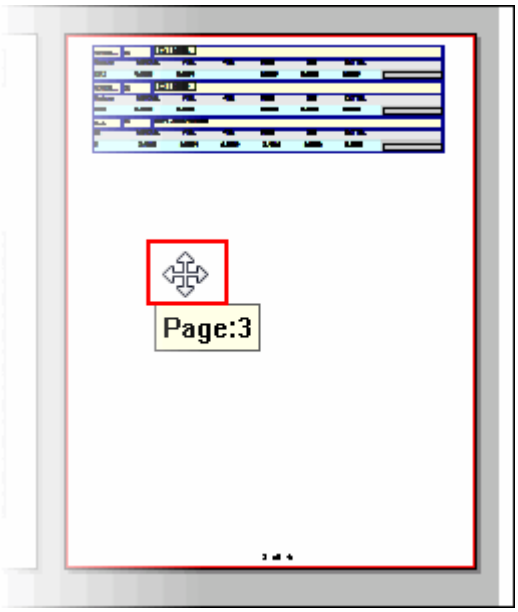
レポートページの並べ替え

PC-DMISはドラッグアンドドロップを提供して、レポートウィンドウで再配置のページにアプローチします (**ビュー | レポートウインドウ**)。ページを並べ替えるには、この手順を実行します：

1. 並べ替えるページが一度に表示されるように、レポートの倍率を変えます。25%程度が適当でしょう。
2. マウスを任意のレポートのページ上で動かします。ページの左上に*[十字]アイコンが表示*されるのを確認します



3. 十字アイコンをドラッグして現在のページをドラッグします。
4. 現在のページを既存のページの上部にドラッグします。移動先となるページが赤く囲まれ、*マウスのカーソルが変わります*。



5. マウスをリリースして下さい。レポートページをドラッグした位置に従って、レポートページの順番が変更されます。

- ページをドラッグして既存のページのシーケンスの以前のページにドロップし、それがドロップされたページの*前*にページが挿入されます。
- ページをドラッグして既存のページのシーケンスの後のページにドロップし、それがドロップされたページの*後*にページが挿入されます。

> **例:** レポートで7ページのシーケンスを持つと仮定します: p1,p2,p3,p4,p5,p6,p7。p4をドラッグしてそれをp2 (以前の順序)にドロップする場合、順序はp1,p4,p2,p3,p5,p6,p7になります。p4をドラッグして それをp5 (現在より後のページ)にドロップする場合、順序はこのようになります: p1,p2,p3,p5,p4,p6,p7

6. 必要に応じてページの並べ替えを続けます。

標準テンプレートの変更

PC-DMISに付属している標準のレポート テンプレートおよびラベル
テンプレートを変更する場合は次の操作を行います。

- レポートのヘッダーを変更するには、「レポートのヘッダーの変更」を参照してください。

- 標準テンプレートレポートのプロパティを変更するには、テンプレートエディタでテンプレートを開き、オブジェクトを右クリックして**プロパティ**ダイアログボックスでそのプロパティを変更します。詳しくは「オブジェクトのプロパティについて」を参照してください。

完全に新規のテンプレートを作成したい場合は「テンプレートの作成」を参照してください。

レポートディレクトリについて

レポートウィンドウが使用するテンプレートすべてを含むレポートディレクトリの場所は以下のとおりです。

- **Vista/Windows 7:**
  C:\Users\Public\Documents\WAI\PC-DMIS\<version>\Reporting
- **XP:**
  C:\Documents and Settings\All Users\Documents\WAI\PC-DMIS\<version>\Reporting

<バージョン> とは PC-DMIS のバージョンを意味します。既存のテンプレートをカスタマイズ、または新規のテンプレートを作成したい場合、このディレクトリで行います。

PC-DMIS に同梱されたテンプレートのバックアップが必要な場合、PC-DMIS インストールディレクトリ内にある DefaultReportingTemplateBackup ディレクトリからコピーしてレポートディレクトリに貼り付けることができます。バックアップディレクトリのテンプレートは変更しないようにしてください。

生成されたレポートの.DATファイルを使用

PC-DMIS は生成されたレポート用に限られた範囲で LOGO.DAT、HEADER.DAT、および ELOGO.DAT データファイルを使用します。これらのデータファイルについては、「編集ウィンドウの使用」の章にある「編集ウィンドウのヘッダーおよびフッターを変更」を参照してください。

- LOGO.DAT はレポートの始めを入力します。
- HEADER.DAT はそれぞれの後続ページのヘッダーを入力します。
- ELOGO.DAT はレポートの最後のページの終了テキストを入力します。

これが機能する条件

- default.rtp など、ルールを含まないレポートテンプレートを使用しなくてはなりません。
- 設定エディタのレポートセクションにある`UseLogoElogoHeaderDat`レジストリエントリは。デフォルト値である1に設定しなくてはなりません。

.DAT ファイルの使用に関する制約

- 定義された .DAT
  ファイルがどこにあろうとも、ビットマップはレポートの最上部に配置されなくてはなりません。
- 最後のページにある項目がELOGO.DATのみの場合、最後のページはHEADER.DAT情報を含みません。

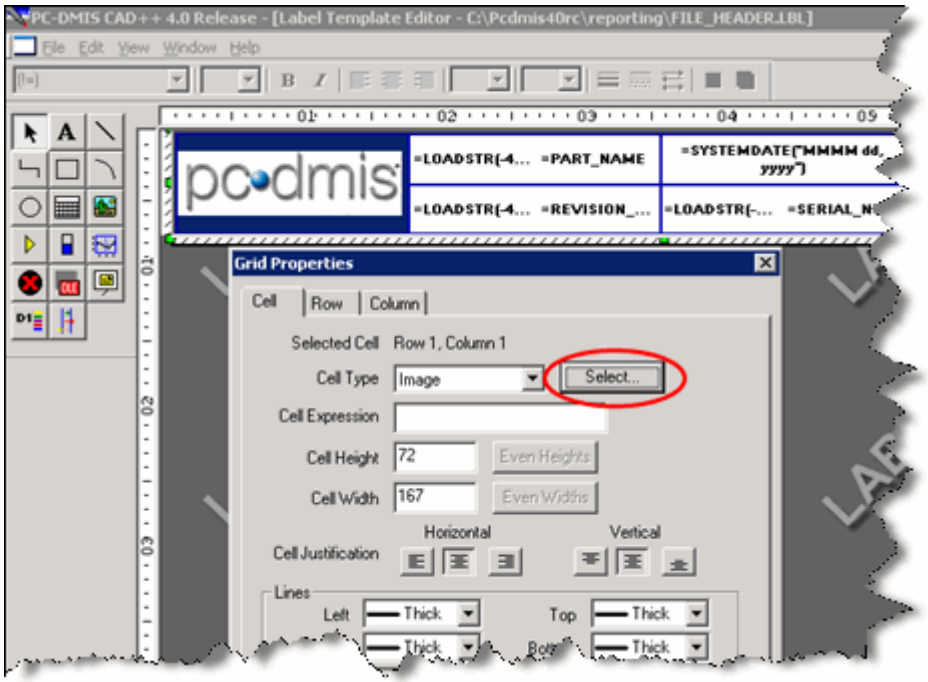
レポートのヘッダー変更

ヘッダーを何らかの方法で変更したいという状況は多くあり、通常はデフォルトのレポートヘッダーに表示されているグラフィックを会社独自のものに変更します。次の手順でヘッダーのグラフィックを変更することが可能です。他の情報についても対応するテンプレートを修正することで変更可能です。

レポート テンプレート(デフォルトではTEXTONLY.RTP)はラベルテンプレートを呼び出し、ヘッダーの情報(デフォルトではFILE_HEADER.LBL)を表示します。つまり、このファイルを変更する必要があります。

1. [ラベル テンプレート]エディタでファイルを開きます。
   - **ファイル| レポート| 編集 | ラベル テンプレート**を選択します。**[開く]**ダイアログボックスが表示されます。
   - FILE_HEADER.LBL テンプレートを選択して**開く**をクリックします。
   - ラベル テンプレート
     エディタの編集エリアに、[GridControlObject]と入力されている箇所があります。このオブジェクトがレポートのヘッダーに表示されるデータを全て管理しています。
2. グラフィックの変更
   - GridControlObjectをダブルクリックします。オブジェクトを取り囲む斜線が現れます。これは、ヘッダー内のコードまたは項目を編集できることを示しています。
   - PC-DMISグラフィックを右クリックして **グリッドプロパティ** ダイアログボックスが表示されます。

- **セル** タブで**選択**をクリックします。**開く**ダイアログボックスが現れます。



レポートヘッダー部のグラフィックを変更するために使用するボタンの例

- ヘッダーに挿入するグラフィック
  イメージの場所へ行き、ファイルを選択して**[開く]**をクリックします。ダイアログボックスが閉じます。

- **[適用]** をクリックします。セルに新しいグラフィックが表示されます。

3. 変更されたラベル テンプレートの保存およびテスト

   - 一旦そのようなものが持ったら、 **OK**をクリックして、また**ファイル| 保存**を選択して変更したラベル テンプレートを保存します。

   - **ファイル| 終了**を選択してラベル テンプレートエディタを終了し、測定ルーチンに戻ります。

   - **ビュー| レポート**
     ウィンドウを選択してください。変更がすぐに表示されない場合、**レポート**ツールバーから**レポートを再描く** アイコンを選択します。

生成されたレポートで LOGO.DAT、HEADER.DAT、および ELOGO.DAT を使用

限られた範囲で、これらの .DAT
ファイルに含まれるキーワード番号を使用して、生成されるレポートに表示される情報を定義することができます。詳細は「生成されたレポートで .DATファイルを使用」を参照してください。

キーワード番号については「編集ウィンドウの使用:
はじめに」の章にある「ヘッダーおよびフッターの変更」を参照してください。

LOGO.DAT、HEADER.DAT、およびELOGO.DATキーワードの変換

PC-DMIS
の独自のレポート式を使用して、.DATファイルに含まれるキーワード番号と同じことを行うこともできます。

次のテーブルは、使用される同等のレポート式またはレポートオブジェクトとそれが使用される場所についての詳細を示します。

.DAT # キーワード	機能	レポート テンプレート内の 対応するコマンド
#DATE	その時点での日付を挿入します。	=SYSTEMDATE("MMMM dd, yyyy")
＃TIME	その時点での時間を挿入します。	=SYSTEMTIME("HH:mm")
＃PAGE	その時点でのページ番号を挿入します。	=Page()
#TRn	トレース フィールド番号 n の値を挿入します。	=TRACEFIELD(n)
＃PARTN	測定ルーチン名を挿入します。	=PARTNAME( )
＃DRWN	修正番号を挿入します。	=REVNUM()
＃SERIALN	シリアル番号を挿入します。	=SERNUM( )
＃SEQUENCE	連続番号を挿入します。	(該当なし)

＃SHRINK	スケール係数を挿入します。	=MEASSCALE()
＃NMEAS	測定寸法の合計数を挿入します。	=NUMMEAS()
＃NOUT	誤差域からはずれている、 測定寸法の合計数を挿入します。	=NUMOUTTOL()
＃ELAPSTIM	実行開始時と終了時の差の時間を挿入します。	=ELAPSEDTIME()
#BMP=bitmappath	パスおよびファイル名で指定さ れたビットマップを挿入。	**ビットマップ** オブジェクトを使用すること

レポート テンプレートのその他の式の使用について「レポート テンプレートについて」を参照します。

レポートヘッダー内の変数を使用する制限について、「変数の値の表示」を参照してください。

レポートのテキスト色変更

時にはあなたがレポートで使用されるデフォルトのテキストの色を変更する場合があります。これらのテキスト色を変更するには、次のようにレポート
テンプレートのTextOnlyObjectに対して、**[カラー エディタ]**ダイアログ
ボックスにアクセスして変更します:

1. **ファイル| レポート| 編集| レポート テンプレート**を選択してください。
2. 変更したい色のレポート テンプレートを選択してください。
3. レポート テンプレートエディタで、**TextReportObject**を選択して
それを右クリックしてそのオブジェクトの **プロパティ** ダイアログ
ボックスにアクセスします。
4. **プロパティ**ダイアログ ボックス から**色プロパティ**を選択してください。
5. **色エディタ**が表示します。これは編集ウィンドウに使用されるのと同じで、しかし、このケースではレポートテンプレートで使用されるTextOnlyObjectを変更します。色エディタに使用情報について、「仕様の設定」の項の「編集ウィンドウの色を定義」を参照して下さい。
6. 変更を確認して、テンプレートを保存します。

7. レポートのウィンドウにテンプレートをロードします。

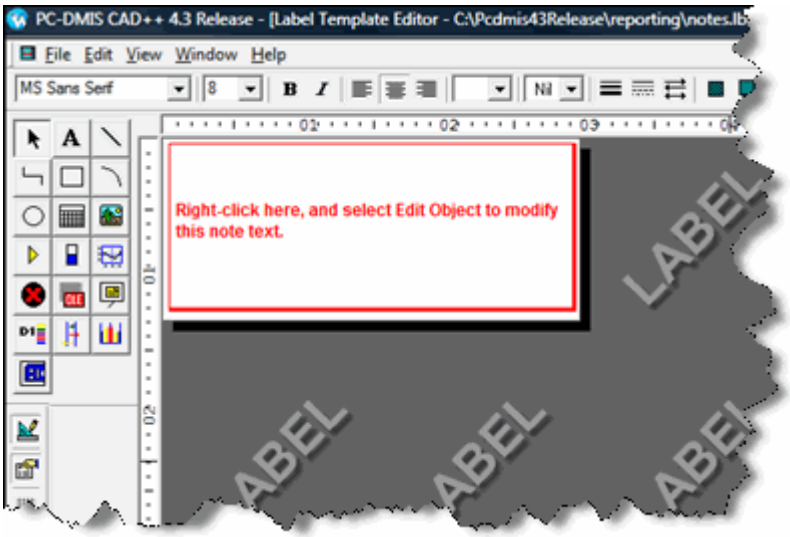
注釈をレポートに追加

これは、しばしば実行後に独自のメモをレポートに追加する場合に役に立ちます。メモを追加する方法のひとつとして、PC-DMIS標準のコメント機能を使用し、レポートウィンドウにそれらを表示するのを許可します。しかし、このアプローチにはいくつかの制限があります。実際、コメントの表示はTextReportObjectを使用するレポートテンプレートのみで動作します。また、デフォルトでは標準コメントは非常にはっきり見えますが、それらが実行される場所ではTextReportObject内にのみ表示されます。加えて、これらはレポートに表示された後は簡単に変更できません。「編集ウィンドウの使用」の章の「コメント」を参照してください。

もっと融通性を望む場合は、メモボックスを追加するオプションを考慮するしてください、それで最終報告書に直接に注記を入力できます。この次の手順はこれを行う方法について手順を提供します：

ステップ1: メモボックスを作成します

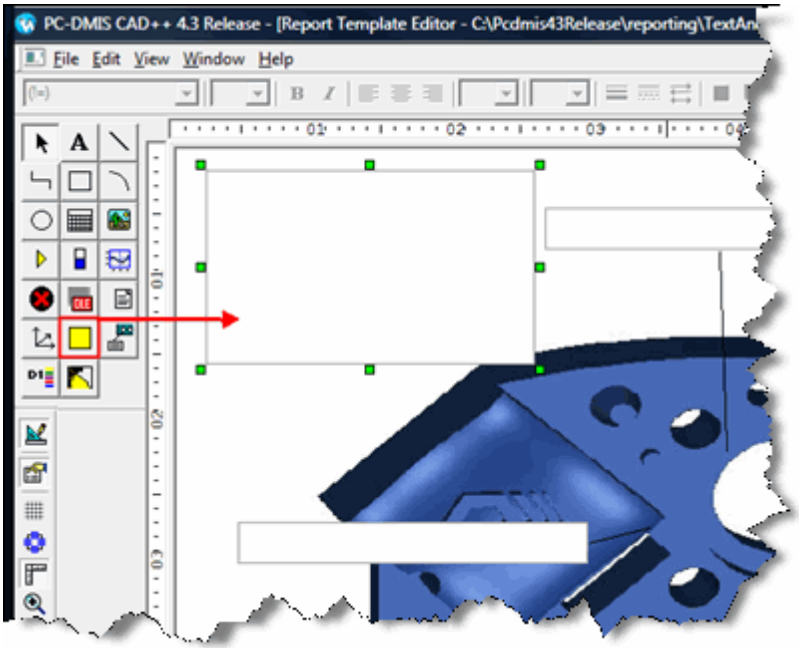
メモボックスを作成するには、ラベルテンプレートエディタ内に新しいラベルテンプレートを作成して、編集エリアに**テキスト**オブジェクトをドラッグします。必要に応じてフォントサイズ、フォントの色、背景色と境界でオブジェクトをフォーマットします。メモボックスを透明にしたい場合、**NIL**背景色を選択します。オブジェクトの**テキスト** プロパティを設定してこの値を保持します:「ここで右クリックして編集オブジェクトを選択してこのメモテキストを変更します」。ラベルテンプレートを保存します。



notes.lblという名前の新しいラベルテンプレート

ステップ 2: レポートテンプレートにノートボックスを結び合せます。

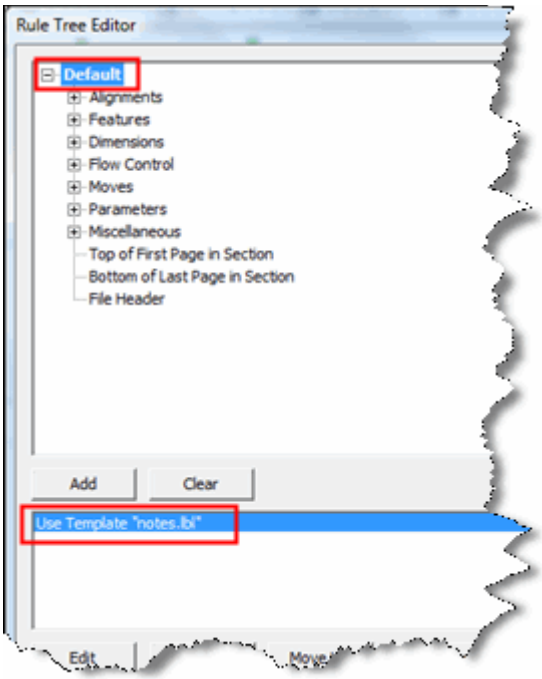
編集可能なレポートテンプレートエディタのレポート テンプレートを開きます。**ラベル** オブジェクトを編集エリアにドラッグして、一般的にこのメモボックスの表示を希望する場所に配置します。レポートウィンドウで、その最終的な位置を変更することができます。



ラベルオブジェクトがTextAndCad レポートに追加されます。

ステップ3: PC-DMISにノートボックスを表示する時刻を教えます。

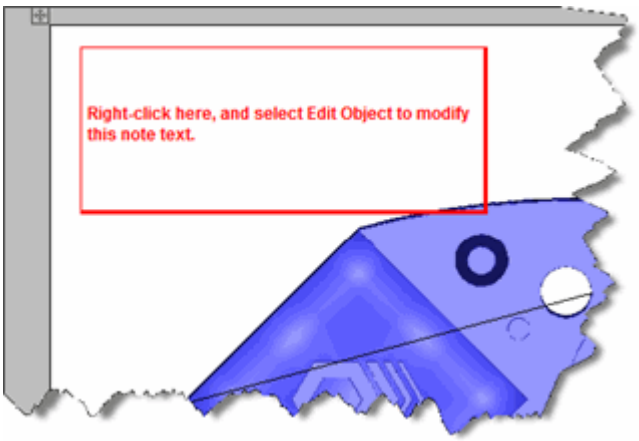
ラベルオブジェクトを右クリックして**プロパティ**にアクセスし、**ルール** をクリックして **ルール ツリー**
エディタを開きます。新しいラベルオブジェクトにはまだルールがありません。ツリーのトップに **デフォルト** 項目に対するルールを追加して、 そのルールをステップ 1で保存したラベル テンプレートにプルします。
これでノートボックスを含むラベルテンプレートレポートの各ページにの表示されるようになります。変更を保存します。



デフォルト項目に割り当てられている notes.lbl をロードするよう指定するルール

ステップ 4: レポートをテストします

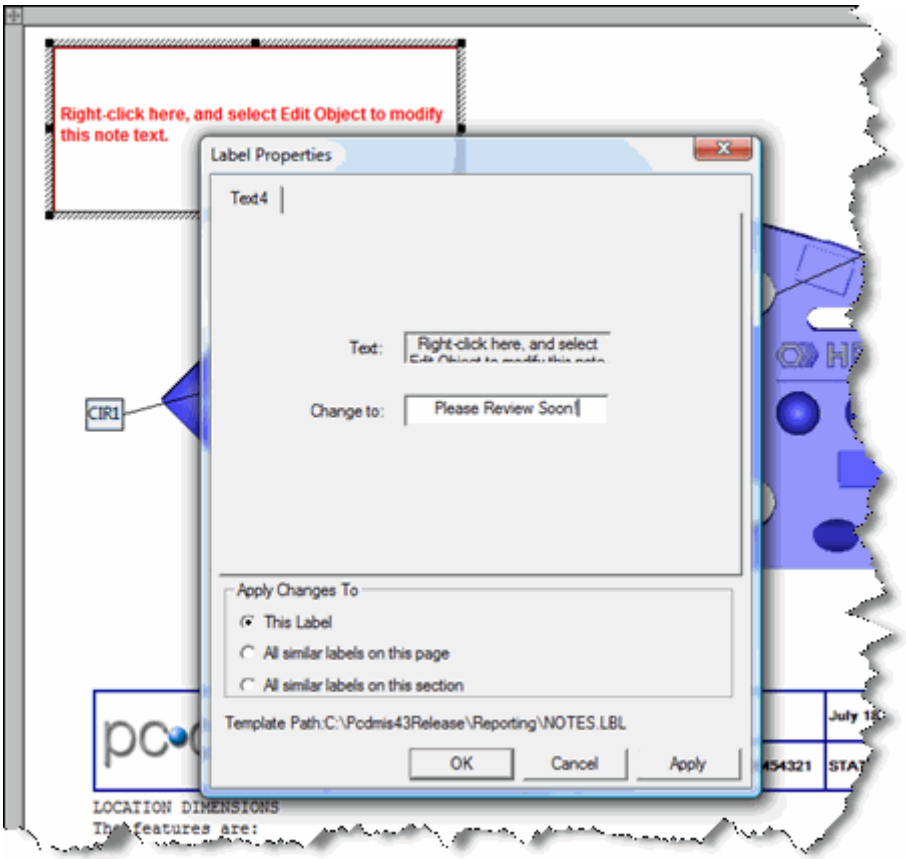
レポートのウィンドウにアクセスして変更されたレポートテンプレートにロードします。メモボックスは、デフォルトのテキストを変更する方法に表示されるのを注意してください。ダブルクリックしてオブジェクトをアクティブにし、必要に応じて新しい場所にドラッグします。



デフォルトのテキストを持つメモボックス

ステップ5:メモボックスのテキストを変更します

ノートボックスのテキストを変更するには、オブジェクトに右クリックして、**オブジェクトを編集**を選択してください。**プロパティ** ダイアログ ボックスが表示されます。



ラベルプロパティダイアログ ボックス

変更 ボックスに新しいノートテキストを入力して**OK**をクリックしてください。PC-DMISがテキストを更新します。

更新されたテキストを持つメモボックス

これだけです。もちろん、ニーズに合わせるためにメモボックスを変更できます。たとえば、メモボックステーブルのような構造を希望したい場合、ステップ1に、ラベル

テンプレートに1つのテキストオブジェクトを変えて、 **GridControlObject** をラベル
テンプレートに追加でき、また**Text** オブジェクトでセルをオーバーできます。

特定の条件に基づくメモボックスのみを表示したい場合、ステップ３の **ルール ツリー エディタ**に使用されるルールを変更する必要があります。
たとえば、レポートの最初のページにメモボックスをしたい場合、代わりに**ファイルヘッダー**を使用します。

レポート エディタおよびフォーム エディタについて

レポート テンプレートエディタ、 ラベル テンプレートエディタ、 カスタム レポート エディタ、またフォームエディタ は既存テンプレート、カスタム
レポート、またはフォームの変更あるいは新規作成に使用されます。これらのエディタはメニューバー、ツールバー、オブジェクトバーなど同じユーザーインターフェイス要素の多くを共有します。これらのメニューの個々のアイコンや項目はエディタ間で変わる場合もありますが、基本的な外観は同じです。

ユーザーインターフェイスは次のトピックで説明されます。

レポート エディタおよびフォーム エディタについてのメニューバー

ファイル メニュー

ファイル| 新規 - 空白のテンプレートまたはフォームを作成します。

ファイル| 開く - 以前に保存したレポートテンプレートファイルまたはフォームを開きます。

ファイル| クローズ - テンプレートエディタまたはフォームをクローズします。

ファイル| 名前を付けて保存 -
新しいファイル名で現在のテンプレートまたはフォームを保存します。テンプレートまたはフォームを以前のバージョンで保存

ファイル | 編集 / ファイル | 実行 - エディタを次の2つのモードの間で切り替えます:
*編集モード*および*実行モード*。実行モードでは、フォームを"実行"またはテストすることが可能です。編集モードでは、テンプレートまたはフォームの修正が可能です。(実行モードはフォームエディタでのみ使用可能であり、レポート用テンプレートエディタおよびラベル用テンプレートエディタでは使用できません)

ファイル| 終了 - PC-DMISを終了します。変更を保存しない場合、PC-DMISはそれらを保存したいかというメッセージボックスを示して確認します。

編集メニュー

編集| レイアウト| オブジェクトを整列、スペースを均等、ビュー内の中心、同じサイズを作成 -
これらのサブメニューで、エディタでオブジェクトをレイアウト、配置、スベールできます。詳細について、「レイアウトバー」を参照してください。

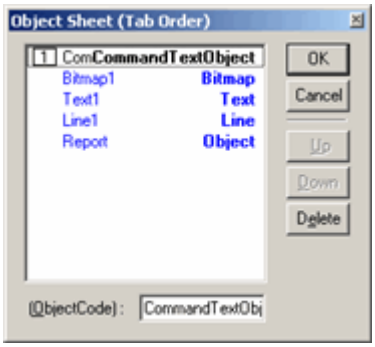
編集| レイアウト| プロパティ -
現在選択されたオブジェクトのプロパティシートを表示します。オブジェクトが選択されていない場合、このプロパティ
シートは編集エリア("セクション"または"フレーム/ビュー"と呼ばれる位置)に表示されます。「プロパティシート」と「セクションについて」を参照してください。

編集| レイアウト| 検査ニーモニック -
このメニュー項目が文字を追加するAltキーを使用して任意のショートカットキーはテキスト表示を持つフォームまたはテンプレート項目に唯一であるのを保障します。

フォームまたはダイアログボックスコントロールにショートカットキーを定義するには、文字の前にアンパサンド記号（&）を入力してください。たとえば、「&Continue」のテキストラベルのボタンは、フォームの「Continue」の見かけで、またALT + Cでアクセスできるようになります。

編集|レイアウト|グリッドの設定 - グリッドの設定 ダイアログ
ボックスを表示します。このダイアログ
ボックスを使用して、レイアウトの背景にグリッド点の表示/非表示を切り替えることができます。「グリッドを使用した操作」を参照してください。

編集|レイアウト|オブジェクト - オブジェクトシート*ダイアログ ボックス*を表示します。このダイアログ ボックスを使用して、フォームのオ
ブジェクトを表示または選択したり、タブの順序を設定すします。「オブジェクトシート」を参照してください。（フォームエディタでのみ利用可能です）



[オブジェクト シート]ダイアログ ボックス

編集| 順序 -
このサブメニューで、オブジェクトをお互いに重なるその他のオブジェクトの後ろまたは前に移動します。

編集| やり直し - エディタで取られた最後の操作を元に戻します。

編集| 再実行 - 最後のしなかった操作を再実行します。

編集| カット - オブジェクトをカットしてそれを保存して貼り付けます。

編集| コピー - オブジェクトをコピーしてそれを保存して貼り付けます。

編集| 消去 - 選択されたオブジェクトを消去します。

編集| 貼り付け -
カットまたはコピーされたオブジェクトを貼り付けます。コピーされたオブジェクトを貼り付ける場合、通常、オブジェクトの右上にコピーされたオブジェクトが貼り付けられるので、これを新しい場所にドラッグする必要があります。さもないとコピー元のオブジェクトと重なります。

編集| 形式を選択して貼り付け - これは、標準 **貼り付け**
メニュー項目は異なり、貼り付けたアイテムとそれがコピーされたソース間のリンクを保持できるので、ソースが変更されたら、貼り付けられた項目も更新されます。*例:*

ハイパー レポートにMicrosoft Excelのチャート
オブジェクトを挿入し、チャートのデータはExcelファイルのデータと同期を取るものとします。
これをするには、以下の操作を行います。

1. Microsoft Excel ファイルでチャートオブジェクトをコピーします。

2. テンプレートまたはフォームにアクセスします。

3. **変数 |**
形式を選択して貼り付け を選択します。**形式を選択して貼り付け**・ダイアログ・ボックスが現われます。

4. **過去のリンク**・オプションを選択します。

5. **[OK]** をクリックします。チャート
オブジェクトがテンプレートまたはフォーム上に表示されます。

ここで、Excelファイルのチャート
オブジェクトのデータを変更すると、レポートまたはフォームのチャート
オブジェクトも更新されます。

編集 | タブの順序の設定 -
これにより、実行モードでオブジェクトを巡回している場合、[TAB]が押された時に選択されているオブジェクトを定義することができます。(フォーム エディタでのみ使用可能)

編集 | ユーザー指定のプロパティ - [ユーザー指定のプロパティ]ダイアログボックスにアクセスし、ユーザーが指定したプロパティを一括管理することができます。「ユーザー定義のプロパティとの操作」を参照してください。(レポートテンプレートエディタのみで利用可能です。)

画像メニュー

ビュー|
グラフィック表示のウィンドウ、プレビューウィンドウ、フォームエディタ、マークされた設定ウィンドウ、基本的なスクリプトエディタ、検査報告書、プローブリードアウト、プローブツールボックス - PC-
DMISウィンドウまたはエディタを表示または非表示します。ほとんどの場合、これらはエディタで作業している間どのような目的にも利用されないので、それらを隠すことができます。

ビュー| オブジェクトバー -
エディタのオブジェクトバーが表示されます。「オブジェクトバー」を参照してください。

ビュー| レイアウトバー -
エディタの**レイアウトバー**を表示します。「レイアウトバー」を参照してください。

ビュー| フォントバー - エディタの
フォントバーが表示されます。「フォントバー」を参照してください。

ビュー| ルーラーバー -
トップのルーラーバーとエディタの左側を表示します。「ルーラーの表示/非表示」を参照してください。

表示 | スナップ点 -
エディタ内で、任意のオブジェクトに対する"スナップ点"を表示します。「スナップ点の表示」を参照してください。

表示 | 経路 -
この機能はスナップ点が機能している場合のみ、利用可能です。多くのオブジェクトを使った複雑なページでは、このメニューオプションを使用して、一連のオブジェクトがスナップ点を通って現在選択されているオブジェクトに接続されているのを確認する場合に便利です。このメニューオプションは何らかの方法でスナップポイントで現在選択したオブジェクトに接続するすべてのオブジェクトを選択します。（フォームエディタでのみ利用可能です）

Windows メニュー

このメニューでは、PC-DMISの任意のウィンドウに関して標準的なウィンドウの操作が実行できます。「複数ウィンドウの操作と表示」の章を参照してください。

ヘルプメニュー

ヘルプ| インデックス - PC-DMIS ヘルプファイルにアクセスします。

ヘルプ| ヘルプの使用 - ヘルプファイルを使用するピックを表示します。

ヘルプ| PC-DMISについて - **PC-DMISについて**ダイアログ ボックスを表示し、 PC-DMISのバージョンについての情報を表示します。

フォント バー

エディタの**フォントバー**
で、変更されたフォント、色、背景や様々なオブジェクトの行のプロパティを頻繁に変更できます。

次のオプションが**[フォントバー]**で利用可能です:

オブジェクトがテキストをサポートする場合、そのフォントを変更します。**[フォント]**プロパティの設定と同じものです。

オブジェクトがテキストをサポートする場合、フォントの大きさを変更します。**[フォント]**プロパティの設定と同じものです。

オブジェクトのテキストを太字体で表示します。**[フォント]**プロパティの設定と同じものです。

イタリック体でオブジェクトのテキストを表示します。**[フォント]**プロパティの設定と同じものです。

オブジェクトのテキストを左揃え、中央揃え、または右揃えにします。**[整列]**プロパティの設定と同じものです。

オブジェクトの背景色および前景色を設定します。[前景]ではテキストおよび境界の色を設定します。**[BackColor]**および**[Forecolor]**プロパティの設定と同じものです。

境界線や線の幅を設定します。これを複数回クリックすると、様々な選択肢に切り替わります。**[LineWidth]**プロパティの設定と同じものです。

線のスタイルを設定します(境界線には適用されません)。これを複数回クリックすると、実線と様々な点線の間で線のスタイルが切り替わります。**[LineStyle]**プロパティの設定と同じものです。

[線]オブジェクトの先端を矢印にします。これを複数回クリックすると、矢印の位置が線の一端または両端の間で切り替わります。**[Arrowhead]**プロパティの設定と同じものです。

ハッチ スタイルをサポートするオブジェクトに対して、"ハッチ
スタイル"と呼ばれる背景のパターンを設定します。これを複数回クリックすると、選択可能なハッチ スタイルが切り替わります。**[HatchStyle]**プロパティの設定と同じものです。

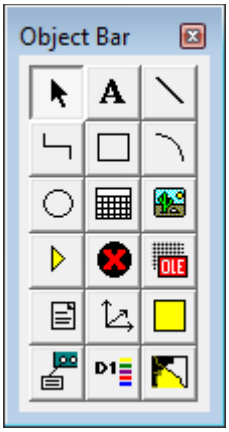
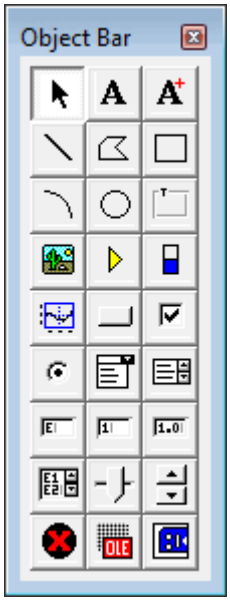
オブジェクトが影をサポートする場合、オブジェクトの下に影を設定します。これを複数回クリックすると、選択可能な影のスタイルが切り替わります。**[ShadowStyle]**プロパティの設定と同じものです。

オブジェクト バー

オブジェクトバー
はテンプレートまたはオブジェクトにさまざまなオブジェクトを挿入してまたフォームにコントロールできるツールバーです。テキスト、画像ファイル、マルチメディア、ダイアログ ボックス
コントロール、PC-
DMIS専用のオブジェクト、およびその他の項目を挿入してカスタマイズされたラベル、レポート、およびフォームを作成するのに便利です。

このバーはレポート テンプレート エディタ、ラベル テンプレート エディタ、カスタム レポート エディタ、またはフォーム エディタなど編集環境に入ったときに表示されます。

オブジェクトバー はこれらのタイプの一つに入り、もう一つは各編集環境に入ります。

レポート テンプレート エディタ	ラベル テンプレート エディタ	カスタム レポート エディタ	フォーム エディタ
			

オブジェクトの追加:

テンプレート、 カスタムレポート、 またはフォームにオブジェクトを追加するには：

1. 適切なエディタ内で、 **オブジェクトバー**にアクセスします。
2. レポートに挿入したいオブジェクトをクリックします。
3. 次に、マウスの左ボタンを押したまま、現在のセクションの四角形をドラッグします。
4. 最後に、マウスボタンをリリースして下さい。
5. オブジェクトが作成され、選択されると、次に示すようにオブジェクトの各コーナーに*ハンドル*と呼ばれる緑色の小さな正方形が現れます。

ハンドルが表示されたテキスト オブジェクトの例

オブジェクトの選択と操作：

オブジェクトを操作する前に、それを選択する必要があります。オブジェクトを選択するには、オブジェクトをクリックし緑色のハンドルを表示させます。

新しい場所にオブジェクトをドラッグするには -
オブジェクトを選択します。クリックしオブジェクトの上部をマウスボタンで押したまま、新しい位置にドラッグします。マウスをリリースして下さい。

オブジェクトのサイズを変更するには -
オブジェクトを選択し、それがサイズ変更されたカーソル（2つの矢印に沿るライン）に変更するまでに1つ緑のハンドルの上に移動します。次に、ハンドルをクリックしマウスを新しい位置までドラッグします。マウスをリリースして下さい。オブジェクトが拡大または縮小されます。

オブジェクトのプロパティを変更するには -
オブジェクトを選択して、オブジェクトを右クリックして **プロパティ** ダイアログ
ボックスが表示されます。必要に応じてプロパティを選択し変更します。

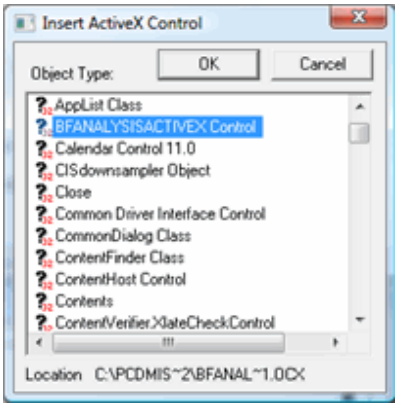
その他の操作を配置、グループ、整列解除するには - レイアウトバー または**編集| レイアウト** と**編集| 順序** サブメニューを使用します。

オブジェクトを動的に変化させるコーディング

いくつかのオブジェクトについては、BASICスクリプトを使用してオブジェクトの特定のプロパティを動的に変化させることが可能です。例えば、コードを使用してグラフ
オブジェクトに自動的に点を投入したり、棒グラフの類にゲージ
オブジェクトを使用する際にも利用できます。これを行う方法の例については、以下のトピックを参照してください、 「BASICスクリプトを使用してゲージ値を動的に変更する例」

ActiveX オブジェクト

ActiveXオブジェクトはActiveX
コントロールをテンプレートまたはフォームに挿入します。いったん挿入したら、
OLEコントロールを挿入をタイトルしたダイアログ ボックスが表示されます。



ActiveX コントロールの挿入ダイアログ ボックス

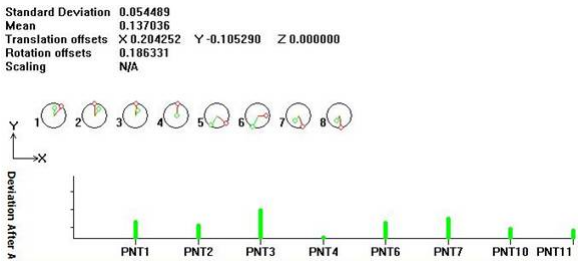
このダイアログボックスを用いると、コンピューターの既知のコントロールリストから挿入されるコントロールタイプを選択することができます。**オブジェクトタイプ**リスト内のコントロールは、インストールされたプログラム等に基づいて、各コンピューターによって異なります。ActiveXコントロールは、フォームまたはテンプレート内で可能な操作の可能性を広げます。例えば、グラフ コントロールを挿入し、それからVisual BASICコードを用いて、測定ルーチンのデータを渡して動的にそのグラフを作成することができます。

PC-DMIS ActiveX コントロール

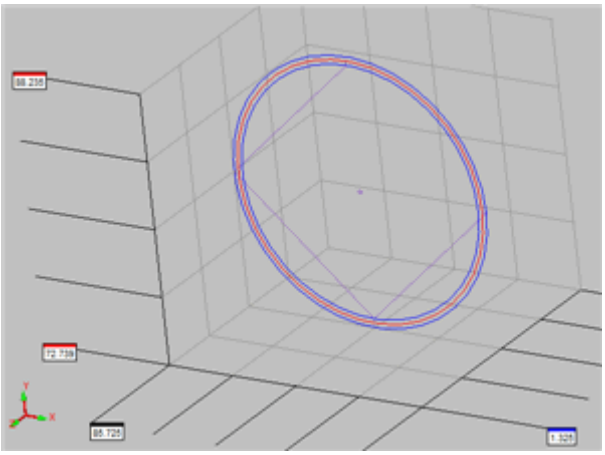
PC-DMISに同梱されるActiveXは要素解析に関連するものの多くをコントロールできます。要素解析コントロールは、一部のPC-DMIS付属の標準ラベルの上で、**GridControlObject**の特定のセルに表示されます。一般的に、ソフトウェアはコントロールを使用してグラフィカルな分析情報を表示します。**ActiveX コントロールを挿入** ダイアログボックスからこれらをユーザー自身のテンプレートまたはフォームに挿入できます。

分析機能に関連するPC-DMIS ActiveX コントロールは以下のようです:

BFANALYSISACTIVEX:



DIMANALYSISACTIVEX:

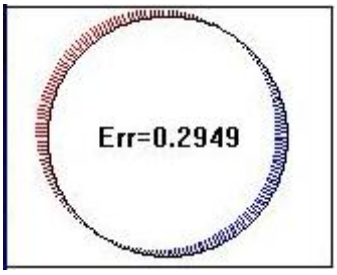


測定結果レポート 線形:

測定結果レポート 線形2 (Surfer NT スタイルコントロール):

測定結果レポート 円形:

FeatureAnalysisActiveX:



要素分析に関連しないPC-DMIS ActiveX コントロールは以下のようです:

DataFileFormatControl
テンプレート型のレポートにおいて、.dat ファイル
(logo.dat、elogo.dat、及び、header.dat) の解釈を可能にします。「いくつかのPC-DMIS ActiveX
コントロール」と「.DATファイルのキーワードを使用したレポート」を参照して下さい。

他のオブジェクトと同様に、PC-DMIS ActiveX
オブジェクトにも標準および固有のプロパティの両方が含まれ、**プロパティ** ダイアログ
ボックスを使用して変更できます。以下のトピックはこれらのプロパティへのアクセス情報を含まれます。

BasicからActiveX Objectのメソッドと属性にアクセス

コントロール(例えば、ActiveX カレンダー
コントロール)を追加し、それをMSCALと名付ける場合、その他のオブジェクトと同じように、プロパティシートを通して、そのイベントと属性にアクセスすることができます。この場合はActive Xオブジェクトであるため、**ActiveX**というプロパティの新しいセクションが表示されます。これには、変数とそのデフォルト値を持つプロパティのユーザーアクセスリストが含まれます。

イベントハンドラのために**VBS Mini-Editor**
内にActiveXコントロールのプロパティを設定するには、コントロールの名前を入力し、この場合は「MSCAL。ピリオドも付けます。変数やメソッドにアクセスできるウィンドウが表示されます。リストから「**X**」を選択します。別のポップアップウィンドウが現れ、ActiveXコントロールの内部編集可能な変数のセットが一覧表示されます。

別のPC-DMIS ActiveXコントロールのプロパティについての情報は「PC-DMIS ActiveX
コントロールの使用」 を参照してください。

円弧オブジェクト

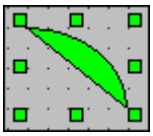
円弧
オブジェクトはテンプレートまたはフォームに楕円弧を挿入します。デフォルトの円弧は色付けがなく、その開始冒頭が 0 度で、終了角度が -90 度です。

オブジェクトのサイズを変更して塗りつぶしの色と境界線の色を追加して他の属性を変更する能力に加えて、次の編集可能なプロパティは、arcオブジェクトの含まれています：

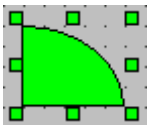
角度1
この数は弧の開始角度を設定します。デフォルトの値は10度です。

角度2
この数は弧の終了角度を設定します。デフォルト値は-90度です。

IsWedge
NO (デフォルト)に設定する場合、PC-DMISは以下のようにウェッジなしの満ちた弧を描きます：

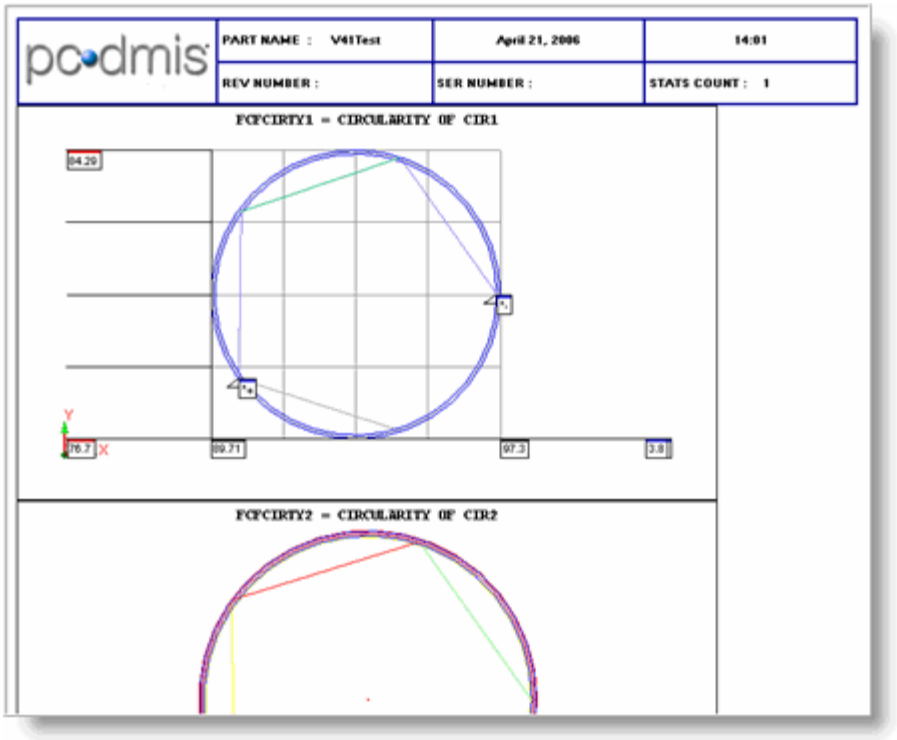


YESに設定する場合、PC-DMISは以下のようにウェッジを付けて満ちた弧を描きます：



AnalysisWindow オブジェクト

分析ウィンドウ オブジェクトは、PC-DMIS分析ウィンドウをラベル テンプレートまたはカスタムレポートに挿入することに使用します。レポートのウィンドウで、PC-DMISは測定結果のグラフィカルな解析を表示して、その中に解析対象があるのラベルテンプレートを使用しているレポート テンプレートをします。



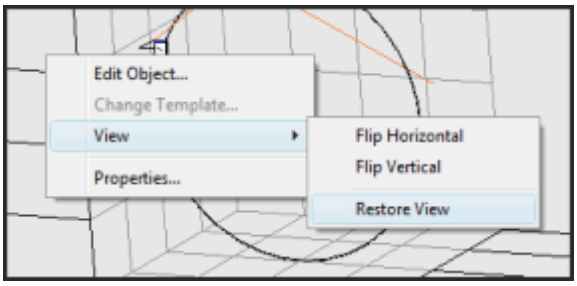
オブジェクトの分析を使用するレポートウィンドウ

重要:
分析ウィンドウオブジェクトは要素コントロールフレームの測定結果では機能しますが、レガシーの測定結果では機能しません。

オブジェクトを操作

このオブジェクトをダブルクリックして、レポートウィンドウでそれを*アクティブ化*します。これを用いて、レポート
ウィンドウ内でのその表示をすばやく操作できます。アクティブ化された後、オブジェクトのグラフィックス表示のズームインやズームアウトを行い、その回転を変更することができます。オブジェクト外でダブルクリックするとそれが*無効化*されます。レポートウィンドウ内のオブジェクトを右クリックし、以下に説明される**グラフィカル分析オプション** ダイアログボックスにアクセスします。

回転してオブジェクトに表示されたグラフィカル表示を元に戻す必要がある場合、このオブジェクトを右クリックして、ショートカットメニューの**ビュー** メニューの**ビューを保存**
を選択してください。これは、オブジェクトに表示されたグラフィカル情報の向きを元の方向に戻します。



メニュー項目を回復ビュー

ビューメニューの他のメニュー項目、**左右反転** と**上下反転**
はオブジェクトの水平方向または垂直方向を反転させます。

カスタム レポートにポイント情報ボックスの使用

分析ウィンドウオブジェクトをカスタム
レポートに追加している場合、以下の二つのプロパティを使用して、どのようなポイント情報が表示されるか、または使用するラベルテンプレートを定義することによってどのように表示されるかをコントロールできます。

- **PointInfoLabel** - このプロパティはレポートサブディレクトリにラベル
  テンプレートを示す **ファイルを参照** ダイアログ
  ボックスを表示します。**AnalysisWindow**オブジェクト内にポイント情報ボックスを作成するときに、ダイアログ ボックスを選択してPC-DMISに使用したいラベル
  テンプレートを選択できます。いったん選択されたら、プロパティが**AnalysisWindow**
  オブジェクトに既存するラベル名と全部のポイント情報ボックスを表示します。

  PC-DMIS は選択したテンプレートを記憶しており、カスタム レポート
  エディタに追加される後続の**AnalysisWindow**
  オブジェクトにそれを使用します。定義されるテンプレートはPC-DM Settings
  Editorの レポート セクションの**LastUsedPointInfoLabel** エントリにも保存されます。

  このプロパティで任意のラベルをテンプレートを定義しない場合、使用されるポイント情報ボックスは、カスタム レポート エディタに**PointInfo**
  オブジェクトをドラッグしたのと同じように作成されます。この場合、ラベルテンプレートは使用せず、内部で作成されます。

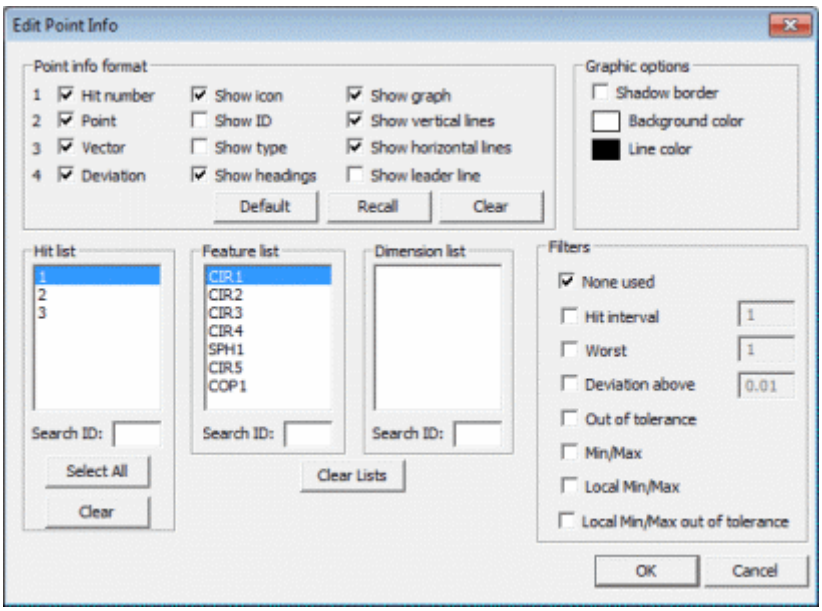
  使用に検討できるいくつかのラベルがテンプレート: ga_point_info.lbl、
  ga_point_info2.lbl、とga_point_info_devonly

  プロパティをクリアするには、**ファイルを参照** ダイアログ ボックスを開き、**ファイル名**
  ボックスのリストに表示されるファイル名を削除するか、**キャンセル**をクリックします。

- **SelectPointInfo** -
  このプロパティは**点情報の編集**ダイアログボックスを表示し、そこで**分析ウィンドウ**オブ

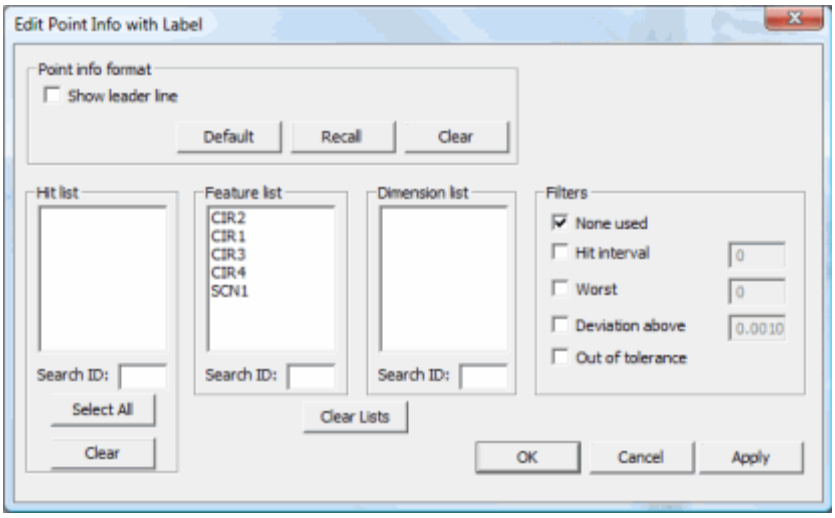
ジェクトのウィンドウ内に点情報ボックスを作成できます。このダイアログボックスは2つの異なるスタイルを伴い、それは`PointInfoLabel`プロパティで定義されるラベルテンプレートを持つかどうかによって異なります。

1つの定義をしない場合、標準的な**点情報の編集** ダイアログ ボックスが示します。



編集ポイント情報のダイアログ ボックス

定義されたものがある場合、若干異なる**ラベルを伴う点情報の編集** ダイアログボックスが現れます：

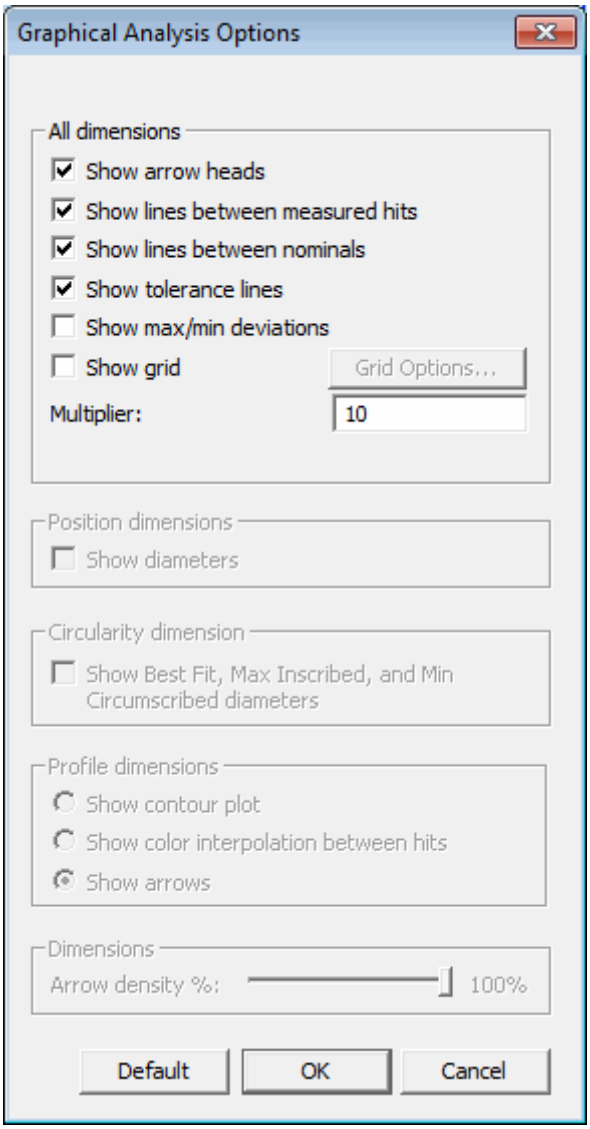


ラベルの編集ポイント情報のダイアログ ボックス

これらのダイアログ
ボックスは似ていますが、ラベルを定義している場合には、**点情報のフォーマット**
エリアを使用して引き出し線の表示と非表示のみ選択できます。これは、カスタマイズされたラベルテンプレートを使用している場合は他のアイテムが適用されないために起こります。これらのいずれかのダイアログボックスの使用可能なアイテムについては、「レポートコマンドを挿入」章の「[点情報を挿入]ボックス」トピックを参照してください。

属性の変更

このオブジェクトが表示する内容を定義するために、多くのプロパティを変更できます。(ダイアログの設定) プロパティを使用してテンプレートエディタ内の**測定結果の解析オプション**
ダイアログ
ボックスにアクセスできます。このダイアログボックスでは、多くの**分析ウィンドウ**オブジェクトのプロパティを設定できます。



次元分析オプション

ダイアログ
ボックスはほぼ「レポートコマンドを挿入」章の「寸法オプション」にすでに説明されるダイアログボックスに同じになります。ダイアログボックスのオプションのほとんどについては、そのトピックを参照してください。

1つの例外は**境界線を表示**
チェックボックスです。このオプションは**分析ウィンドウ**オブジェクトのみで機能し、分析ウィンドウでは機能しません。このチェックボックスを選択すると、分析ウィンドウオブジェクトの周囲に境界線を描画します。

このオブジェクトの使用可能なプロパティは以下のようです：

注記：特に説明のない限り、すべてのプロパティは、カスタムレポートで使用されます。このうち後ろにアスタリスク（*）が付いているプロパティは、レポートテンプレートビルダでも使用されます。

（設定ダイアログ）*
選択された分析ウィンドウオブジェクト用に**グラフィカル分析オプション**ダイアログボックスを表示します。

矢印の先端 *
ダイアログボックスの**矢印の先端を表示**チェックボックスと同じです。

AutoScaleToFit
分析する情報がオブジェクトの境界内に収まるようサイズを変更します。

BackColor *
共通プロパティ

BorderShow *
分析ウィンドウオブジェクトの境界を表示または非表示にします。

Bottom *
共通プロパティ

CadNominalStepValue
これは、`GenerateCadNominal`プロパティのCADモデルから挿入された点のCAD補間のため、ポリラインに沿って投影される点密度を定義します。

CircularityMaxMinDiameters *
ダイアログボックスの**最適化、最大内接直径、最小外接直径を表示**チェックボックスと同じです。

DeviationLineStyle
偏差の線のスタイルを定義します。
円筒 - 偏差の線は矢印で終了する円筒として描かれています。
線 - 偏差の線はシンプルな線として描かれます。

DeviationShow
偏差の線を表示または非表示にします。デフォルトでは、これらは矢印として描かれます。

有効 *
共通のプロパティ

GenerateCadNominal
これは、線がよりCADモデルに一致するように見せるため、必要に応じて追加の点をCADモデルに投影することでより滑らかな理論ポリラインを生成します。これらの追加点の密度

は、CadNominalStepValue
プロパティを使用して増加または減少させることができます。

GridShow *
分析ウィンドウに３D格子状の背景を表示します。

LabelOffset
これは、ヒット位置から指定のオフセット距離だけ離れた位置に、ユーザー定義された点情報ラベルを配置します。使用するラベルはPointInfoLabel プロパティで定義されます。

LeaderTermination
点情報ボックスと関連する点の位置を結ぶ引き出し線の終端位置を設定します:
矢印終端 ー 引き出し線は矢印終了位置を示します。
公称値-引出線は公称点の位置を指します。
測定値 - 引出線は測定された点の位置を指します。

左 *
共通のプロパティ

MaxColor
最大偏差の球の点の色を定義します。デフォルトは赤(0.0.225)です。

MaxMin *
ダイアログボックスの**[最大/最小偏差を表示]**チェックボックスと同じです。

MaxMinSize
分析ウィンドウオブジェクトで最大/最小点をマークする球の点の直径を定義します。この値を使用すると、 デフォルトの値は 0です。

MeasuredLineColor
測定されたヒット間に線を表示する場合、使用する線の色を決定します。

MeasuredLineStyle
線が測定されたヒットの間で示されるとき、これは使われるスタイルを決定します。あなたは、実線または点線を選択することができます。

MinColor
最小偏差の球の点の色を定義します。デフォルトは青(255.0.0)です。

NominalLineColor
理論値を示すために使用するグラフィックな線の色を定義します。

NominalLineStyle
理論値を示すために使用するグラフィックな線のスタイルを定義します。実線または破線を選択できます。

PC-DMIS コマンドオブジェクト
の 共通プロパティ

PC-DMIS 参照
共通プロパティ

PointInfoLabel
AnalysisWindowオブジェクトに関連される点情報ボックスで使用されるラベルテンプレートを選択します。このオブジェクトでユーザー定義されたラベルは`LabelOffset`プロパティを使用することを除き、移動することはできません。

ProfileMeasured *
ダイアログボックスの**[測定されるヒット間で線を表示]**チェックボックスと同じです。

ProfileNominal *
ダイアログボックスの**[理論値間の線を表示]**チェックボックスと同じです。

ProfileOptions *
ダイアログボックスの**[プロファイルの測定結果]**エリアから一つのオプションボタンを選択した場合と同じです。

ProfileTolerances *
ダイアログボックスの**[公差線を表示]**チェックボックスと同じです。

右 *
共通のプロパティ

RulerElemX
[分析グリッドオプション]ダイアログボックスで説明したXYZのボックスの**要素数**と同じです。

RulerElemY
[分析グリッドオプション]ダイアログボックスで説明したXYZのボックスの**要素数**と同じです。

RulerElemZ
[分析グリッドオプション]ダイアログボックスで説明したXYZのボックスの**要素数**と同じです。

倍率
分析ウィンドウを特定の比率のサイズに変更します。書式は n1:n2 (n1およびn2は2つの数)です。例えば、`1:3`の値は、その公称サイズの3倍で分析ウィンドウの情報を表示しますが、`2:1`の値は、その公称サイズの半分で情報を表示します。また、このプロパティはマウスボタンを使用してズームした場合の現在のズーム倍率を表示します。

> **注記:**
> 倍率プロパティが機能するためには、AutoScaleToFit プロパティは、Noに設定しなければなりません。

SelectPointInfo
ダイアログボックスを表示し、そこから点情報を選択して**分析ウィンドウ**オブジェクトの点情報ボックスに表示できます。

TitleShow *
分析ウィンドウオブジェクトの一番上で、測定されたアイテムのテキストを表示または非表示にします。

上 *
共通のプロパティ

TPDiameters *
ダイアログ ボックスの**直径を表示**チェックボックスと同じです。

透明
BackColorプロパティに定義されたすべての色を無効にし、その後ろにある他のオブジェクトを示すために、オブジェクトを透明にします。

TrihedronShow
三面体シンボルを表示するか、あるいは隠します。または、各軸に沿ってルーラーを表示するため、**ルーラー**を選ぶことができます。

表示可能 *
共通のプロパティ

境界オブジェクト

境界
オブジェクトは長方形境界をテンプレートまたはフォームに挿入します。オブジェクトのサイズを変更して塗りつぶしの色と境界線の色を追加して他の属性を変更する能力に加えて、次の編集可能なプロパティは、境界オブジェクトの含まれています：

HighlightColor
これは境界スタイル プロパティで使用される色を設定します。

境界スタイル
これはオブジェクトの3D境界のハイライトスタイルを設定します。オプションには一般, 3D、凹み と盛り上がりが含まれます。

Bitmap オブジェクト

ビットマップ
オブジェクトで、テンプレートとフォームに前に作成されたビットマップのグラフィックを挿入します。このアイコンをクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。

ビット マップダイヤル

- **OK** ボタンで、ダイアログ
  ボックスにロードされるビットアップをフォームまたはテンプレートにロードします。
- **キャンセル**ボタンで、任意のビットマップを挿入せずにダイアログボックスを閉じます。
- **コピー**ボタンで、**ロード** ボタンを通してダイアログ
  ボックスにすでにロードされるクリップボードにビットマップをコピーできます。
- **貼り付け** ボタンで、クリップボードからダイアログ
  ボックスへコピーされるビットマップグラフィックスを貼り付けます。ビットマップグラフィックスを貼り付けた後、**RLE**
  チェックボックスを選択してそれがレポートに保存された場合にグラフィックを圧縮します。
- **Load** ボタンで、グラフィックス画像(ビットマップまたはJPEG ファイル)をダイアログ
  ボックスへロードします。グラフィックスをロードした後、 **Link**
  チェックボックスを選択してビットマップをテンプレートにリンクしてまたはその直接なパスでフォームします。これはグラフィックが更新される場合にはそれは、テンプレートまたはフォーム内の更新されたフォームが表示される意味です。
- **クリア** ボタンで、ダイアログ
  ボックス以外のロードされるビットマップをクリアできます。
- **[透過度]**リストよりビットマップの透過度を1つ指定することが可能です。

オブジェクトのサイズを変更して他の属性を変更する能力に加えて、次の編集可能なプロパティは、ビットマップオブジェクトの含まれています：

ビットマップ
ビットマップのファイル名です。

レイアウト
中央、左、または右は長方形内のビットマップのアラインメントです。

ストレッチ はグラフィックを拡大または縮小してボックスのサイズに合います。

サイズに合わせる
は自動的に長方形のサイズを拡大してグラフィックのサイズに合います。

ボタンオブジェクト

ボタン オブジェクトはフォームにボタンコントロールを挿入します。ButtonType
プロパティの変更でこのボタンがクリックされる場合、フォームが取られるアクションを選択できます。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してボタンオブジェクトをカスタマイズできます：

デフォルト
ENTERキーが押された場合にボタンが応答する方法を指定します。

はい - 別のボタンにフォーカスがある場合でも、ボタンが押されたENTER
キーに応答します。
いいえ - ENTERが押されている場合、フォーカスがあるボタンのみが応答します。

ボタン形状
ボタンの外観を指定します。これらのオプションは、以下のとおりです:

0 - 一般: 標準のボタンに形状を変更します。
1- 非アクティブなプロパティタブ:
選択されないプロパティシートのタブに形状を変更します。
2- アクティブなプロパティタブ:
選択されるプロパティシートのタブに形状を変更します。

テキスト
ボタンに表示されるテキストを指定します。

ビットマップ
ボタンの表面に指定のビットマップを表示します。「ビットマップオブジェクト」で説明されているのと同じダイアログボックスおよびプロパティを使用します。

レイアウト
これはボタン面のビットマップの位置またはテキストを定義します。次の値が使用できます:

0 - 中心
1 - 左
2 - 右
3 - 上
4 - 下

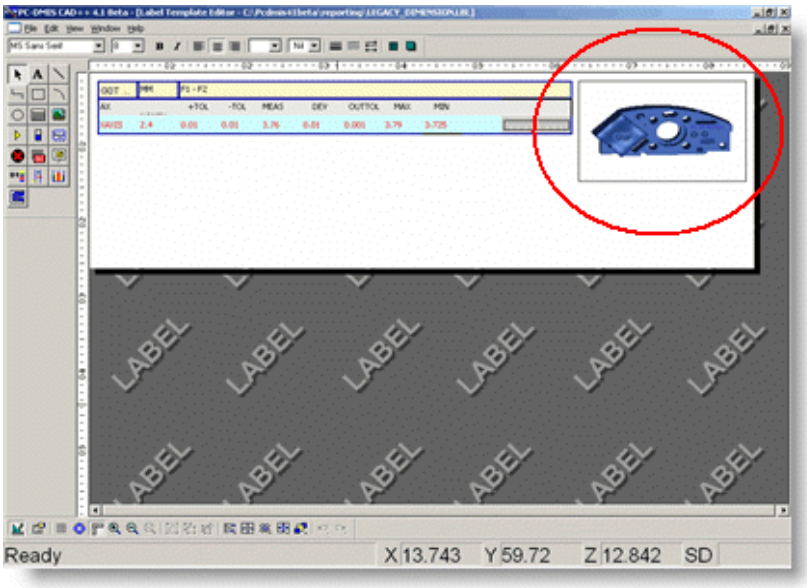
ButtonType
ボタンがクリックされた時のアクションを指定します。

0 - キャンセル: フォームを閉じ、何も行いません。
1 - EventClick: C++ または VBScript 操作を実行します。
2 - Goto: マルチドキュメントインターフェイス (MDI) 関連ファイルに進みます。
3 - ヘルプ: HelpContextID プロパティを使用する WinHelp()
関数に進み、正しいトピックを開きます。
4 - OK: 変更を記録し、フォームを閉じます。
5- 記録: 変更を記録し、フォームを開いたままにします。

GotoPath
ボタンがクリックされた時、フォームが呼び出すMDI関連ファイルを指定します。これは主にプロパティシートのようなコントロールを実行するために使用されます。

CadImageObject

CadImageObject でラベル
テンプレートまたはフォームにCAD画像を表示できます。この項目を選択してまたボックスを編集環境にドラグする場合、PC-DMISはこの編集に
CADImageObjectを挿入して、またオブジェクトはダミーCADモデルのイメージを表示します。



ラベル テンプレートエディタは挿入されるCADImageObjectを表示します。

編集環境内のオブジェクトサイズを定義する方法はレポートウィンドウまたは実行形式に実際に表示される場合にオブジェクトのサイズを定義します。

CADImageObject はこれらのプロパティを含まれます：

標準

下 -
オブジェクトの下の位置を、エディタの上端を基準としたピクセルで指定します。
左 -
オブジェクトの左の位置を、エディタの左端を基準としたピクセルで指定します。
右 -
オブジェクトの右の位置を、エディタの左端を基準としたピクセルで指定します。
境界を表示 -
[オン]にした場合、オブジェクトの周りに境界線が表示されます。[オフ]にした場合、境界線は表示されません。
上 -
オブジェクトの上の位置を、エディタの上端を基準としたピクセルで指定します。

詳細設定

(オブジェクトコード) - オブジェクトの一意の名前を定義します。
有効 -
対象のオブジェクトをフォームまたはテンプレートで変更可能にするかどうかを指定します。はいにした場合、変更は有効です。いいえの場合、変更は不可能です。

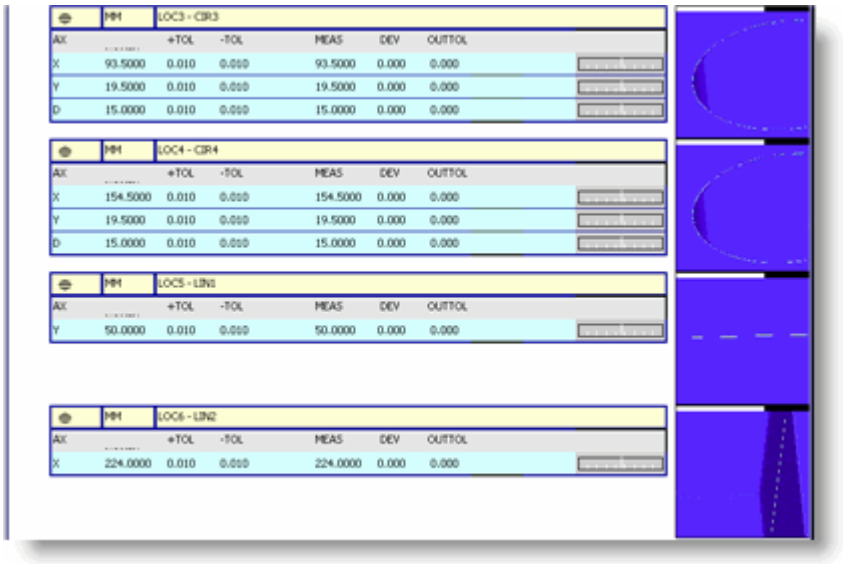
見える -
対象のオブジェクトを、フォームまたはテンプレートに表示するかどうかを指定します。はいの場合、表示されます。いいえの場合、表示されません。

イベント

EventReportData - レポートデータをPC-DMISからテンプレートまたはフォームへ引き渡すイベントです。

ラベルのCadImageObject

ルール ツリー エディタ ダイアログボックスを使用して特定寸法または要素のレポートテンプレートにラベルテンプレートを表示します。このような場合には、レポートのウィンドウが寸法または要素を含まれCADモデルの一部が表示されます。

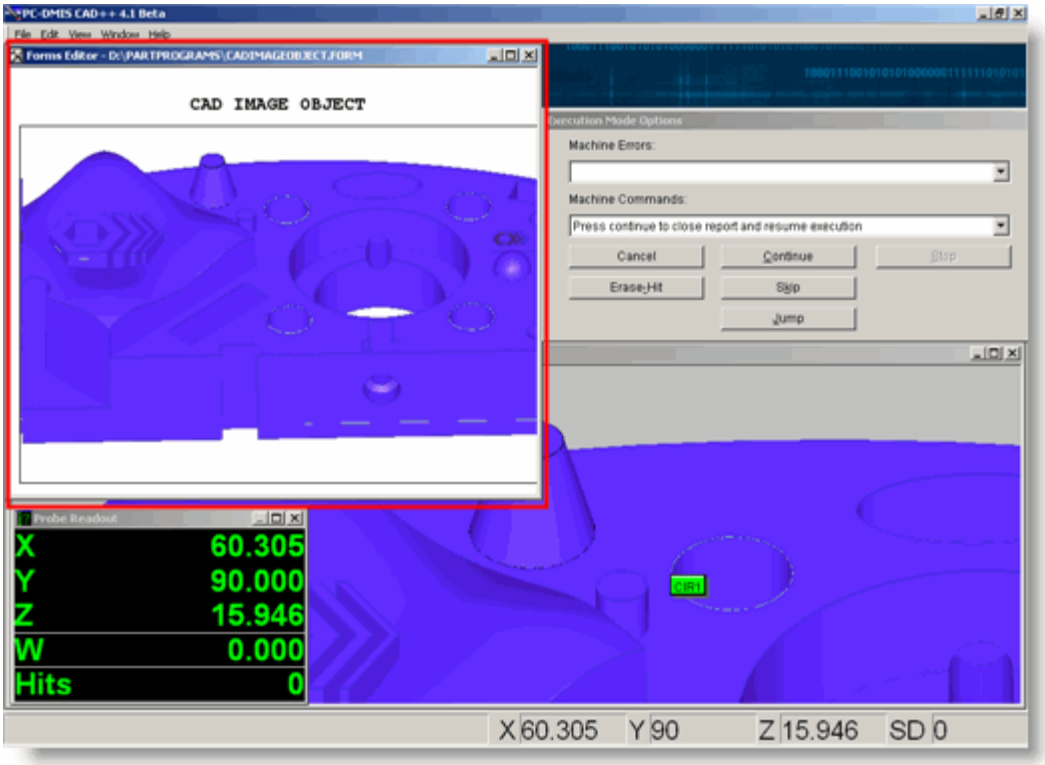


表示されたそれぞれの寸法の横にCADimageObjectを表示しているレポート ウィンドウ

このCADイメージはレポート ウィンドウから拡大縮小、周りに合わせたサイズ変更、回転または移動が可能です。これを行うには、CAD画像をダブルクリックして、それを編集に作成でき、また希望したいグラフィックの表示ウィンドウのモデルのような画像を操作します。変更を保存してレポートウィンドウに戻るには、オブジェクトの外側をダブルクリックします。

フォームのCADImageObject

それはフォームに使用される場合、PC-DMISがフォームコマンドを実行する時にCadImageObjectは現在のビューセットに制限されます。一旦フォーム(CTRL + E)またはフォームを呼び出す測定ルーチンを実行したら、 CADImageObjectを変更できません。

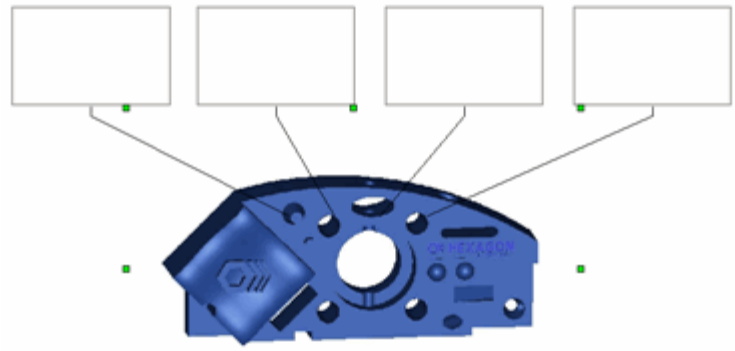


プログラムの実行中に、CADImageObjectを表示するフォームウィンドウ

追加情報については、この章の「フォームについて」を参照してください。

CadReportObject

CadReportObjectで、完了したレポートに
CAD図面をビューできます。最初にCadReportObjectをレポート
テンプレートにドロップする場合、 PC-DMISは自動に
ラベルレイアウトウィザードを起動します。このウィザードを使用してPC-
DMISに使用させたいラベルを配置した後、またダミーのラベルとしても定義されないルールがない場合、ダミーのヘキサゴンのテストブロックのグラフィックが表示されます。それはこのようになります：



レポートテンプレートに挿入されるCadReportObjectの実例

レポートにほしいのはこれらのダミーの項目に単に表現されます。実際のレポートウィンドウで、実際のCADモデルが表示されます。ラベルはCadReportObjectのルールツリー内の最初のルールによって定義されたテンプレートのラベルの画像を表示します。ラベルが関連付けられていない場合、またルールは適用されないと、それはダミーラベルイメージを描画します。

レポートウィンドウで動作方法：

レポートウィンドウで、それは任意の近いズームされないことを除き、 CAD表示は最初に正確にそれがプログラムの実行を完了するときまたはレポートを再描くするときにグラフィック表示ウィンドウに示すように表示します。レポートウィンドウでCadReportObjectへの変更を行う場合、—後続の測定ルーチンの実行後にも—レポートに挿入されるCADビューをクリックしてまた**オブジェクトの変更の削除**を選択してまたは **ファイル| レポート| テンプレート関連データをクリア**を選択する前に、PC-DMISはレポートのCAD画像への変更を保持します。

レポートウィンドウが頻繁にCAD図面を示していますが、 **ルール ツリー エディタ**に指定されるそれらの要素のラベルと引き出し線のみを表示します。例えば、測定ルーチンに4つの測定円と2つの測定線があり、**[ルール ツリー エディタ]**でCadReportObjectが測定円に対してのみラベルを指定した場合、たとえ直前の実行で線も同様に測定済みだとしても、レポートには円に対するラベルデータのみ表示されます。

また、—**[ラベル レイアウト ウィザード]**の**[ラベル数]**リストを使用して—CadReportObjectを**[ルール ツリー エディタ]** で指定された要素の数より少ないラベルを表示するよう設定した場合、レポートウィンドウにはページが追加され、CAD図形に対する追加のインスタンスが表示されます。これらの追加画像は引き出し線と残りのすべての要素のラベルが表示されます。これはラベルに多くのデータが付き、パーツ図形の周りに複数のラベルを挿入するとレポートがごちゃごちゃに見えてしまう場合に特に便利です。

ビューセット注記: ビューセットを使用している場合、 CAD表示がビューセットに示すと同じのように表示します。PC-DMISは実行中に発生した各ビューセットレポートの新しいページで新しいCAD 表示を挿入します。

CADReportObjectのCADイメージの回転、移動及びズーム

レポートウィンドウで簡単にCAD画像の向きとズームレベルを変更でき、またはそれを新しい場所に移動します。

- 画像を回転するには、オブジェクトをダブルクリックしてそれを「有効」にします。一旦活性化されたら、マウスホイールボタンを押して保持し、マウスを押したままにしてドラッグし、またはCTRLを押してマウスをドラッグするときに右クリックします。
- 画像を拡大また縮小するには、オブジェクトをダブルクリックしてそれを「有効」にします。活性化された後、架空の水平線の上または下にクリックしてCAD モデルの中を横断します。またマウスのスクロールホイールボタンを使用して拡大また縮小します。
- CADReportObjectを削除するには、オブジェクトを右クリックしてそれを選択します。一旦選択したら、オブジェクトをクリックしてマウスをドラグします。

ズームキャンセルまたは回転の変更をするには、 ESC キーを押します。CadReportObjectは変更を適用せずに「停止されます」。

回転ズームの変更を保存するには、CadReportObjectの外側をダブルクリックしてください。Cad ReportObject は「無効」になり、CAD 画像は新たな方向性とズームレベルを使用します。CadReportObjectの要素ベースのラベルのレイアウトを使用する場合、 レポート全体がCAD 画像に適用される新たな方向性とズームレベルでリロードされます。

移動の変更を保存するには、選択したオブジェクトの外でクリックしてください。

CadReportObjectの移動、ズーム及び回転の修正を削除するには、レポート･ウィンドウでオブジェクトを右クリックし、それから**CAD レポート オブジェクト移動削除/ズーム/削除/回転MOD**を選択します。他のモードは、（例えば、断面カット、様々なラベル定義、ソリッドまたはワイヤーディスプレイなど）が影響を受けません。

ソリッドおよびワイヤフレームモード間の切り替え

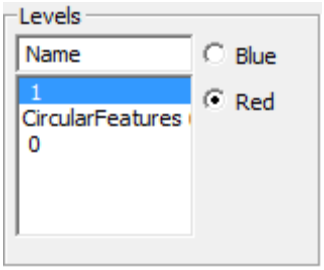
- レポートウィンドウで、CadReportObjectを右クリックしてこれを行うことができてショートカットメニューから **ワイヤーフレーム** メニュー項目を選択します。
- レポートテンプレートエディタで、CadReportObjectを右クリックしてこれを行うことができて **プロパティ** ダイアログ ボックスにアクセスして**ワイヤーフレーム** プロパティをはいまたはいいえに設定します。

カスタム レポート エディタのその他の機能

カスタムレポートエディタで、CadReportObjectを有効にする場合、**グラフィックモード**のツールバー の**画像セットアップ** アイコンは選択に有効になります。**編集 | CAD 操作 | ビューの設定**
メニュー項目にも利用可能になります。このアイコンをクリックして、または**ビューの設定**ダイアログ
ボックスに表示されるメニュー項目を選択します。ここでは、このダイアログボックスを使用して、通常グラフィック表示ウィンドウの表示を操作するのと同じようにCadReportObjectの表示のみを変更します。**ビューの設定**ダイアログ
ボックスを使用してビューを定義することについては、「スクリーンビューのセットアップ」を参照してください。

- **ワイヤーフレームまたは立体を選択:**
  ビューの設定ダイアログボックスを使用し、**立体**チェックボックスを選択または選択解除することで、 カスタムレポートエディタで CadReportObject
  を立体またはワイヤーフレームのいずれかとして簡単に表示できます。代わりに、オブジェクトが選択されるのみに活性化されないので、CadReportObjectを右クリックしてショートカットメニューから**プロパティ**を選択して **Wireframe**
  プロパティをはいまたはいいえに設定します。PC-
  DMISはカスタムレポートで固体またはワイヤフレームの間にトグルします。

- **表示レベル:**
  ビューのセットアップ ダイアログ ボックスを使用してカスタム レポート
  エディタにオブジェクトに適用されるCAD 要素を選択します。**レベル**
  エリアは定義済みのCADレベルをリストします。

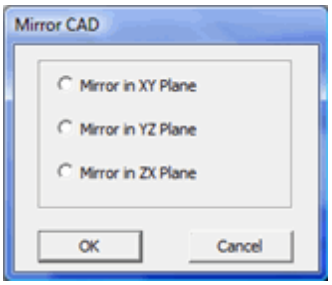


レベルエリアは3つのレベルを示します

レベルを単に選択して**OK**をクリックし、 PC-DMISはカスタム レポートの選択されるCadReportObjectの選択されるレベルは表示します。自分のレベルの作成の情報については、「CAD表示の編集」の項にある「CADレベルの操作」トピックを参照して下さい。

- **CADのミラー:**
  PC-DMISでカスタム レポート エディタのオブジェクトに含まれる

CAD画像をミラーできます。これを行うには、CadReportObjectを選択して、**編集| CAD操作| ミラー**を選択します。**CADをミラー**ダイアログボックスが表示されます：



ミラーCADダイアログ ボックス

このダイアログボックスを使用して、パートのミラーイメージを作成することができます。パートのミラーイメージの軸となる平面(または軸)を選択し、**[OK]**をクリックします。PC-DMISは選択されたCadReportObjectにミラーされる CADモデルを表示します。[グラフィックの表示]ウィンドウ内でCADをミラー表示するための詳細説明は、「CADモデルの変換」を参照してください。

カスタム レポートの情報について、「カスタム レポートの作成」を参照してください。

画像キャッシュの使用

PC-DMISはパートの画像を一度キャッシュに保存し、その後パートの中身をレポートするときに、常に測定ルーチンに関連付けられた.CADファイルを使用する代わりに画像のキャッシュを使用します。これは、非常に大きな.CADファイルをグラフィック表示ウィンドウに読み込むために長い時間がかかるような場合に便利です。一旦特定のレポートに画像をキャッシュしたら、.CADファイルにそのレポートを表示する必要はありません。

画像をキャッシュするには：

1. PC-DMISを閉じてPC-DMIS 設定エディタを開きます。
2. レポートのセクションでは、`UseImageCachingScheme` レジストリエントリを1に設定します。
3. PC-DMISを閉じてPC-DMIS 設定エディタを再起動します。
4. いつものように測定ルーチンと.CADファイルをロードします。
5. レポートのウィンドウを開いてCADReportObjectを使用するレポートテンプレートを選択してください。

6. レポートを生成します。
7. レポートで使用されるCADReportObject項目に任意の変更を加えます。
8. レポートを印刷します

このプロセスはこの特定のレポートで使用される画像をキャッシュします。ここで、.CAD
ファイルを消去（または保留）して測定ルーチンの開始プロセスをスピードアップする場合、この同じなレポートは
キャッシュされた画像を使用します。CADReportObjectを使用して他のレポートはキャッシュされていないが、いつものようにCADファイルを読み込む必要があります。

プロパティ：

このテーブル内のプロパティの多くは、「ラベルレイアウトウィザード」のトピックで詳しく説明されています。

AutoZoom
オブジェクトが自動的にズームして、ラベルオブジェクトが現在示されるCADモデルのその部分だけに注意を集中させるかどうか決定します。

ワイヤーを影付きモードで描画
これはCADモデルを立体表面の図で見るとき、CADオブジェクトのワイヤーフレームが影付きイメージの上で表示するかどうかを決定します。

ラベルのレイアウト
ラベルのレイアウトウィザードを開きます。これにより、CAD図形の周りに複数のラベルを素早く配置することが可能です。詳しくは「ラベルのレイアウトウィザード」を参照してください。

引き出し線の矢印先頭の高さ
引き出し線の矢印の高さを定義します。

引き出せ線の矢印先頭スタイル
引き出し線の矢印のスタイルを定義します。

引き出し線の色
引き出し線の色を定義します。

角度の２要素に引き出し線の端を配置
引き出し線が両方の要素を指すよう分割されるかどうかを決定します。

距離の２要素に引き出し線の端を配置
引き出し線が両方の要素を指すよう分割されるかどうかを決定します。

引き出し線の要素モード
引き出し線が要素の重心を指すか、あるいは通常の引かれた位置を指すかどうか決定します。

引き出し線のスタイル
引き出し線のスタイルを定義します。

引き出し線の終端
これはラベルからCADの**測定された**要素、またはCADの**公称**要素のいずれかに向かって引き出し線を描きます。ラベルレイアウトウィザードの説明を参照してください。

引き出し線の幅
引き出し線の幅をピクセルで定義します。

ルールツリー
これは **ルール ツリー エディタ** ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、オブジェクトに対する条件およびアクションを定義します。「ルールツリー エディタについて」を参照してください。

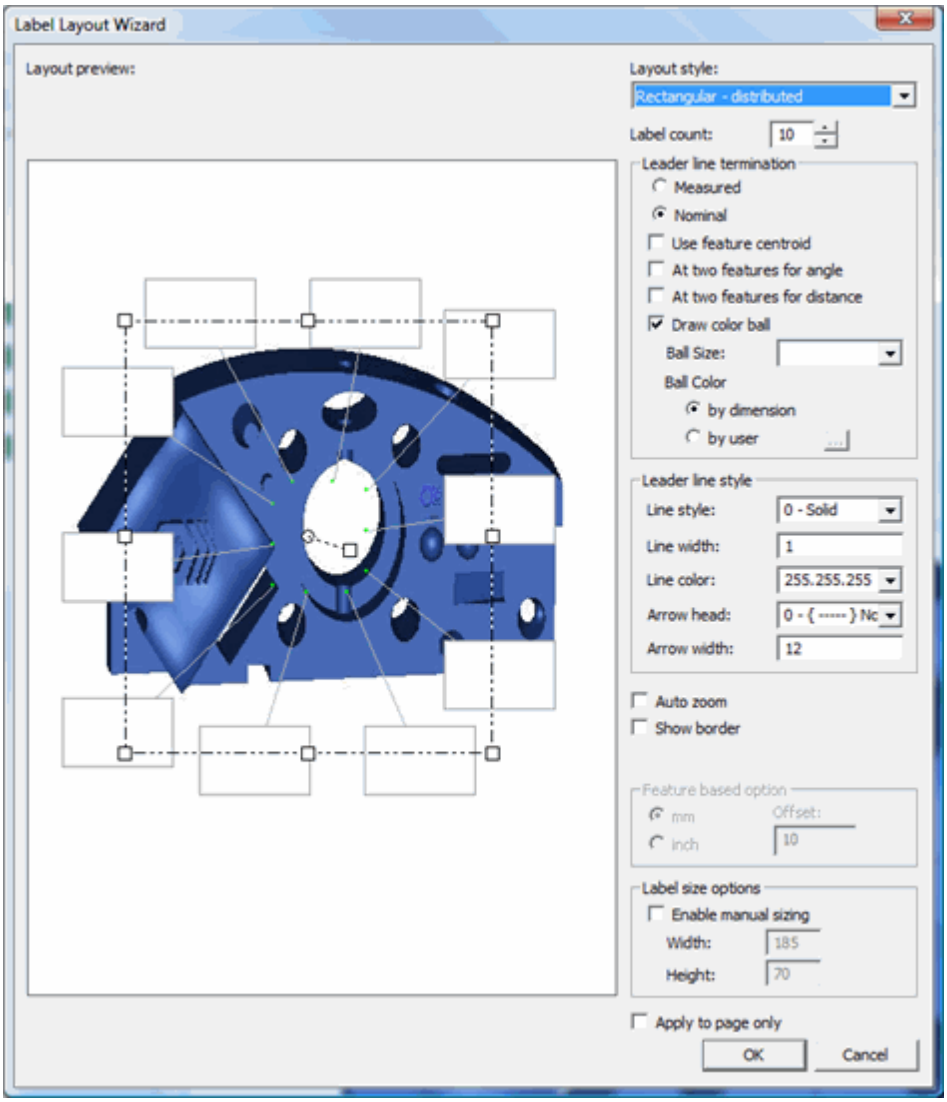
ShowBorder
CADReportObjectの周囲の境界を描画または隠します。

シングルクリックルールツリー
レポートウィンドウからラベルをクリックしたときに、PC-DMISが表示するラベルテンプレートを参照して選択できます。

TrihedronShow
これは表示されたCADモデルオブジェクトの上に三面体シンボルを表示するか、あるいは隠します。

ワイヤーフレーム
この[はい/いいえ]プロパティでは、ワイヤーフレーム(はいに設定した場合)または立体面ビュー(いいえに設定した場合)のいずれかでレポートにCadReportObjectを表示できます。

[ラベルのレイアウト]ウィザード



[ラベルのレイアウト]ウィザード

ラベルレイアウトウィザード
はレポートテンプレートエディタでCAD図面の周りに複数のラベルを素早く配置したり、引き出し線の描画方法を簡単に定義できるツールです。レポートテンプレートエディタに、**CadReportObject**を挿入するたびにこのウィザードが自動的に表示されます。また、**[CadReport Object]**の**(ダイアログの設定)**プロパティを選択した場合にも表示されます。

レポート
ウィンドウでもこのウィザードを利用することができます。このウィザードを表示するには、レポート
ウィンドウで**[CadReportObject]**を右クリックし、**[オブジェクトの編集]**を選択します。レポートウィンドウ内で、測定ルーチンと共に使用されている実際のパート

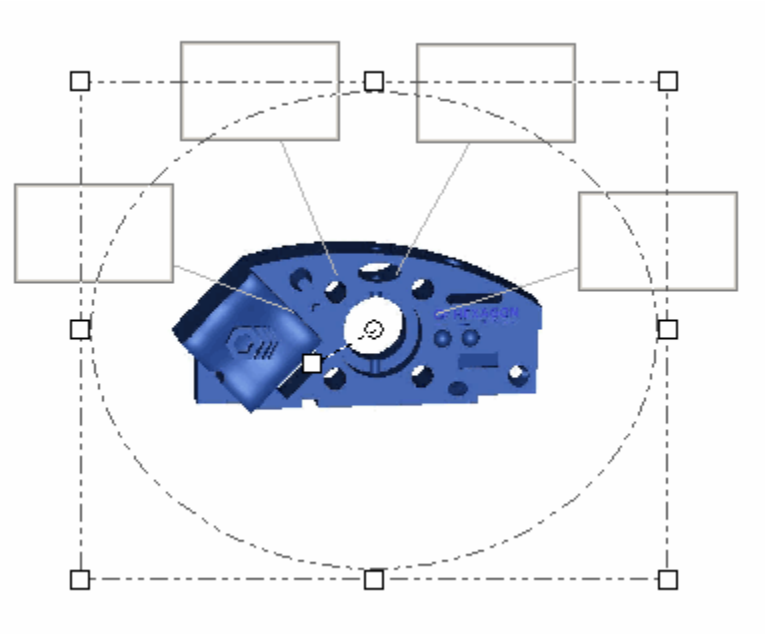
モデルがウィザードに表示されます。ただし、レポート テンプレート
エディタでは、Hexagon社のテスト用ブロックが代用モデルとして表示されます。

このウィザード内で行うすべての変更は自動的に **CadReportObject**の外観を変更します。

このウィザードには次の2つの主要なパートが含まれます:

- **レイアウトプレビュー**エリア
- **[設定]**エリア

レイアウトプレビューエリア



レイアウトプレビュー エリアで、レイアウトが
CadReportObject周りに表示される方法をプレビューできます。

ラベルの表示方法によって、長方形または楕円のパス上にある四角形の白いハンドルをクリックして新しい位置にドラッグすることで、長方形または楕円形のパスに沿ってラベルを回転させることができます。白いハンドルの外側をクリック＆ドラッグするとこの一巡するパスの大きさを変えることができます。

パーツの図面を配置したい場合は、それをクリックしてそれを新しい場所にドラッグします。

以下のオプションが利用可能です。

レイアウトスタイルリスト
ドロップダウンリストで、**レイアウトプレビュー**

エリアにラベルの間隔と回転パスをコントロールできます。以下のオプションから選択できます：

長方形- 分散して配置-
これは長方形のパスをラベル回転の周りに作成します。ラベルは長方形均等に分布されます。

長方形- 詰めて配置 -
長方形のパスが作成され、ラベルは長方形のパスに沿って一巡します。ラベルが四角形の1つの側面に沿って密集します。

[楕円形 - 分散して配置] -
楕円形のパスが作成され、ラベルは楕円形のパスに沿って一巡します。ラベルは楕円均等に分布されます。

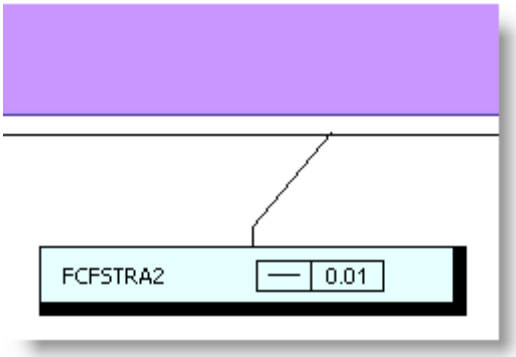
[楕円形 - 詰めて配置] -
楕円形のパスが作成され、ラベルは楕円形のパスに沿って一巡します。ラベルが楕円に沿って密集します。

[要素ベース] — この設定では、全ての要素ラベルはレポート
ウィンドウ内で各要素の位置の近くでパート
モデルの周りに自動的に配置されます。エッジ点の大きな量を持ってまたCAD図面内のすべてのラベルを表示したい場合にはこれは有用です。このオプションを選択するとラベルカウント
ボックスを無効にしてまた最小のリーダーラインの長さを定義できる要素ベースのオプション エリアを可能にします。

[要素ベース — 制限付き] —
[要素]ベースと同様に動作しますが、違う点として、[ラベル数]ボックスは有効のままで、レポート・ウィンドウのオブジェクトに表示されるラベルの数を制限できます。オブジェクトが指定された数より多いラベルを表示する必要がある場合、指定された数を超えたラベルは新しいページに追加されたCAD図形のインスタンスに表示されます。

引き出し線の終点 エリア
このエリアでは、ラベルから伸びた引き出し線がCAD図形で終わる位置を選択できます。

測定 - このオプションは測定された 値の位置で引き出し線を終了します。



理論 - このオプションは理論値の位置で引き出し線を終了します。

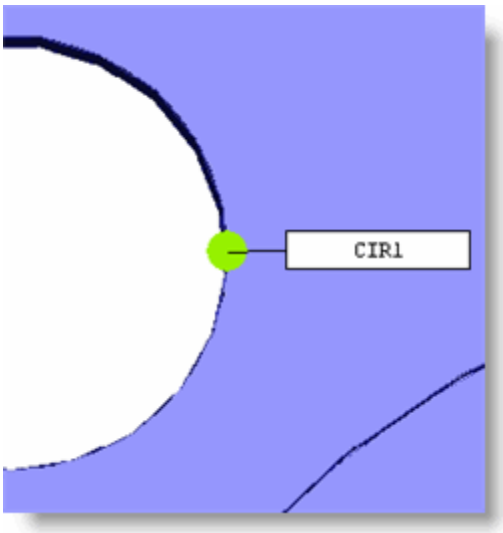
要素の重心を使用 -
このチェックボックスをオンにすると、引き出し線の先端は要素の重心に置かれます。

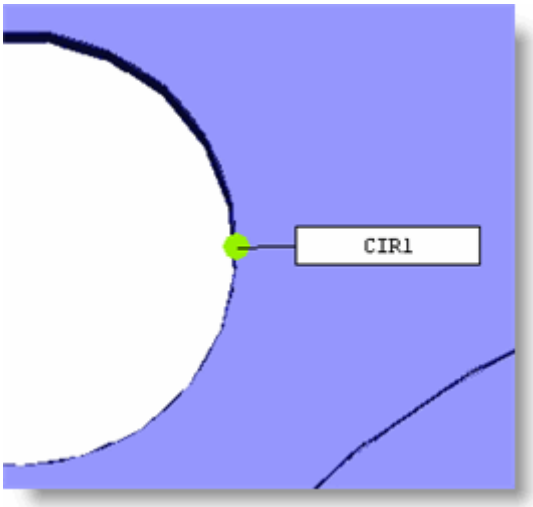
角度の二つの要素で -
このチェックボックスはラベルからのひとつの引き出し線を描いてまた角度寸法を構成する2つの要素を指している2行に分割します。

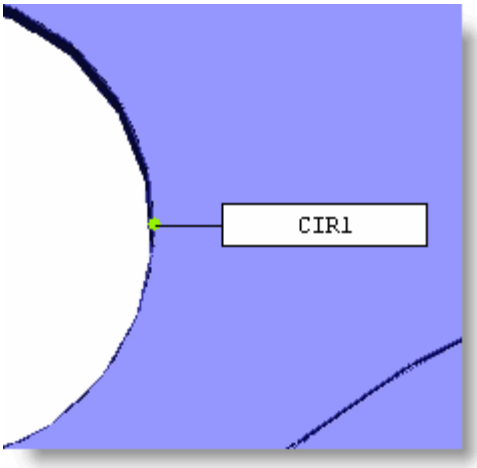
距離の二つの要素で -
このチェックボックスはラベルからのひとつのラインを描いてまた 距離寸法を構成する2つの要素を指している2行に分割します。

色のボールを描画 -
このチェックボックスは引き出し線が終了する色付きのボールを描画します。ボールの色はその要素の値の公差の色帯と一致します。

[ボールの大きさ] —
このリストでは、引き出し線の先端に表示される色付きボールの大きさを指定できます。**[色付きボールを表示]**チェックボックスがオンの場合に選択可能です。*小*、*中*、および*大*の間で選択できます。また、より具体的なサイズを定義するには、このボックスに番号を入力できます。これはカラーボールの直径をピクセルで設定します。


CIR1


CIR1


CIR1

寸法によるボールの色 -
このオプションは最悪のレポート軸の寸法の誤差色で引き出し線終端ボールを着色します。

ユーザによるボールの色 -
このオプションは選択したひとつの色で引き出し線終端ボールを着色します。この色を設定するために**...** ボタンをクリックして**色** ダイアログ
ボックスを使用して色を指定します。

引き出し線のスタイル エリア
このエリアでは、レポートに表示される引き出し線の外観を指定できます。

ラインのスタイル - ラインのスタイルを定義します:

- *実線*
- *破線*
- *点線*
- *点鎖線*
- *二点鎖線*

> **注記:**
> 線のスタイルはデフォルトの線幅である1でのみ機能します。それより太い線は実線のスタイルのみ使用します。

ラインの幅 - ピクセル単位でラインの幅を設定します。

ライン色 - RGB (赤、緑、青)
値の設定でラインの色を定義し、ピリオドで区切られた3つの数字で構成されます。色の特定な値を入力でき、またはリストから **...** 項目を選択して標準的な**色**
ダイアログ ボックスにアクセスしてそれからライン色を選択します。

矢印ヘッド - リーダーラインは矢印ヘッドがあるかどうかを定義します。

- **ない** - ラインは矢印ヘッドを持ちません。
- **両方** - 各エンドでラインは矢印ヘッドを持ちます。

[矢印の太さ] — 矢印の太さをピクセルで指定します。

境界を表示 チェックボックス
このチェックボックスを使用して、テンプレート エディタまたはレポート ウィンドウ内でCADReportObject 全体の周りの境界線を表示または非表示にします。

自動ズーム チェックボックス
このチェックボックスでは、現在、CADモデルのラベル
オブジェクトが表示されている部分のみに照準を合わせて、レポート
ウィンドウのCAD表示を自動的に拡大します。

要素ベースのオプション エリア
このエリアは、**[要素ベース]**または**[要素ベース ― 制限付き]**が選択された場合に有効となります。2つの選択肢ボタン、**[ミリメートル]**および**[インチ]**、および**[オフセット]**ボックスが含まれます。この**[オフセット]**ボックスを使用して、ラベルに使用される引き出し線の長さの最小値を指定できます。CadReportObjectの周囲のスペースにより、引き出し線の長さを伸ばすことは可能ですが、この最小値より短くすることはできません。

ラベル数 ボックス
これは表示されるラベルレポートのページの最大数を変更します。**要素ベース**を選択すると、これが無効になります。

ラベルサイズオプション エリア
このエリアでは、ラベルオブジェクトを自動または手動サイズに切り替えることができます。ラベル
オブジェクトを特定の大きさにしたい場合は、**[手動でサイズを設定]**をクリックし、**[幅]**および**[高さ]**ボックスに値を入力します。

ラベル サイズの変更はデザイン上の用途のみに影響します。レポート
ウィンドウ内の実際のラベル サイズには影響しません。

このエリアは、レポート テンプレート
エディタでウィザードを使用している場合のみ表示されます。

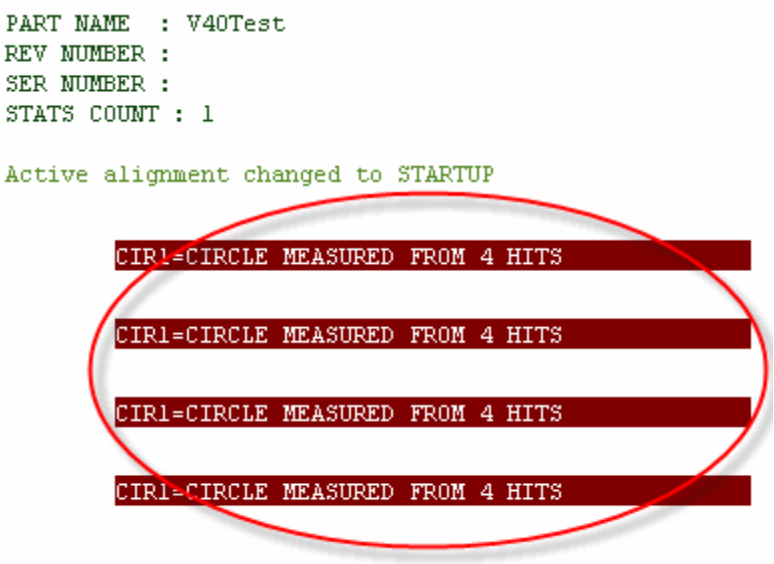
現在のページのみに適用 チェックボックス
ウィザードで行われた変更を現在のページのみに適用します。

CommandTextObject

CommandTextObjectは単にテキストの単純な文字列のコンテナとして動作し、それは要素やディメンションの概要を示します。

このオブジェクトに実際のレポートデータでテンプレートを使用するとき、PC-DMISは要素に表示するテキストの文字列、要素のテキストラベル、要素のタイプ、要素測定に使用される先端の数を表示します。寸法については、それはディメンションの名前とタイプ、何の測定単位次元で使用を示しています。

レポートウィンドウに表示される時、実際のレポートデータに**CommandTextObject**のみを持つラベルはこのようになります:



CommandTextObjectを使用するラベルから作成される円形要素のレポート

色
表示されるテキストの色を変更できます。デフォルトでは、このオブジェクトはコマンドモードの編集ウィンドウで使用されているものと同じ配色を使用しているので、このプロパティをクリックすると独立した色のセットを作成するか尋ねるメッセージが出力されます。**[はい]**をクリックすると、**[色の編集]**ダイアログボックスが表示されます。このエディタを使用して、選択されたCommandTextObjectの新しい配色を定義することが可能です。

色エディタに使用情報について、「仕様の設定」項の「**編集ウィンドウの色を定義**」を参照して下さい。

テキストモードの空行
これは、寸法がテキストとして表示される場合に、寸法間で加える空白の行数を決定します。

チェックボタンオブジェクト

チェックボタン
オブジェクトはチェックボタンオブジェクト、またはチェックボックスをフォームに挿入します。チェックボックスはオプションボタンとは違って、決して相互に排他性がありません。必要に応じて多くのチェックボックスを選択できます（彼らが選択可能になるのを提供します）。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してチェックボックスをカスタマイズできます：

AlignTextLeft
はいに設定すると、以下のようにテキストのチェックボックスの左に移動します。

テキストここで [ ]

いいえに設定する場合、このようにテキストをチェックボックスの右に移動してください:

[ ] テキストここで

ビットマップ
OwnerDrawnをTRUEに設定し、このチェックボックスを選択する場合に使用するビットマップを指定できます。

また、指定されたビットマップは標準的なチェックボックスと同じ形状でなければなりません。

BitmapOffState
OwnerDrawnをTRUEに設定して、このチェックボックスを選択*しない*場合に使用するビットマップを指定できます。

また、指定されたビットマップは標準的なチェックボックスと同じ形状でなければなりません。

HelpHotButton
はいを選択するとチェックボックスの隣に疑問符のヘルプボタンを表示します。

実行モードでこのボタンをクリックするのは、PC-DMIS オンラインヘルプを起動します。

OwnerDrawn
フォームにチェックボックスを表示する様式を指定します。

TRUEに設定する場合、チェックボックスはビットマップ とビットマップ(オフ)プロパティに指定されるビットマップから描かれます。

FALSEに設定する場合、チェックボックスは正常に描画されます。

TriState
チェックボックスを有効（1 - YES に設定される場合）で、または無効（0 - NOに設定される場合）にします。単に状態のチェックボックスを選択または選択解除する代わりに、これは選択されたオプションの一*部*がtrueの場合に例を可能にするために追加の第3の状態を追加することができます。

テキスト
ここで指定されたテキストが、チェックボックスコントロールに表示されます。

コンボボックス オブジェクト

ComboBox
オブジェクトはフォームにコンボリストを挿入します。このリストを使用すると、実行モードでリストをクリックした時に選択するオプションを表示することができます。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してこのオブジェクトをカスタマイズできます：

ComboType
コンボ
リストの種類を指定します。[ドロップリスト]または[ドロップダウン]のいずれかを選択できます。

FlexHorizontal または**FlexVertical**
実行モードにおけるフォームを表示する際にビューをサイズ変更する場合、シフト、拡大、あるいはオブジェクトを一定の比率に保つよう決定することができます。

Shiftキーを選択すると、右または下にオブジェクトを移動します。

拡張を選択すると、右または下にオブジェクトを拡大します。

比率を選ぶことは、物を中央に置きます。

HelpHotButton
はいを選択するとチェックボックスの隣に疑問符のヘルプボタンを表示します。

実行モードでこのヘルプ ボタンをクリックすると、PC-DMISオンライン
ヘルプが表示されます。

ListItems
関連付けられている値の項目のリストを定義します
(「ラジオボタンオブジェクト」に説明される**リストの選択**ダイアログ
ボックスを参照してください)。

NumDropped
入力された数により、実行モードでリストがクリックされた場合に、フォームに表示される
リスト項目の数が設定されます。

ソート
[はい]を選択すると、リストの項目がアルファベット順に並べ替えられます。

UseColors
このコントロールがBackColor
及びTextColorプロパティで定義されるユーザー色を使用するかどうかを決定します。

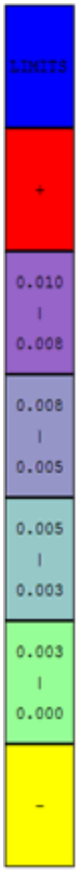
[寸法カラーキー]オブジェクト

寸法カラーキーオブジェクトは直接テンプレートにカラーキーを削除するために使用されます。このカラーキーは解析とヒストグラムオブジェクトの寸法公差領域を表示するに使用される色を表示します。

これらの許容ゾーンがどのように定義されてまたは色をそれぞれの公差域の表示を変更するのを見るには、「CAD 表示の編集」章の「寸法の色の編集」を編集してください。

*サンプル**Horizontal** 寸法カラーキーオブジェクト*

サンプル垂直寸法カラーキーオブジェクト



以下のプロパティが設定可能です。

BorderLines
これは、オブジェクトのまわりの境界線を示すか隠します。

LabelText
色バーのオーバーレイテキストを表示、または非表示にします。

LimitsColor
これはバーから LIMITS
の色を示すか、あるいは隠します。これは公差限界値（公差ライン）を描くために使われる色です。

ShadowStyle
これは、結果として得られたオブジェクトの3D影の位置を設定します。次の方向が使用可能です:

トップ/左、 下/右、またはなし。

測定結果情報オブジェクト

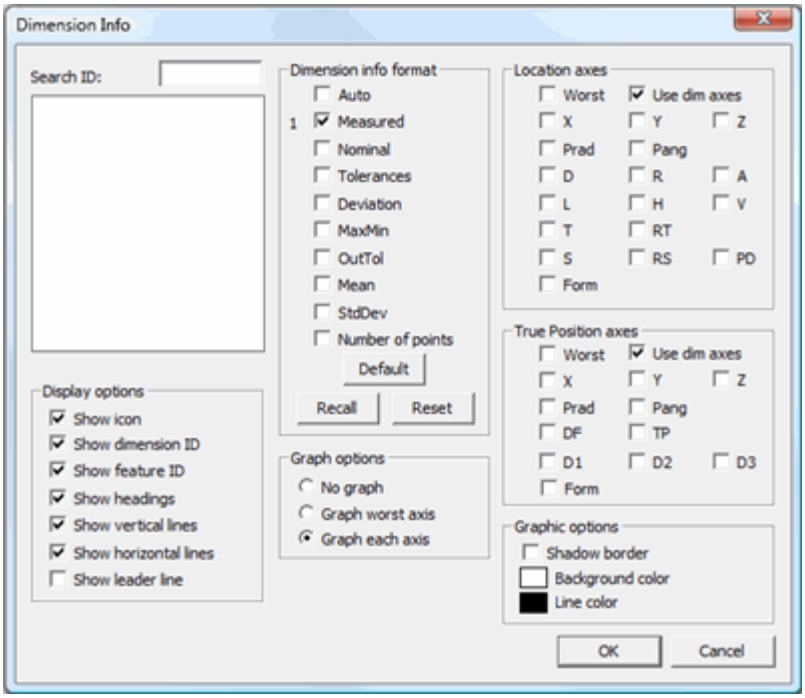
レポート内の個々のディメンション情報を保持するために、**DimensionInfo** オブジェクトはレポートにコンテナとして動作します。

ラベル テンプレートにDimensionInfoオブジェクトの使用

それはあなたの所望のようにラベルテンプレートエディタの表示領域に表示されるようにラベル・テンプレートエディタの**オブジェクトバー**を使用して、**DimensionInfo**オブジェクトを追加し、サイズを示します。ラベル
テンプレートを保存します。次に、新規か既存の報告書テンプレートに使用して、**ルールトレーエディター**・ダイアログ・ボックスがそのどんな条件(どんな次元用の)でPC-DMISがラベル・テンプレートを呼びだして表示することかを指定します。これを行う方法については、本章の「ルールツリーエディターについて」トピックを参照してください。

カスタム レポートにDimensionInfoオブジェクトの使用

カスタム レポート エディタの **オブジェクトバー** を使用して、 **寸法情報** オブジェクトをカスタム レポートにドラッグまたはドロップします。**寸法情報** ダイアログ
ボックスは表示され、ディメンションを選択し、オブジェクトに関連付けられます。



寸法情報ダイアログ ボックス

ダイアログ ボックスから寸法を選択して、必要なオプションを設定して
OKをクリックします。PC-DMISは寸法情報を含むテーブルをレポートに表示します。

寸法情報を表示するダイアログボックスを使用する方法の完全の情報については「レポートコマンドの挿入」の項の「寸法情報ボックスの挿入」を参照してください。

このオブジェクトに固有のプロパティは次の通りです:
これらの多くが(設定ダイアログ)プロパティをクリックすることで設定できます。

DimID
表示したいヒットを含む要素または寸法のIDを定義します。

GraphOption
グラフが表示されるかどうか、そして、それが何を示すかを定義します。値は、次の数値のいずれかを指定できます:

0 - グラフを非表示にします。
1 - 公差最大軸をグラフ化します。
2 - 各軸をグラフ化します。

LocOrderA
0を超える値はA位置軸を表示し、与えられた値によってそれをソーティングします。

LocOrderD
D軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderForm
形状軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderH
H軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderL
L軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderPAng
極角軸軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderPD
PD軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderPRad
極半径軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderR
R軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderRS
RS軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderRT
RT軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderS
S軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderT
T軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderUseDimAxes
位置の寸法の軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderV
V軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderWorst
位置の最悪の軸が表示される以外は上記と同じです。

LocOrderX
X軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderY
Y軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

LocOrderZ
Z軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderAuto
0を超える値はデフォルト情報を自動的に表示しソーティングします。

OrderDeviation
偏差の値が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderMaxMin
最大および最小値が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderMean
すべての偏差の平均が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderMeasured
すべての測定済みの寸法が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderNominal
公称値が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderNumberPoints
要素または寸法の測定に使用する点の数が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderOutTol
公差範囲外の値が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderStdDev
標準偏差が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

OrderTolerances
公差が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

ShowDimensionID
1の値にすると寸法IDを表示します。0の値にすると見出しを隠します。

ShowFeatureID
1の値にすると要素IDを表示します。0の値にすると見出しを隠します。

ShowHeadings
1の値にすると行と列の見出しを表示します。0の値にすると見出しを隠します。

TPOrderD1
0を超える値は、最初の基準要素の直径/幅値を表示しソーティングします。

TPOrderD2
第２基準要素が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderD3
第３基準要素が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderDF
要素の直径が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderForm
統合された形状の寸法が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderPA
位置の極角度が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderPR
位置の極半径が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderTP
位置の公差およびそれに関連する偏差が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderUseDimAxes
位置の寸法軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderWorst
位置の公差最大軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderX
位置のX軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderY
位置のY軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

TPOrderZ
位置のZ軸が表示されてソーティングされる以外は上記と同じです。

EditBox オブジェクト

EditBox オブジェクトはフォームに編集可能なボックスを挿入します。Visual Basicスクリプトでこのオブジェクトを使用してそれらのフォームを実行しているのから情報を収集できます。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してこのオブジェクトをカスタマイズできます：

アラインメント
オブジェクト内のテキストの配置を設定します。[左寄せ]、[中央]、[右寄せ]が利用可能です。

読み込み専用
[はい]に設定するとテキストは読み込み専用になり、フォームが実行モードの時に編集非可能になります。

BorderDrawn
[はい]に設定すると、コントロールの周りに境界線が表示されます。

CaseOrPassword
ボックス内のテキストスタイルを設定します。以下のいずれかを選択できます：

0 - なし：テキストの表示を変更されません。
1 -小文字: すべての箱の中のテキストを小文字に表示します。

2 -大文字: すべての箱の中のテキストを大文字に表示します。
3 - パスワード: アスタリスクを使用してテキストの各文字マスクします。

UseColors
[はい]に設定すると、テキストが[BackColor] および[TextColor]
で指定された色で表示されます。

HelpHotButton
はいを選択するとチェックボックスの隣に疑問符のヘルプボタンを表示します。

実行モードでこのヘルプ ボタンをクリックすると、PC-DMISオンライン
ヘルプが表示されます。

EditDblBoxオブジェクト

EditDblBox
オブジェクトは、ダブル型の変数を受理する形式に編集箱を挿入します。これは、MinimumEq
とMaximumEq の特性の追加で**EditBox**
オブジェクト(「EditBoxオブジェクト」を参照)の特性をすべて持っています:

MinimumEq
最小方程式
(この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値が設定可能です)。

-$, $, CONST

MaximumEq
最大方程式
(この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値に設定できます）。

-$, $, CONST

EditLongBox オブジェクト

[EditLongBox]
オブジェクトを使用して、Long型の変数を入力できる編集ボックスをフォームに挿入することが

できます。これは、`MinimumEq` 及び`MaximumEq` の特性の追加で**EditBox**
オブジェクト(「EditBoxオブジェクト」を参照)の特性をすべて持っています:

MinimumEq
最小方程式
(この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値が設定可能です)。

`-$, $, CONST`

MaximumEq
最大方程式
(この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値に設定できます）。

`-$, $, CONST`

楕円オブジェクト

楕円弧
オブジェクトはフォームまたはテンプレートに楕円弧を挿入します。デフォルトの楕円は円周に沿ってすべてのポイントに円の重心から同じ距離で円ですが、しかし、簡単に楕円を形成するために円を伸ばすことができます。

オブジェクトのサイズ変更、塗りつぶし色の追加、境界線の色の追加、その他の属性も変更可能であることに加え、楕円オブジェクトには次の編集可能なプロパティが含まれます:

HatchStyle
結果となる多角形を塗りつぶすために使用するパターン(またはハッシュ)の種類を設定します。次のパターンが使用可能です:

水平

垂直

斜線

逆斜線

十字

斜め十字

フレーム オブジェクト

フレーム
オブジェクトはフォームにフレームを挿入します。フォームの中に自分のダイアログボックスを設計している場合、同様のオプションのグループを設定するために、一般的にはこのオブジェクトを使用します。

オブジェクトのサイズを変更して塗りつぶしの色と境界線の色を追加して他の属性を変更する能力に加えて、次の編集可能なプロパティは、フレームオブジェクトの含まれています：

BorderColor
境界線の色を設定します。

HiliteColor
[浮き上がり]または[窪み]を使用する場合に、[BorderStyle]
プロパティで使用する色を設定します。

境界スタイル
これはオブジェクトの3D境界のハイライトスタイルを設定します。オプションには一般, 3D、凹み と盛り上がりが含まれます。

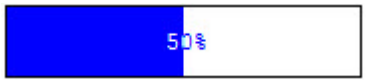
BorderWidth
オブジェクトの境界線の太さをピクセルで設定します。

テキスト
ここにテキストを入力すると、フレームのタイトル名が設定されます。

アラインメント
オブジェクト内のテキストの配置を設定します。[左寄せ]、[中央]、[右寄せ]が利用可能です。

ゲージ オブジェクト

ゲージ・オブジェクトはゲージ・オブジェクトをフォーム、ラベル・テンプレートあるいはカスタム報告書に挿入します。このオブジェクトはレポート・テンプレート・エディターにおいて有効ではありません。



デフォルトのゲージ オブジェクト

オブジェクトの幅が高さより大きい場合、百分位数棒は水平に移動します。

オブジェクトの高さが幅より大きい場合、百分位数棒は垂直的に移動します。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、 PC-DMISの指令またはVisual Basicのコードと一緒にこれらのプロパティを使用してオブジェクトのパーセンタイルバーを移動させます。

ValueEq
値の方程式です。

これは、ゲージオブジェクトの現在の値です。いったんMinimumEQとMaximumEQにある最小値と最大値の範囲に対照して評価されれば、それがパーセンテージ値をゲージに表示されます。

この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値でありえます。

-$, $, CONST

MinimumEq
最小値を求める方程式です。

これは、0%の値が何であるかを定義します。5の値がゲージの0パーセントを表す場合は、このプロパティを5に設定します。

この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値でありえます。

-$, $, CONST

MaximumEq
最大値を求める方程式です。

これは、100%の値が何であるかを定義します。10の値がゲージの100パーセントを表す場合は、このプロパティを１０に設定します。

この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値でありえます。

-$, $, CONST

ShowText
これは、ゲージでパーセンテージ値を表示か、非表示にします。

PARAM を使用してゲージの値を変更する例

また、PARAM ステートメントで REPORT/CUSTOM
コマンドを使用してゲージの値を変更できます。PC-DMIS
の入力コメントに基づき、ゲージのパーセンテージを変更する場合を想定します。

1. エディターの1つにオブジェクトを追加し、必要に応じてサイズを変更します。
2. 右クリックして**プロパティ**を選択し、**オブジェクト名**プロパティに注釈を付けます。
3. PC-DMIS 内で、以下のようなコードを追加します。

```
C1=COMMENT/INPUT,NO,FULL SCREEN=NO,
      パーセンテージを入力します:
CS1=REPORT/CUSTOM, FILENAME=MyCustomReport, Section=-1
      PARAM/GAUGE1.VALUE=C1.INPUT
      PARAM/=
      ENDCUSTOM/
```

上記のコードを実行すると、入力コメントからの数値が C1.INPUT
変数に格納されます。その後、"MyCustomReport"という名前のカスタムレポートを探します。

PARAM
ステートメントに注目します。**ゲージ1** という名前のオブジェクトを変更します。それから、**値**プロパティを使用してゲージの値を C1.INPUT 変数に格納されている値と同じに設定します。

BASICスクリプトを使用してゲージ値を動的に変更する例

特定の時間にゲージの値をダイナミックに変更するために、ユーザは**VBSミニエディタ**で、BASICコードを使用することもできます。あなたは、円の直径は、その最小値と最大許容公差に近づく方法と密接に基づいて0から100パーセントまでゲージを移動するフォームを作成すると仮定します。以下の手順に従うとこれを実行できます。

ステップ1: フォームを作成します

1. 新規フォームを作成しそれが編集モードであるか確認します。はじめに、円の直径の値をとる MYDIAMETER という名の変数を作成する必要があります。

2. グリッドを右クリックして、**フレーム/ビュー**は**プロパティ**・ダイアログ・ボックス上のオブジェクト・リストから選ばれていることを確かめてください。

3. [プロパティ]
   ダイアログボックスの[詳細設定]で見出しを展開します。**LocalVariable**プロパティの値を選択します。 **ローカル変数**ダイアログボックスが表示されます。

4. **追加** ボタンをクリックして新規変数を追加します。 **タイプ** リストから **二重** を選択します。 **名前** ボックスで、**MYDIAMETER** と入力します。 **値** を0のままにしておきます。

MYDIAMETER 変数を示したローカル変数ダイアログボックス

5. **OK** をクリックして、**プロパティ**ダイアログ
   ボックスボックスに戻ります。MYDIAMETER 変数は今フォームに追加されます。

6. 次に、フォームに**ゲージ**・オブジェクトを挿入してください。

7. 必要に応じて**ゲージ**
   オブジェクトと場所とサイズを選択します。垂直距離は百分位数棒が移動することができる完全な距離です。

8. **プロパティ** ダイアログ
   ボックスから、追加**ゲージ**オブジェクトが選択されるのを確認してください。

9. また、プロパティ・ダイアログボックスの上の詳細見出しの下で、**MaximumEq**
   のプロパティをクリックしてください。**VBSミニエディタ**が表示され、それの多くは選択できません。

10. リストから **CONST** を選択してください。この値は、ゲージの100%値を定義することができます。

11. 円の直径の最大許容値を入力します。この例は.010の許容公差1インチ径の円を測定します。それで許容される最大値は**1.010**になります。

12. **プロパティ**・ダイアログボックスに戻るために、「**OK**」をクリックしてください。

13. **MinimumEq** プロパティをクリックします。**VBS**
    ミニエディタが再度表示されます。この値は、ゲージの100%値を定義することができます。

14. リストから**CONST**を選択してください。

15. 円の直径の最小許容値をタイプします。繰り返しますが、この例は0.010の許容公差で1インチ径の円を測定しますので、最小値は**0.990**になる必要があります。

16. **プロパティ**・ダイアログボックスに戻るために、「**OK**」をクリックしてください。今、ゲージの実際の値に円の直径を与える必要があります。

17. ゲージオブジェクトがまだ**詳細**見出しの下にある[**プロパティ**]ダイアログボックスから選択した状態で、 **ValueEq**
    プロパティを選択します。**VBSミニエディタ**が表示され、それの多くは選択できません。

18. 左のリストから **+ EQ ($)**を選択してください。

19. 右側のリストから、 **<MYDIAMETER>**を選択します。

VBS ミニエディタを使用してゲージオブジェクトの値を設定します。

20. [**OK**]をクリックして、**VBSミニエディタ**を閉じます。

21. フォームを保存します。この例では、フォームに*gaugetest.form*という名を付けます。

ステップ2 - 一般的円形要素を作成します

1. PC-DMIS内に一般的円形要素を作成します。

2. PC-DMISの編集ウィンドウを選択し、それをコマンド モードにして下さい。

3. **GENERIC**
   を入力してから、Tabキーを押して、一般的な要素を挿入します。最初は、一般的な点要素は、要素のIDを選択した状態で[編集]ウィンドウに表示されます。

4. F9を押して一般要素のダイアログ ボックスにアクセスします。

5. **要素･タイプ**領域 で、**円**を選択します。

6. **データ･タイプ**領域で、**公称値**を選択します。

7. **要素名**ボックスに、円の名前を入力します。
   この例では要素名をCIR1を使用しています。

8. CIR1にXYZとIJK値を入力します。

9. **直径** オプションを選択し、 CIR1に1の呼び径の値を与えます。

10. 必要に応じて他のオプションを変更して、次に、終了された時
    OKをクリックしてください。編集ウィンドウの一般的な円は次のようになります:

```
CIR1 =GENERIC/CIRCLE,DEPENDENT,RECT ,OUT,$

NOM/XYZ,1,1,0.95,$
```

```
MEAS/XYZ,1,1,1,$

NOM/IJK,0,0,1,$

MEAS/IJK,0,0,1,$

DIAMETER/1,0
```

ステップ3 - INPUT コマンドを挿入してまた一般的な円形を変更します

1. カーソルを円1要素の*前に*置き、直径の測定値を取得する入力コメントを挿入します(この例はオフラインモードで処理されるので、"測定"値は手動で挿入されます)。例えば:

```
C1 =COMMENT/INPUT、CIR1 の測定された直径を入力してください:
```

2. ここで、円1のコマンドブロックの最終行へ移動し、"DIAMETER/1,0"の2番目のパラメータ(直径の測定値)を"0"から"C1.INPUT"に変更します。これにより、この値を入力コメントからCIR1の測定直径に代入されます。

```
DIAMETER/1,C1.INPUT
```

3. 今CIR1要素の*後*にカーソルを移動し、**挿入|レポートのコマンド|フォーム**メニューオプションを選択して保存されたフォームを埋め込みます。

ステップ4 - FORM/FILENAME コマンドを挿入してまたは実行する

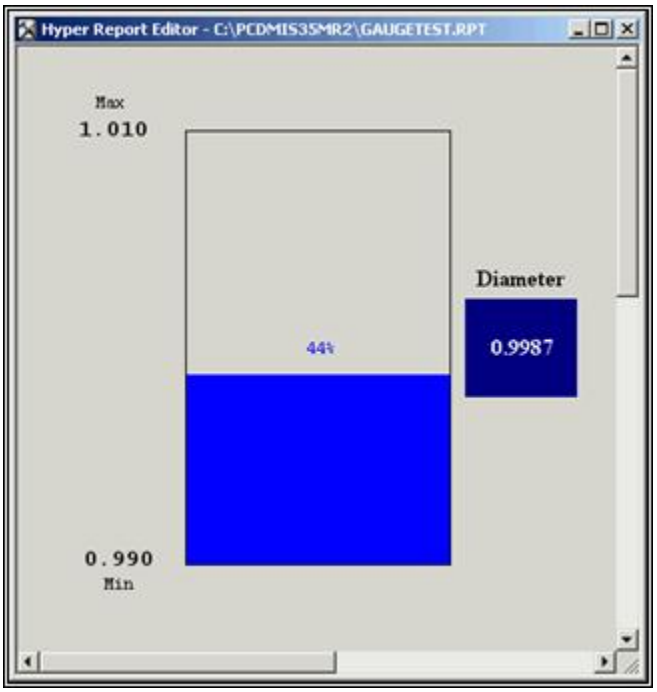
1. `FORM` と入力してタブを押し、`FORM/FILENAME`
   コマンドブロックを編集ウィンドウに挿入します。

2. 今では`PARAM/=`を言う`FORM/FILENAME`コマンドで、すぐに等号の記号前にカーソルを置いて、 `MYDIAMETER`を入力します。次に、すぐ等号の直後にカーソルを移動させて、`CIR1.DIAMETER`を入力します。フォームを埋め込むコードはこれのように見えるべきです:

```
CS1 =FORM/FILENAME= C:\PCDMIS35\GAUGETEST.FORM, AUTOPRINT=NO

PARAM/MYDIAMETER=CIR1.DIAMETER

PARAM/=

 ENDFORM/
```

3. 新しく追加されたコマンドをマークして測定ルーチンを実行します。CIR1の直径はフォームにパラメータとゲージオブジェクトのパーセンタイルとして円の測定径に応じて動的に変更渡されます。

たとえば、CIR1測定径は0.9987である場合、このようなフォームをとります：

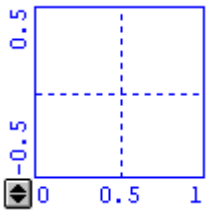


サンプルフォームは機能の測定径に動的にリンクされたゲージオブジェクトを表示します

グラフ オブジェクト

グラフ オブジェクトは動的にそのデータを更新する能力でフォーム、カスタム
レポートまたはラベルのテンプレートにグラフを挿入します。このオブジェクトは、レポートテンプレートエディタでは使用できません。

グラフ
オブジェクトで、データポイントの配列を保存して表示します。XとYの値を使用してグラフ上のデータポイントを指定します。



デフォルトグラフ オブジェクト

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、PC-DMISの指令、またはVisual

Basicのコードと一緒にこれらのプロパティを使用してグラフオブジェクトが可能性を動的にデータを更新します。

ClearAllPoint
[1]に設定した場合、フォームが実行モードに入った時にグラフから全てのデータポイントがクリアされます。

0に設定する場合、すべてのデータポイントがグラフに残ります。

時計回り
いいえに設定するとY軸が反転し、上が負に、下が正になります。

ConnectPoints
[はい]に設定するとグラフにデータポイントを結ぶ線が描かれます。

DataPointColor
X、Yデータポイントに使用される色、および点を結ぶ線に使用される色を変更します。

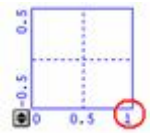
EnablePoint
[1]に設定すると、グラフに新しいデータポイントが追加できます。

0に設定する場合、グラフは新しいデータポイントの追加を拒否します。

LineWidth
データポイントの直径を(ピクセルで)設定します。

XDivisions
グラフのX軸を、原則的に指定した数に分割します。

XMaxEq
X軸の最大値を求める方程式です。この値はX軸の終了値を決定するのに使用されます。



簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

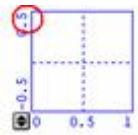
XMinEq
X軸の最小値を求める方程式です。この値はX軸の開始値を決定するのに使用されます。

簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

XPointEq
グラフのデータポイントのX値です。簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

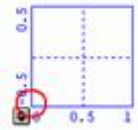
YDivisions
グラフのY軸を、原則的に指定した数に分割します。

YMaxEq
Y軸の最大値を求める方程式です。この値はY軸の終了値を決定するのに使用されます。



簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

YMinEq
Y軸の最小値を求める方程式です。この値はY軸の開始値を決定するのに使用されます。



簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

YPointEq
グラフのデータポイントのY値です。簡単な数式を利用したり、またはVBScriptからデータを求めることが可能です。

先端: グラフの原点付近の矢印
を上下をクリックしてY軸を再スケールできます。これらの計る矢印は単に旧式のハイパービューレポートエディタ及びフォームエディタでのみで見えます。

グラフにデータを表示する PARAM の使用例

また、PARAM ステートメントで REPORT/CUSTOM
コマンドを使用してゲージのデータ点を指定できます。

1. エディターの1つに**グラフ**オブジェクトを追加し、必要に応じてサイズを変更します。
2. 右クリックして**プロパティ**を選択し、**オブジェクト名**プロパティの値に注釈を付けます。
3. **XDivisions**を5に設定します。
4. **YDivisions**を5に設定します。

5. **データ点の色**プロパティを赤色 (255.0.0) に設定します。
6. **LineWidth** を8に設定します。
7. PC-DMIS 内で、以下のようなコードを追加します。

```
CS1=REPORT/CUSTOM, FILENAME=MyCustomReport, Section=-1
    PARAM/GRAPH1.SETVALUES=0
    PARAM/GRAPH1.XVALUE=0.25
    PARAM/GRAPH1.YVALUE=-0.4
    PARAM/GRAPH1.SETVALUES=1
    PARAM/GRAPH1.XVALUE=0.65
    PARAM/GRAPH1.YVALUE=0.-0.3
    PARAM/GRAPH1.SETVALUES=1
    PARAM/GRAPH1.XVALUE=0.75
    PARAM/GRAPH1.YVALUE=0.45
    PARAM/GRAPH1.SETVALUES=1
    PARAM/=
```

上記のコードを実行して"MyCustomReport"という名前のカスタムレポートを探します。

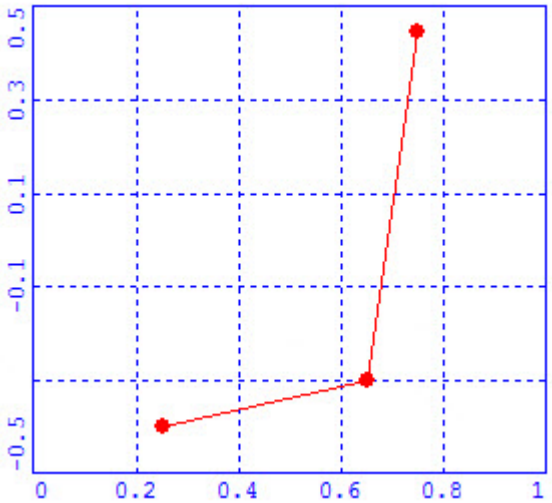
REPORT コマンドの PARAM
ステートメントに注目します。それぞれゲージ1という名前のオブジェクトを変更し、以下のプロパティを使用してグラフを変更しています。

XVALUE - グラフのデータ点のX軸上の位置を定義します。

YVALUE - グラフのデータ点のY軸上の位置を定義します。

SETVALUES -
これは0または1のいずれかに設定できます。0の値はデータ点のリストをリセットします。1の値はリストにデータ点を追加します。

グラフの結果は以下のようになります:



グラフにダイナミックにデータを表示する BASIC スクリプトの使用例

また、**VBS**
ミニエディターでBASICコードを使用してグラフにデータ点をダイナミックに表示することもできます。フォームが起動されたときにデータ点が自動的に作成されるスクリプトが必要な場合を想定します。以下の手順に従うとこれを実行できます。

ステップ**1:** フォームを作成します

1. 新規フォームを作成しそれが編集モードであるか確認します。はじめに、各データ点のXおよびY値を取得する変数を作成する必要があります。
2. **グラフ**オブジェクトを作成しキャンバスに追加して、必要に応じてサイズを変更します。**グラフ1**と名付けます。
3. 右クリックして**プロパティ**を選択します。
4. **XDivisions**を**5**に設定します。
5. **YDivisions**を**5**に設定します。
6. **データ点の色**プロパティを赤色 (**255.0.0**) に設定します。
7. **線の太さ**を**8**に設定します。
8. **YMaxEq**を**CONST** および **1.0**に設定します。
9. **YMinEQ**を**CONST** および **－1.0**に設定します。

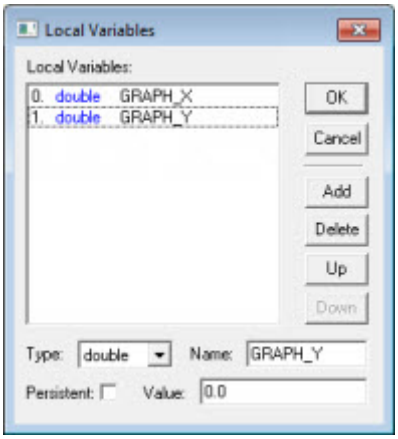
ステップ **2 -** 変数の作成

1. グリッドを右クリックして、**フレーム/ビュー**は**プロパティ**・ダイアログ・ボックス上のオブジェクト・リストから選ばれていることを確かめてください。

2. **ローカル変数**で、値をクリックして**ローカル変数**ダイアログ ボックスを表示します。

3. **追加**ボタンをクリックして新規ローカル変数を追加します。 タイプ リストから **二重** を選択します。 **名前** ボックスで、**GRAPH_X**と入力します。 **値** を**0**のままにしておきます。

4. 同じ方法で別のローカル変数を追加し、**GRAPH_Y**の名前を付けます。



2つの変数を示したローカル変数ダイアログボックス

5. **OK** をクリックして、**プロパティ**ダイアログ
ボックスボックスに戻ります。ここで、2つの変数がフォームに追加されています。

6. **プロパティ**ダイアログボックスから、**グラフ1**を選択します。

7. **XPointEq**で値をクリックします。**VBS-ミニエディター**で、左のリストから **+ EQ ($)** を選択し、右のリストから**<GRAPH_X>**を選択します。**[OK]** をクリックします。

8. **YPointEq** で同じ操作を行い、**<GRAPH_Y>**に設定します。

ステップ 3 - スクリプトの追加

1. **イベント初期化**プロパティで、値をクリックして**VBS ミニエディター**を表示します。

2. エディターに以下のコードを入力します。

```
GRAPH_X = 0.1
GRAPH_Y = -0.4
This.Refresh
GRAPH_X = 0.25
```

```
GRAPH_Y = 0.5
This.Refresh
GRAPH_X = 0.75
GRAPH_Y = -0.5
This.Refresh
GRAPH_X = 0.85
GRAPH_Y = 0.45
This.Refresh
```

3. **[OK]** をクリックします。

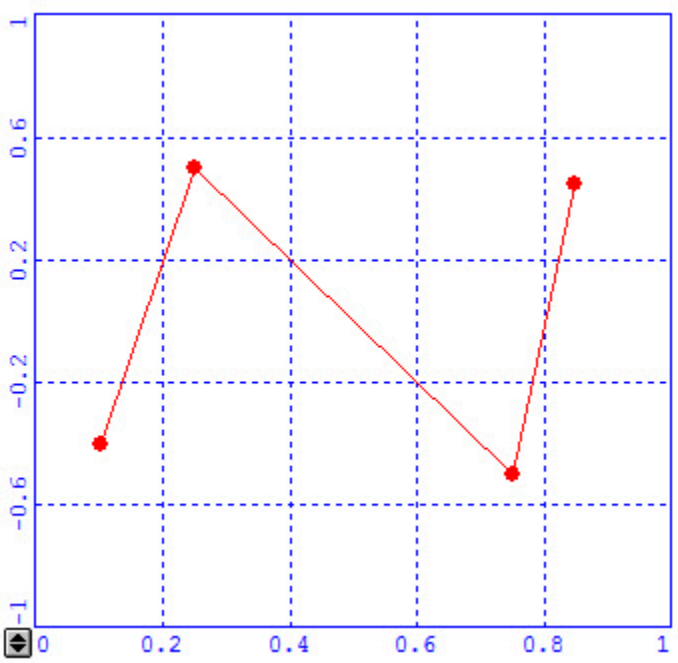
4. フォームを保存します。この例では*graphtest.form*という名前をフォームに付けます。

ステップ4 - FORM/FILENAME コマンドを挿入してまたは実行する

編集ウィンドウのコマンドモードで、**FORM**と入力してTABを押し、`FORM/FILENAME`コマンドブロックを編集ウィンドウに挿入します。上記の手順で保存した graphtest.form ファイルを参照してください。

コマンドがすべてマークされているか確認し、測定ルーチンを実行します。

フォームコマンドが実行され、フォームが現れると、グラフが初期化されスクリプトが実行し、グラフのデータ点が以下のようになります。



ローカル変数を使用しない場合

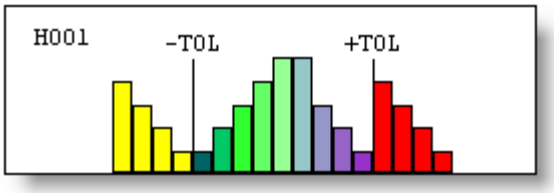
場合によっては、ローカル変数を全く定義しないで上記の例を実行することができます。この場合、上記のステップ3で、**VBA ミニエディター**のコードは以下のようになります。

```
this.SetValues = 0
this.XValue = 0.1
this.YValue = -0.4
this.SetValues = 1
this.XValue = 0.25
this.YValue = 0.5
this.SetValues = 1
this.XValue = 0.75
this.YValue = -0.5
this.SetValues = 1
this.XValue = 0.85
this.YValue = 0.45
this.SetValues = 1
```

このコードは、「PARAMを使用してグラフにデータを表示する例」で、PC-DMISコマンドで使用したコードに似ています。

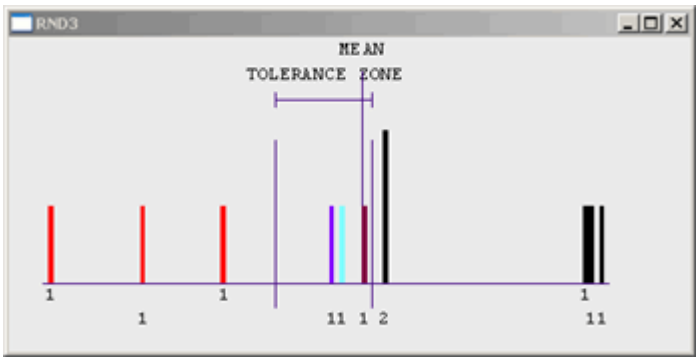
ヒストグラム オブジェクト

ヒストグラム
オブジェクトはバーグラフ形式で、それぞれ異なる公差ゾーン内の偏差の数を表示します。



サンプルヒストグラム

形の測定のように、測定結果が1つの公差値しか持たない場合、公差領域は1つの固定位置ではなくレンジとして表示されます。PC-DMIS は結果ヒストグラムに-TOL or +TOLを表示しませんが、見出しの「TOLERANCE ZONE」を表示し、トップにこのような平均値の場所を含めます：



単な公差のサンプルヒストグラム

ヒストグラム オブジェクトの挿入

新しいまたは既存のラベル テンプレートにラベル テンプレートエディタを使用して**Histogram** オブジェクトを追加とサイズし、それがラベル
テンプレートエディタエリアに希望したい垂直または水平方向を表示します。次に、新規か既存の報告書テンプレートに使用して、**ルールトレーエディター**・ダイアログ・ボックスがそのどんな条件(どんな次元用の)でPC-DMISがラベル・テンプレートを呼びだして表示することかを指定します。これを行う方法については、本章の「ルールツリーエディターについて」トピックを参照してください。

> **注:**
> ヒストグラム・オブジェクトは、場所、位置およびKeyin寸法のようなそれらの要素の個々のヒットを使用して、直接計算されない寸法に利用可能ではありません。

ヒストグラム色の変更

これらの公差領域の定義方法、あるいは各公差領域を表す色の変更方法については、「CAD表示の編集」の章の「測定結果の色の編集」を参照してください。

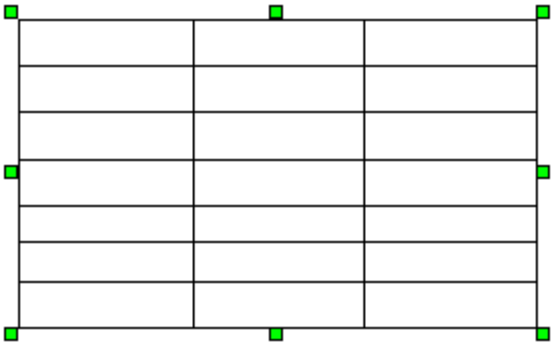
プロパティ

このオブジェクトに固有のプロパティは次の通りです:

プロパティ	内容
HatchStyle	「楕円オブジェクト」トピックにある説明と同じです。

GridControlObject

GridControlObject
アイコンはレポートまたはラベルのテンプレートに行と列のカスタマイズ可能なグリッドを挿入します。



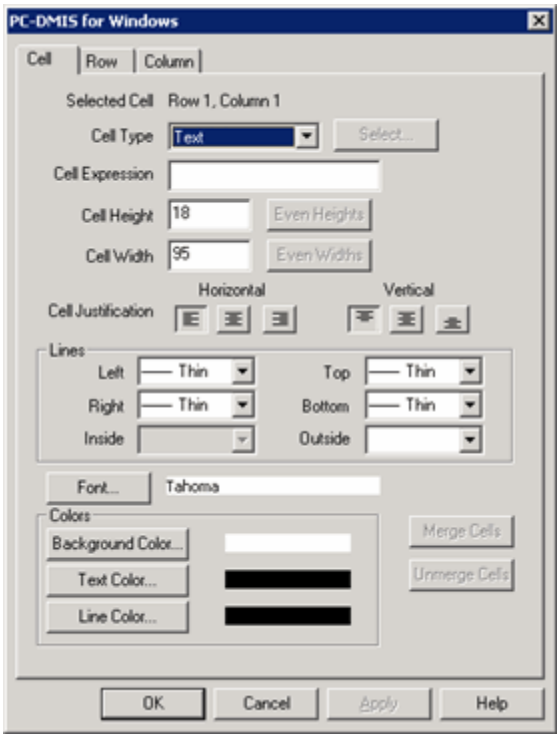
新しく挿入されたグリッドコントロールオブジェクト

このユニークなオブジェクトは単なる標準のテーブルも超えています。実際には、報告式の言語を使用して個々のセル、行、または列をプログラムすることができ、測定ルーチンから PC-DMISに特定のレポートの情報をプルーと表示させます。

他のオブジェクトと同様に、このオブジェクトを簡単に再サイズして新しい場所に移動します。このオブジェクトをサイズしている場合、PC-DMISが動的にサイズが列と行を新しいオブジェクトのサイズに合わせるのを注意してください。

GridControlObjectエディタへのアクセス

一旦**GridControlObject**を挿入したら、それを選択して、その内の任意のセルをダブルクリックして、またダブルクリックしてタブされたダイアログ ボックスを表示します。ダイアログ ボックスが強力な書式設定と編集能力を提供して、個々の仕様に各グリッドのセルをプログラムできます。



GridControlObjectエディタのセルタブ

このエディタを使用しての詳細については、これらのトピックを参照してください：

- GridControlObjectエディタ - [セル]タブ
- GridControlObjectエディタ - [行]タブ
- GridControlObjectエディタ - [列]タブ

プロパティ

NumColumns
グリッドの列数を指定します。

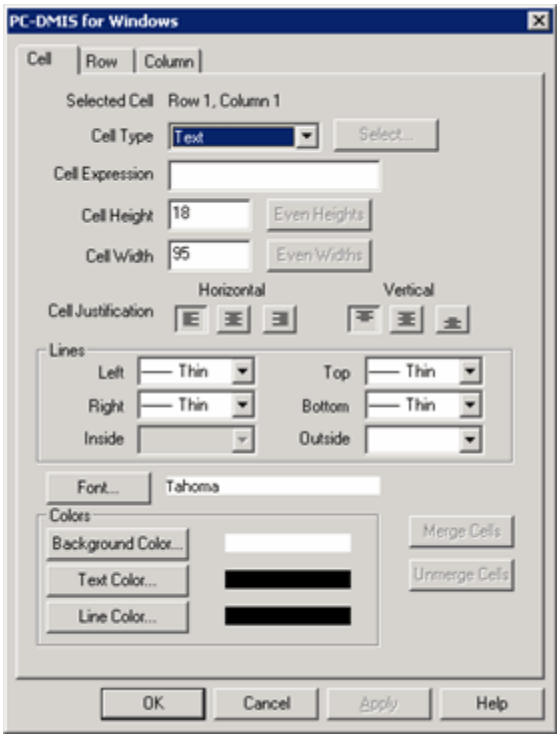
NumRows
グリッドの行数を指定します。

TableFormat
グリッドレイアウトに使用する名前を指定します。このプロパティは、*ルールツリーエディタ*のグリッドレイアウト名と一致する場合、 TABLE/FORMAT
エディタウィンドウを使用して直接にラベル
テンプレートの行列の順序や表示状態をコントロールします。

透過
グリッドの背景を透明にするか決定します。[はい]に設定した場合、通常の白い背景色が透明になり、このオブジェクトの背後にあるオブジェクトがグリッドを通して見えるようになります。

NumRowsプロパティを増やして利用可能な行の下部に新しい行を追加します。それらを減らすのは一番下の行を削除して上に動作します。同様に、 NumColumns
プロパティの増加は行の右側に新しい列を追加します。列の数を減らすのは一番右の列を削除して左に動作します。

GridControlObjectエディタ - [セル]タブ



GridControlObjectエディタのセルタブ

セル - 指定されるセルに何を挿入するのを設定します。オプションは以下のようです：

- テキスト - セル式
  ボックスに単なテキストまたは式コマンドを入力できます。評価された式または単なテキストがセルに表示されます。

- 画像 - これはセルーに画像を挿入します。選択
  ボタンでそれを選択できます。

- **ActiveX** - これはActiveX オブジェクトをセルに挿入します。一般的にPC-DMIS
テンプレートはこれらを使用してグラフィカルな分析情報を表示します。**選択**ボタンでActiveXが何かを追加するのを選択できます。ActiveXオブジェクトに関する詳細な情報については、「ActiveX オブジェクト」トピックと「PC-DMIS ActiveX コントロールの使用を参照してください。

セル式 -
このボックスで、セルにレポート式を入力できます。それは実際のレポートデータを表示するテンプレートを使用するとき、PC-DMIS
は式を評価します。たとえば、要素IDを表示するには、このボックスに**=ID**を入力します。含めることができる式のヘルシーなリストについては「レポート式について」を参照してください。

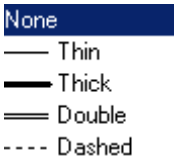
セルの高さと幅 -
これらのボックスで、セルの高さと幅をピクセルで定義します。高さを変更する場合にはその行のすべてのセルが変更されるのを注意してください。幅を変更した場合、その列のすべてのセルが変更されます。高さ、複数のセル間の幅を変化させるている場合、**イーブン幅** と**イーブン高さ**
ボタンは選択されたセルの高さと幅を超えます。

セル根拠 -
これらのボタンで、セル内に垂直または水平にテキストの配置を設定できます。水平場合には、テキストの左、中央、またはセルの右側にテキストを配置できます。垂直方向では、テキストの上寄せ、中央に配置、または下寄せが可能です。

水平配置ボタン	
	左配置
	センター配置
	右配置
垂直配置ボタン	
	トップ配置
	ミドル配置
	ボトム配置

グリッドのセル内のテキストに合わせる場合、PC-DMISは、セルのパディングのデフォルトの内部値を使用するのを注意してください。必要に応じて、**レポート**のセクションで`GridCellTopMargin`, `GridCellBottomMargin`, `GridCellLeftMargin`また`GridCellRightMargin`レジストリエントリを変更することによって、このデフォルト値を上書きするPCベースDMIS設定エディタを使用することができます。詳細情報についてはPC-DMIS Settings Editorのマニュアルを参照してください。

ラインエリア -
このエリアはセルの各辺のリストを含んでいます。特別なラインタイプにセル（プラス複数のセルの外側や内側線）の各側面を設定することができます。オプションには: **なし**、**薄** 、**厚**、**ダブル**、または **打ち上げた**。



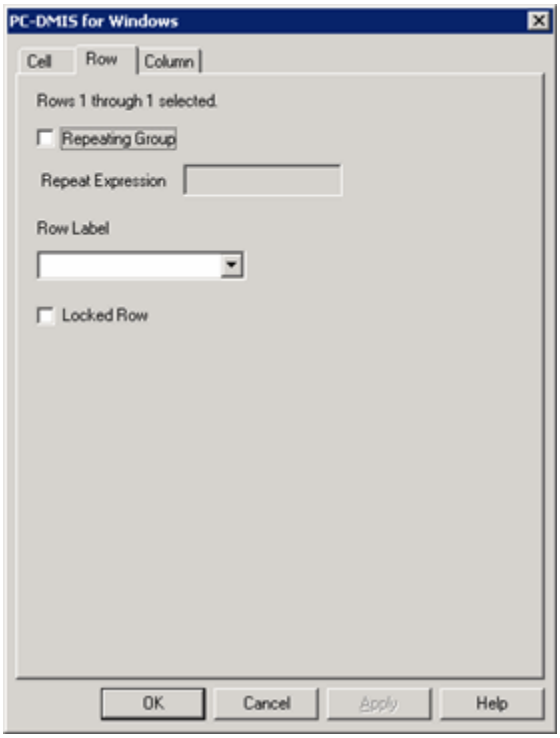
フォント - このボタンは、標準の**フォント**
ダイアログボックスを表示して、フォント、サイズ、スタイル、エフェクト、選択したセルの色を設定できます。

色 -
このエリアで、背景、テキスト、または選択したセルの色を設定できます。その中の一つのボタンをクリックして特定の標準色を選択するか、カスタムカラーを作成できるところから**色**
ダイアログ ボックスを表示します。

セルをマージ - このボタンは複数のセルを1つのセルにマージします。

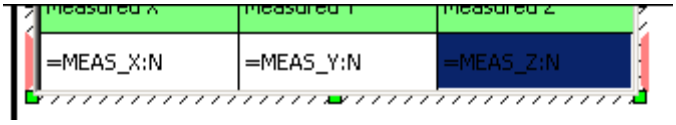
マージしないセル -
このボタンは、元の、以前のマージさ状態に以前は次の結合セルをマージしません。

GridControlObjectエディタ - [行]タブ



GridControlObjectエディタの行タブ

グループを繰り返し－このチェックボックスは**式の繰り返し**ボックスを使用可能にして、**式の繰り返し**ボックスの式が満たされるまで、選ばれた行がレポートからデータで同じことを繰り返し続けるとPC-
DMISに話します。細胞がGridControlObjectで選択されるとき、小さな垂直オ*レンジ・バー*を彼らの左右の側に引き寄せることによって、PC-
DMISはオブジェクトですべて反復する行を示します。



行の左と右の両側のオレンジ色のバーを注意してください。

繰り返し式 - このボックスにはPC-
DMISが行を繰り返す次数を定義します。通常はアイテムのカウント数に評価されるこのボックスで式を配置します。たとえば、寸法の軸の数を取得するには、この式を使用します：

=COUNT(AXIS)

行の各セルには、これを既存の式に追加する必要があります。

:N

これは本質的にPC - DMISにカウント数を行を繰り返す次数を指示します。だから、**セル**
タブの**セル式** ボックスは**=AXIS**
を使用して寸法の軸をリストして、またそれを**=AXIS:N**に読め込みに変更して、
すべての軸が報告されるまで、PC-DMIS はユニークな寸法軸データで行を繰り返すし続けます。

行ラベル - 行ラベル
リストで、テーブル形式コマンドで使用する行のラベルを定義します。テーブル形式コマンドプロパティにアクセスする場合、ここで定義した行ラベルを見えます。テーブル形式コマンドを使用している場合、グリッドで行の順序を再度定義できます。

ロックされた行 -
このチェックボックスは行をロックし、テーブル形式のコマンドを使用してそれを変更できません。

GridControlObjectエディタ - [列]タブ

GridControlObject エディタの列タブ

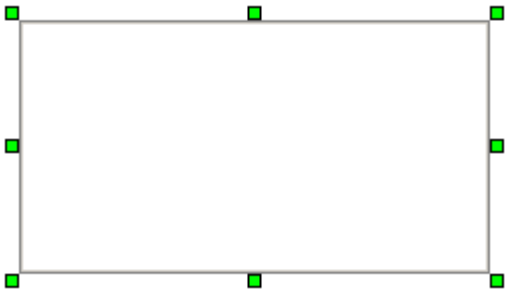
列ラベル - 列ラベル
リストで、テーブル形式コマンドで使用する列のラベルを定義します。テーブル形式コマンドプロパティにアクセスする場合、ここで定義した列ラベルを見えます。テーブル形式コマンドを使用している場合、グリッドで列の順序を再度定義できます。

Label オブジェクト

Label オブジェクトのアイコンを使用して、レポート テンプレートまたはカスタム
レポートに**Label** オブジェクトを挿入できます。ラベル
オブジェクトはレポートにレポートデータを表示するために使用されます。**[ラベル]**
オブジェクトは使用される状況により様々な働きをします。**Label** オブジェクトがレポート
テンプレート エディタで使用された場合、カスタム レポート
エディタで使用されるのとは異なって機能します。

カスタムテンプレートエディタにラベルオブジェクトの使用

レポート
テンプレートエディタをクリックしてドラッグしてこのオブジェクトを追加します。マウスボタンをリリースする場合、挿入された**Label** オブジェクトはこのようになります：



サンプルラベル オブジェクト

Label オブジェクトは、まるで**TextReportObject**
または**CadReportObject**のように作用しますが、それは少しの本当のデータも含まないで、単にラベル・テンプレートのプレースホールダーの働きをするだけです。ラベル・テンプレートは、測定ルーチン実行からデータが何を引くか実際にコントロールします。ユーザがラベル・オブジェクトが何を表示するかを定義しなければ、それは報告書に現われません。

ラベル テンプレートを割り当てます

Label
テンプレートに何かを与えて表示し、それは使用するテンプレートのラベルを割り当てる必要があります。以下の手順に従って下さい:

1. ラベルオブジェクトを右クリックします。**プロパティ** ダイアログ
   ボックスが表示されます。

2. **Rules Tree**プロパティから**ルール** をクリックしてください。**ルールツリー** ダイアログ
   ボックスが表示します。

3. **ルールツリー** ダイアログ
   ボックスを使用し、ラベルがデータを表示したいときの拡張リストから項目を選択します
   。

4. **追加**をクリックしてその項目を使用するルールを追加します。**編集ルール**ダイアログ
   ボックスが現れます。

5. **レポートにラベルテンプレートを使用** オプションを選択してください。

6. 参照ボタン...をクリックして 、ラベル テンプレートファイル (.lbl
   ファイル名拡張子)を選択してください。

7. **OK** をクリックして、**編集ルール**ダイアログ ボックスを閉じて下さい。

8. **OK** をクリックして**ルールツリー**ダイアログ
   ボックスを閉じます。挿入されたラベルオブジェクトは**ルールツリー**ダイアログボックス
   の最初のルールで定義されているラベル･テンプレートの画像が表示されます。

9. レポートテンプレートを保存してテストします。PC-DMIS
   は指定される条件があう場合に選択されるラベルを表示します。

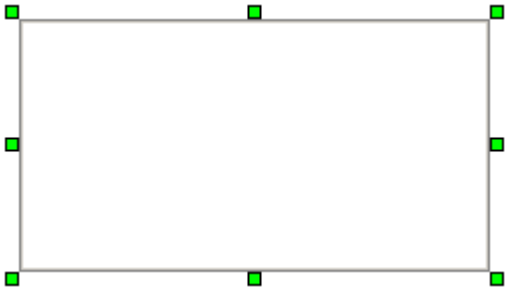
ルール作成の情報について、「ルール ツリー エディタについて」を参照してください。

カスタム レポート エディタにラベルオブジェクトの使用

カスタム レポート エディタ**ラベル** オブジェクト*のレポート テンプレート エディタとカスタム レポート エディタの間のある重大な違いはそれら自分のルール ツリー エディタを使用しません。* 代わりに、**ページ** オブジェクトは異なるコマンドとデータがカスタム レポート エディタに挿入される場合に使用されるラベル テンプレートを定義するルール ツリー エディタを含まれます。

ほとんどの時に、編集ウィンドウの要約モードから項目をカスタムレポートエディタにドラッグして簡単にカスタムレポートを作成できます。この場合では、PC-DMISは挿入されているコマンドに **ページ** オブジェクトのルール ツリー エディタに定義されるラベル テンプレートをします。

ラベル オブジェクトをカスタム レポートに挿入する場合、PC-DMISは空白**ラベル** オブジェクトを挿入して、それがどのようにレポート テンプレートエディタに表示すると同様です。



サンプルラベル オブジェクト

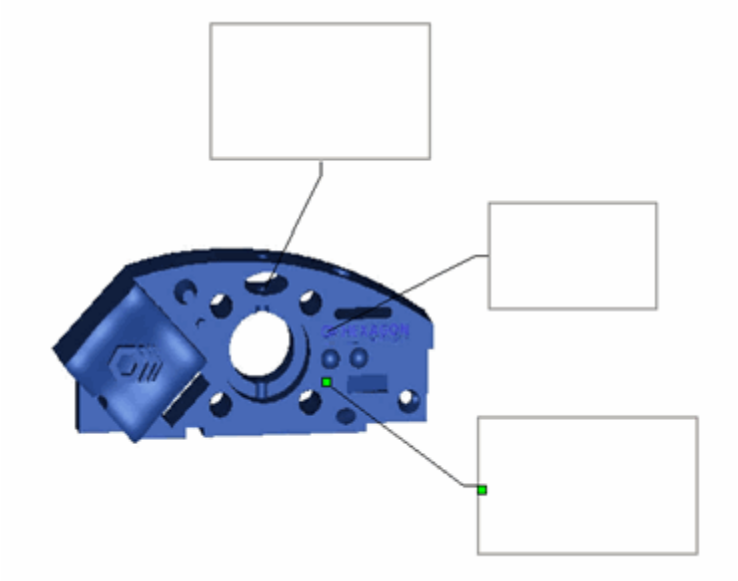
この状態で、それは単に空のプレースホルダで、編集ウィンドウからコマンドをドラッグしてドロップする前にそれは何のデータも表示しません。PC-DMISは**ページ** オブジェクトのルール ツリー エディタに定義されるラベル テンプレートを表示します。

もっと多くな情報について、「カスタム レポートの作成」を参照してください。

引き出し線オブジェクト

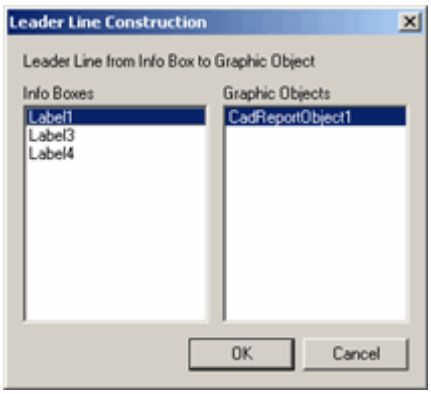
引き出し線オブジェクトでは、**ラベル**
オブジェクトと**CadReportObject**をつなぐ線を引くことができます。これを行うには、単に、オブジェクトを選択し、クリックしてまたそれを1つのオブジェクトから他の方にドラッグします。

正確に実行したら、引き出し線は自動に二つのオブジェクトの間からスナップして、後にそれらの場所を変更する場合には、引き出し線は相応にサイズと移動を変更します。例えば、以下の図は周囲に3つの**Label** オブジェクト（すべて**Leader Line**
オブジェクトと接続している）を持つ**CADReportObject** オブジェクトを表示しています。



CadReportObjectと接続する引き出し線オブジェクトを持つ3つのラベルオブジェクト

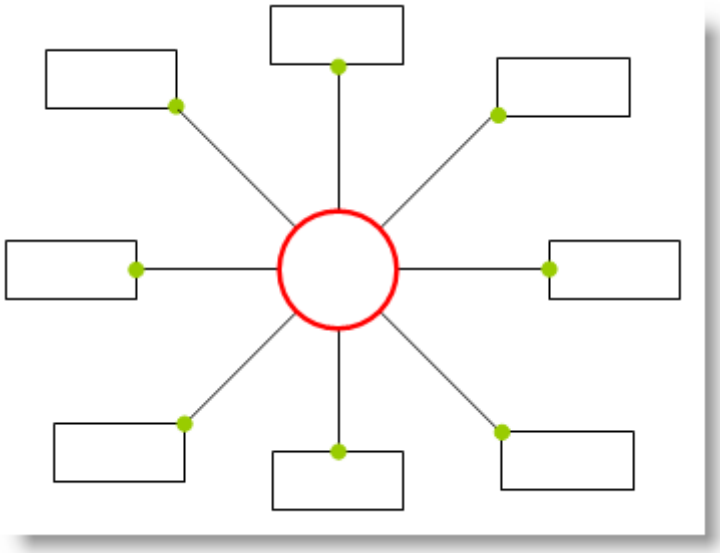
2つのオブジェクトを検出できない場合は、 **引き出し線構築** ダイアログボックスが表示して、PC-DMISがその間に引き出し線を描く二つのオブジェクトを選択します。



引き出し線の構築ダイアログ ボックス

ラベルまたは **CADReportObject** オブジェクトを消去すると、PC-DMISは自動に引き出し線オブジェクトも消去します。

実際のレポート
ウィンドウでは、要素に対するラベルの位置により、引き出し線の先端はラベルの辺または角のいずれかに接します。次の図例を見てください。要素(赤円)に関連するラベル(四角形)を配置する場所によって、ラベルの引き出し線が接する場所(緑色の点)が変わる例が示されています。



ラベルのグラフィカル例と引き出し線接続ポジション

以下のプロパティが利用可能です。

LeaderLineVisibility
これは、選択された引き出し線オブジェクトの可視状態を設定します。TRUEは引き出し線を表示します。FALSEはそれを非表示にします。

オブジェクト1
その間に引き出し線を書く2つのオブジェクトのうち、最初のオブジェクトを定義します。

オブジェクト2
引き出し線の2つのオブジェクトのうち、2番目に描かれるほうを定義します。

線オブジェクト

線
オブジェクトはすぐにフォームまたはテンプレートに標準的なラインを挿入することができます。その後、挿入した行を右クリックし、そのプロパティを変更することができます。

ラインオブジェクトで使用される共通プロパティは以下のようです：

PenWidth
線の太さをピクセルで設定します。

PenStyle
線のスタイルを[実線]、[破線]、[点線]、[一点鎖線]および[二点鎖線]に変更します。

Arrowhead
線の先端に矢印を付けるかを決定し、矢印の指す方向を指定します。次の形式より1つを選択できます:

```
----(なし)
<---
--->
<--->(両方)
```

ArrowheadHeight
矢印の高さをピクセルで指定します。

ListBox オブジェクト

ListBox オブジェクトはフォームに開いているリストを挿入します。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してこのオブジェクトをカスタマイズできます：

BorderDrawn
[はい]に設定すると、コントロールの周りに境界線が表示されます。

HorizontalScroll
[常時]を選択した場合、たとえテキストがスクロールするほど長くなくてもリストボックス上に水平スクロール バーが表示されます。

ない を選択するのはスクロールバーを削除します。

ListID
リストのIDです。コントロールを使用してこのIDを設定または取得します。次の形式を取ります:

```
項目 1\r\n項目 \r\n項目 3
```
等。

RemoveSelection
[はい]に設定すると、選択された項目(ListID)が記録されたときにリストボックスから削除されます。

ソート
[はい]を選択すると、リストの項目がアルファベット順に並べ替えられます。

UseColors
このコントロールがBackColor
およびTextColorプロパティで指定された色を使用するかどうかを設定します。

UseTabstops
リストボックスがタブストップを使用するかどうかを決定します。[はい]に設定した場合、実行モードでTabキーを押すと結果的にこのリストボックスがアクティブなコントロールになります。

VerticalScroll
[常時]を選択した場合、たとえスクロールするほどリスト項目がなくてもリストボックス上に垂直スクロール バーが表示されます。

ない を選択するのはスクロールバーを削除します。

WantKeyInput
リストボックスがキーボードからの入力を受け付けるかどうかを決定します。

MultiEditBox オブジェクト

MultiEditBox
オブジェクトは一つ以上のテキストのラインをサポートする編集ボックスを挿入します。以下を加えて、これは**EditBox** オブジェクト(「EditBox オブジェクト」を参照してください）のすべてのプロパティを持ちます:

HorizontalScroll
常時を選択すると、たとえテキストがスクロールするのに十分な長さがなくても水平スクロールバーが表示されます。

ない を選択するのはスクロールバーを削除します。

VerticalScroll
常時選択すると、たとえテキストがスクロールするほど長くなくてもコントロールに垂直スクロールバーが表示されます。

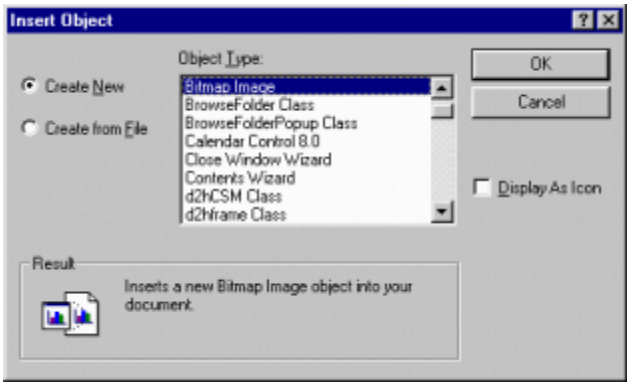
テキストの量は、ボックスの垂直を超えたときには、垂直スクロールバーのみに
自動に配置するのを選択します。

ない を選択するのはスクロールバーを削除します。

[OLE]オブジェクト

OLE
オブジェクトはテンプレートまたはフォームにその他のアプリケーションからオブジェクトを埋め込みやリンクします。たとえば、オブジェクトを使用して Microsoft Wordのファイルを編集可能にするをテンプレートまたはフォームに挿入でき、操作に特別な指示を提供します。

一旦、**OLE**
オブジェクトが挿入されれば、ダイアログ・ボックスタイトルのある**オブジェクトの挿入**が現われます。



オブジェクト挿入ダイアログ ボックス

このダイアログ ボックスでは、コンピュータ上で現在利用可能なOLE
オブジェクトをリストから選択することができます。リストに表示されるOLE
オブジェクトは、何がインストールされているかによるので、コンピュータごとに異なります。

[キャンセル]ボタンを選択した場合、フォームまたはテンプレートには何も追加されずにダイアログ ボックスが閉じます。

DoVerbs
これをはいに設定すると、オブジェクトが編集モードに加えて実行モードで編集できるようになります。　いいえに設定すると、オブジェクトは実行モードで読み込み専用となります。

OLEProperties
これはプロパティダイアログボックスを表示し、すべてのOLEオブジェクトで利用可能な汎用プロパティを選択できるようになります。オブジェクトの表示方法（アイコンまたはアイコンにしない）、サイズなどです。

BasicからOLEオブジェクトの自動メソッドおよびプロパティへのアクセス

ユーザは、オブジェクトに関連する基礎から自動化タスクまでのOLEオブジェクトのメソッドとプロパティにアクセスすることができます。たとえば、ビットマップイメージを変更したり、データで埋め込まれたMicrosoft
Excelのスプレッドシートオブジェクトを移入したり、埋め込まれたMicrosoft
Word文書内のテキストを設定することができます。

ユーザがビットマップOLEコントロールを追加するとし、且つその（オブジェクト名）プロパティをBITMAPに設定することにより、「ビットマップ」という名前を付けると想定し、表示されているビットマップを変更するには、プログラム·コードを追加することができます。これを行うには、次のコードで、OLEオートメーション方法とBITMAPというオブジェクトのプロパティにアクセスすることができます。

```
AttachOLE("BITMAP_X")
```

その後、オブジェクト変数BITMAP_Xを使用して、新しいプロパティ値を設定するか、またはオートメーション方法の呼び出しを実行することができます。

```
BITMAP_X.{プロパティ} = {値}
```

または、

```
BITMAP_X.{自動化方式呼び出し}
```

注記:
使用している特定のOLEオブジェクトについて、どのようなメソッドやプロパティが利用可能であるか知る必要があります。

フォームのOLEオブジェクトを使用したオペレータへの指示

PC-
DMISで既存のツールを使用して多くの必要な機能を提供できます。たとえば、パーツ設定や測定についての詳細な手順がある操作を提供したいと仮定します。これを行うひとつの方法は、カスタムフォームに埋め込んで、外部ファイルの手順を含むOLEオブジェクトを使用します。以下はいくつかの一般的なMicrosoft Officeツールを使用して教育ファイルをフォームに埋め込む方法です。

次の例は、Microsoft WordファイルおよびMicrosoft
PowerPointファイルをフォームのOLEオブジェクトとして使用し、測定ルーチンの実行中にオペレータに指示を与える方法を示します。これにより、レポートまたはフォーム内のOLEオブジェクトで実行可能なことの一端が理解できるでしょう。この手法をユーザー固有の状況に合せて利用してください。

- ***Microsoft WordOLEオブジェクトを使用したオペレータへの指示***

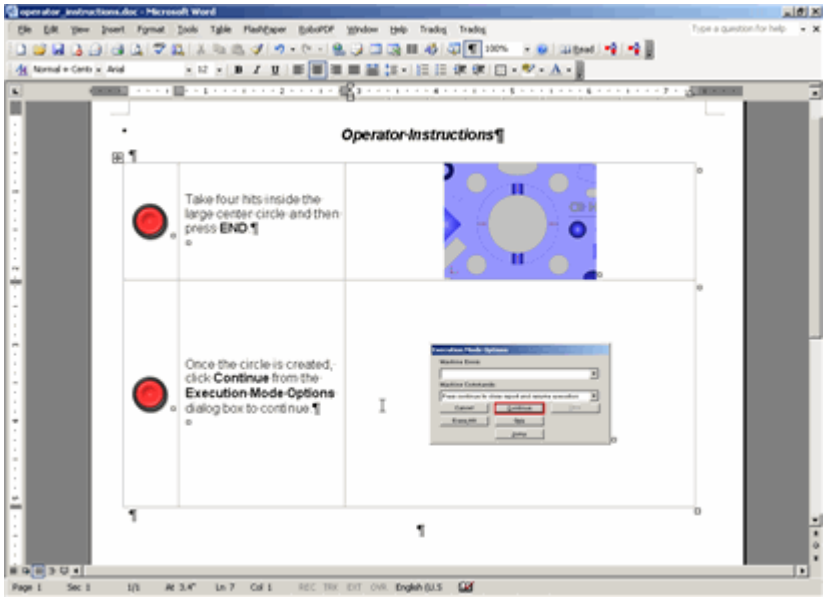
実行中の測定ルーチンへ指示を出す最も簡単な方法は、単にMicrosoft Word等を使用することです。

このトピックと以下の手順はMicrosoft Wordがコンピュータにインストールされたのを仮定します。

ステップ1 - 手順書をWord文書で作成および保存

1. Word文書内にパーツセットアップ指示を作成します。

2. .docファイルをハードディスクのディレクトリに保存します。.docファイルには画像、テーブル、その他詳細な書式設定を含めても構いません。サンプルdocファイルを使用するこのトピックには以下のように見えます:



ステップ2 - フォームの作成

3. **ビュー| フォーム編集**を選択します。フォーム エディタが表示されます。

4. 編集ウィンドウが開かれる場合、**ビュー| 編集ウィンドウ**を選択してそれを閉じてもっと多い画面スペースを与えられます。

5. フォーム エディタを最大表示します。

6. ファイルの内容が適度に収まるように、フォームの大きさを調整します。

7. 必要に応じてその他のオブジェクトを追加します。このトピックに使用される例に、**フォームを閉じる** ボタンは以下のプロパティに追加されます：

- Text = "フォームを閉じる"
- ButtonType = OK

クリックすると、フォームは自動的に閉じられます。

ステップ3 - OLEオブジェクトの挿入

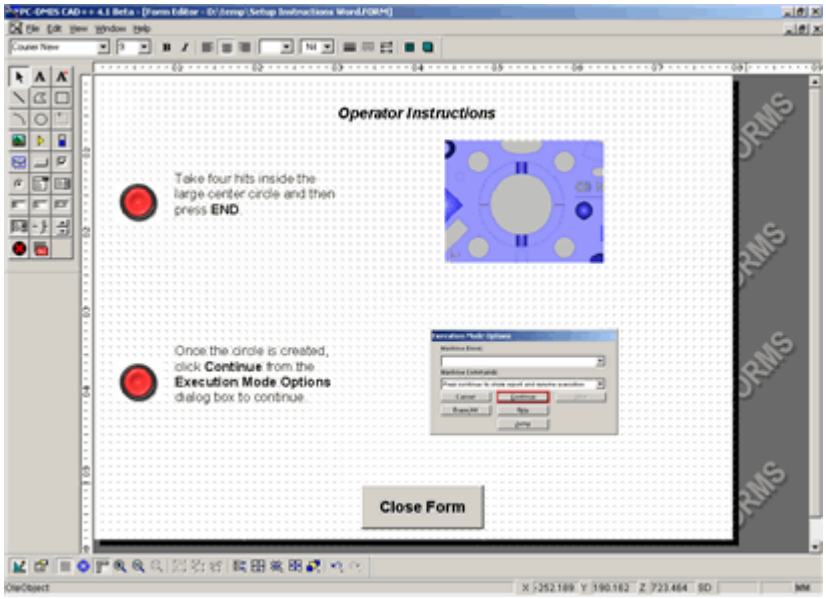
8. **オブジェクトバー**から、**OLE オブジェクト**
   アイコンをクリックします。オブジェクトをドラッグし、フォームの全ての端から1/2インチの余白を残して全体にフィットさせます。マウスボタンをリリースする場合、**オブジェクトを挿入** ダイアログ ボックスが表示されます。

9. **ファイルからの作成**オプションを選択して下さい。

10. **[ファイル]**ボックスより、.docファイルをパス名を含めて入力するか、**[参照]**ボタンを使用してファイルの位置を指定します。

11. **リンク**チェック
    ボックスを選択して下さい。これにより、フォームのOLEオブジェクトと.docファイル間のリンクが保持され、後に手順を修正してもPC-DMISは常に最新のデータを使用することが可能となります。

12. **[OK]** をクリックします。文書は以下のようにフォームに埋め込まれます:



13. フォームに任意の名前を付けて保存します。

オブジェクトを挿入 ダイアログ ボックスは **挿入| レポートコマンド| 外部オブジェクト**の使用で

編集ウィンドウに外部オブジェクトを挿入するのを選択する場合に表示される同じなダイアログ ボックスです。このダイアログ
ボックスについての詳細が必要な場合、「レポートコマンドの挿入」の項から「外部オブジェクトの挿入」トピックを参照してください。

ステップ4 - フォームの挿入およびテスト

14. 表示されない場合は、**ビュー| 編集ウィンドウ**
を選択して編集ウィンドウを作成します。

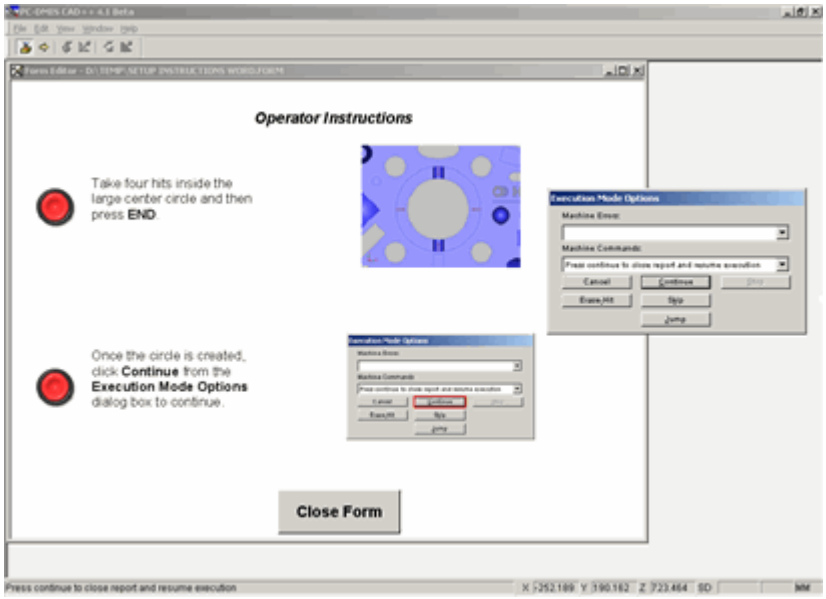
15. **挿入| レポートコマンド | フォーム**を選択します。ダイアログ
ボックスを使用して保存したフォームを選択します。

16. フォーム ファイルのパス名が入ったFORM/FILENAMEコマンド
ブロックが、測定ルーチンに挿入されます。

```
CS1 =FORM/FILENAME= <Pathway to Form File>

PARAM/=

 ENDFORM/
```

4. 実行前に、コマンド ブロックをマークします。

5. 測定ルーチンを実行します。PC-DMISがFORM/FILENAME
コマンドブロックに着くときには、それはフォームを表示します:



6. **モードのオプションを実行**ダイアログ
ボックスから**続行**をクリックしてフォームを閉じてまた実行を再開します。

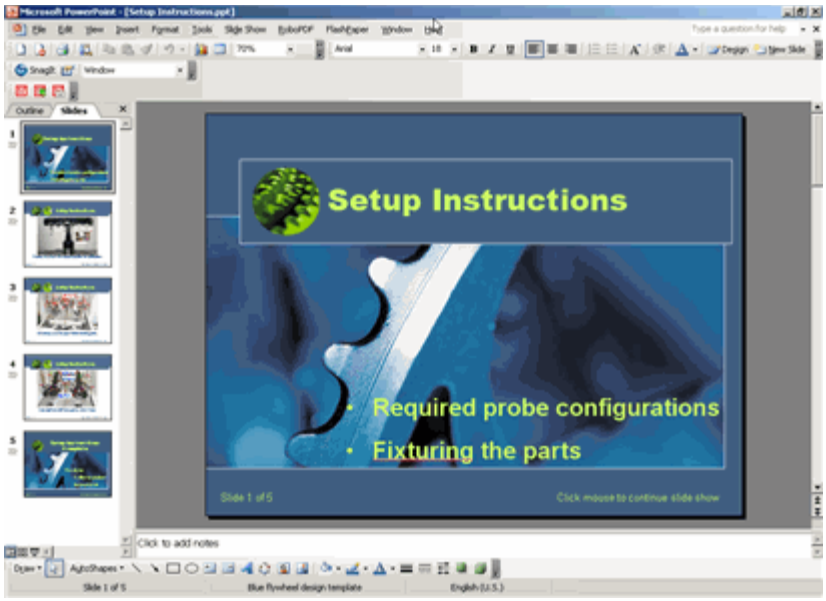
- ***Microsoft PowerPoint OLEオブジェクトを使用したオペレータへの指示***

  このトピックでは、Microsoft PowerPointファイル(.ppt)をOLEオブジェクトとしてフォームに挿入し、オペレータにスライドショー形式の詳細な手順書を提供する方法を説明このトピックでは、Microsoft PowerPointファイル(.ppt)をOLEオブジェクトとしてフォームに挿入し、オペレータにスライドショー形式の詳細な手順書を提供する方法を説明します。

  このトピックと以下の手順はMicrosoft PowerPointがコンピュータにインストールされたのを仮定します。

  ステップ1 - 手順書をPowerPointで作成および保存

  1. PowerPoint file (.ppt)の代わりに、パーツセットアップ指示を作成します。



  2. .pptファイルをディスク上のディレクトリに保存します。

  ステップ2 - フォームの作成

  3. **ビュー| フォーム編集**を選択します。フォーム エディタが表示されます。

  4. 編集ウィンドウが開かれる場合、**ビュー| 編集ウィンドウ**を選択してそれを閉じてもっと多い画面スペースを与えられます。

  5. フォーム エディタを最大表示します。

  6. ファイルの内容が適度に収まるように、フォームの大きさを調整します。

7. 必要に応じてその他のオブジェクトを追加します。このトピックに使用される例に、**フォームを閉じる** ボタンは以下のプロパティに追加されます：

   - Text = "フォームを閉じる"
   - ButtonType = OK

   クリックすると、フォームは自動的に閉じられます。

ステップ3 - OLEオブジェクトの挿入

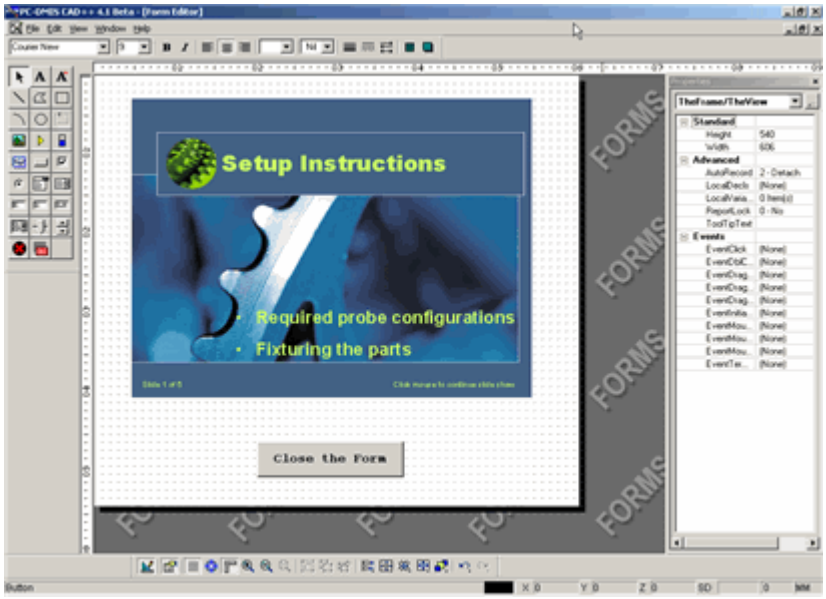
8. **オブジェクトバー**から、**OLE オブジェクト** アイコンをクリックします。オブジェクトをドラッグし、フォームの全ての端から1/2インチの余白を残して全体にフィットさせます。マウスボタンをリリースする場合、**オブジェクトを挿入** ダイアログ ボックスが表示されます。

9. **ファイルからの作成**オプションを選択して下さい。

10. **[ファイル]**ボックスより、.pptファイルをパス名を含めて入力するか、**[参照]**ボタンを使用してファイルの位置を指定します。

11. **リンク**チェック ボックスを選択して下さい。これにより、フォームのOLEオブジェクトと.pptファイル間のリンクが保持され、後に手順を修正してもPC-DMISは常に最新のデータを使用することが可能となります。

12. **[OK]** をクリックします。PowerPointファイルがフォームに埋め込まれます。



13. フォームに任意の名前を付けて保存します。

オブジェクトを挿入 ダイアログ ボックスは **挿入| レポートコマンド| 外部オブジェクト**の使用で
編集ウィンドウに外部オブジェクトを挿入するのを選択する場合に表示される同じなダイアログ ボックスです。このダイアログ
ボックスについての詳細が必要な場合、「レポートコマンドの挿入」の項から「外部オブジェクトの挿入」トピックを参照してください。

ステップ4 - フォームの挿入およびテスト

14. 表示されない場合は、**ビュー| 編集ウィンドウ**
を選択して編集ウィンドウを作成します。

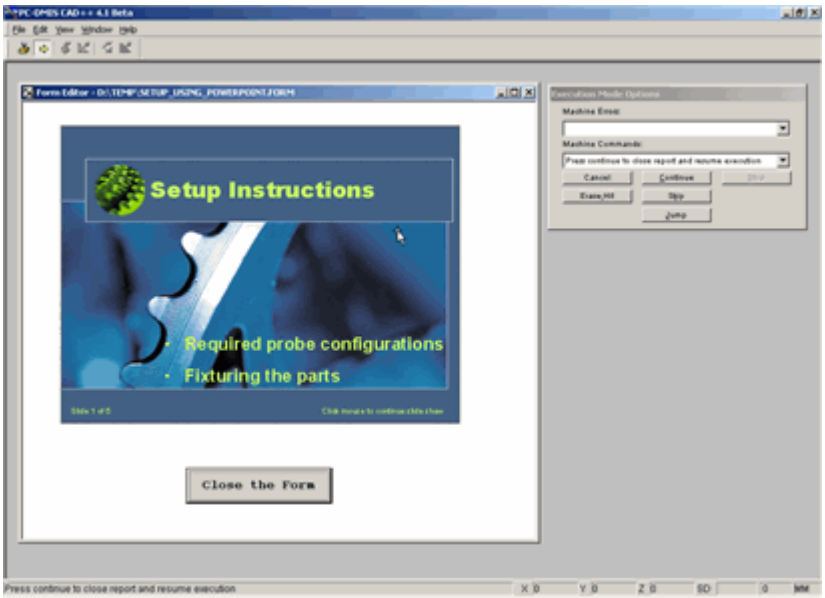
15. **挿入| レポートコマンド | フォーム**を選択します。ダイアログ
ボックスを使用して保存したフォームを選択します。

16. フォーム ファイルのパス名が入ったFORM/FILENAMEコマンド
ブロックが、測定ルーチンに挿入されます。

```
CS1=FORM/FILENAME= <フォームファイルのパス>

      PARAM/=

       ENDFORM/
```

4. 実行前に、コマンド ブロックをマークします。

5. 測定ルーチンを実行します。PC-DMISがFORM/FILENAME
コマンドブロックに着くときには、それはフォームと埋め込まれたPowerPointプレゼンテーションを表示します。



6. 埋め込まれたプレゼンテーションをダブルクリックします。Microsoft PowerPointが起動しプレゼンテーションが表示されます。終了するとPowerPointが閉じます。

7. **モードのオプションを実行**ダイアログボックスから**続行**をクリックしてフォームを閉じてまた実行を再開します。

[ポインタ]オブジェクト

ポインタ
オブジェクトがフォームまたはテンプレートに動的、可動、着色されたポインタを挿入します。色は黄色にデフォルトします。

オブジェクトのサイズ、色、その他の属性も変更可能であることに加え、Visual Basicのコードと連動してこれらのプロパティを使用することにより、オブジェクトを移動することが可能です。

MaximumEq
最大方程式
(この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値に設定できます）。

-$, $, CONST

MinimumEq
最小方程式
(この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値が設定可能です)。

-$, $, CONST

ValueEq
値方程式(この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値を設定できます）。

-$, $, CONST

先端: ポインタの方向を変更する場合は、矢印の動きも指定された方向に変更されます。

PointInfo オブジェクト

PointInfo オブジェクトはコンテナとしてレポートの個々のポイント情報を保持します。

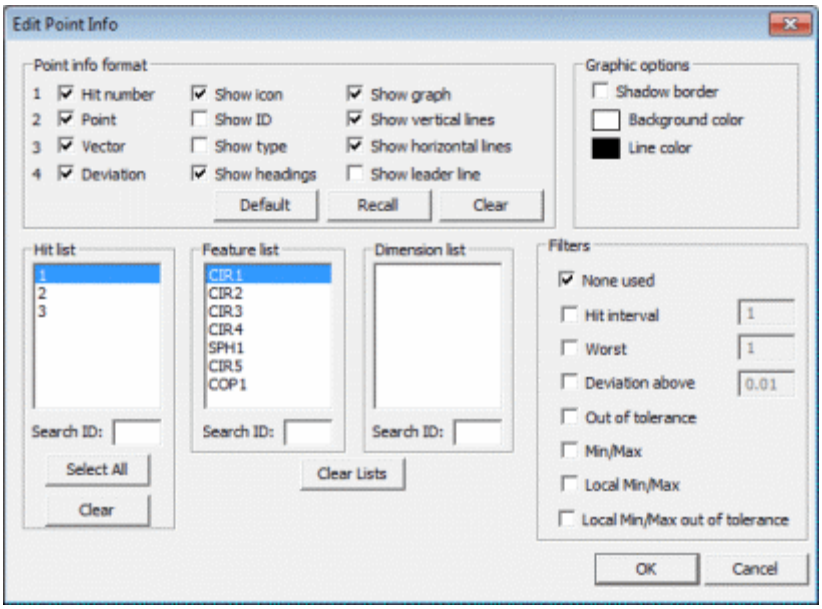
ラベル テンプレートにPointInfo オブジェクトの使用

ラベルのテンプレートエディタの **オブジェクトバー**を使用し、**PointInfo** オブジェクトを追加とサイズしてそれは必要に応じてラベルのテンプレートエディタの表示エリアに表示されます。ラベル
テンプレートを保存します。次に、新規か既存の報告書テンプレートに使用して、ルールトレーエディター・ダイアログ・ボックスがそのどんな条件(どんな次元用の)でPC-DMISがラベル・テンプレートを呼びだして表示することかを指定します。これを行う方法については、本章の「ルールツリーエディターについて」トピックを参照してください。

カスタム レポートにPointInfo オブジェクトの使用

カスタム レポート エディタの **オブジェクトバー** を使用して、 **PointInfo** オブジェクトをカスタム レポートにドラッグまたはドロップします。**ポイント情報** ダイアログ
ボックスは表示され、ポイントを選択し、オブジェクトに関連付けられます。

ダイアログ ボックスから寸法を選択して、必要なオプションを設定して **OK**をクリックします。



ダイアログ ボックスから要素または寸法とポイントを選択して、必要なオプションを設定して**OK**をクリックします。PC-DMISは選択された要素または寸法にポイント情報コマンドを作成してダイアログボックスを閉じます。PC-DMISは要素または寸法ポイント情報を含むテーブルをレポートに表示します。

このダイアログボックスを使用して測定結果情報を表示するには、「レポートコマンドの挿入」の章の「測定結果情報ボックスの挿入」を参照してください。

注記: カスタム レポートに解析オブジェクトは、同様に自分のポイント情報ボックスを表示できます。詳しくは「Analysisオブジェクト」を参照してください。

このオブジェクトに固有のプロパティは次の通りです:
これらの多くが(設定ダイアログ)プロパティをクリックすることで設定できます。

DimFeatID
表示したいヒットを含む要素または寸法のIDを定義します。

HitNumber
点情報ボックスに表示したいヒットの数を定義します。

OrderDeviation
偏差の行の順番を1から4までの数で定義します。1の値にすると、一番上の行に情報を配置します。4の値にすると、一番下の行に情報を配置します。

OrderHitNum
ヒットの数の順番を定義する以外は上記の通りです。

OrderPoint
点の行の順番を定義する以外は上記の通りです。

OrderVector
ベクトルの行の順番を定義する以外は上記の通りです。

ShowGraph
1の値にすると寸法のパーセンテージのグラフを表示します。0の値はグラフを隠します。

ShowHeadings
1の値は見出しの行を表示します。0の値は見出しの行を隠します。

ShowID
1の値にすると特定の要素または寸法の行のIDを表示します。0の値にするとIDを隠します。

ShowPointInfo
1の値にすると点情報の行を表示します。0の値にするとIDを隠します。現時点では無効です。

ShowType
1の値にすると表示する要素または寸法のタイプを表示します。0の値にするとタイプを隠します。

[ポリライン]オブジェクト

ポリライン
オブジェクトでは、線を繋げることができます。最初の線をクリックして作成すると、最初の線の終了点から2番目の線が自動的に開始されます。ポリラインオブジェクトのプロパティには、標準的な線オブジェクトと同じプロパティが含まれます。

[Radiobutton]オブジェクト

Radiobutton
オブジェクトはフォームにオプション・ボタンを挿入します。オプション・ボタンは相互に排他的です。一度に報告書の内部で1つでけのオプション・ボタンを選択することができます。ListItems 特性を使用すると、1セットのオプション・ボタンを定義することができます。

オブジェクトのサイズと色を変更して他の属性を変更する能力に加えて、これらのプロパティを使用してこのオブジェクトをカスタマイズできます：

AlignTextLeft
はいに設定すると、これは以下のようにテキストをオプションボタンの左に移動します。

ここがテキスト ( )

いいえに設定する場合、このようにテキストをオプションボタンの右に移動してください:

( ) ここがテキスト

Bitmap
選択されたオプションボタンに使用するビットマップを設定することができます。

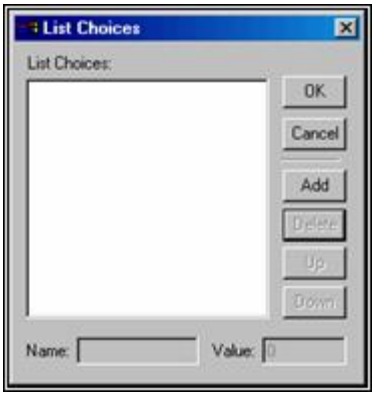
設定するビットマップは標準的なチェックボックスと同じ形である必要があります。

BitmapOffState
非選択状態の選択肢に使用するビットマップを設定することができます。

設定するビットマップは標準的な選択肢ボタンと同じ形である必要があります。

ListItems
これはオプションボタンのリストとその関連付けられている値を定義します(以下の**リスト選択** ダイアログ ボックスの説明を参照してください)。

`ListItems` プロパティは、[**リストの選択**]ダイアログボックスが表示されます。



[選択肢リスト]ダイアログ ボックス

このダイアログ
ボックスでは選択肢ボタンの追加、名前の変更、削除、および数値の割り当てが可能です。通常、新しい選択肢を追加するとその選択肢に対する数値は自動的に大きくなり、一度に1つのボタンのみ選択可能です。ただし、数値を変更して、実行モードでマウスを1回クリックすると複数の選択肢が選択されるようにすることも可能です。

例えば、5つの選択肢ボタンがあり、選択肢A～選択肢Eまで名付け、次のように設定値を変更するとします:

選択肢ボタン	値
選択肢A	0
選択肢B	0
選択肢C	1
選択肢D	2
選択肢E	2

ユーザが実行モードを入力して、**オプション A**を選ぶとき、**オプション A**と**オプション B**両方は選ばれます。これは2つに同じ値が割り当てられているからです。さらに、**オプションE**を選択すれば、同じことは真実で、**オプションD**および**オプションE**の両方が選択されます。**オプションC**だけがユニークな値を持っていますから、それを選択する場合、それだけが選択されています。

[選択]オブジェクト

選択
オブジェクトで、テンプレートに挿入されたオブジェクトを選択できます。レポート内のオブジェクトをクリックするだけで、オブジェクトが緑色の小さな正方形の付いた境界線で囲まれます。これにより、オブジェクトが選択されたことが分かります。選択されたオブジェクトは移動、サイズの変更、または編集が可能です。

SectionCutObject

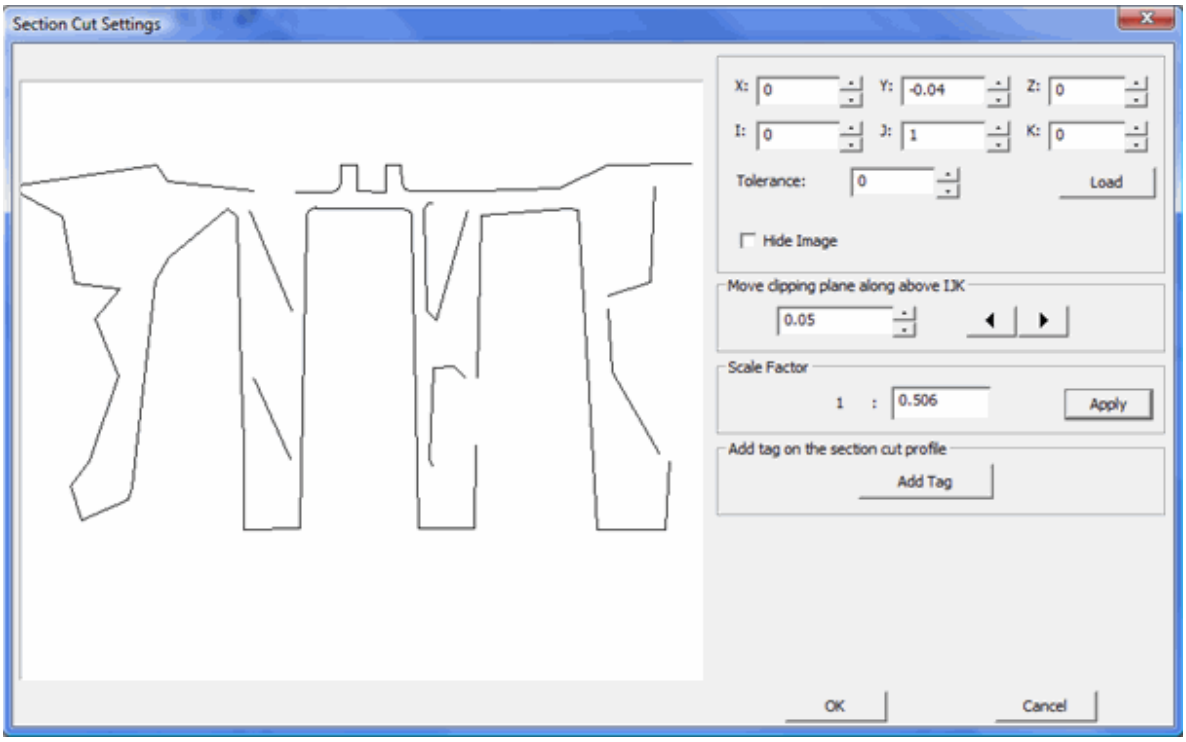
SectionCutObject で、CAD
モデルのセクションカット（断面図）を定義できます。その他のオブジェクトと
SectionCutObject をレポート
テンプレートエディタに挿入できて、またはレポートウィンドウの最終報告のページに直接に挿入できます。このオブジェクトを挿入するには、マウスポインタを配置して、ボックスをドラッグします。マウスボタンをリリースするとオブジェクトが現れ、また、—
少なくともレポートテンプレートエディタで—

プロパティを変更してオブジェクトをCADモデルに関連付けるまでは「画像がありません。」を表示します

オブジェクト プロパティの変更

レポートテンプレートエディタに**SectionCutObject** を挿入する場合、 それを右クリックして**プロパティ** ダイアログ ボックスにアクセスします。**プロパティ**ダイアログボックスに直接にプロパティを変更してまたは**(ダイアログの設定)** プロパティを選択して**...**ボタンをクリックして**切断面設定** ダイアログボックスを使用してもっと簡単にそのプロパティを変更します。

レポートウィンドウのレポートページにフライのオブジェクトを挿入する場合、同じな**切断面設定**ダイアログ ボックスは表示されます。



[切断面の設定]ダイアログ ボックス

このダイアログボックスを使用して、後にレポートに表示するパートモデルの切断面イメージを定義することができます。

[切断面の設定]ダイアログ ボックスを使用した切断面イメージの定義

1. **X**、 **Y**、また**Z** ボックスに記入してクリップ面のがモデルと交差するCADモデルのポイントを定義します。

2. **I**、 **J**、また**K** ボックスに記入して表面が直面している方向を定義します。
3. 必要に応じて **公差**値を変更します。
4. **ロード** ボタンをクリックして **切断面設定** ダイアログ
   ボックスの断面図のイメージのライブプレビューを参照してください
5. 大きな右矢印および左矢印アイコン を使用して
   平面配置を微調整すると、必要に応じて正確な断面図ビューが得られます。ダイアログ
   ボックスのプレビューは平面の位置に合せて更新されます。
6. 必要に応じて、イメージの配置を変えます。イメージを移動するには右クリックしてドラッグします。切断面イメージを拡大または縮小するには、イメージ
   ビューの境界である仮想水平線の上または下を右クリックします。パートのイメージを2次元上で回転するには、CTRLキーを押しながら右クリックでドラッグします。
7. 最後に、**タグ追加** ボタンを使用してコールアウトをダイアログ
   ボックス画像に配置します。
8. 変更を確定するために、**OK** をクリックして下さい。

[切断面の設定]ダイアログ ボックスの項目

X Y Z ボックス
これらのボックスは、切断平面がモデルと交差する場所となるCADモデルの点を指定します。

I J K ボックス
これらのボックスは、切断平面のIJK方向ベクトルを定義します。

公差ボックス
[公差]パラメータは次の目的に使用されます:

- ポリラインが閉じているかをチェックします。開始点と終了点間の距離は公差値より小さくなるはずです。
- ポリラインの数を減らします。
- ポリラインをマージします。

読み込みボタン
切断面の輪郭と同様、CADイメージの切断線をプレビュー表示します。

イメージを隠す チェックボックス
プレビュー
ウィンドウで切断面プロファイルのイメージを非表示にします。**[OK]**ボタンをクリックすると、レ

ポート テンプレート エディタまたはレポート
ウィンドウのページ上にある切断面イメージも非表示となります。

クリップ平面をIJKの上に沿って移動エリア
このエリアには編集ボックスと矢印ボタンが含まれます。

編集ボックスには、左矢印または右矢印をクリックした時に切断平面が移動する距離を定義します。

矢印ボタンをクリックする度に、切断平面がIJKベクトルに沿って指定された距離だけ移動します。

- (I,J,K)が(1,0,0)の場合、平面はX軸に沿って移動します。
- (I,J,K)が(0,1,0)の場合、平面はY軸に沿って移動します。
- 1,0,0がある場合、平面はZ軸に沿って移動します。

倍率 エリア
切断面プロファイルを挿入すると、[グラフィックの表示]ウィンドウには、1:1の比で実際のパートと同じ大きさで切断面イメージが表示されます。

[倍率]エリアでは、この大きさを変更して表示することが可能です。例えば、[.25]と入力すると、実際のパートの大きさの1/4のサイズになります。

タグを追加 ボタン
このボタンはパーツモデルの切断面イメージに引き出し線を配置できます。

このボタンをクリックすると、カーソルが[十字]アイコンに変わります。ダイアログ
ボックスの切断面イメージ上でクリックおよびドラッグして引き出し線を描きます。マウスボタンを離すと小さなテキストボックスが現れ、吹き出しのテキストが入力できます。このテキストボックスに表示可能な文字数の制約は、テキストボックスの大きさによります。ボックスのサイズを大きくすると、より多くの文字数を入力および表示できます。

タグをイメージに付ける前に、切断面イメージを完成させる必要があります。さもなくば、後にイメージを変更した場合に必要なタグも削除されてしまいます。

OK および **キャンセル** ボタン
OK
をクリックすると変更が切断面プロファイルのイメージに適用され、レポートテンプレートエディタまたはレポートウィンドウにイメージが表示されます。レポートにCadReportObjectが含まれる場合、切断線がCADイメージに表示されます。

キャンセルをクリックして変更を適用せずにダイアログ
ボックスを閉じます。しかし、レポートウィンドウにフライのオブジェクトを追加する場合、Sect

ionCutObjectはまだ存在します。必要であれば、オブジェクトにそれを右クリックで移動してまたは**オブジェクトを移動**を選択します。

その他のプロパティ

底
共通のプロパティ

有効
共通のプロパティ

EventReportData
イベントおよび Visual Basic コードについて

フォント
共通のプロパティ

イメージを隠す
上記のダイアログボックスを説明した表の記述を参照してください。

左
共通のプロパティ

平面アンカーX
上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

平面アンカーY
上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

平面アンカーZ
上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

平面ベクトルI
上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

平面ベクトルJ
上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

平面ベクトルK
上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

右
共通のプロパティ

(設定ダイアログ)
切断面の設定ダイアログを表示します。

公差
上記項目のダイアログ ボックスについて説明したテーブルを参照してください。

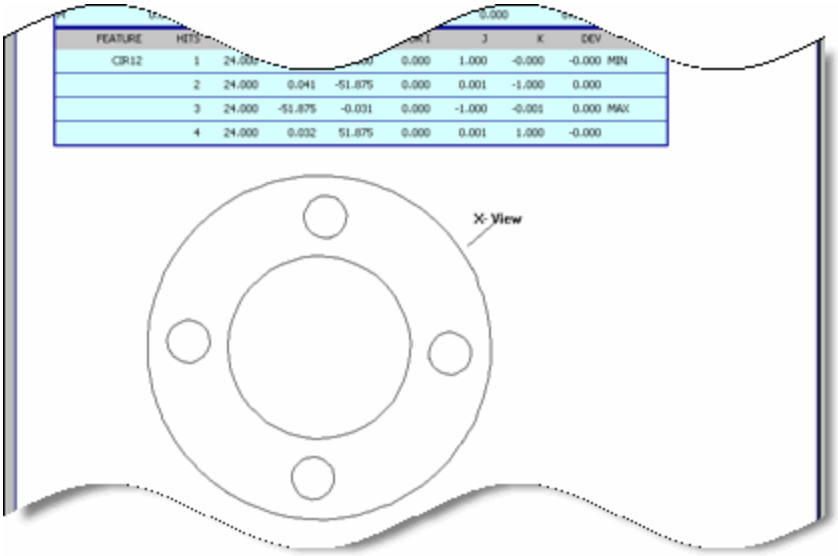
上
共通のプロパティ

表示可能
共通のプロパティ

オンザフライでの切断面の定義

切断面を使用する最も簡単な方法は、おそらく、レポートウィンドウの最終レポート内で、オンザフライの作成方法で切断面を定義することです。これをするには、以下の操作を行います。

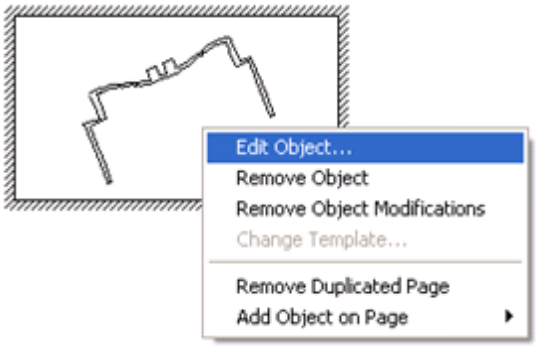
1. レポートウィンドウを右クリックします。ショートカットメニュー が表示されます。
2. **ページにオブジェクトを追加| 切断側面図...** メニュー項目を選択します。
3. レポートウィンドウでクリックし、ボックスを目的の切断面イメージの大きさまでドラッグします。マウスボタンをリリースする場合、**切断面設定**ダイアログ ボックスが表示されます。
4. ダイアログ ボックスを使用し、上記の手順で切断面を定義します。レポート ウィンドウに切断面の輪郭が挿入されます。



切断面の輪郭例

レポート ウィンドウで切断面の輪郭の変更

オブジェクトを右クリックして **編集オブジェクト...** を結果ショートカットメニューから選択します。



[スライダ]オブジェクト

スライダー
オブジェクトはテンプレートにスライダーを挿入します。レポートのスライダを使用すると、ユーザーに連続する許容範囲値から値を設定させることが可能です。

オブジェクトのサイズや他の属性も変更可能であることに加え、次のプロパティを使用することにより、オブジェクトをさらにカスタマイズすることが可能です:

AutoTicks
[はい]に設定すると、スライダに目盛が表示されます。目盛とは、スライダの端から端まで一定間隔([TickFrequency]
プロパティで設定)に置かれる短い垂直線または水平線です。

DisplayID
スライダが調整された場合にDisplayIDを更新するかどうかを指定できます。

HelpHotButton
[はい]を選択した場合、スライダの横に疑問符のヘルプ ボタンが表示されます。

実行モードでこのヘルプ ボタンをクリックすると、PC-DMISオンライン
ヘルプが表示されます。

MaximumEq
最大方程式
(この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値に設定できます）。

`-$, $, CONST`

MinimumEq
最小方程式
(この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値が設定可能です)。

`-$, $, CONST`

方向
スライダの方向を設定します。

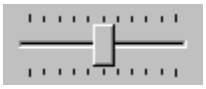
`Horizontal`を選択して、スライダーをhorizontallyを左右に移動するのを設定します。

Selecting `Vertical`
を選択して、スライダーを垂直上下に移動するのを設定します。

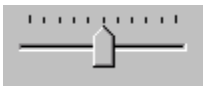
TickFrequency
この値を使用すると、目盛を表示する間隔を指定できます。
2から200の値が設定可能で、スライダの端から端に沿って等間隔に表示されます。

TickStyle
スライダの目盛の表示方法を設定します。

`0 – 両方:` 目盛りをスライダの上と 下(水平スライダの場合) または右側と
左側（垂直スライダの場合）に設定します。



`1 - トップ/左:` ダニをスライダの上(水平スライダの場合)
または左側（垂直スライダの場合）に設定します。



`2 - 下/右:` ダニをスライダの下(水平スライダの場合)
または右側（垂直スライダの場合）に設定します。

ValueID
値のIDです。コントロールを使用してこのIDを設定または取得します。

[スピナ]オブジェクト

スピナー
オブジェクトはテンプレートにスピンコントロールを挿入します。このコントロールは編集ボックスとともに動作するように設定可能で、ある範囲で数値を変化させることで数値を選択することができます。番号の範囲は`MinimumEQ`と`MaximumEQ`プロパティを使用することに設定されます。

オブジェクトの高さや他の属性も変更可能であることに加え、次のプロパティを使用することにより、オブジェクトをさらにカスタマイズすることが可能です:

DecimalBase
これはスピナーの基本を10進数(はいを選択した場合)
または16進数(いいえを選択した場合)に設定します。

EditBuddy
[はい]を選択すると、タブの順番でスピナの直前にある編集コントロールにスピンが関連付けられます。タブの順番は、編集モードでオブジェクトを選択し、SHIFT＋Enterを押すことで表示されます。

IncrAccelerator
この値を使用すると、矢印をクリックするごとにスピンが増減する量を指定できます。
この値を使用すると、 デフォルトの値は 1です。

MaximumEq
最大方程式
(この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値に設定できます）。

```
-$, $, CONST
```

MinimumEq
最小方程式
(この値は定数、簡単な方程式から求められた値、またはVBScriptからの戻り値が設定可能です)。

```
-$, $, CONST
```

方向
スピナ コントロールの方向を設定します。

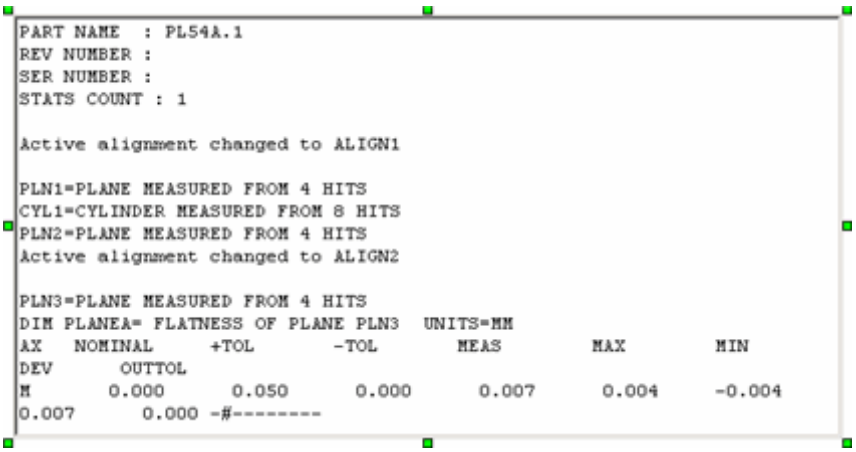
水平を選択してスピン矢印のオリエンテーションを回転して水平を指します。

垂直を選択してスピン矢印のオリエンテーションを回転して垂直を指します。

WrapAround
このプロパティを[はい]に設定すると、リストの値を増加または減少して最小値または最大値に達した場合、レポートはリストの最初または最後に戻ることができます。

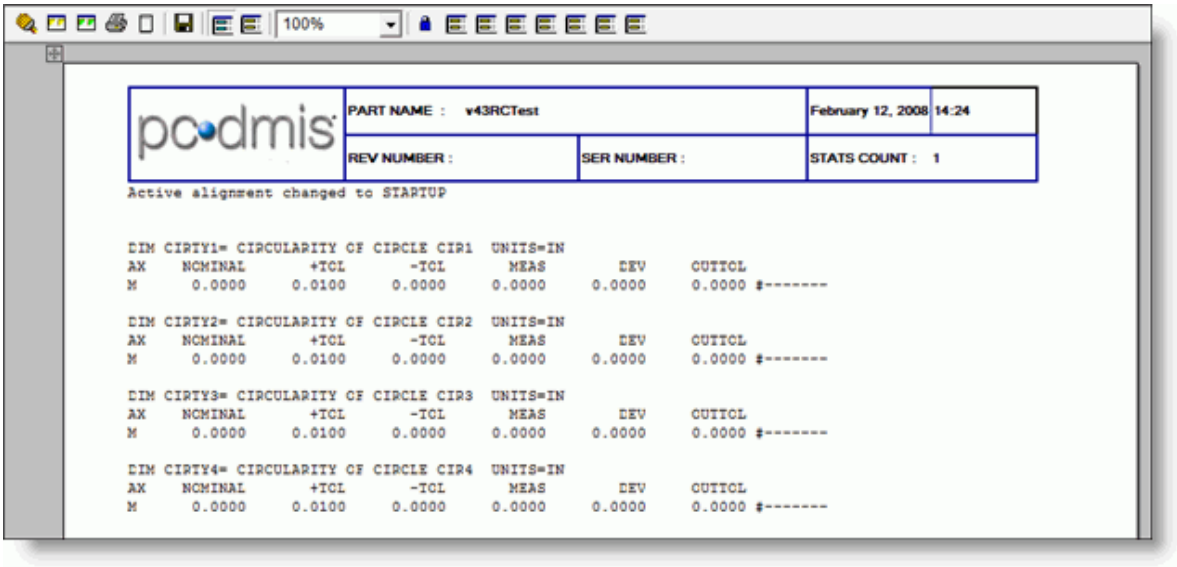
TextReportObject

TextReportObject オブジェクトで、レポート
テンプレートでテキストレポートデータをコンテナを挿入できます。このオブジェクトを挿入する場合、PC-
DMISは最初にいくつかのサンプルレポートのデータで記入されるボックスを表示して、設計目的のために便利です。一旦テンプレートがレポートに適用されたら、実際のレポートデータが使用されます。



```
PART NAME  : PL54A.1
REV NUMBER :
SER NUMBER :
STATS COUNT : 1

Active alignment changed to ALIGN1

PLN1=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
CYL1=CYLINDER MEASURED FROM 8 HITS
PLN2=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
Active alignment changed to ALIGN2

PLN3=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
DIM PLANEA= FLATNESS OF PLANE PLN3  UNITS=MM
AX   NOMINAL     +TOL       -TOL       MEAS        MAX        MIN
DEV      OUTTOL
M       0.000      0.050      0.000      0.007      0.004     -0.004
0.007      0.000 -#--------
```

レポートデータの例が表示されたTextReportObject



実際のレポートデータが表示されたレポートの例

オブジェクトを選択し、右クリックしてプロパティを編集することにより、挿入されたTextReport Objectの表示形式を変えることも可能です。

このオブジェクトに固有のプロパティは次の通りです:

色
表示されるテキストの色を変更できます。デフォルトでは、このオブジェクトはコマンドモードの編集ウィンドウで使用されているものと同じ配色を使用しているので、このプロパティをクリックすると独立した色のセットを作成するか尋ねるメッセージが出力されます。**[はい]**をクリックすると、**[色の編集]**ダイアログボックスが表示されます。このエディタを使用して、選択されたTextReportObjectの新しい配色を定義することが可能です。

> 色エディタに使用情報について、「仕様の設定」項の「**編集ウィンドウの色を定義**」を参照して下さい。

RuleTree
このオブジェクトに対する**[ルール ツリー エディタ]**を開きます。これにより、ルールを作成してオブジェクト内で式またはラベルテンプレートを使用するタイミングおよび方法を定義することが可能です。

ラベル
テンプレートおよび式を使用して、特にどのレポートデータをオブジェクト内に表示するかをコントロールすることができます。「ルール ツリー エディタについて」を参照してください。

ShowAlignments
レポート内のアラインメントを表示または非表示にします。

ShowComments
レポート内のコメントを表示または非表示にします。

ShowDimensions
レポートに表示する寸法を指定します。

すべて - すべての寸法を表示します。
ない - 寸法はいずれも表示されません。
公差以外 - 公差以外の寸法だけを表示します。
範囲内 - 公差範囲以内の寸法を示します。

ShowFeatures
レポート内の要素を表示または非表示にします。

ShowHeaderFooter
レポートのヘッダーおよびフッダー情報を表示または非表示にします。

ShowMoves
レポート内の移動コマンドを表示または非表示にします。

ShowScreenCaptures
レポート内のスクリーンショットを表示または非表示にします。

[テキスト]オブジェクト

テキスト
オブジェクトで、テンプレートにテキストラベル、説明、およびマーキングを挿入できます。これは、レポートをより有意義に仕上げるのに便利です。テキスト
オブジェクトを選択し、右クリックしてプロパティを編集することにより、挿入されたテキスト
オブジェクトの表示形式を変えることも可能です。

テキストオブジェクトのプロパティは「共通プロパティ」トピックに説明されます。

TextVar Object

TextVar
オブジェクトで、テンプレートに動的的な、数値テキストを挿入できます。オブジェクトは**テキスト** プロパティの削除とこれらの二つのプロパティ追加でテキスト オブジェクトとは異なります:

ValueEq
値方程式(この値は定数、簡単な方程式から評価される値、またはVBScriptからの戻り値を設定できます）。実行時にこの値はフォーマットされ、表示されます。

`-$, $, CONST`

Format
'C'言語標準を使用して数値のフォーマットを設定します。ただし、数値の部分にのみ使用可能です。たとえば、書式`%5.2lf` は5.2になり、 `%5d`
は5になります。これについて1つの例外はBOOLEAN 変数を使用する場合、`$`
文字列がいいえ またははいに変換されます。

オブジェクトを使用して**ValueEq**
プロパティを編集するには、それは変数番号の値を表示することに設定されます。

レイアウト バー

レイアウトバー
は編集モードグリッドに効果的に配置、整理またオブジェクトを表示する必要があるツールを与えます。次のトピックで各アイコンの機能について説明します。

編集

編集 アイコンはランモードにテンプレートを配置します。レポート テンプレートとラベル テンプレートエディタは常に編集モードに残ります。このアイコンはフォームエディタと作業する場合に機能します。

プロパティ シート

プロパティーシートアイコンは**プロパティーシート**のダイアログボックスの選択されたオブジェクトのために特性を表示します。**プロパティシート**のダイアログボックスでは、選択したオブジェクトのプロパティを変更することができます。**プロパティ・シート**・ダイアログ・ボックスの一番上のリストから異なる既存のオブジェクトを選ぶことにより、そのプロパティを見ているオブジェクトを容易に変更することができます。

利用可能なプロパティの完全な情報については、
「オブジェクトのプロパティについて」を参照してください。

グリッドの表示/非表示

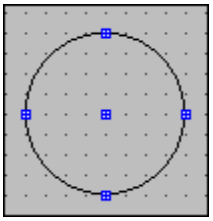
[グリッドの表示/非表示]アイコンを使用して、対応するグリッドを表示または非表示にします。編集モードで使用すると、グリッドは10分の1毎に点が表示されるのでオブジェクトのサイズを正確に設定する場合に便利です。「グリッドを使用した操作」を参照してください。

スナップ点の表示

スナップポイントをビューアイコンは各オブジェクトのスナップポイントを表示します。スナップ点はオブジェクトを線に沿って並べる場合に便利です。例えば、説明用のテキストボックスのスナップ点とオブジェクト(例えば円)のスナップ点を結ぶ線を利用して、説明用のテストボックスが円を指し示す線を作成することができます。次に、引き出し線と同様に、円が新しい位置に移動するとそれに付けられた線が円の新しい位置に合わせて伸縮します。

上記の例で説明されているようにスナップ点を使用するには、次の操作を行います。

1. 円のオブジェクトを作成します。
2. ラインオブジェクトを作成します。
3. 編集モードで**レイアウトバー**から**スナップポイント**をビューアイコンを選択します。グリッド上のオブジェクトが青色の点を表示するエリアがあるのが分かります。青色の点はスナップポイントです。

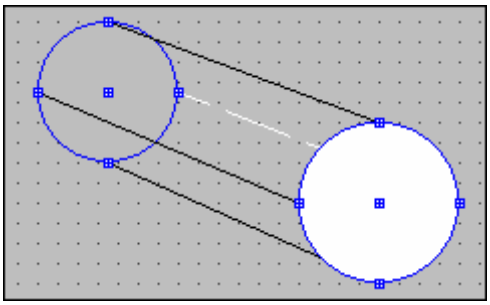
   
   サンプル円は5つのスナップポイントを表示します

4. 線を選択し、一方の端がちょうど円の目的のスナップ点に来るまでドラッグします。円オブジェクトを移動してみてください。線は円のオブジェクトのスナップ点に付いています。
5. 円の説明用にテキスト オブジェクトを作成し、簡単な説明を入力します。
6. エンドがテキストオブジェクトのスナップポイントの一つの上にあるまで、ラインのその他のエンドを選択してドラッグします。
7. ここで、説明用のテキスト
   ボックスまたは円のオブジェクトを選択し、ドラッグします。線のオブジェクトが伸縮および移動し、常に2つのオブジェクトの使用されたスナップ点を結ぶ直線となっています。

オブジェクトをスナップポイントに接続切断するには、単純にスナップポイントのオブジェクトの接続端をドラッグします。

スナップポイントvs. リーダラインオブジェクト

ほとんどの時間にスナップポイントの代わりに
リーダーラインオブジェクトを使用します。これはスナップポイントとほぼ同じ機能を持ち、使用する方も簡単です(「引き出し線オブジェクト」トピックを参照してください)。1つの利点のスナップポイントは
引き出し線オブジェクトを越えて、1つ以上オブジェクト間のラインをサポートして、能力スナップ点に正確に接続線に合わせます。例えば、次に示すようにスナップ点を使用してさらに複雑な形を編集モードで直接作成できます:



2つの円のスナップ点を4本の線で結んで作成された円柱の例

サポートされるオブジェクト

ラインとポリラインのオブジェクトのみスナップ点を持つオブジェクトにアタッチできます。スナップ点を持つオブジェクトは次の通りです:

- テキスト
- TextVar
- 境界
- 楕円
- ビット マップ
- 寸法色付けキー
- 柱状グラフ
- 要素テキスト
- 寸法情報
- 点データ

添付されたオブジェクトの表示

多くのオブジェクトのページで、**ビュー|**
ルートメニューオプションを使用して現在選択されたオブジェクトに接続するオブジェクトのチェーンを見るのは有用です。このメニューオプションは何らかの方法でスナップポイントで現在選択したオブジェクトに接続するすべてのオブジェクトを選択します。

ルーラーの表示/非表示

[ルーラーの表示/非表示]アイコンを使用して、グリッドの上側および左側にあるルーラーを表示または非表示にすることができます。ルーラーにはグリッドの大きさがインチまたはセンチメートルで表示されます。さらに、グリッドの水平軸(上ルーラー)および垂直軸(左ルーラー)に沿ってカーソルの位置が表示されます。インチまたはセンチメートル表示を切り替えるには、ルーラーを右クリックし、ショートカット メニューより必要なオプションを選択します。

拡大/縮小

これらのアイコンを使用して、ハイパー
レポートを拡大または縮小表示し、元の大きさに戻すことが可能です:

ズーム100% -
クリックあたりの100%で、レポートをズームします。このアイコンを最大5回にクリックして500%倍率を取得します。

縮小100% -
ズームしている場合、クリックあたりの100%で、レポートを縮小します。ズームしたことがない場合、クリックあたりの100%だけで、ズームアウトできます。

1:1にズーム - これはレポートのサイズを元の1 ： 1に復元できます。

どうなにズームしても、「活性化」または「無効」モードがあるコントロールをアクティブしたら、PC-DMIS は元のズームを復元します(たとえば、CadReportObject
またはGridControlObjectをダブルクリックします)。これらのコントロールを残して編集環境へ戻たら、ズームサイズは元の状態に戻ります。

グループ化

グループ・アイコンは、複数のオブジェクトを選んで、彼らを集めることができます。一度グループ化されたら、エディタは1つのオブジェクトとしてグループ化されたオブジェクトが表示されます

複数のオブジェクトをグループ化するには、いずれかのSHIFTボタンを押しながら、グループ内のすべてのオブジェクトを選択するか、またはすべてのオブジェクトをボックス -
選択し、[**グループ**]アイコンをクリックします。

グループの解除

[グループの解除]アイコンを使用して、グループ化されたオブジェクトを個々のグループ解除された状態に戻すことが可能です。これを行うには、グループ化されたオブジェクトを選択し**グループの解除**をクリックします。

再グループ化

再グループ化アイコンは、ユーザが個々の物を再選択する必要がなく、物の最後の非集められたセットをまとめ直します。

エッジの揃え

[エッジの揃え]
アイコンは、以下の追加のアイコンを伴い、それを用いると、一連の選択されたオブジェクトを、左端、右端、最上部エッジ、または、底部エッジに沿って配置します:

左辺に沿って整列選択したオブジェクト

右辺に沿って整列選択したオブジェクト

上辺に沿って整列選択したオブジェクト

下辺に沿って整列選択したオブジェクト

中央揃え

[配置] [中央揃え]
アイコンはこれらの追加アイコンを提供して、選択したオブジェクトのいずれかを水平または垂直に中央揃えします:

水平軸に沿ってセンター選択したオブジェクト

垂直軸に沿ってセンター選択したオブジェクト

スペース

[スペース]
アイコンをクリックすると次のアイコンが表示され、これらを使用して選択したオブジェクトを水平方向または垂直方向に等間隔に配置できます:

同様に水平軸に沿ってセンター選択したオブジェクト

同様に垂直軸に沿ってセンター選択したオブジェクト

同じサイズに揃える

サイズ均等化のアイコンは、選択した全てのオブジェクトの幅、高さ、または幅と高さの両方を均等にすることができるように、これらの追加アイコンを提供します。

選択したオブジェクトの幅を同様にサイズします

選択したオブジェクトの高さを同様にサイズします

選択したオブジェクトの幅と高さを同様にサイズします

最前面または最背面に移動

[最前面または最背面に移動]アイコンでは、さらに別のアイコンを使用して選択されたオブジェクトを他のオブジェクトの前面または背面に移動することが可能です。これは複数のオブジェクトが重なり合い、ある特定のオブジェクトを表示したい場合に便利です。次の使用可能なアイコンが含まれます:

他のすべてのオブジェクトの前に選択したオブジェクトを移動して、それが上に表示されます。

他のすべてのオブジェクトの後ろに選択したオブジェクトを移動して、それが下に表示されます。

レベルの描画についての注記

注記:
オブジェクトを他のオブジェクトの前面または背面に移動するということは、内部の描画レベルは

別のオブジェクトに使用されていることを前提としています。これは、オブジェクトは同じ描画レベルの他のオブジェクトの前、またはそれより上位の描画レベルの前面にのみ移動できるあることを意味します。以下に描画の順番を示します。

CADReportObject - 描画レベル5
このオブジェクトは下位の描画レベルのすべてのオブジェクトの背後に描かれます。レベル5のその他のオブジェクトの前面に描くことができます。

AnalysisWindow - 描画レベル4
このオブジェクトはレベル4または5のオブジェクトの前面に描くことができます。

引き出し線 - 描画レベル3
このオブジェクトはレベル3、4、または5のオブジェクトの前面に描くことができます。

その他すべてのレポートオブジェクト - 描画レベル2
このオブジェクトはレベル３、４、または５のオブジェクトの前面に描くことができます。

同じレベルのオブジェクトは必要に応じてその前後に移動することができますが、例えばCADレポートオブジェクトをラベルオブジェクトの前に持ってくることはできません。この種類の並べ替えは4.x
以降のレポートテンプレート/レポートのみ使用できます。レガシー(ハイパービュー)レポートはこの類の並べ替え方法を使用しません。

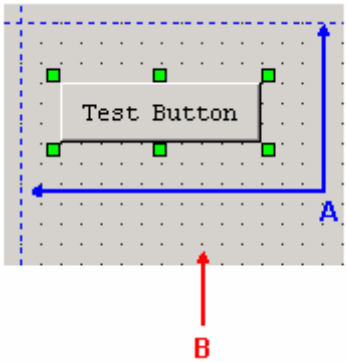
直前の操作を元に戻す

[直前の操作を元に戻す]アイコンを使用して、エディタ内で行った直前の操作を元に戻すことが可能です。

グリッドを使用した操作

フォームまたはテンプレートエディタで作業している場合、PC-DMISはフォームと**トグルグリッド**アイコン のクリックの背景のグリッドを **レイアウトバー**からまたはCTRL + Gを押すことで表示または非表示にできます。

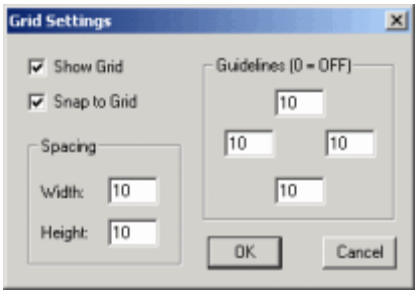
このグリッドを使用して正確な配置および/またはオブジェクトのサイズとテンプレートのマージンのガイドラインをコントロール方法にツールとします。



A - ガイドライン
B - グリッド目盛

デフォルトのグリッドの印およびガイド線の表示例

編集|レイアウト|グリッドの設定 を選択して**グリッドの設定**ダイアログボックスにアクセスします。



[グリッドの設定]ダイアログ ボックス

このダイアログボックスを使用して、グリッドをカスタマイズすることができます。このダイアログボックスのコントロールに関する説明は以下のとおりです。

グリッドを表示チェックボックス
グリッドを表示チェックボックスはグリッドの表示を切り替えます。

グリッドにスナップ チェックボックス
グリッドにスナップ
チェックボックスは、グリッドを移動、または最も近いグリッド位置にスナップするかの配置についてコントロールします。

間隔エリア
間隔エリアはグリッドマーキング間の間隔距離を設定します。これらの数字が小さいほど、グリッドの印の間隔は狭くなります

ガイドラインエリア
ガイドラインエリアでは、テンプレートエディタの上、左、右、下の余白のガイドラインの位置を決定します。

これらの各ボックスの値はグリッドのマーキングにガイドラインを設定する距離を設定します。値を0に設定するのは、完全にガイドラインを削除します。

これらのガイド線の外にオブジェクトを配置することはできません。

前回元に戻した操作の再実行

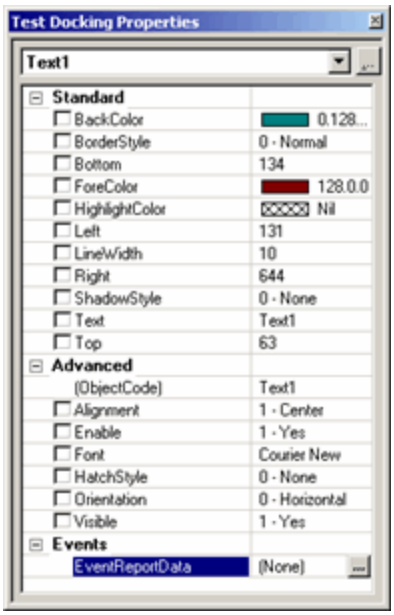
元に戻したアクションのやり直しアイコンは、**直前のアクションを元に戻す**·アイコンをクリックするときに、取り消されたアクションをやり直します。

オブジェクトのプロパティについて

テンプレートまたはフォームに追加される各オブジェクトは、プロパティ（または属性）が関連付けられるセットを持ち、それはオブジェクトの位置、サイズ、色、フォント、テキスト、名前などをコントロールします。そのオブジェクト上でクリックまたはマウスのダブルクリックなどの特定のイベントが発生する場合には、各オブジェクトもトリガされるイベントハンドラ関数のセットに関連付けられます。これらのプロパティおよびイベントハンドラは**プロパティ** ダイアログボックスでビューまた変更され、「プロパティシート」プロパティと呼ばれることもあります。

オブジェクト属性にアクセス

プロパティ ダイアログボックスはオブジェクトを選択(その境界内でシングルクリック)し、右クリックして表示できます。以下は、**テキスト1**という名称のテキストオブジェクトと、その各種属性を表示する属性シートの例です:



サンプルプロパティダイアログ ボックス

利用可能なオブジェクトのプロパティをビューします

プロパティ ダイアログ
ボックスのトップにはドロップダウンリストがあります。このリストボックスはテンプレートまたはフォーム内のそれぞれのオブジェクトのエントリや、メイン編集エリア自体など常に存在して削除できないオブジェクトが含まれます。レポートエディタでは、メイン編集エリアは**ページ**と呼ばれます。ラベルエディタとフォームエディタの中では、**フレーム/ビュー**と呼ばれます。

このドロップダウンリストから別のオブジェクトを選択して任意のフォーム内のオブジェクトのまたはテンプレートをビューできます。1つ以上のセクションを含むテンプレートがある場合、このリストは現在のセクション内のオブジェクトを示しています。

注記:
レポートテンプレートでは、**レポート**と呼ばれる追加のオブジェクトは存在して、このドロップダウンリストからのみアクセスできます。これには**高度**
なカテゴリの2つのプロパティが含まれ、ユーザー割り当てのプロパティを収集するために独自の外部実行ファイル(.exe ファイル)
を指定できます。これらのプロパティは**テンプレート選択のプログラム**
と**測定ルーチン実行のプログラム**です。PC-DMISは、テンプレート選択中と測定ルーチン実行中にそれぞれ、その指定された測定ルーチンを実行します。

プロパティの組織を理解します。

各オブジェクトのプロパティは3つの主要カテゴリに分かれます: **標準**、**高度**、また**イベント**。各カテゴリの左側にある**+** または **-** 記号をクリックすると、これらの各カテゴリを折り畳んだり展開できます。

一般的に、**標準** プロパティは通常、線のスタイル、色、位置をコントロールします。**高度** なプロパティはオブジェクトを有効化するかしないか、等の内容をコントロールします。**イベント** では、指定されたイベントが発生したときにBASIC言語を使用して具体的な手順をコード化できます。

注記:
ActiveXやOLEオブジェクトは、それぞれのトピックで説明する追加のセクションがあります:「ActiveX オブジェクト」と「OLE オブジェクト」。

利用可能なプロパティの説明については、「共通プロパティ」トピックを参照してください。そこに説明がない場合、「オブジェクトバー」トピックから利用可能なオブジェクト固有のドキュメントを参照してください。イベント情報については、「イベントについて」トピックを参照してください。

名前識別子を理解

テンプレートまたはフォームにオブジェクトを挿入する場合、一意な名前の識別子が自動的にオブジェクトの**ObjectCode** プロパティに割り当てられます。同じタイプの後続のオブジェクトは、同じ名前の後に増加した数値を付けた名前を持ちます。たとえば、エディタは自動的に最初の **テキスト** オブジェクトを「テキスト1」と名付けます。これは後続の**テキスト** オブジェクトを「テキスト2」、「テキスト3」というように名付けます。もちろん、この値は別の名前に変更できます。その場合、一意な名前であるか確認する必要があります。そのオブジェクトの名前の識別子を変更する場合、オブジェクトのコードを利用するすべてのBASICスクリプトも更新する必要があります。

プロパティ値の変更

任意のプロパティを選択して、その値をクリックして、またそれがドロップダウンリストを表示する場合の新しい値を選択して、または編集フィールドである場合に新しい値を入力します。

プロパティ値としての式

一部のプロパティの値は定数の代わりにレポート式を保持することができます、これは**GridControlObject** からのセルが式を保持すると同じです。最初に等号（=）を付けることを忘れないでください。たとえば、ラベルテンプレートに **テキスト**オブジェクトがあり、他のテキストの代わりに現在の要素のIDを表示したいと仮定します。**テキスト** プロパティに「= ID」と入力します。実行中に、PC-DMISから要素名が参照され、それが**テキスト**オブジェクトに表示されます。

共通の属性

下記は、さまざまなオブジェクトで使用されるいくつかの共通属性であり、それらは他の多くのオブジェクトのプロパティのコアセットを構成しています。オブジェクトに固有のプロパティはそのオブジェクトのドキュメントに記載されます。イベントのプロパティは「イベントについて」トピックで詳しく説明します。

共通基準と高度なプロパティ

アクセラレータ
ALTキーと共に使用する文字を設定し、コントロールのアクセラレータを作成することが可能です。設定される文字または記号は、(メニューバーのアクセラレータを含めて)他のアクセラレータに使用されるものとは異なる必要があります。これは、ほとんどのフォームのコントロールで使用されます。

アラインメント
テキスト オブジェクトで定義された長方形内でテキストの配置を指定します。

AnchorSnaps
[スナップ点の入力]ダイアログ
ボックスを使用して、スナップ点の作成、削除、または修正を実行するフィールドです。スナップ点は楕円、四角形、テキストボックス、またはビットマップ
イメージのオブジェクトに属します。

ライン または**ポリライン**
オブジェクトを表示される青いスナップ点の先端をドラッグしてオブジェクトのスナップ点に接続できます。

一旦接続されたら、オブジェクトを新しい場所にドラッグする場合、必要に応じて結果ラインはスナップ点、回転、伸長と縮小との接続を残ります。
頻繁に移動されるオブジェクトに常にポイントする「リーダーライン」を作成する場合、要素は有用です。

スナップ点を表示するには、 **レイアウト**ツールバーから**スナップ点を表示**
アイコンをクリックしてください:

自動サイズ
オブジェクトのサイズ自体が自動的にそれに含まれるテキストの長さに基づくかどうかを定義します。これをYESに設定してオブジェクトとWord
BreakをNOに設定すると、テキストオブジェクトは自動的に幅を調整します。これをYESに設定されて、且つWord
BreakもYESに設定すると、テキストオブジェクトは自動的に高さを調整します。

BackColor
オブジェクトの背景色です。この色はテキスト
オブジェクトで定義された四角形を塗りつぶすのに使用されます。

空き -
これは空きの値を表わしません。これは、背景が透明で、このオブジェクトの背後のオブジェクトの他の色が透けて見えることができることを意味します。デフォルトでは、背景色プロパティがある全部のものは空きに設定されます。

この色を`Nil`
に設定すると色がRGB(255,255,254)に設定され、レポートウィンドウで透明になります
。

RGB(255,255,254)の色を指定しようとする場合、PC-
DMISは自動的にそれをRGB(255,255,255)の非透明色に設定します。これはオブジェクトの表示方法には影響しません。

ラベルがRGBカラー(255,255,254)を使用するビットマップ画像を持つ場合、色はレポートのウィンドウ内で透明になるのを注意してください。

BorderStyle
オブジェクトを取り囲む境界線のスタイルです。

下
テンプレートまたはフォームの上からオブジェクトの四角形の下への距離をピクセルで表します。

CursorPointer
オブジェクトの上をマウスでドラッグしたときに表示されるカーソルを指定します。

有効
オブジェクトを有効または無効にします。無効化されたオブジェクトは見ることはできますが、ユーザー入力には反応しません。

フォント
フォントはテキストオブジェクトのレンダリングに使用されます。

ForeColor
オブジェクトの前景色を設定します。テキストオブジェクトの場合は、テキストの色を指定します。

グループ
フォームオブジェクト（ボタン、チェックボックス、ラジオボタンなど）で使われます。

HatchStyle
これは、オブジェクトで使用するパターン（またはハッシュ）のタイプを設定します。次のパターンが使用可能です:

水平

垂直

対角線

逆斜線

十字

斜め十字

これを使用するオブジェクトは次のものを含んでいます: 境界、楕円、Histogram、TextVar

HelpContextID
特定のヘルプ トピックの呼び出しに使用するコンテキストIDです。これはWinHelp( )を呼び出すヘルプボタンのタイプと組み合わせて使用されます。

レイヤー
現在のオブジェクトを選択されたレイヤーに割り当てます。

左
オブジェクトの四角形の左端の位置を、テンプレートまたはフォームの左端からの距離としてピクセルで指定します。

LineStyle
これはオブジェクトのラインスタイルを実線、破線、点線、一点鎖線、または二点鎖線に変更します。

LineWidth
線の太さをピクセルで設定します。

(オブジェクトコード)
テンプレートまたはフォームでオブジェクトを識別する一意の名前です。BASIC言語を使用してオブジェクトのプロパティまたはメソッドにアクセスする場合は、必ず次の構文を使用します:

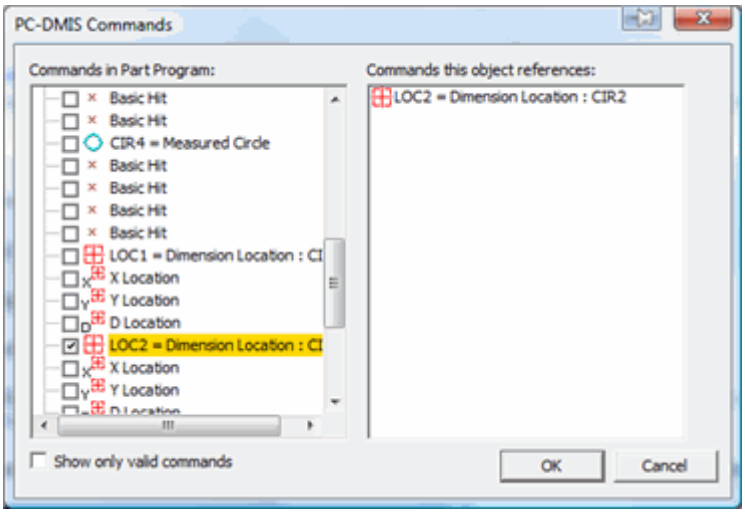
{オブジェクトコード}{プロパティまたはメソッド名}

向き
オブジェクト内のテキストの向きを指定します。水平方向のテキストは左から右へ表示されます。垂直逆方向の場合、下から上へ表示されます。垂直方向の場合、上から下へ表示されます。

パディング
このプロパティは指定された量のテキストの周りに空白のピクセルを追加します。

PC-DMIS コマンド
(カスタム レポート エディタに追加されたオブジェクトに対してのみ表示されます)

レポート内の既存のオブジェクトへのコマンドリファレンスを追加または削除します。レポート内のオブジェクトを選択してこのプロパティを選択します。**PC-DMIS コマンド** ダイアログボックスが表示されます。



PC-DMISコマンドダイアログ ボックス

デフォルトでは、測定ルーチンですべてのコマンドは左の展開と折りたたみ可能なリストで表示されます。ただし、一部のオブジェクトは、すなわちラベルオブジェクト、GridControlObject、分析オブジェクト、およびヒストグラムオブジェクト、いくつかのコマンド

が無効になる場合があります。これらのケースで彼らはリスト内のグレー表示されます。
有効なコマンドのみを表示
チェックボックスの選択でリストを左側の任意のグレーのコマンドを非表示にすることができます

右側のリストがオブジェクトによって参照するすべてのコマンドを表示します

1. 左側のリストから参照したい選択されるオブジェクトのコマンドを選択します。オブジェクトは複数のコマンドの取得をサポートする場合、彼らは右のリストに表示されます。しかし、ほとんどの場合には1つのみのコマンドを選択することができます。

2. **[OK]** をクリックします。ダイアログ ボックスが閉じてまたPC-DMIS
選択したオブジェクトの新しいコマンドを参照します。

これは本質的に別のアプローチを提供して測定ルーチンから別のデータを使用してオブジェクトを更新できます。オブジェクトを更新する通常の方法について「データをカスタムレポートへドラッグおよびドロップ」を参照してください。

CADReportObject
*またはAnalysisObject*について、チェックボックスがマークされた要素はオブジェクトに追加されます。チェックボックスがクリアされる要素がオブジェクトから削除されます。マークされない場合には、PC-DMISは`HideAllPointsonReport`
と`HideAllMeasuredFeaturesOnReport`
レジストリのエントリーに応じて項目を表示し、PC-DMIS 設定編集の**報告**
セクション内に位置します。

複数のコマンドをサポートするオブジェクトについて(GridControlObjectなどのよう)、このダイアログボックスを使用して参照コマンドの順序を変更できます。

PC-DMIS リファレンス
(カスタムレポートエディタに追加されたオブジェクトに対してのみ表示されます)

選択したレポートオブジェクトに参照されるコマンドをトラックします。レポートの生成時に、各コマンドは、 PC-
DMISは各オブジェクトのコマンドリファレンスを検査します。オブジェクトがそれは処理されているコマンドの参照があるのを表示し、PC-
DMISはオブジェクトへコマンドデータを発送します。

あるときには、ほとんどのオブジェクトは1つのコマンドをサポートし、しかし、一部のオブジェクトが複数のコマンド（GridControlObjectなど）からのデータをサポートすることができます。カスタムレポートエディタにコマンドをドラッグ＆ドロップする場合、PC-
DMISは内部的にあなたのための参照を管理するの世話をします。何らかの理由でどのコ

マンドが参照される手動コントローラを決定する場合、このプロパティを使用するのは必要です。

PenWidth
オブジェクトを描画する場合に使用される、ペンの太さを指定します。テキストオブジェクトの場合、ペンの太さはテキストの周りに表示される境界線のみに影響します。

右
オブジェクトの四角形の右端の位置を、テンプレートまたはフォームの左端からの距離としてピクセルで指定します。

ShadowStyle
これは、結果として得られたオブジェクトの3D影の位置を設定します。次の方向が使用可能です:

上/左、下/右、またはなし。

タグ
ユーザー定義のデータを保存するプレースホルダです。

テキスト
テキストオブジェクトに表示されるテキストです。このフィールドには、英数字の前にアンド記号(&)を入力して、ショートカット
キー(下線付きの文字で表示)を作成し、実行モードでAltキーと同時に押すと直ちにコントロールに焦点が当たるようにすることも可能です。多数のショートカット
キーを使用する場合、編集モードで**[編集 | レイアウト | ニーモニックの検査]**メニュー項目を使用してそれぞれ重複していないか確認することができます。

Tabstop
これは、タブキーを押すとオブジェクトを循環するかどうかを決定します。フォームオブジェクト（ボタン、チェックボックス、ラジオボタンなど）で使われます。

ToolTipText
実行モードでマウスをオブジェクトの上に動かしたときに表示されるテキストを設定します。

上
オブジェクトの四角形の上の位置を、テンプレートまたはフォームの上端からの距離としてピクセルで指定します。

ValueID
これは、IDの値を含み、サポートするオブジェクトにおいては、`CurPage`および`NumPages`

変数を含んでいます。コントロールを使用して当プロパティを取得および定義します。これはほとんどのフォームオブジェクトと共に使用されます。

表示可能
オブジェクトの表示/非表示を設定します。値が1の場合は表示、0の場合は非表示に対応します。

Word Break
テキストオブジェクトのテキスト1行以上を保持できるかどうかを定義します。YESに設定する場合、オブジェクトのコンテナの幅を超えるテキスト文字列はオブジェクトコンテナ内に折り返されます。NOに設定する場合、テキスト文字列は一つの行の上に残ります。

TheFrame/TheView プロパティ

レーベルテンプレートエディタの主な編集エリアとフォームエディタは**TheFrame/TheView**といわれる特殊なオブジェクトを含みます。このオブジェクトには、他のオブジェクトと同様にアクセスおよび設定可能なプロパティが含まれます。

注記:

- 一つのアスタリスク(*)が続くプロパティはラベルテンプレートエディタのみで使用されます。
- ２つのアスタリスク(**)が続くプロパティはフォームエディタのみで使用されます。
- その他のプロパティはすべてラベルテンプレートエディタとフォームエディタの両方で使用されます。

高さ
主な編集領域の高さをピクセルで定義します。

横向き配置 **
実行の際、フォームをウィンドウ内に横向きに配置します。

LocalDecls
フォームまたはラベル全体から参照可能な変数を宣言します。

LocalVariables **
「ローカル変数プロパティを使用したグローバル宣言」トピックを参照してください。

MaximizeBox **
はいに設定した場合、[最大化]アイコン
がフォームの右上隅に表示されます。実行モードまたは実行中にこのアイコンをクリックすると、フォーム ウィンドウを可能な範囲で最大化することができます。

MaximizeBox が**はい** に設定されしかしMinimizeBoxが**いいえ**に設定される場合、Minimize アイコンは表示しますが選択に利用可能ではありません。

MinimizeBox **

はいに設定した場合、[最小化]アイコン
がフォームの右上隅に表示されます。実行モードまたは実行中にこのアイコンをクリックすると、フォーム ウィンドウを最小化しタスクバーに収めることができます。

MaximizeBox が**はい** に設定されしかしMinimizeBoxが**いいえ**に設定される場合、Maximize アイコンは表示しますが選択に利用可能ではありません。

ページの向き *

ラベルの向きを事前に定義された方向、**[縦]**または**[横]**のいずれかに設定します。

ページサイズ *

ラベルを、デフォルトのプリンタで使用可能なページサイズの一つに設定します。プリンタの種類により、この項目にはレター、A4、または他のサイズが何点か表示されます。

ReportLock **

未決定のドキュメンテーション。

サポートされるコマンドタイプ *

サポートされるコマンドタイプ ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ
ボックスを使用して、このラベル
テンプレートを使用するのに必要なコマンドを指定することが可能です。ラベルを右クリックして **レポートを変更** メニュー項目を選択する場合、PC-
DMISは選択されたコマンドタイプをサポートするそれらのレベルのみを表示します。

ToolTipText

共通のプロパティ

縦に配置 **

実行の際、フォームをウィンドウ内に縦に配置します。

幅

主な編集領域の幅をピクセルで定義します。

セクション属性とページ属性

レポート テンプレートエディタとカスタム
レポートエディタのメインの編集エリアはそれぞれに**セクション**と**ページ**といわれる特定オブジェ

クトです。これらのオブジェクトのプロパティは、他のオブジェクトと同様にアクセスおよび設定が可能です。

コマンドセット
現在のセクション(**ページ** タブ)内でコマンドが処理される方法を定義します。

すべてのコマンド - この設定は現在のセクションの全体コマンド(**ページ** タブ)を処理します。これがデフォルトです。

前のセクションから続行 -
この設定はコマンドを前のセクションから設定処理を続けて、最後のセクションの停止処理を続行します。

前のセクションと同じ - この設定はセクションを(**ページ** タブ)
同じコマンド設定を前のセクションとして取ります。この設定では、先頭のセクションおよびそれに続く全てのセクションは小さなグループを形成します。小グループ内の、後に続く全てのセクションは先頭ページおよび1つのページを作成します。

(フォーム名)
ページの名前を定義します。

高さ
主な編集領域の高さをピクセルで定義します。

LocalDecls
このオブジェクトに限定した変数を宣言するウィンドウを表示します。これらの変数は、いったん宣言されるとオブジェクトに影響を与えるイベント内で使用可能になります。宣言のこのタイプで、変数に1つのイベントの値を与えてまた別のイベントでその値を確認できます。この変数はレポートまたはフォーム内の他のオブジェクトからは参照されないため、うっかり値が変更されてしまうことから保護されています。

LocalVariables
「ローカル変数プロパティを使用したグローバル宣言」トピックを参照してください。

最大ページ数
現在の**[ページ]**タブのデザインに使用するレポートの最大ページ数を定義します。

例えば、この値を2に設定したが、測定ルーチンの寸法が5ページに及ぶ場合、セクションのページ数が設定された最大値である2ページに到達すると、そのセクションは以降のコマンドを実行しません。追加情報を表示するために、現在のプロセスコマンドは新しく作成されたセクション(**ページ** タブ) を要求します。

デフォルト値の0は最大値なしを意味し、全てのページが表示されます。

ToolTipText
共通のプロパティ

幅
主な編集領域の幅をピクセルで定義します。

"コマンド セット"および"ページの最大値"プロパティの例

次の例は、レポート
テンプレートが4つのセクションA、B、C、およびDを持ち、それぞれにTextReportObjectが含まれるものと仮定します。加えて、測定ルーチンはセクションごとに3ページ分の寸法を表示するのに十分な大きさであると仮定します。各例で、プロパティの設定を説明するテーブルが表示されます。

例1

セクション	ページの最大値	コマンド設定
A	0	すべてのコマンド
B	0	すべてのコマンド
C	0	すべてのコマンド
D	0	すべてのコマンド

この例では、最終レポートには次のページが表示されます:

A1,A2,A3,B1,B2,B3,C1,C2,C3,D1,D2,D3

例2

セクション	ページの最大値	コマンド設定
A	1	すべてのコマンド
B	0	すべてのコマンド
C	0	すべてのコマンド

D	1	すべてのコマンド

この例では、最終レポートには次のページが表示されます:

A1,B1,B2,B3,C1,C2,C3,D1

例3

セクション	ページの最大値	コマンド設定
A	1	すべてのコマンド
B	0	すべてのコマンド
C	0	以前の断面と同じです
D	1	すべてのコマンド

この例では、最終レポートには次のページが表示されます:

A1,B1,C1,B2,C2,B3,C3,D1

例4

セクション	ページの最大値	コマンド設定
A	1	すべてのコマンド
B	0	以前の断面から続行します
C	0	以前の断面と同じです
D	1	すべてのコマンド

この例では、最終レポートには次のページが表示されます:

A1,B2,C2,B3,C3,D1

[ユーザー指定のプロパティ]を使用した操作

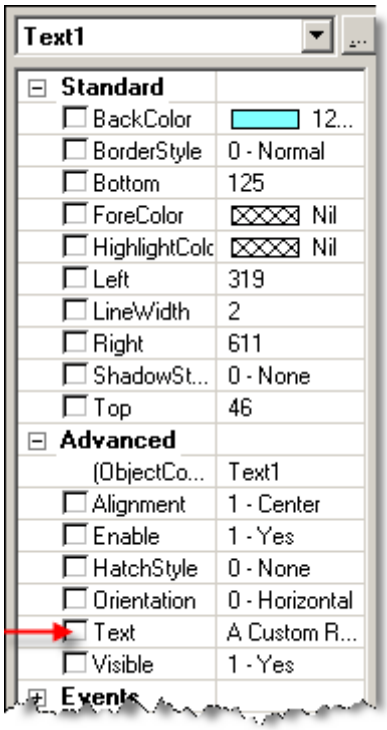
レポートテンプレートエディタで、**プロパティ** ダイアログボックスにはプロパティをユーザー定義可能にする機能が含まれています。これにより、測定ルーチンのオペレータは実行時にオブジェクトのプロパティを変更することができます。

例えば、現在の測定ルーチンのオペレータの要求に従ってレポートのタイトルを動的に変更する必要があるとします。この機能を使用して、簡単にレポートにインタラクティブなアプローチを追加できます。

プロパティをユーザー割り当てにするには

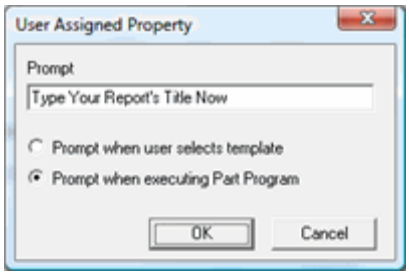
1. 任意のエディタ内で、オブジェクトを選択します。上記の例について、**テキスト** オブジェクトを選択します。

2. オブジェクトを右クリックします。これにより、オブジェクトのプロパティシートがエディタの右側に表示されます。プロパティのシートの左側ではほとんどのプロパティの横に *チェックボックス*が表示されます。
これらのチェックボックスはユーザーがどのようなプロパティを定義可能かを決定します。



テキスト
オブジェクト用の属性シートのサンプル。左のユーザが定義可能なチェックボックスを注意します。

3. 定義したいプロパティの横のチェックボックスを選択してください。上記の例では、**[テキスト]**オブジェクトの、**[テキスト]**プロパティを選択します。**ユーザー割り当てプロパティ** *ダイアログ ボックス*
が表示され、プロパティの値をユーザーに要求されるまたユーザが要求される時のメッセージを確認することを要求しています。



[ユーザー指定のプロパティ]ダイアログ ボックス

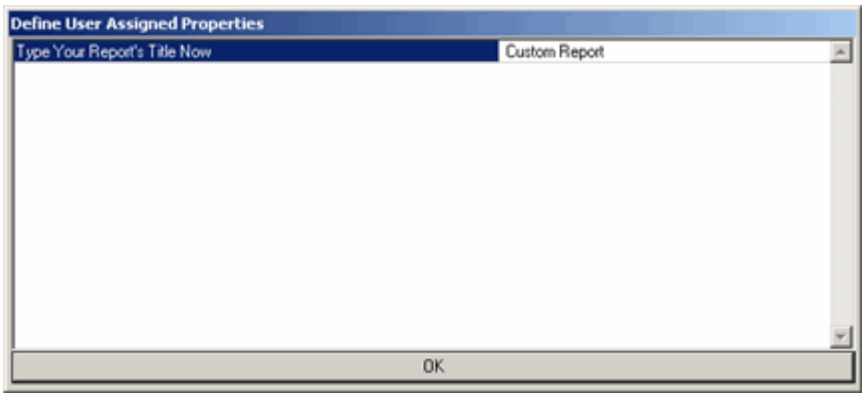
4. **[プロンプト]**ボックスに、ユーザーに向けて表示されるメッセージを入力し、次にユーザーがプロンプトを受け取るタイミングを2つの選択肢ボタンから選びます。プロンプトのタイミングは、ユーザーがテンプレートを選択したとき、または測定ルーチンが実行されたときのいずれかより選べます。

5. **[OK]** をクリックします。**ユーザー割り当てプロパティ** ダイアログ ボックスが閉じます。

6. レポート テンプレートを保存し、測定ルーチンに戻ります。

7. これをテストするには、レポートウィンドウを使用して**テンプレート選択**アイコンをクリックします。ダイアログボックスからレポートテンプレートを選択し、測定ルーチンを実行します。

8. 前のステップ過程中にいくつかの時点で、PC-DMISは**ユーザー割り当てプロパティを定義***ダイアログ ボックス*を表示して**ユーザー割り当てプロパティ** ダイアログ
ボックスに選択したオプションボタンによるプロパティ値にプロンプトします。

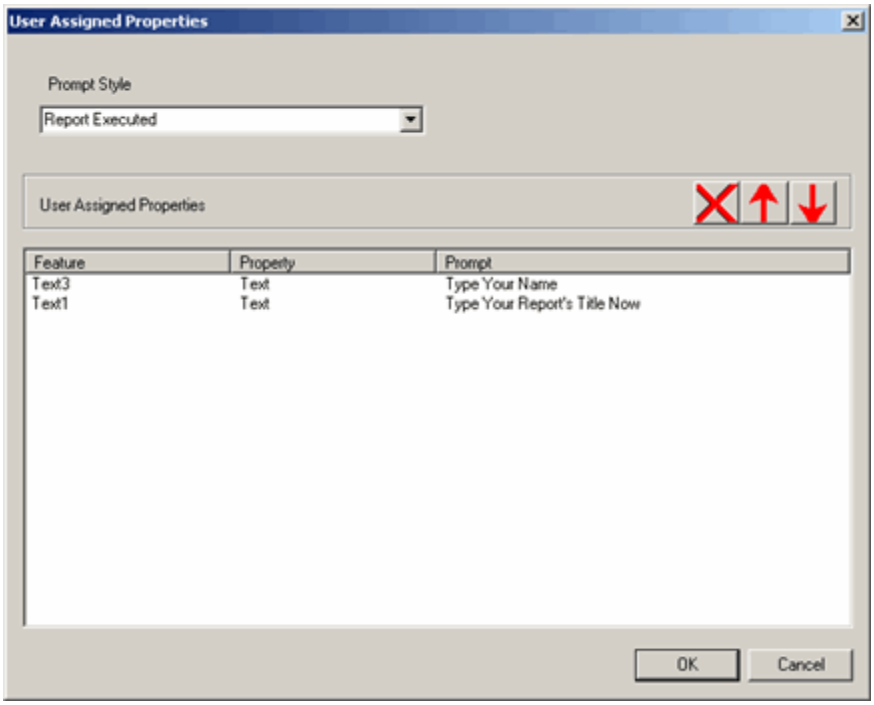


[ユーザー指定のプロパティを定義]ダイアログ ボックス

すべてのユーザーの割り当てプロパティをビューまたおよび操作するには

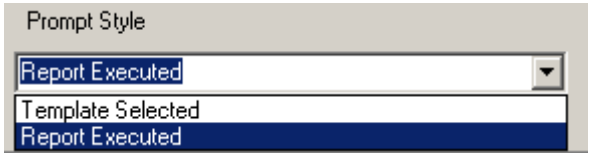
1. ユーザー定義可能なプロパティを持つレポートまたはラベル
   テンプレートにアクセスします。

2. **[編集|**
   ユーザー割り当てプロパティ]を選択します。**ユーザー割り当てプロパティ***ダイアログ ボックス*が表示されます。ダイアログ
   ボックスはテンプレート選択または測定ルーチンの実行のいずれかの間に提示されたそれらのプロパティを表示します。



[ユーザー指定のプロパティ]ダイアログ ボックス

3. **プロンプトスタイル** *ドロップダウンリスト*からある項目を選択して
このダイアログに表示されることにフィルタリングします。ユーザ割り当てプロパティは以下のリストボックスに表示されます。リストボックスはすべてのプロパティ、属しているオブジェクト、それらの要求を追跡します。



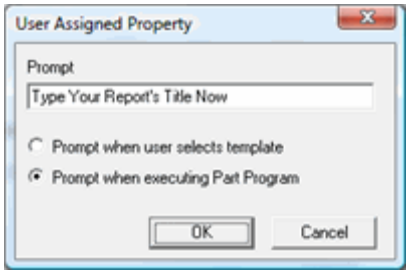
- *プロパティを削除するには*、プロパティを選択して*赤色のX*をクリックします。オブジェクトのプロパティはユーザー定義可能ではなくなり、テンプレートで既に定義済みのデフォルト値が使用されます。

[プロパティの削除]アイコン

- *プロパティを並べ替えるには*、移動したいプロパティを選択して*赤色の上下矢印*をクリックします。これは、選択されたプロパティをリスト内で上下に移動します。

赤色の上矢印および下矢印

- *プロパティのプロンプト、またはプロンプトが表示されるタイミングを変更するには*、**[要素]**列内のプロパティをダブルクリックします。PC-DMIS は
ユーザー割り当てプロパティ *ダイアログ ボックス*を表示して
、変更を作成できます。



[ユーザー指定のプロパティ]ダイアログ ボックス

重要: ユーザーは**ユーザー割り当てのプロパティ** ダイアログ
ボックスから**テンプレートを選択した**ときに**プロンプト** を選択した場合、 PC-DMIS
はすべてのユーザー割り当て値に一度だけプロンプトを表示します。測定ルーチンについて、すべてのデータテンプレートをクリアするまでに、PC-DMIS
は自動的に初期プロパティ値を使用します。この章の「テンプレート関連データのクリア」を参照してください。
[レポートの実行時にプロンプトを表示]を選択した場合、測定ルーチンが実行される度に[ユーザー割り当てプロパティを定義]ダイアログ ボックスが自動的に表示されます。

テンプレート関連データの消去

[ファイル| レポート| テンプレート関連データをクリア] メニュー項目は現在されるレポート
テンプレートがある現在測定ルーチンに使用される以下の項目を削除します:

- 全部のユーザー割り当てプロパティ値。これらをクリアすることにより、PC-DMISは再び現在のテンプレートのすべてのユーザー割り当てられているプロパティの値をプロンプトします。
- ラベルの表のカスタマイズ。
- ラベル配置は **CADReportObject** オブジェクトをカスタマイズします。
- すべての**CADReportObject** オブジェクトの回転やズームへの変更.
- 他のオブジェクトの変更、追加、またはページ重複。

イベントおよびVisual Basicコードについて

このセクションは少なくともいくつかのVisual
Basicのプログラミング言語背景を持つのを前提とします。Visual
Basicを学ぶ必要がある場合には、本または件名の他の外部リソースを参照してください。

プロパティ ダイアログ
ボックスの**イベント**セクションには、テンプレートまたはオブジェクトサポートを作成するイベントハンドラ関数のリストが含まれます。イベントハンドラ関数は、イベントが指定したオブジェクトに発生する関数の名前で示唆されるたびに呼び出されます。その関数が呼び出される場合、その関数内のすべてのVisual Basicコードが実行されます。

利用可能なイベントハンドラ関数

EventClick
マウスでオブジェクトをクリックしたときに呼び出されます。

EventDblClick
マウスでオブジェクトをダブルクリックしたときに呼び出されます。

EventDragDrop
別の「ドラッグ可能な」アイテムがオブジェクトにドロップされたときに呼び出されます。

EventDragEnter
ドラッグ可能なアイテムが最初にオブジェクトにドラッグされたときに呼び出されます。

EventDragOver
ドラッグ可能なアイテムがオブジェクトの上をドラッグしたときに呼び出されます。

EventInitialize
別のハンドラがオブジェクトで呼び出される前にフォームが最初に実行モードに入ったときに呼び出されます。

EventMouseDown
マウスがオブジェクト上にある間にマウスボタンが押されたときに呼び出されます。関数に引き渡されるパラメータは、Shift
キーが押された場合は、どのボタンが押されたかを示し、マウスボタンが押された時点のマウスの座標を示します。

EventMouseMove
マウスがオブジェクトの上を通過したときに呼び出されます。関数に引き渡されるパラメータは、Shift
キーが押された場合に、どのボタンが押されたかを表示し、そして、移動イベントが送られた時点でのマウスの座標が表示されます。

EventMouseUp
マウスボタンがオブジェクト上にリリースされるときに呼び出されます。関数に引き渡されるパラメータは、Shift
キーが押された場合に、どのボタンが押されたかを表示し、そして、マウスボタンがリリースされた時点でのマウスの座標を示します。

EventPumpData
これはおそらくフォームエディタで最も広く使用されるハンドラ関数です。オブジェクトに影響を与える可能性のあるBASIC変数の値が変わるたびに**EventPumpData**
が呼び出されます。オブジェクト自身も更新するようにしたい場合、個々のオブジェクトで（またはレポート内のすべてのオブジェクトに）**EventPumpData**
を呼び出されるようにコードを強制することができます。基本的に、変数の値またはその他のオブジェクトの状態に基づくオブジェクトが自分自身を再初期化する必要がある任意のコードが**EventPumpData**で作成される必要があります。

EventTerminate
レポートが閉じているとき、または実行モードから編集モードにフォームエディタでトグルされた場合に呼び出されます。

このハンドラ関数は**セクション**の 編集環境で利用可能です。

EventReportData
これはおそらくレポートとラベルのテンプレートエディタで最も広く使用されるハンドラ関数です。レポートデータが現在のテンプレートと接続を確立するたびに呼び出されます。

その主な機能は、ラベルに配置する独自のActiveXコントロールを作成できます。たとえば、PC-DMIS最高フィットと要素分析
コントロールはコマンドプロンプトからこのイベントを使用してActiveXコントロールにデータにを発送します。これを見るには、best_fit_analysis.
lblという名前のラベルを開いて、ラベルの内部ActiveXコントロールをクリックし、そのイベントハンドラ内でBASICのコードを見てください。シングルの行は、コントロールにコマンドからのデータを渡します。

データをユーザー自身のActiveX
コントロールに引き渡すことで、オートメーションコマンドを使用してデータを抽出および操作できます。PC-DMIS
オートメーション情報のPcdbasicヘルプファイルを参照してください。

重要:
このイベントは、レポートテンプレートを適用する場合または測定ルーチンの実行中、コマンドごとに1回呼び出されます。

イベントハンドラにコードを追加します

任意のイベントハンドラにBASIC言語のコードを追加するためには：

1. イベントハンドラのリストから関数のエントリをクリックしてください。既に記入済みのサブルーチンステートメントの開閉に伴い、ミニVisual
   Basic言語エディタが表示されます。

2. エディタに追加BASIC言語のステートメントのコードを入力します。

3. **[OK]** をクリックします。

4. コードをテストします。

   - *フォームエディタを使用している場合*、Ctrl +
     Eキーを押して実行モードに入ることでフォームをテストします。

- *1つのテンプレートエディタを使用している場合*、テンプレートをレポートに適用し[**レポート ツール バー**]から [**レポートを再描画**]アイコン
を使用してレポートを再描画することでコードをテストします。

注記:
クリックボタン、リスト、フィールド、またはその他のインタラクティブな要素と相互作用しないため、レポートを使用している場合、唯一の利用可能なイベントハンドラ関数が **EventReportData** 関数です。

イベントの例1: EventClickイベントを使用したコードの呼び出し

このイベントの例は**ボタン**
オブジェクトを使用します。これをテストするには、フォームエディタを使用する必要があります。

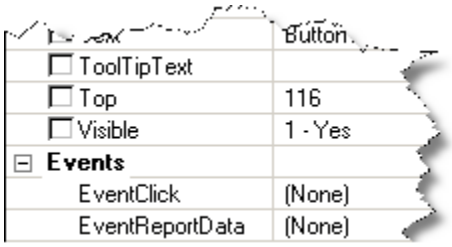
1. [**表示 | フォーム エディタ**]を選択し、フォーム エディタを開きます。

2. 最初に、 **オブジェクト**ツールバーの**ボタン**アイコン
をクリックし、フォーム上でボタン用に四角形にドラッグしてボタンをフォームに挿入します。

3. ボタンが *選択されているか*(ハイライトされているか)確認してください。

4. ボタンを右クリックしてダイアログを起動してボタンのプロパティを表示します。

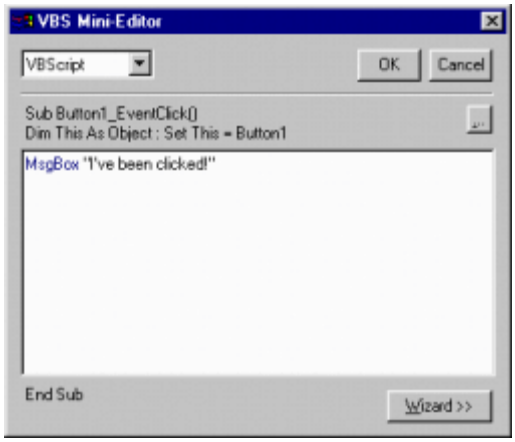
5. 必要に応じて、[**イベント**]セクションの隣にある[**+**]記号をクリックし、リストを下に伸ばします。ボタン オブジェクト用に*利用可能な全てのイベント ハンドラ関数*のリストが表示されます。



ボタンオブジェクトのイベントの例

6. リスト内の**EventClick**機能をダブルクリックします。**VBSミニエディタ**と題するVisual Basic Editorが開きます。

7. ***VBS ミニエディタ***内で**EventClick**関数に次のコードを追加します:
   `MsgBox 「クリックしました」。`



8. **VBS ミニエディタ** の右上隅にある**OK**ボタンをクリックしてください。**プロパティシート**を閉じます。

9. **ファイル|保存**を選択してレポートを保存します。現在実行モードでレポートをテストする準備が整いました。

10. 実行モードにスイッチします(CTRL + Eを押してください)。

11. 作成したボタンをクリックしてください。「**クリックされました**」のテキストが表示されたメッセージボックスが現れるはずです。

この単な例はスクリプトのフォームとイベントハンドラの基本を示しています。

イベントの例 2: Triggered イベントでのオブジェクト属性変更

この運動は上の運動をフォローし、それを最初に終了すべきです。この例もフォームエディタを使用します。

ボタンがクリックされた場合、その他のオブジェクト（テキストオブジェクトのテキスト）のプロパティを変更したいと仮定します。

1. **[表示 | フォーム エディタ]**を選択し、フォーム エディタを開きます。
2. [編集]モードに戻ります(CTRL+Eを押します)。
3. 新しいテキスト オブジェクトを作成します。
4. テキスト
   オブジェクトのプロパティを開きます(オブジェクトを選択し、マウスを右クリックします)。
5. テキストの項目の **オブジェクトコード**
   プロパティは「Text1」と読み込めるのを確認します。**オブジェクトコード**
   プロパティはBASICコードからのオブジェクトに参照される名前です。
6. 必要に応じて、**[イベント]**セクションの隣にある**[+]**記号をクリックし、リストを下に伸ばします。
7. **EventInitialize**ハンドラ関数をダブルクリックします。**VBS ミニエディタ** が開きます。
8. **EventInitialize**関数に次のコードを追加します：
   これを設定= [テキスト1]
9. 新しい行を得られるようにENTERキーを押してください。次の行には、以下のコードを入力してください：
   This.Text = 「ボタンがまだクリックされていない」
10. エディタを閉じるには、**Ok** ボタンをクリックして下さい。
11. 一旦オブジェクトテキスト１は説明するように設定された場合、前の演習で追加されたボタンオブジェクトのプロパティシートを開きます。
12. **イベント** タブをクリックします。
13. **EventClick**機能をダブルクリックしてください。
14. 前の例で追加されたBasicコードを次の２行に置き換えます：
    1行目: `MsgBox` 「クリックされました。`Text1`のテキストを修正します」

    2行目: `Text1.Text=` 「ボタンはクリックされました!!!」
15. **OK** ボタンをクリックして**VBS ミニエディタ**を閉じます。
16. **プロパティ シート**を閉じます。

17. [実行]モードに切り替えます(Ctrl+Eを押します)。Tex1の **EventInitialize** 関数に追加されたコードは、最初、テキスト1が「ボタンはまだクリックされていません」と読まれるよう設定します。

18. ここで、ボタンをクリックします。「**私はクリックされており、Text1のテキストを修正するところです**」というメッセージが表示されるはずです。メッセージボックスを閉じると、Text1のテキストは"**ボタンがクリックされました!!!**"と変更されます。.

この例は、フォームの任意のオブジェクトのプロパティがBASICのコードから **ObjectCode.property_name** 構文を通してアクセスする方法を表示します。

オブジェクト メソッドへのアクセス

多くのオブジェクトはそのプロパティに加えて様々なメソッドをサポートします。これらのメソッドは、BASICのコードから **ObjectCodeethod_name** 構文を通してアクセスすることがあります。これは、**VBS Miniエディタ**内に、その場のオブジェクトのオブジェクトコードを、最後にピリオドを付けてタイプ入力することによって、そのオブジェクト用に、どのような属性やメソッドが利用可能か、見ることができることを意味します。ピリオドがタイプ入力された瞬間に、小型のウィザードがポップアップし、そのオブジェクト用に利用可能なメソッドや属性を表示します。

「Text1」という名前のテキストオブジェクトを持つ場合、表示されるテキストオブジェクトに期間を持つ「Text1」と使用可能なメソッドまたはプロパティのリストを入力できます。

イベントハンドラ関数内に宣言された変数(**var_type** 構文としてBASIC Dim **var_name** 構文を通して)はそのイベントのハンドラ関数の中でのみスコープ内にあります。テンプレートやフォーム内の全BASICコードからアクセス可能な変数、関数、または、サブルーチン—特定のレポート用のグローバルスコープを持つ変数を宣言したい状況が必ずあるでしょう。テンプレート エディタとフォーム エディタで、これらの宣言を行うことができます。

[ローカル変数]プロパティを使用したグローバル変数の宣言

あらゆる標準的なデータ型(文字列、整数型、倍精度等)のグローバル変数を宣言し、Basicウィザードに表示したい場合は、**[TheFrame/TheView]** または **[セクション]**の[**LocalVariables**]プロパティを利用することができます。

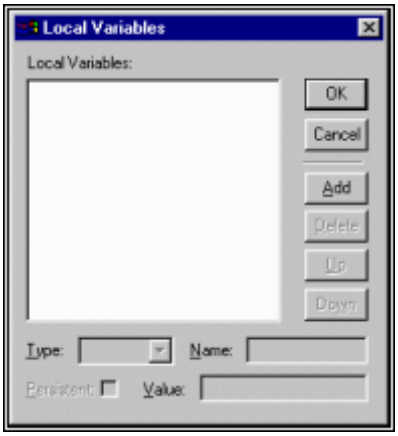
LocalVariables プロパティを使用するには:

1. オブジェクトを右クリックして **フレーム/ビュー**の**プロパティシート**を表示します。

2. **設定** タブを選択してください。

3. **LocalVariables** プロパティにスクロールします。

4. **ローカル変数**プロパティダブルクリックして**ローカル変数**ダイアログボックスを表示します。



ローカル変数ダイアログ ボックス

[**ローカル変数**]ダイアログボックスで、追加、削除、名前を付けるための基本的なタイプのいずれかのローカル変数、および初期値を設定することができます。再び、これらの変数は、このテンプレートやフォームに対してグローバルであり、このテンプレートやフォームのために書かれたBASICのコードのいずれかからアクセスできるようになります。彼らはまた、**スクリプトウィザード**の[**ローカル変数**]領域に表示されます。

注記:「LocalVariables」という名前は誤で、**ローカル変数** ダイアログボックスで宣言された変数が実際には特定のテンプレートまたはフォームにグローバルスコープを持ちます。それは変数がこの特定のテンプレートとフォームに「ローカル」でおよびその他のフォームにアクセスできないと宣言したのを表示します。それにもかかわらず、彼らはグローバル変数として彼らが定義されるテンプレートまたはフォームに利用可能な他のルーチンの場所に設定されます。

変数、関数、またはサブルーチンの宣言/定義

レポートにすべてのBASICコードからアクセスできる変数、関数、またはサブルーチンを宣言および/または定義するには、プロパティシートの**PC- DMIS**
タブに表示された**フレーム/ビュー**の**LocalDecls**プロパティを使用します。手順は次のとおりです:

1. オブジェクトのプロパティシートを開きます。

2. ドロップダウンリストから**フレーム/ビュー**を選択します。

3. [**PC- DMIS**]タブをクリックします。

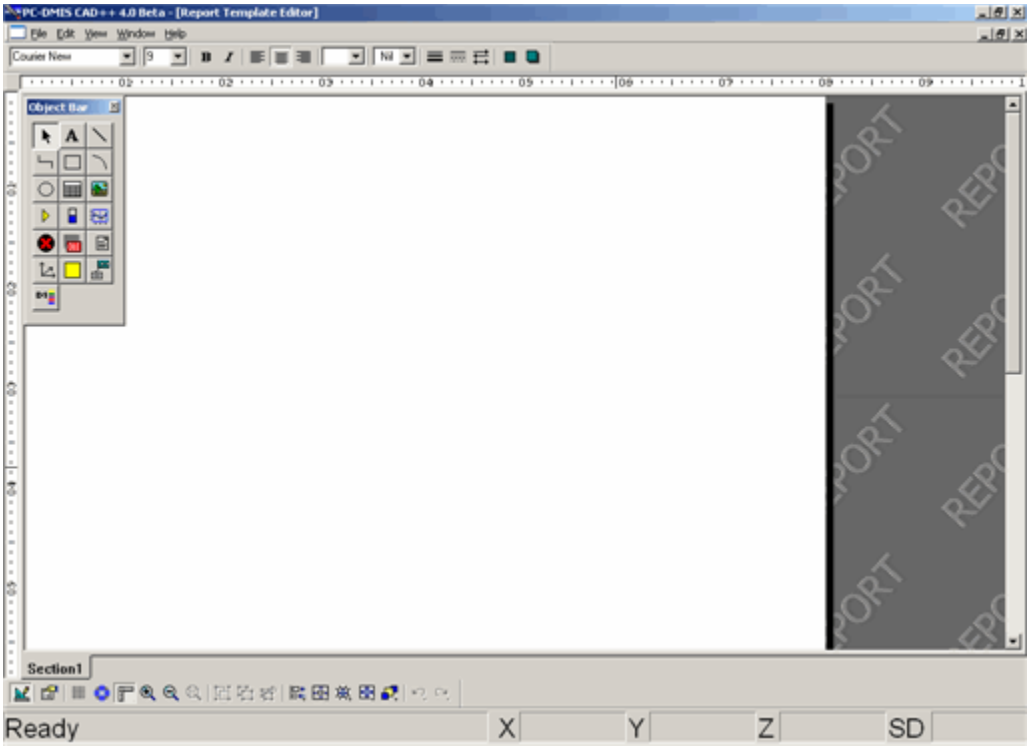
4. プロパティシートの **LocalDecls** 項目をダブルクリックして**VBS ミニエディタ**を表示します。

変数の宣言と関数またはサブルーチン定義を含んで、このウィンドウに任意のBASICのコードを追加できます。すべての変数、関数、またはサブルーチン宣言がここにグローバルされ、しかし**Script Wizard**には表示されます。

レポート テンプレート エディタの説明

ファイル| レポート| 新規作成 | レポートテンプレートを選択してレポートテンプレートエディタにアクセスできます。**ファイル| レポート| 編集 | レポートテンプレート**を選択して既存のレポート テンプレートを開くこともできます。

PC-DMIS は新しいウィンドウでレポート テンプレートを表示します。



レポート テンプレート エディタ

レポートテンプレートエディタは作業エリアとして機能し、様々なオブジェクトをドラッグ、サイズまた配置して、そのプロパティを設定します。白いエリアのトップにオブジェクトを配置し、テンプレートまたはセクションと呼ばれます。PC-DMISの以前のバージョンのHyperViewレポートと動作した場合、それは本質的に機能とほぼ同じ方法になったのと同じユーザーインターフェイスの多くな要素が含まれますので、このエディタで自宅である感じます。

テンプレートを使用した新しいレポート作成方法では、レポートおよびラベル テンプレート エディタは*実行モード*にすることはできません。編集モードのみで開かれ、切り替えることができません。フォームエディタで実行モードはまだ機能します。

起動モード -
このモードは、フォームエディタで動作します。実行モードでは、フォームを実行して(走らせて)、実際の測定ルーチンの実行環境でどのように見え、作用するかをテストすることが可能です。

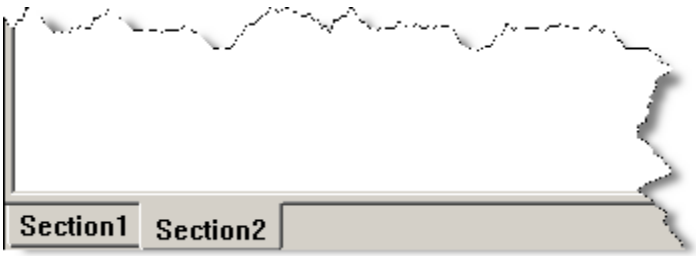
編集モード -
これはすべてのレポートエディタのデフォルトのモードであり、またレポートとラベルエディタのテンプレートのみのモードです。

CTRL+Eを押すと実行モードと編集モードの間の切り替えを行うことができます。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニュー バー
- フォント バー（ツールバー）
- オブジェクトバー（ツールバー）
- レイアウトバー（ツールバー）
- オブジェクトプロパティシート
- セクション
- グリッドの使用

セクションについて



サンプルセクション

セクションはレポートのテンプレートのメイン編集エリアを構成します。レポートテンプレートエディタのこれらのタブされたスクロールエリアには、オブジェクトを現在のレポートに挿入できま

す。オブジェクトがレポートに表示される場合、セクションからより細かくコントロールを与えられます。

報告書テンプレートエディタで、簡単にテンプレートに追加セクションを追加して、簡単にパワフルなマルチセクションレポートを作成できます。しかし、セクションはページと同じではありません。1つのセクションに挿入されたオブジェクトは他のセクションでは表示されませんが、同じセクションの複数のページで表示されます。このアプローチはヘッダとタイトルのようにスタティックを残りたいレポートアイテムを作成する複雑さを減します。

たとえば、テンプレートの最初のセクションにレポートや作成者のデータに関する説明を配置し、2番目のセクションに **TextReportObject** 、3番目のセクションに**CadReportObject**
を配置できます。レポート
データの長さ次第では、そのレポートの各セクションが数ページに渡る可能性があります。

セクションはレポートテンプレートエディタ *のみ*
使用されます。バージョン4.0の前に、HyperViewレポートのメインの編集エリアが「フレーム/ビュー」と呼ばれます。この名前はフォームエディタとセクションが使用されないラベルテンプレートエディタで使用されます。レポートテンプレートエディタから、エディタの"セクション"はレポートオブジェクトを配置するところです。

新しいセクションを追加するには

1. レポートテンプレートエディタのウィンドウが最大化であるのを確認してください。
2. テンプレートの下にスクロールします。
3. **セクション1** タブを右クリックします。
4. ショートカットメニューから **タブを追加**を選択します。PC-DMISは新しいセクション **セクション2**をテンプレートに挿入します。テンプレートは
   *このように*二つのセクションを持ちます。

セクションを削除するには

1. レポートテンプレートエディタのウィンドウが最大化であるのを確認してください。
2. テンプレートの下にスクロールします。

3. 削除したいセクションタブを右クリックします。
4. ショートカットメニューから**削除** を選択します。PC-DMISはこのセクションを削除します。

セクションのプロパティを変更するには

1. レポートテンプレートエディタのウィンドウが最大化であるのを確認してください。
2. テンプレートの下にスクロールします。
3. セクションを右クリックします。**プロパティ** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 必要に応じてプロパティを変更します。セクションの名前を変更するには、セクションの **FormCode** プロパティの名前を変更します。

スパニングツリーコマンドはセクション間で設定してページのレイアウトと校合されたページの出力をコントロールします。

2つのセクション(ページ)のオブジェクトプロパティを使用すると、あるレポートテンプレート・セクションから別のセクションまでのコマンドセットに跨ることができます。これは、同じコマンドセットを使用しながら、さまざまなレイアウトで別のページを作成することができます。また、これらのプロパティを使用してレポートをページ順に並べて出力できます。**コマンドセット** と**ページの最大数**プロパティに関する説明とサンプルは「セクション及びページプロパティ」トピックを参照してください。

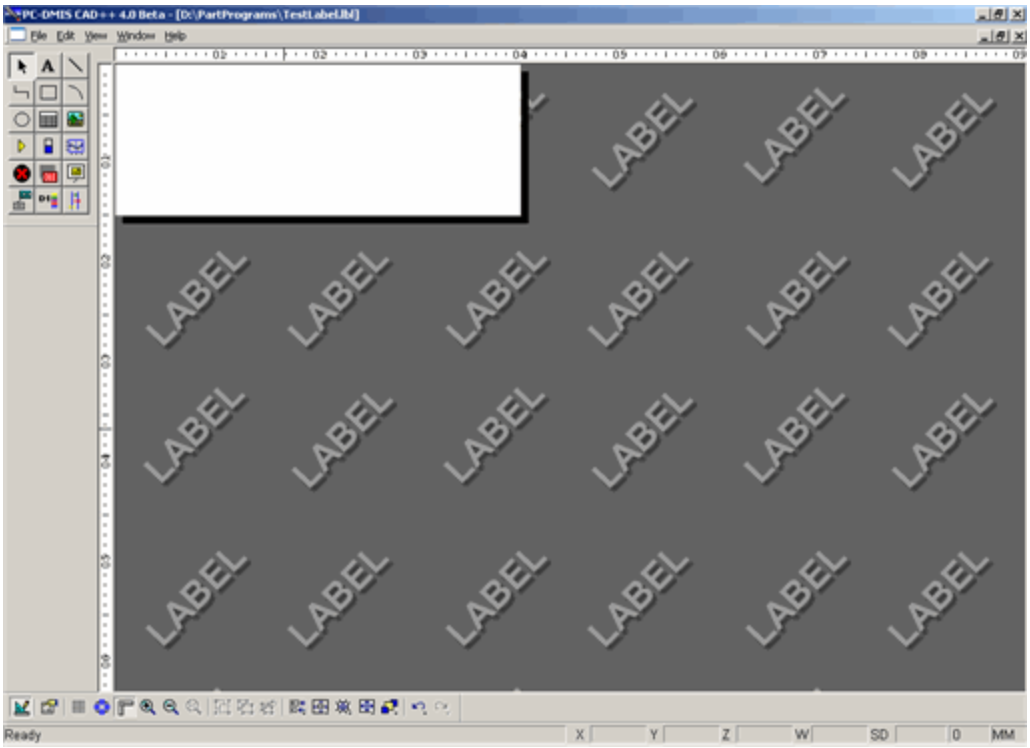
セクションに特有の特性

セクションとページの属性を参照してください。

ラベル テンプレート エディタについて

ファイル| レポート| 新規作成 | ラベル テンプレートを選択してラベルテンプレートエディタにアクセスできます。**ファイル| レポート| 編集 | ラベル テンプレート**を選択して既存のラベル テンプレートを開くこともできます。

PC-DMIS は新しいウィンドウでラベル テンプレートを表示します。



[ラベル テンプレート]エディタ

このエディタはレポートエディタのテンプレート、 フォームエディタに似ています;
その**オブジェクトバー**のいくつかの違いを除いてユーザーインターフェイスは基本的に同じです。
ラベルテンプレートエディタの オブジェクトバーから任意のオブジェクトをラベル
テンプレートに技術的に置く場合、GridControlObjectで一般的に動作します。ラベル
テンプレートは"LABEL"の背景を持った大きな空白の領域です。

テンプレートを使用した新しいレポート作成方法では、レポートおよびラベル テンプレート
エディタは実行モードにすることはできません。編集モードのみで開かれ、切り替えることができ
ません。フォームエディタで実行モードはまだ機能します。

起動モード -
このモードは、フォームエディタで動作します。実行モードでは、フォームを実行して(走らせて)、実際の測定ルーチンの実行環境でどのように見え、作用するかをテストすることが可能です。

編集モード -
これはすべてのレポートエディタのデフォルトのモードであり、またレポートとラベルエディタのテンプレートのみのモードです。

CTRL+Eを押すと実行モードと編集モードの間の切り替えを行うことができます。

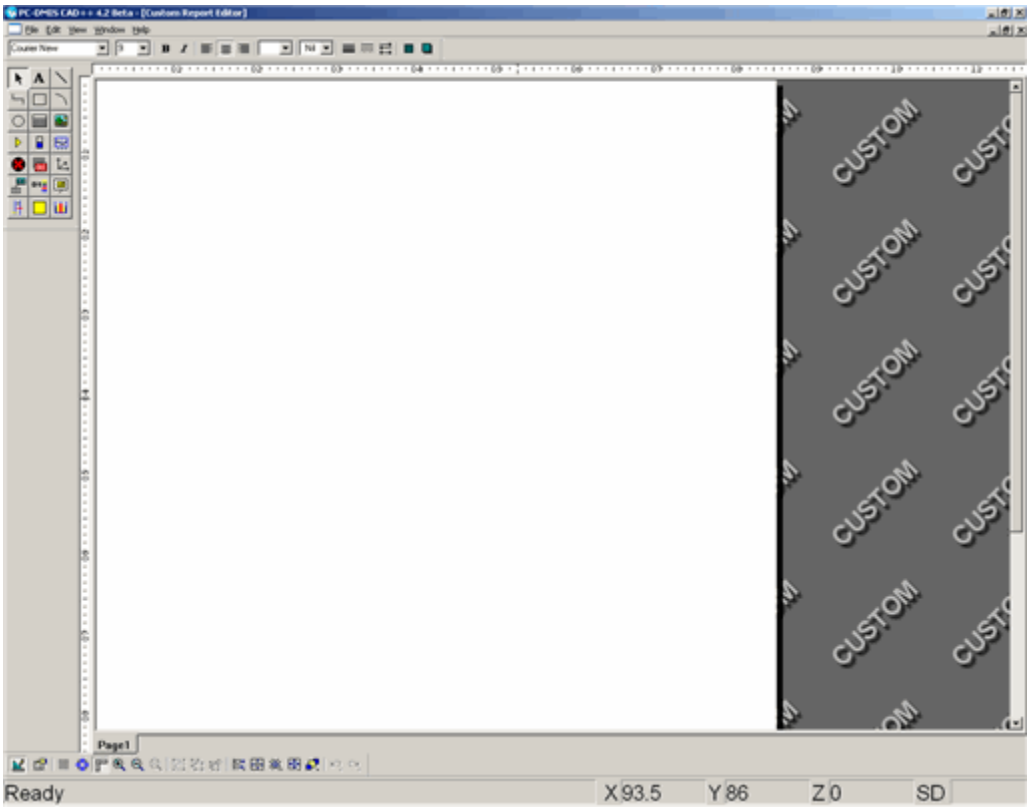
エディタには次の要素が含まれます:

- メニュー バー
- フォント バー（ツールバー）
- オブジェクトバー（ツールバー）
- レイアウトバー（ツールバー）
- オブジェクトプロパティシート

カスタム レポート エディタについて

ファイル| レポート| 新規作成 | カスタム レポートを選択してカスタム レポート
エディタにアクセスできます。必要に応じて、**ファイル| レポート| 編集| カスタム
レポート**を選択して現在の測定ルーチン用の既存のカスタム レポートを開くこともできます。

新しいウィンドウにカスタム レポート
エディタが表示されます。編集ウィンドウが開いている場合、自動的に概要モードに切り替わります。



カスタム レポート エディタ

このエディタはレポートエディタのテンプレート、ラベルテンプレートエディタ、およびフォームエディタに似ています；その **Object Bar**のいくつかの違いを除いてユーザーインターフェイスは基本的に同じです。

カスタム
レポートは"CUSTOM"の背景を持った大きな空白の領域です。このエディタを使用すると、テンプレートは作成されず、実際のレポートが作成されレポート
ウィンドウに表示されることにご注意ください。通常、このエディタは概要モードの編集ウィンドウと並べて使用し、必要なオブジェクトを概要モードからカスタム
レポートにドラッグする必要があります。「カスタム レポートの作成」を参照してください。

カスタム レポート エディタを使用中は、ハイパービュー
エディタで行ったようにレポートまたはラベル テンプレート
エディタを実行モードにすることはできません。これは編集モードで開き、また切り替えすることはできません。フォームエディタで実行モードはまだ機能します。

起動モード -
このモードは、フォームエディタで動作します。実行モードでは、フォームを実行して(走らせて)、実際の測定ルーチンの実行環境でどのように見え、作用するかをテストすることが可能です。

編集モード -
これはすべてのレポートエディタのデフォルトのモードであり、またレポートとラベルエディタのテンプレートのみのモードです。

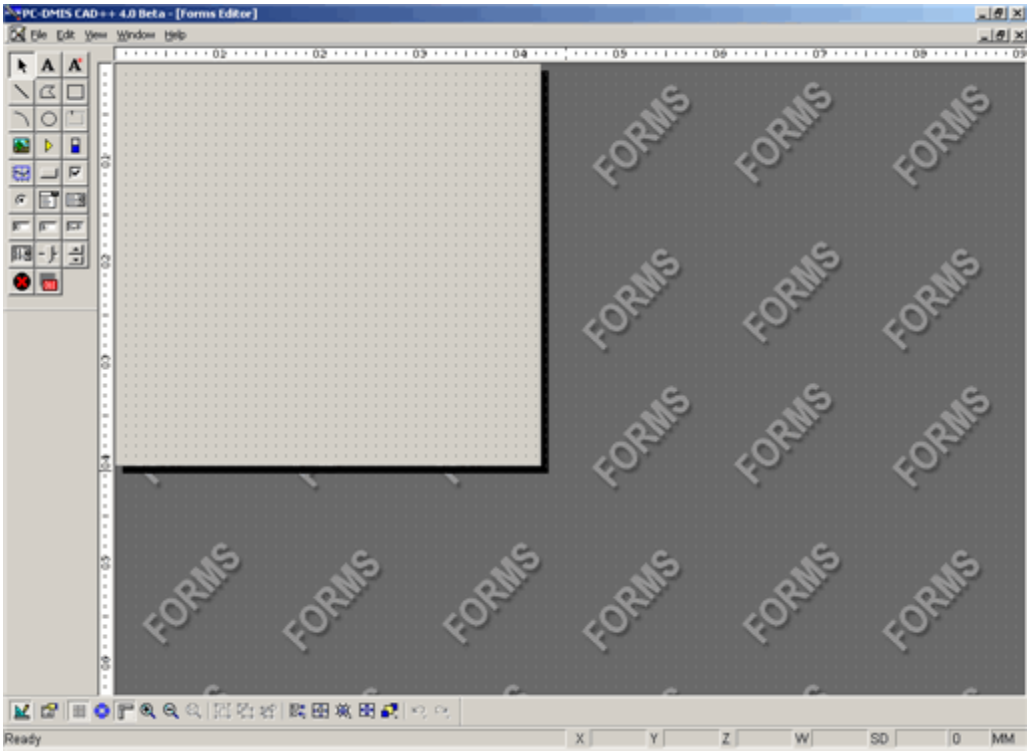
CTRL+Eを押すと実行モードと編集モードの間の切り替えを行うことができます。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニュー バー
- フォント バー（ツールバー）
- オブジェクトバー（ツールバー）
- レイアウトバー（ツールバー）
- オブジェクトプロパティシート

フォーム エディタの説明

表示 | フォームエディタまたは**ファイル| レポート| 新規作成 | フォームレポート**を選択してフォームエディタにアクセスできます。新しいウィンドウにフォームエディタが表示されます。



フォーム エディタ

フォームエディタは作業エリアとして機能し、様々なインタラクティブなフォームオブジェクト（ボタン、リストボックス、編集ボックスなど）をドラッグ、サイズまた配置して、そのプロパティを設定します。オブジェクトはフォームと呼ばれるグレーの大きな領域に配置されます。PC-DMISの以前のバージョンのHyperViewレポートと動作した場合、
それは本質的に機能とほぼ同じ方法になったのと同じユーザーインターフェイスの多くな要素が含まれますので、このエディタで自宅である感じます。

新しいテンプレートを使用したレポート作成方法により、フォーム
エディタのみが実行モード機能を使用できます。レポートとラベルテンプレートエディタはそれを使用しません。

起動モード -
このモードは、フォームエディタで動作します。実行モードでは、フォームを実行して(走らせて)、実際の測定ルーチンの実行環境でどのように見え、作用するかをテストすることが可能です。

編集モード -
これはすべてのレポートエディタのデフォルトのモードであり、またレポートとラベルエディタのテンプレートのみのモードです。

CTRL+Eを押すと実行モードと編集モードの間の切り替えを行うことができます。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニュー バー
- フォント バー（ツールバー）
- オブジェクトバー（ツールバー）
- レイアウトバー（ツールバー）
- オブジェクトプロパティシート
- オブジェクトシート

テンプレート作成

PC-DMISはいくつかのほとんどのユーザーのニーズに合うよう事前設計されたテンプレートが同梱されていますが、 もちろん強力なテンプレートエディタを徹底的に活用し、ユーザー独自のレポートおよびラベルテンプレートを作成することも可能です。さらに、フォームエディタを利用してよりインタラクティブな方法でプログラムの実行およびレポート作成を行うこともできます。

次のトピックではレポート テンプレートおよびラベル テンプレートエディタを使用したユーザー独自のテンプレートを作成する方法について説明します。

ヒント:
はじめにテンプレートをレポートしますか。「レポートテンプレートの作成」と「ラベルのテンプレートの作成」チュートリアルをフォローしてください。

レポートとレポート テンプレートについて

PC-DMISの古いバージョンでは、各測定ルーチンに別のレポートを作成する必要がありますが、今はもはやにありません。現在、PC-DMISはレポートのテンプレートを使用します。レポートはレポートテンプレートではなく、レポートの説明です。テンプレートがPC - DMISはがどのデータをレポートに作成して、どこに行って、何かのようになるのを説明します。1つ以上の測定ルーチンにレポートテンプレートを使用でき、迅速かつ簡単に外観を標準化し、いくつかのレポートを感じます。

レポートエディタのテンプレート内にテンプレートを作成します。レポートテンプレートファイルは .rtp の拡張子を持ち、PC - DMISのレポートテンプレートエディタに作成されます。

レポートテンプレートファイルを希望に応じて単純または複雑に作成することができます。簡単なレポート テンプレートが、単一の **TextReportObject**を含むだけである一方、複雑なレポート テンプレートは、いくつかの異なるオブジェクト、ビット マップ画像、形、または、レポート データからの表示内容を正確に詳述する、レポートの式言語を持つ項目さえ含む可能性があります。

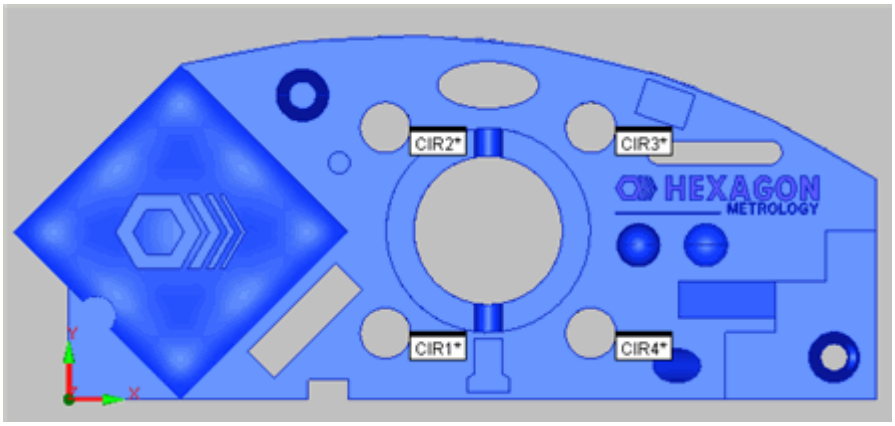
重要事項: レポート テンプレートのファイル名拡張子 **.rtp** を、旧式の HyperView レポート ファイル名拡張子 **.rpt**と混同しないで下さい。これらは完全に別のファイル形式です。

チュートリアル — レポート テンプレートの作成

このトピックでは、非常に基礎的なチュートリアルを順を追って説明し、いくつかのオブジェクトおよびラベルの付いた簡単なレポート
テンプレートを作成します。ここでは、ユーザーが独自のレポート
テンプレートを作成して使用するために必要な連携操作の基本概要を説明します。

注記:
エディタテンプレートの使用方法について良好な基礎を与えるために、このチュートリアルはレポートテンプレートを最初から作成するのを表示します。しかし、実用化に、お客様のニーズに合うために1つの標準テンプレートをカスタマイズするのは容易にほとんどの可能性を見つけます。

このチュートリアルを開始する前に、単純な測定ルーチンを作成してそれは単純なパーツに4つの円を測定することができます。このチュートリアルでは、*Hexagon社のテスト用ブロック(Hexblock_Wireframe_Surface.igs)*を使用します。



これと同じな方法で4つの円を測定する測定ルーチンを作成します。

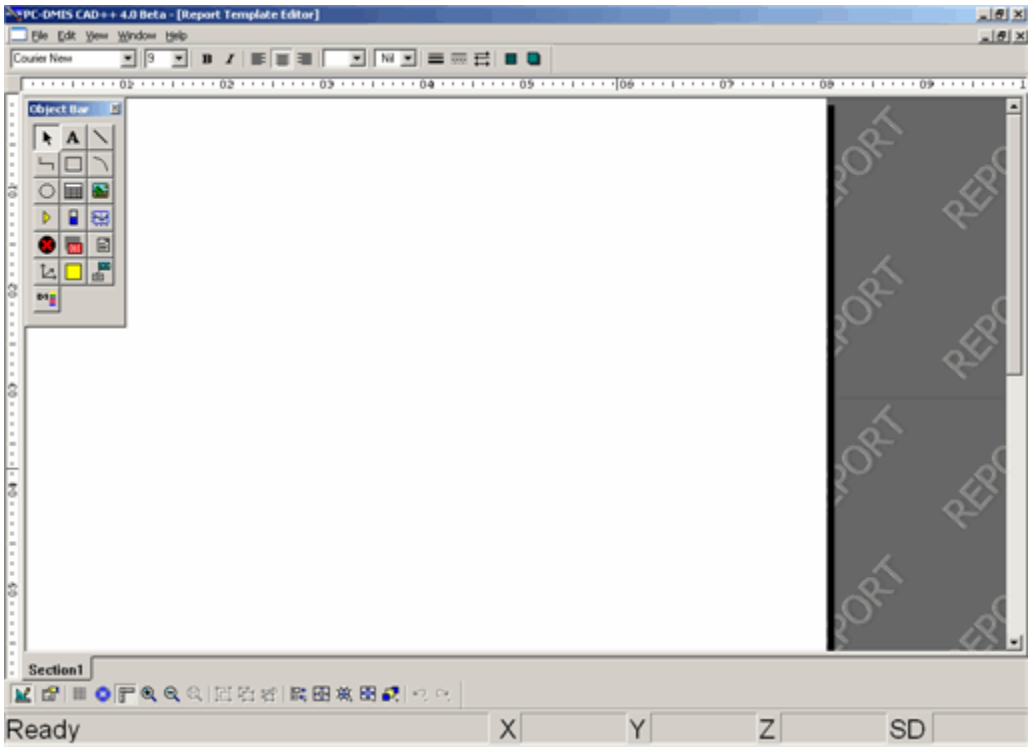
ステップ 1: 空白のレポートのテンプレートを作成します

1. ファイル| レポート| 新しい| レポートテンプレート を選択してレポート
   テンプレートエディタにアクセスします。空のレポートテンプレートは自動的に表示されます。

2. マウスの右ツールバーエリアをクリックしてツールバーを削除して未使用のツールバーを隠します。

3. **ビュー** メニューから開いているウィンドウを選択して未使用のPC - DMISウィンドウを隠します。

4.
エディタのウインドウをクリックして、テンプレートエディタを最大化します。ユーザはエディターの背景上で「REPORT」という言葉を見るべきで、また、エディターは底で「セクション1」タブを持っているべきです。ここでレポートテンプレートエディタは*次のように*表示されるはずです:



ステップ1: レポート テンプレート エディタ

ヒント: 1つのテンプレートエディタと作業している場合、それは通常のPC - DMISのツールバーとウィンドウの非表示に役に立って、これによりいくつかの画面スペースを解放します。頻繁にテンプレートで作業する場合、テンプレートの保存画面のレイアウトを作成することがあります。レイアウト情報については、「ツールバーの使用」の章にある「ウィンドウレイアウト ツール バー」トピックを参照して下さい。
また、**ファイル|レポート**
コマンドで独自のツールバーを作成するためにも役立ちます。カスタムツールバーを作成する方法について、「ユーザー

インターフェースのカスタマイズ」の項にある「ツールバーのカスタマイズ」を参照して下さい。

ステップ2: セクションのタイトル用のテキストオブジェクトの挿入および書式設定

1. **オブジェクト・バー**から、**テキスト・**オブジェクトをクリックしてください。
2. 現在のセクション上で四角形にドラッグすることで、レポートにオブジェクトを挿入できます。マウスボタンを離すと、
   オブジェクトが選択され、オブジェクトの各コーナーに*ハンドル*と呼ばれる緑色の小さな正方形が現れます。

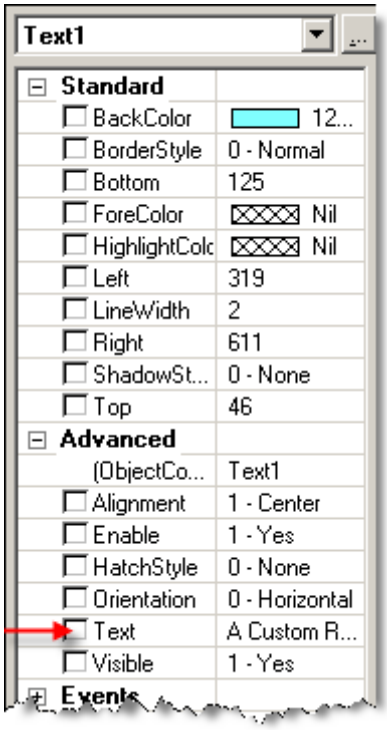
   ハンドルが表示されたテキスト オブジェクトの例
3. 挿入した **テキスト** オブジェクトを選択し、
   緑のハンドルをドラッグしてそれは1インチの高さと6インチの長さを持ちます。トップの**ルーラーバー**
   と必要に応じるエディタの左の境界を使用してください。ルーラーは利用できない場合には **ビュー| ルーラーバー** を選択してください。
4. **テキスト** オブジェクトを右クリックします。
5. **BackColor** プロパティを選択してまたそれを水色の色に変更します(0.255.255)。
6. **ForeColor** プロパティを選択してまたそれをダークブルーの色に変更します(0.0.128).
7. **BorderStyle** プロパティを選択してまたそれを**正常**に変更します。
8. **LineWidth** プロパティを選択してこの値を5に変更します。
9. **テキスト** プロパティを選択してまたそれを「カスタム レポート」に変更します。
10. **フォント** プロパティを選択します。**フォント** ダイアログ ボックスが表示します。
11. **サイズ**を20に、**フォントスタイル**を太字に、および**フォント**をArialに変更します。
12. **[OK]** をクリックします。

テキストオブジェクトをフォーマットしました。*このように*なります：

ステップ3: プロパティのユーザーの割り当て可能にする

1. 前の手順で作成した**テキスト** オブジェクトを選択してください。

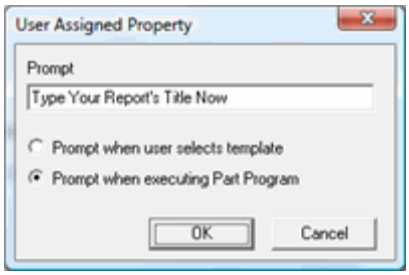
2. オブジェクトを右クリックします。これにより、オブジェクトの**[プロパティ]**ダイアログボックスがエディタの右側に表示されます。ダイアログボックスの右側ではほとんどのプロパティの横に*チェックボックス*が見えます。これらのチェックボックスはユーザーがどのようなプロパティを定義可能かを決定します。



テキスト
オブジェクト用の属性シートのサンプル。左のユーザが定義可能なチェックボックスを注意します。

3. テキスト
プロパティの左のチェックボックスを選択します。**ユーザー割り当てプロパティ***ダイアログ ボックス*

が表示され、プロパティの値をユーザーに要求されるまたユーザが要求される時のメッセージを確認することを要求しています。



[ユーザー指定のプロパティ]ダイアログ ボックス

4. **プロンプト** ボックスに、「今レポートのタイトルを入力」を入力します。

5. **測定ルーチンが実行された時にプロンプトを表示** オプションを選択してください。

6. **[OK]** をクリックします。**ユーザー割り当てプロパティ** ダイアログ ボックスが閉じます。

7. 左の **BackColor**
プロパティにチェックボックスを選択します。結果ダイアログボックスで、プロンプトに「今すぐあなたの背景色を選択してください」を入力してまた1回以上に
レポートオプションが実行されるときプロンプト オプションを選択してください。

8. **[OK]** をクリックします。**ユーザー割り当てプロパティ** ダイアログ ボックスが閉じます。

この手順で、2つのプロパティを選択してそれらを「ユーザ割り当て」にします。測定ルーチンを実行するユーザはこれらのプロパティを設定することもできるという意味です。

ステップ4: TextReportObjectの追加

1. エディタの**オブジェクトバー**から、 **TextReportObject** *icon*
をクリックします。マウスポインタが十字に矢印ポインタに変わります。

2. テンプレートのセクションにボックスをドラッグしてテンプレートに**TextReportObject**を追加します。PC-DMIS
自動的にいくつかのデフォルトのフィラーレポートテキストを追加します。このレポートにテンプレートを適用する場合、PC-DMIS
は実際のレポートデータを使用します。このフィラーのテキストは単にデザインはどうなようになるかを理解するのに便利です。オブジェクトは*このように*なります：

```
PART NAME  : PL54A.1
REV NUMBER :
SER NUMBER :
STATS COUNT : 1

Active alignment changed to ALIGN1

PLN1=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
CYL1=CYLINDER MEASURED FROM 8 HITS
PLN2=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
Active alignment changed to ALIGN2

PLN3=PLANE MEASURED FROM 4 HITS
DIM PLANEA= FLATNESS OF PLANE PLN3  UNITS=MM
AX   NOMINAL     +TOL       -TOL       MEAS        MAX        MIN
DEV      OUTTOL
M       0.000      0.050      0.000      0.007      0.004     -0.004
0.007      0.000 -#--------
```

サンプルTextReportObject

3. オブジェクトをサイズして、以前に追加された **テキスト** オブジェクトの幅に近いです。クリックしてオブジェクトをサイズでき、オブジェクトを囲む1つの緑色のボックス（またはハンドル）をドラッグできます。

4. 以前に追加した**テキスト** オブジェクトを選択します。SHIFT キーを押したままに**TextReportObject**を選択します。これは、両方のオブジェクトを選択します。

5. 両方とも選んで、彼らがエディタの左右の側の間に中心におかれるように、**レイアウト**を使って、物を同じ幅として、彼らと提携するために、適切な**同等サイズ化**と**センター整列**・アイコンをクリックしてください。

テンプレートは最初のセクションに**TextReportObject** を持つのが必要です。

ステップ5: 新しいセクションをテンプレートに追加する

1. レポートテンプレートエディタのウィンドウが最大化であるのを確認してください。

2. テンプレートの下にスクロールします。

3. **セクション1** タブを右クリックします。

4. ショートカットメニューから **タブを追加**を選択します。PC-DMISは新しいセクション **セクション2**をテンプレートに挿入します。

テンプレートは *このように*二つのセクションを持ちます。

ステップ6: CADReportObjectの追加

1. アクティブなセクションを作成するために**セクション2** タブをクリックしてください。

2. エディタの**オブジェクトバー**から、 **CADReportObject** *アイコン*
をクリックします。マウスポインタが十字に矢印ポインタに変わります。

3. テンプレートのセクションにボックスをドラッグしてテンプレートに**CADReportObject**を追加します。ボックスをサイズしてそれは約6インチの幅4インチの高さを測定します。クリックしてオブジェクトをサイズでき、オブジェクトを囲む1つの緑色のボックスをドラッグできます。

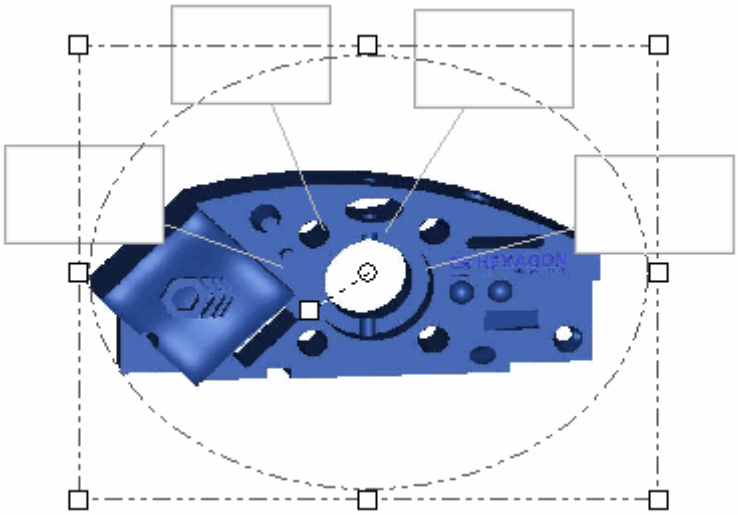
4. ボックスを描画終了した場合、PC-DMISは自動的に**ラベルレイアウトウィザード**を表示します。このウィザードは、偽の部分をいくつかの偽のラベルに囲まれて表示されます。テンプレートエディタで作業中に、これらのダミーの項目は単にエイズを設計されます。パーツの周りをすばやくセットアップラベルに、このウィザードを使用することができます。詳しくは「ラベルのレイアウト]ウィザード」を参照してください。このレポートにテンプレートを適用する場合、PC-DMISは実際のCAD図面とラベルの情報を使用します。

5. ラベルの**ラベル数** ボックスの番号を4に変更します。

6. **レイアウトスタイル** を**楕円パック**に変更します。

7. CAD図形の中心にある、四角形の小さな白いハンドルをクリックし、四角形を時計回りまたは反時計回りにドラッグしてラベルを楕円形のパスに沿って回転させます。

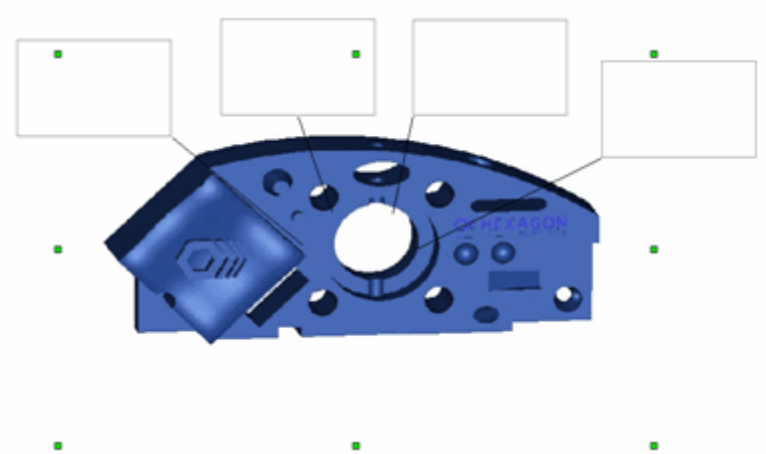
8. **[ラベル レイアウトウィザード]**の**[レイアウトのプレビュー]**エリアが*次のように*なるまで4つのラベル全てをCAD図形の上部に移動します。



レイアウトプレビューエリアはCAD図面上の楕円パックされる4つのラベルを表示します

9. **[OK]** をクリックします。PC-DMISはオブジェクトを**セクション2**に挿入します。

セクション2 レイアウトはこのようにCADReportObjectを含める必要があります：



サンプルCAD レポートオブジェクトはダミーの一部の上の4つのダミーラベルを表示します

ステップ7: 測定情報が表示されるのを定義する

1. **セクション1** タブをクリックして前に挿入される**TextReportObject** を右クリックしてください。

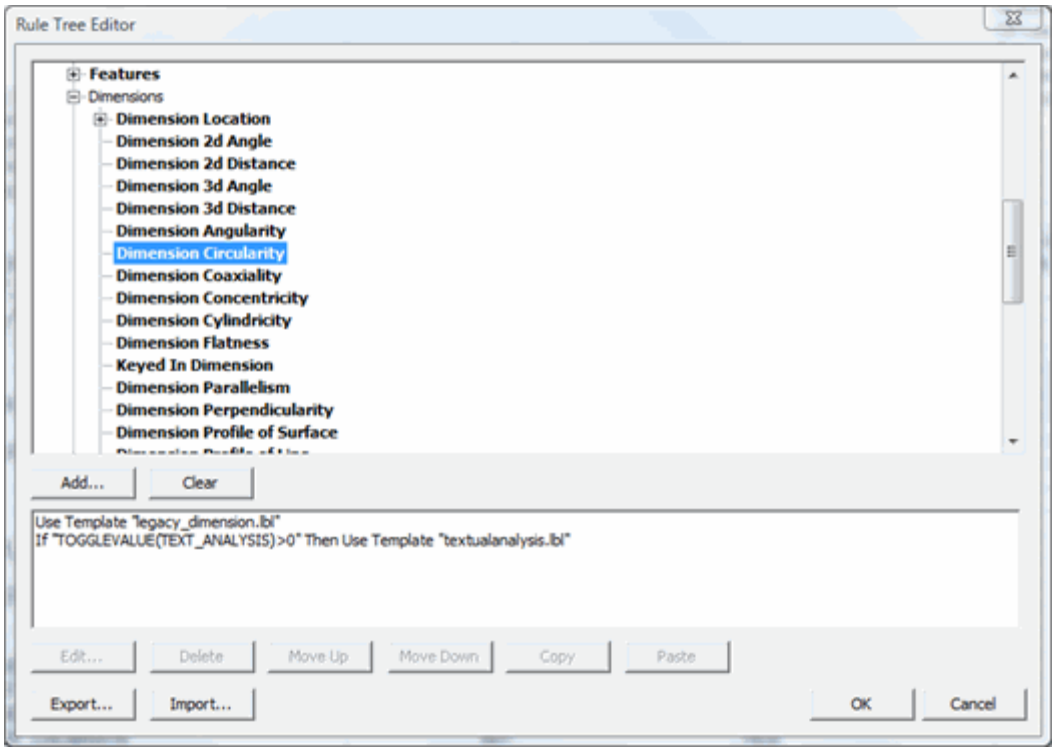
2. **プロパティ** ダイアログ ボックスからこれらのプロパティを変更してください:
   ShowAlignments - OFF
   ShowComments - OFF
   ShowDimensions - None

ShowFeatures - ON
ShowHeaderFooter - OFF
ShowMoves - OFF
ShowScreenCaptures - OFF

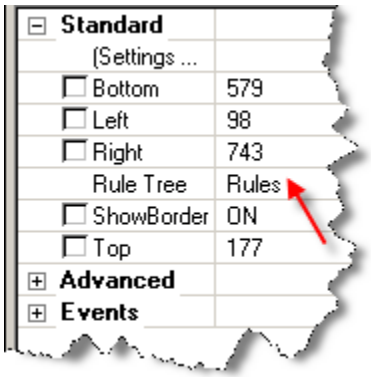
3. **セクション2** タブを右クリックします。

4. **CADReportObject**
を右クリックして**セクション2**に追加します。画面の右側の部分はドッキングされる**プロパティシート** ダイアログ ボックスを表示します。このダイアログ
ボックスには選択されたオブジェクト固有の様々なプロパティが含まれます。

5. **[ルール ツリー]プロパティ**の*[ルール]*をクリックします。**[ルール ツリー エディタ]**が*表示*されます。



規則系統図エディタダイアログ ボックス

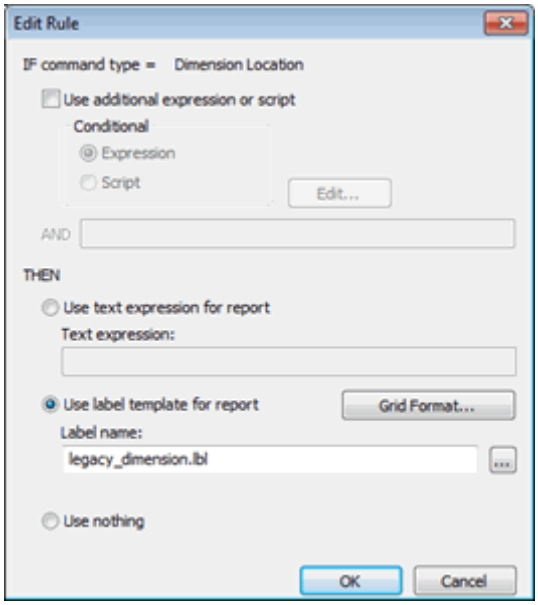


ルールツリープロパティ

6. **要素** 見出しを展開してください。要素のリストが表示されます。

7. **円形** 見出しを展開してください。様々な円形要素のリストが表示されます。

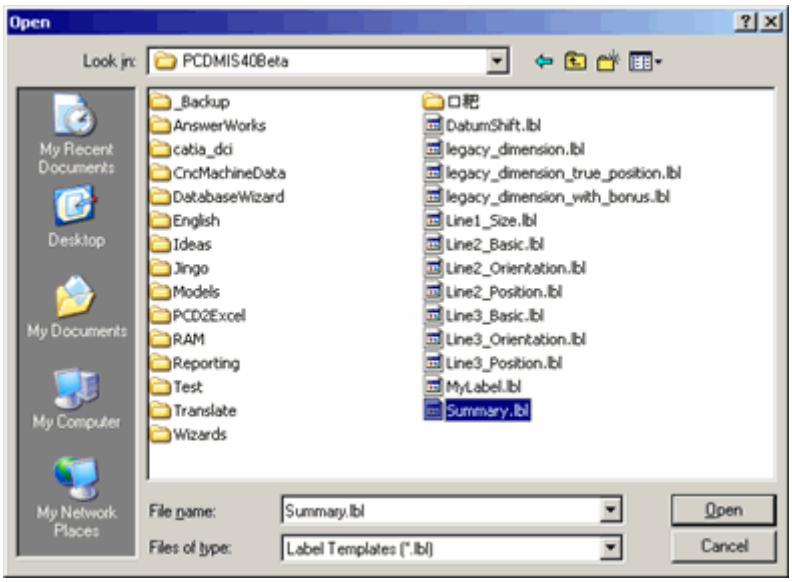
8. **[測定円]**の項目をクリックし、**[追加]**ボタンをクリックします。これにより、テンプレートが従うルールを追加できるようになります。**[ルールの編集]** *ダイアログボックス*が現れます。このダイアログ ボックスにより、レポートテンプレートに対する定義付けが行えます。この場合、測定ルーチンのレポートデータに測定円が現れたらレポート テンプレートに何か処理を実行するよう命令します。



編集ルールダイアログ ボックス

9. **レポートにラベルテンプレートを使用** オプションを選択してください。**ラベル名**ボックスは編集に利用可能になります。

10. **[...**]ボタンをクリックします。**[開く]**
    *ダイアログボックス*が表示されて、特定のテンプレートファイルを選択することができます。



開く
ダイアログボックスがいくつかの利用可能なラベルのテンプレートを表示するサンプル

11. PC-DMISがインストールされたディレクトリに移動し、レポートファイルのサブディレクトリを開きます。*summary.lbl*ラベルを選択し、**[開く]**をクリックします。**[ルールの編集]**ダイアログ
    ボックスに、選択したテンプレート名が表示されます。ラベルの作成に関する説明およびチュートリアルについては、「ラベルおよびラベル
    テンプレートについて」を参照してください。

12. **OK** をクリックして、**編集ルール** ダイアログ
    ボックスを閉じてルールを適用します。リストの**測定される円形**
    項目は表示に太字フォントを持ち、そのルールはその要素種類に存在するのを発見できます。

13. **OK** をクリックして、**ルール ツリー エディタ**ダイアログ ボックスを閉じて下さい。

これで、*summary.lbl*ラベル
テンプレートを使用して測定円の要素タイプに対して概要を表示するようルールを設定しました。

ステップ8: テンプレートを保存してテストする

1. レポート テンプレート エディタ内で、**[ファイル | 保存]**を選択します。**[名前付けて保存]**ダイアログボックスで、テンプレー名を**test1.rtp**として保存します。

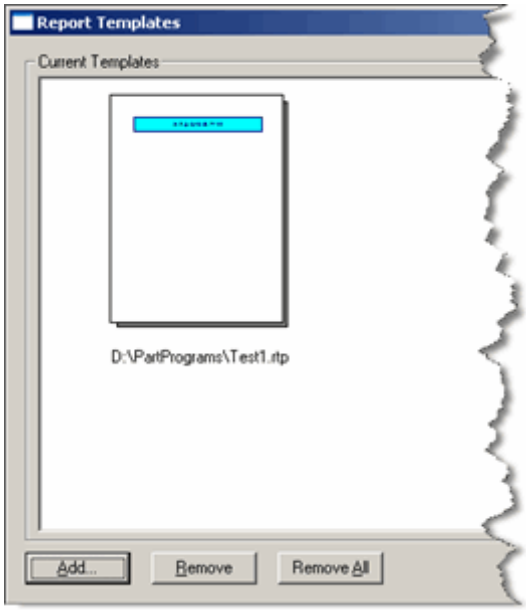
2. **ファイル| 終了**を選択してレポートテンプレートエディタを閉じます。

3. **ビュー| レポート**ウィンドウを選択してください。レポートウィンドウが表示され、デフォルトのレポートテンプレートは表示されます。

4. レポート ウィンドウの**[レポート]**ツール バーより、**[テンプレートの選択ダイアログ]** *アイコン*を選択します。**[レポート テンプレート]**ダイアログボックスが表示されます。

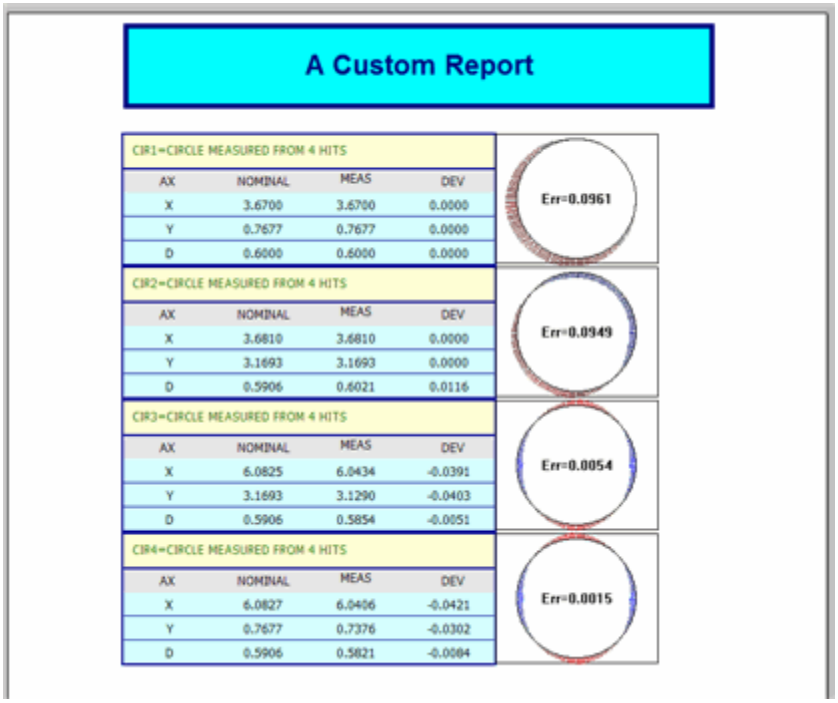
5. **追加** ボタンをクリックして**レポート テンプレート** ダイアログボックスにレポート追加します。

6. test1.rtpへ移動して選択します **開く**をクリックします。PC-DMISはレポートのサムネイル表示を**レポートテンプレート***ダイアログボックス*にを追加します。



Test1.rtpが表示された[レポート テンプレート]ダイアログ ボックス

7. 目的のテンプレートのサムネイル アイコンを選択し、**[開く]**をクリックします。PC-DMISは新しく作成したテンプレートでレポートウィンドウを開きます。*以下のように*なるはずです。



Test1.rtp レポート テンプレートを使用してレポートデータを表示するレポートウィンドウ

8. 最後に、ユーザの測定ルーチンを実行します。このレポートテンプレートを使用して測定ルーチンを実行するときには、PC-DMISは
   ユーザのプロパティの割り当てを定義ダイアログ
   ボックスを表示し、レポートに新しいタイトルを背景色を設定すると確認します。

9. 必要に応じるこれらのプロパティを設定して**OK**をクリックしてください。ダイアログボックスは閉じ、PC-DMISは測定ルーチンを起動します。

10. 実行が終了すると、PC-
    DMISは新しいテンプレートを使用してレポートデータが表示されます。

おめでとうございます！あなたはカスタムレポートテンプレートのチュートリアルを完了しました。

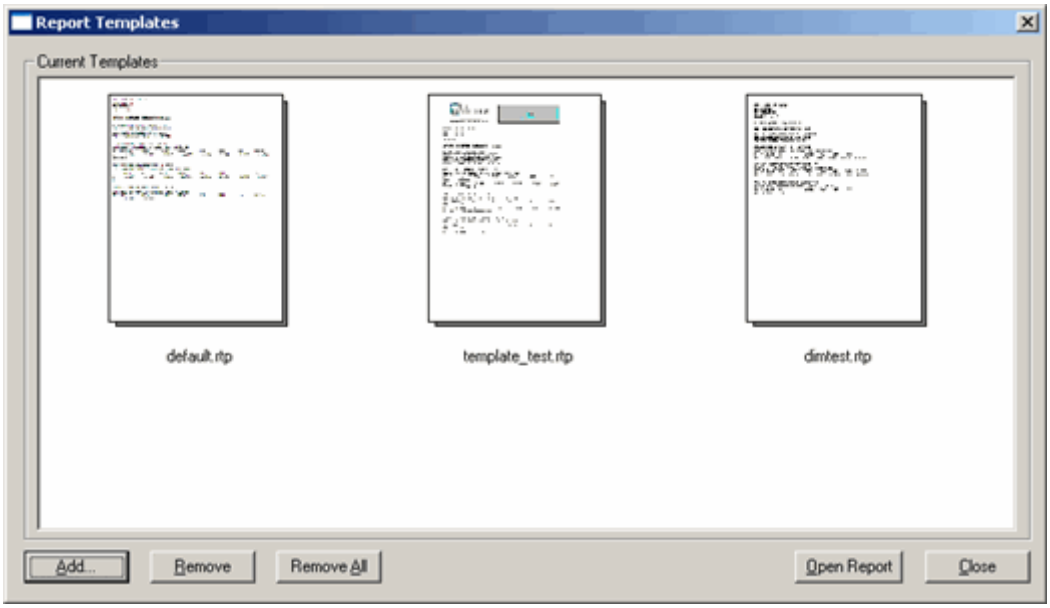
レポート テンプレートの適用、または、除去

測定結果にレポート テンプレートを適用するには、またはレポート
テンプレートを移動するには、最初に**レポート テンプレート** ダイアログ
ボックスにアクセスする必要があります。

レポート テンプレートダイアログ ボックスにアクセスするには:

1. **[ビュー | レポート ウィンドウ]** を選択してレポート ウィンドウにアクセスします。

2. レポートウィンドウの**レポート** ツールバーから、**テンプレートの選択** アイコン をクリックしてください。**レポート テンプレート** ダイアログ ボックスが .rtp filesとして利用可能なレポートのテンプレートの表示を示します:

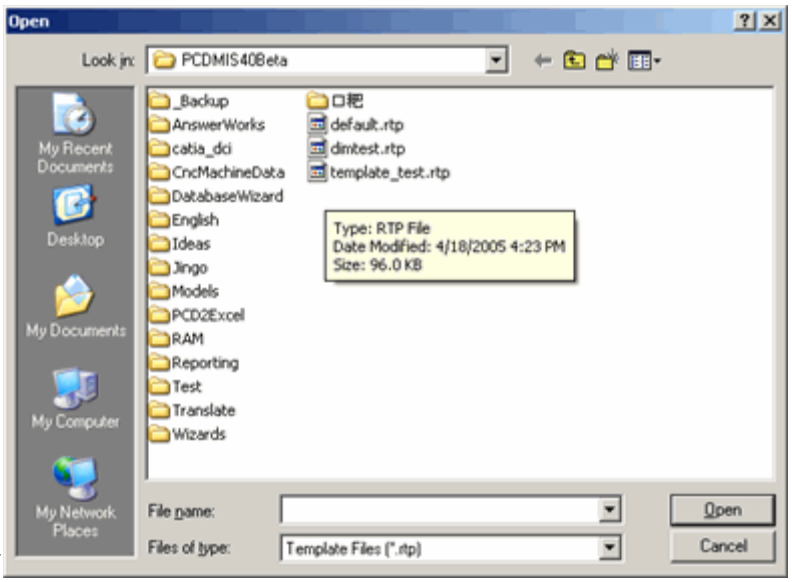


レポート テンプレートダイアログ ボックス

このダイアログ ボックスを使用してレポート テンプレートを管理します。

レポート テンプレートを追加するには:

1. **[レポート テンプレート]** ダイアログ ボックスから、**[追加]** ボタンをクリックします。標準の **[開く]** ダイアログ ボックスが現れます。



「開く」ダイアログ ボックス

2. レポート テンプレートファイルに移動して、それを選択し、**[開く]**をクリックします。

3. PC-DMISはテンプレートを追加し、テンプレートのサムネイル画像が**[レポートテンプレート]**ダイアログボックスに表示されます。

4. ダイアログボックスにいくつかまたは複数のテンプレートを含むかもしれません。ニーズに合わせてダイアログボックスのサイズを変更、新しい場所にダイアログボックスの端をドラッグします。

レポート テンプレートを削除するには:

1. **レポート テンプレート** ダイアログ ボックスから、テンプレートをクリックします。

2. **移動**ボタンをクリックします(すべてのテンプレートを削除するには**[すべて削除]**をクリックします)。

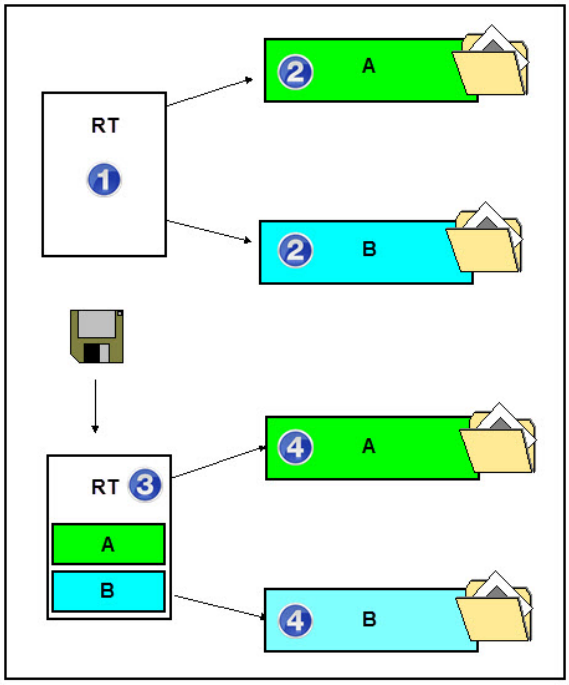
3. PC-DMISが**レポート テンプレート** ダイアログ ボックスからレポート テンプレートを移動します。

レポート テンプレートを除去したとしても、それらは削除されません。単に、このダイアログボックスから除去されたに過ぎません。後でいつでも**追加** ボタンを使用して追加できます。

注記: レポート テンプレート ダイアログボックスにリスト表示されるテンプレートはWindowsオペレーティングシステム上の各ユーザーアカウントごとに異なります。

レポート テンプレートの共有

簡単にレポートテンプレートを他のユーザーと共有できます。レポート
テンプレートを保存する場合、PC-
DMISは自動的にレポートテンプレート自体に関連するすべてのラベルのテンプレートのコピーを保存します。このように、レポートテンプレートを共有する場合は、それに沿って関連するすべてのラベルのテンプレートを発送する心配する必要はありません。それでも、レポート
テンプレートが通常に最初にディレクトリの実際のラベル
テンプレートファイルをチェックします。それが実際のラベル
テンプレートファイルを発見した場合、それはそれを使用します。実際のラベル
テンプレートファイルが希望どおりに存在しない場合、レポート テンプレートがレポート
テンプレート自身で保存されたラベル
テンプレートファイルのコピーされたバージョンを使用します。



1 - この例では、レポート テンプレートは、ラベルAおよびラベルBの2つのラベル
テンプレートを呼び出します。

2 - に保存されます。ラベルテンプレートファイル(ファイル名に .lbl
の拡張子を持つファイル)はレポートディレクトリ(C:\Users\Public\Documents\WAI\PC-DMIS\<バージョン>\Reporting)に保存されます。

3 - レポート テンプレートを保存すると、ラベル テンプレートのコピーがレポート
テンプレートの中に保存されます。

4 - これを使用すると、レポート テンプレートは最初に任意のラベル
テンプレートファイルを検索して、見つかった場合にはそれらを使用します。発見しない場合、それはコピーされたラベル テンプレートを使用します。

ラベルとラベル テンプレートについて

ラベルのテンプレートは基本的にレポート内の特定のコマンド（またはコマンド）に関連付けるテンプレートミニレポートのように動作します。これはデータを多くの自由を与えて、レポートに含めることができます。たとえば、測定機能、ラベル寸法のラベルと自動機能などを表示することができます。

FCF1-POS1		⌖ ø0.1Ⓜ A B Ⓜ C					
Feature	BONUS	TOL	Datum Shift Eff...	Unused Zone	DEV	DEVANG	
CIR1	0.1	0.1	0	0.2	0	180	
CIR2	0.1	0.1	0	0.2	0	180	
CIR3	0.1	0.1	0	0.2	0	180	
CIR4	0.1	0.1	0	0.2	0	180	
B:CYL2	0	N/A	0	0	0	0	

要素コントロールフレーム(FCF)で位置の表のラベルハウジングを例します。

PC-DMISには、お客様のレポート
テンプレートにあるオブジェクトと連結できる標準ラベルが既に出荷時に含まれています。ただし、レポートテンプレートのように、独自のラベルテンプレートも作成できます。ラベルのテンプレートにはラベルテンプレートエディタの
オブジェクトバーの任意のオブジェクトを含めることができますが、これらは通常**GridControlObject** または**グラフ**オブジェクトを含みます。

レーベルテンプレートエディタは、テンプレートのラベルを作成するために使用されます。

チュートリアル - ラベル テンプレートの作成

このトピックは非常に基本的なチュートリアルの手順を説明しますので、それはいくつかのオブジェクトと
GridControlObjectで単なラベルテンプレートを作成します。これはラベルテンプレートと一緒に仕事する方法の基本的な概観を与えますので、レポートにカスタム情報を表示するためにそれらを使用できます。

このチュートリアルはカスタム レポートテンプレートの作成」
チュートリアルに学んだ能力により作成されます;
まずそのセクションを完了したのを確認してください。

ステップ 1: 空白のラベルのテンプレートを作成する

1. **ファイル| レポート| 新しい| ラベルテンプレート** を選択してラベルテンプレートエディタにアクセスします。空のラベルテンプレートは自動的に表示されます。

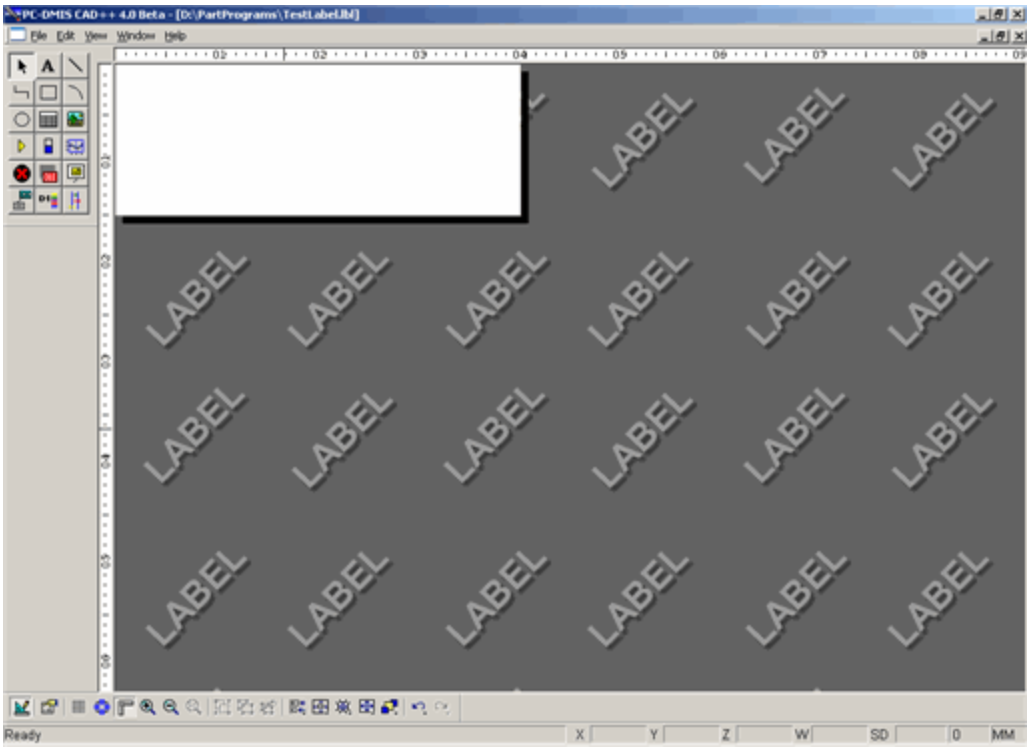
2. マウスの右ツールバーエリアをクリックしてツールバーを削除して未使用のツールバーを隠します。

3. **ビュー** メニューから開いているウィンドウを選択して未使用のPC - DMISウィンドウを隠します。

4. *ボタン最大化*
   エディタのウインドウをクリックして、テンプレートエディタを最大化します。エディタの背景に単語「LABEL」が表示されます。

5. ラベルテンプレートの編集エリアに**フレーム/ビュー**を4インチの幅と1.5インチの高にサイズします。ラベルの右下の角にテンプレートをドラッグし、マウスをドラッグしてこれを行うことができます。ガイドとしてルーラを使用します。

空白のラベルのテンプレートを作成しました。このステップが完了すると、*次のように*表示されるはずです:



[ラベル テンプレート]エディタ

ヒント: 1つのテンプレートエディタと作業している場合、それは通常のPC -DMISのツールバーとウィンドウの非表示に役に立って、これによりいくつかの画面スペースを解放します。頻繁にテンプレートで作業する場合、テンプレートの保存画面のレイアウトを作成することがあります。レイアウト情報については、「ツールバーの使用」の章にある「ウィンドウレイアウト ツール バー」トピックを参照して下さい。

ステップ2: テンプレートにCommandTextObject とスタティックな情報を追加する

1. **CommandTextObject** *アイコン*
   をクリックします。マウスポインタの形が十字に変わります。

2. ポインタを使用し、それは約3インチ幅5インチ、高さ伸縮ボックスをドラッグします。CommandTextObjectは、ラベルのテンプレートに挿入されます。それを右クリックして**プロパティ** ダイアログ ボックスにアクセスしてください。

3. **色** プロパティをクリックしてください。PC-DMISがデフォルトのアプリケーションの色から独立設定の色を定義するどうかを確認する場合、**はい**をクリックしてください。

4. **色エディタ**が表示します。PC-DMISはこのエディタを使用して編集ウィンドウの色を定義します。ただし、この場合で、これは現在のCommandTextObjectに影響します。

5. **背景色**の下に**編集**をクリックしてください。標準の**色**ダイアログ ボックスが現れます。

6. オブジェクトの背景色に濃い青の色を付けます。それぞれに **赤**, **緑**, **青** ボックスの値を 0, 0, 128に変更します。**[OK]** をクリックします。

7. **マークされない** ボックスに、**編集**をクリックしてください。標準の**色**ダイアログボックスが現れます。

8. 白を選択して**OK**をクリックします。PC-DMISがこの項目の子を変更したいと確認する場合、**いいえ**をクリックしてください。

9. 円形（または楕円オブジェクトを使用して円を描きます）のビットマップイメージを使用してそれをキャンバスの右上に配置します。

CommandTextObject 、スタティックな**ビットマップ** または円図形の**楕円** オブジェクトをラベルテンプレートに追加しました。この手順の最後で、ラベルのテンプレートはこのようになります：

ラベル テンプレートはCommandTextObject と静的なビットマップ オブジェクトを表示します。

ステップ3: GridControlObjectの挿入および書式設定

1. **GridControlObject** *icon* をクリックします。
   マウスポインタの形が十字に変わります。

2. ポインタにより、以前CommandTextOjbectを挿入したオブジェクトの下のボックスをドラッグして、それは同じ幅があります。

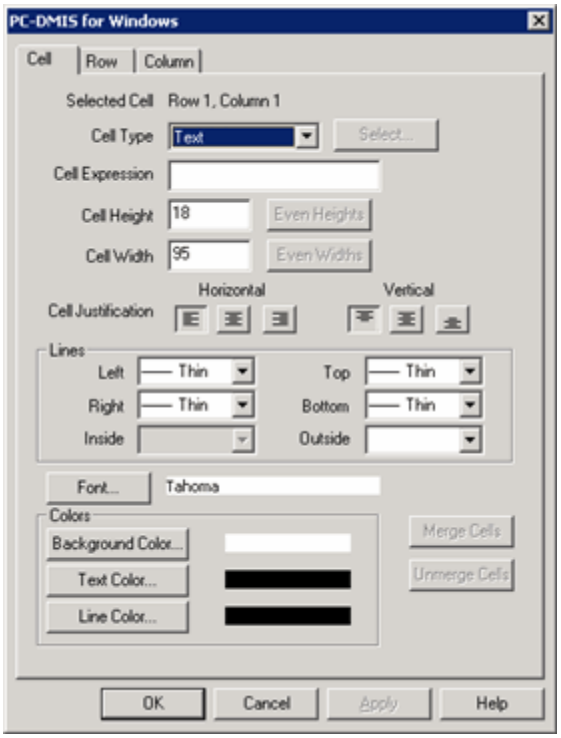
3. キャンバスの残りの部分いっぱいに高さを調節します。グリッドが挿入されると、行および列がいくつか表示されます。

4. オブジェクトのプロパティにアクセスして列 と行
   プロパティをそれぞれに3に変更します。

5. このオブジェクトを選択してまたセルを選択します。これを行うには、一番上の行の最初のセルをダブルクリックします。これは青色の背景のセルをハイライトして、それを選択したのを表示します。

6. トップ行を選択します。これを行うには、最初のセルShiftキーを押しを選択したために、その行の最後のセルをクリックしてセル全体を選択します。PC-DMISは全体の行をハイライトします。

7. 右クリックします。オブジェクトの*ダイアログ ボックスが現れます*。このダイアログボックスを使用して、選択したセルに対してテキストおよび式の挿入と同様、書式設定を行うことが可能です。



GridControlObjectのダイアログ ボックス

8. **マージ** ボタンをクリックして選択されたセルをマージします。

9. 結合されたセルの背景色を設定します。**背景色** ボタンをクリックします。**色**ダイアログボックスが現れます。ダークブルー色を選択して**OK**をクリックしてください。

10. 結合されたセルのテキスト色を設定します。**テキスト色**
ボタンをクリックして同じのように白を選択します。

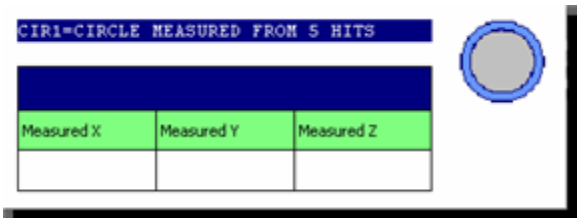
11. 見出しを作成します。2列目の最初のセルを選択し、右クリックするとダイアログボックスが現れます。**[セルの式]**ボックスに"測定値X"と入力します。ダイアログボックスを閉じ、2番目のセルについても同じ操作を行い、"測定値Y"と入力します。最後に、残りのセルに対しても同じ操作を行い、"測定値Z"と入力します。

12. 2行目全体を選択します。右クリックし、緑色の背景色を選択するためにダイアログボックスを使用します。

13. **セルの正当化**の下で、**垂直方向**の下で、垂直方向の中央に、そのセル内のテキストに*真ん中のボタン* をクリックします。

14. **OK** をクリックして、当該ダイアログ ボックスを閉じてまたオブジェクトを削除します。

GridControlObjectを挿入して行と列の数を変更する方法を学びました。テキストをセルに追加する方法とこのオブジェクトの指定されたダイアログボックスを使用してグリッドをフォーマットする方法を学びました。この手順を完了したら、ラベルテンプレートは以下のようになります：

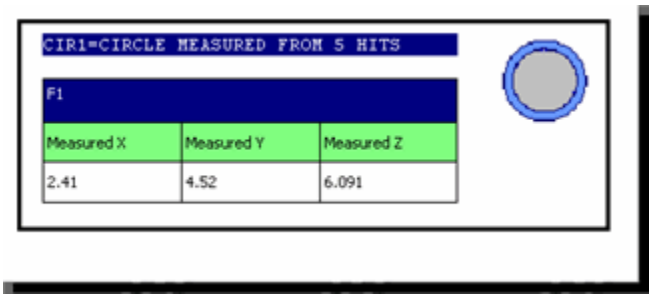


ラベルは挿入とフォーマットされるGridControlObjectを表示します。

ステップ4: GridControlObjectに式を追加する

1. GridControlObject の最初の行を選択します。
2. 選択されたら、セルに直接"=ID"と入力します。これはセルに要素のIDを表示するようPC-DMISに命令する式です。
3. 選択3行目から最初のセルを選択して「=MEAS_X」を入力します。
4. 2番目のセルを選択し、"=MEAS_Y"と入力します。
5. 3番目のセルを選択し、"=MEAS_Z"と入力します。これらの式はPC-DMISに要素X、Y、とZ値を表示したいのを意味ます。オブジェクトの選択を解除する時には、PC-DMISはオブジェクトで使用されるフィラーのテキストからの式値を表示します。式の情報について「About Report Expressions」を参照してください。
6. **境界**
   オブジェクトを使用してラベル周囲に境界オブジェクトを描画します。4.5インチ幅2インチ高さ近くにラベルを変更すつ必要があります。
7. 境界を右クリックしてまたそれに２の幅を与えます。
8. コンテンツの位置を調整してそれらが境界内に入ります。

ラベル
テンプレートにいくつかのレポート式を追加しましたが、前のテンプレート周りに境界を描いてそれをテストします。この手順を完了したら、テンプレートは以下のようになります：



ラベルは式の結果を表示します。

ステップ5: ラベルテンプレートを保存してテストする

1. **[ファイル | 保存]**を選択し、ラベル
   テンプレートを保存します。**[名前を付けて保存]**ダイアログ
   ボックスで、テンプレートに"TestLabel.lbl"と名前を付けます。

2. **ファイル| 終了**を選択してこのテンプレートエディタを閉じます。

3. **[ファイル | レポート | 編集 | レポート**
   テンプレート]を選択し、先のチュートリアルで作成した**[Test1.rtp]**テンプレート
   ファイルを選択します。

4. レポート
   テンプレートの一番目セクションに挿入したTextReportObjectを選択してまたそのプロパティにアクセスします。

5. **[ルール ツリー エディタ]**および**[ルールの編集]**ダイアログ
   ボックスを使用し、全ての測定円に対してTextReportObjectオブジェクトにTestLabel.lblを表示するようルールを作成します。ルールの作成方法を覚えていない場合は、"ルールの定義"トピックの手順に従ってください。

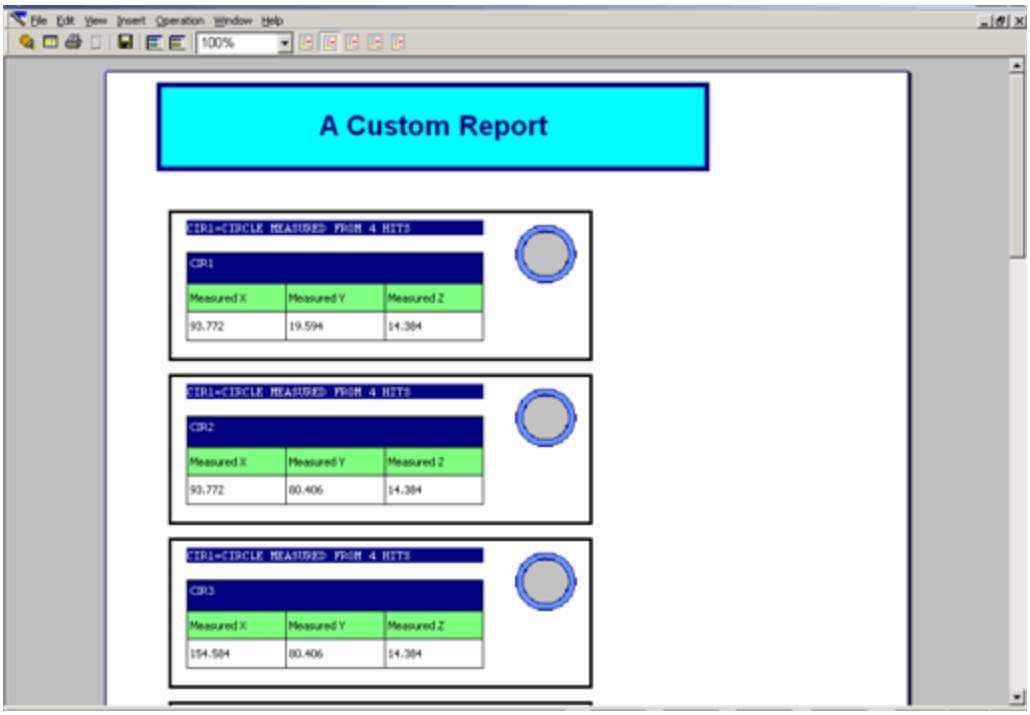
6. **ファイル| 保存**を選択してレポート テンプレートを保存します。

7. **ファイル| 終了**を選択してそれを閉じます。

8. 測定ルーチンを実行し、テンプレートを適応します。

9. **見る | レポート** ウィンドウを選択して最終レポートを表示します。

ラベル テンプレートを保存してテストした後に、それは次のようになります：



レポートウィンドウサンプルは新しく作成されるラベルを表示します。各円の要素の測定されるX、Y、とZ センターデータを注意してください。

ステップ6:繰り返し行を作成する

これまでのところ、ラベルが円形センターのXYZを表示します。代わりに、個々の先端データを取得したいのを仮定します。この繰り返すラインを使用して行うことができます。

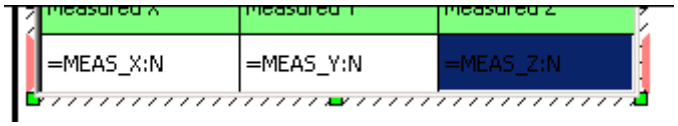
1. **[ファイル| レポート| 編集 | ラベル テンプレート]**を選択します。ダイアログボックスより、TestLabel.lblを選択し、**[開く]**をクリックします。ラベル テンプレートエディタが起動され、TestLabel.lblが表示されます。

2. GridControlObjectにアクセスします。

3. 3行目から最初のセルを選択します。一旦それを選択したら、右クリックしてGridControlObjectのダイアログボックスを起動します。

4. 行タブをクリックして下さい。

5. **[グループの繰り返し]**チェックボックスを選択します。これにより、該当する行を繰り返すことが可能になります。**[式の繰り返し]**ダイアログボックスが利用可能になります。この時点で、行の左右に*オレンジ色のマーカー*が含まれていることに注意してください。これは、行が繰り返し行であることを示します。



ある行がオレンジ色のマーカーを表示します

6. **繰り返す式** ボックスに「=N_HITS」を入力します。これはPC-DMISに要素の先端の総数を取って 使用可能な各先端の行を繰り返すのを指示します。

7. **セル**タブをクリックして下さい。**セル式** ボックスに「=MEAS_X」が見えます。式に「N」を追加してそれが=MEAS_X:N」と読み込めます。これはPC-DMISに使用可能な各先端のセルを繰り返すのを指示します。

8. 行にその他の二つのセルを選択してそれらを変更し、それらは同じのように「:N」コードを持ちます: "=MEAS_Y:N" と"=MEAS_Z:N"。

9. GridControlObjectに渡すためにラベルが拡大されてすべてのデータを含め、行が繰り返されるときに、ラベルのサイズを調整する必要はありません。

10. **OK** をクリックしてGridControlObject ダイアログボックスを閉じます。

11. ラベルテンプレートを保存して、レポートウインドウにアクセスしてください。最新の変更を確認するために、**レポートのツールバー**から[**レポートを再描画**]アイコンをクリックします。円心点のデータを表示する代わりに、ＰＣ - DMIS が個々のヒットを表示することに気付いてください。

基本的な繰り返しの行数をカウントするために作成する方法、別の行構成で別のレポートテンプレートを作成する必要がなく複数のデータアイテムを表示する方法を学びました。

ステップ7: 列タブを使用して列を定義する

1. TestLabel.lblラベル テンプレートにアクセスして既存のGridControlObjectを選択します。

2. その最初の行を選択します。一旦選択されたら、右クリックしてGridControlObjectのダイアログボックスを起動します。

3. **セルを分離** ボタンをクリックしてください。最初の行を構成するシングルのセルは3つのセルになります。

4. 一番目セルの「＝ID」式テキストを削除してください。CommandTextObjectが自動的に表示されるために、本当に最終的なラベルのテンプレートをこの式を必要としません。

5. **背景色** と**テキスト色** ボタンを使用してセルの背景色を白に変更してまたそのテキストを黒に変更します。

6. 最初の行に内部の列ラインを削除します。これを行うには、最初のセルを選択してダイアログ ボックスにアクセスし、**セル** タブに、**ライン** エリアに、 **右**リストのライン値を**薄い**から**ない**に変更します。同様に中央のセルにこの手順を繰り返します。

7. **OK** をクリックしてGridControlObject
ダイアログボックスを閉じます。ラベルのテンプレートがそのセルを合併するのを表示しますが、現実には、これらのセルの列のラインは単に隠されます。

8. 最初行から左のセルを選択してダイアログ ボックスにアクセスします。

9. 列
タブをクリックして下さい。**列**リストボックスに、「測定されたＸ」を入力します。**OK** をクリックしてGridControlObject ダイアログボックスを閉じます。

10. 中央と右のセルにこの手順を繰り返し、「測定されたY」「測定されたＺ」と入力します。これらの列見出しを使用して各列の可視性およびそれ以降のご順序をコントロールします。

11. この前にテンプレートに追加したCommandTextObjectを選択し、またそれをドラッグし、それはGridControlObjectの最初の行のトップに残ります。

12. 場所を変更してまたは楕円か以前に作成した円形Bitmapオブジェクトをサイズし、それはGridControlObjectの右側に沿ってセンターします。

13. 境界オブジェクトのトップラインを選択してドラッグしますので、それはGridControlObjectの上にちょうどににあります。

14. ラベル内のすべてのオブジェクトの周囲にボックスをドラッグしてそれらを選択します。彼らはレーベルのキャンバス上に行く限り、これらのオブジェクトを上と左へドラッグします。

15. 右クリックしてGridControlObjectのプロパティにアクセスしてください。

16. 「TestTableFormat」を **テーブル形式** プロパティに入力し、TABを押します。

17. ラベルテンプレートを保存して終了します。

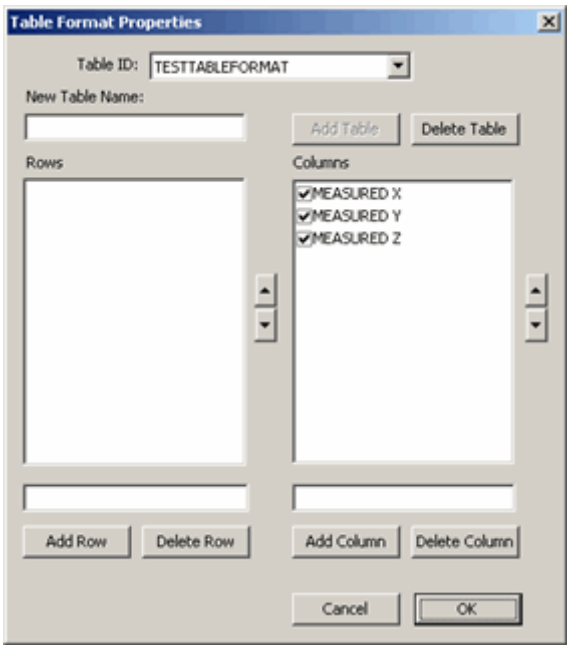
この手順で、セルを分離する方法、セルラインプロパティの設定、列見出しの挿入、また複数のオブジェクトを選択して移動する方法を学びます。列見出しを定義するのは、可視性とその場で列の順序をコントロールできます。この手順を完了したら、ラベルテンプレートは以下のようになります：

ステップ8: グリッドの形式テーブルを定義する

1. レポート テンプレート エディタよりTest1.rtpのレポート テンプレートを開きます。
2. TextReportObjectを選択し、右クリックして **プロパティ** ダイアログボックスをアクセスします。
3. **ルール ツリー** プロパティに、**ルール**をクリックして**ルール ツリー エディタ** ダイアログボックスにアクセスします。
4. ルールツリーエディタを使用して以前に作成したルールに移動します。
5. ルールを選択して **編集**をクリックします。**編集ルール**ダイアログ ボックスが現れます。
6. **グリッドフォーマット**ボタンをクリックします。**テーブル形式プロパティ** ダイアログボックスが表示されます。
7. **新しいテーブル名**ボックスで、「TestTableFormat」を入力して**テーブルを追加**をクリックします。
8. エディットボックス内の**列**リストの下に、「測定されたX」と入力し、**[列の追加]**をクリックします。
9. これと同じ方法で「測定されたＹ」と「測定されたＸ」列を追加します。
10. レポートテンプレートエディタに戻るまで様々なダイアログボックスに**OK**をクリックします。
11. **ファイル| 保存**を選択してレポート テンプレートを保存します。
12. **ファイル| 終了**を選択してレポートテンプレートエディタを閉じます。

このステップで、同じ名前を持つ列を追加することと **テーブル形式**プロパティに与えた同じな名前でテーブルを命名することで、

テーブル形式プロパティダイアログ
ボックスにGridControlObjectの列をTestTableFormatテーブルに関連付けます。この時点で順序や可視性を変更していないので、ダイアログボックスで新しく作成されたテーブルは、このようになります：



テーブル形式のプロパティダイアログ ボックスは新しく作成されたTESTTABLEFORMAT テーブルを表示します

ステップ9: テーブルIフォーマットコマンドを使用して列の可視性と順序をコントロールする

1. 表示されない場合は、**ビュー| 編集ウィンドウ** を選択して編集ウィンドウを表示します。
2. 編集ウィンドウをコマンド モードにして下さい。
3. **挿入| レポートコマンド | テーブル形式**を選択します。**テーブル形式プロパティ** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **テーブルID** リストから**TESTTABLEFORMAT** テーブルを選択します。**列** エリアは列がこのカスタムテーブル形式に利用可能であるのを表示します。
5. **測定されたZ** ボックスをクリアして最終報告書での列を非表示にします。
6. **測定されたY** を選択して**列** エリアの横の矢印アイコンをクリックして**測定された Y** 列を再順序しますので、それが最初にレポートに表示されます。

7. **[OK]** をクリックします。PC-DMISが、編集ウィンドウ内に*TABLE/FORMAT*コマンドを挿入します。このコマンドにより、列の表示および並び順がコントロールされます。

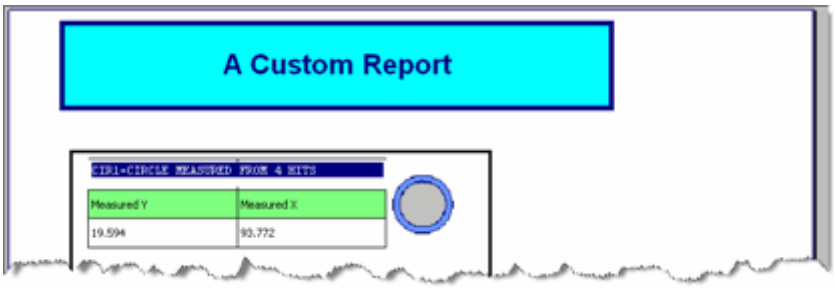
   テーブル/フォーマット、TESTTABLEFORMAT

   柱/順序、 測定されるX 、測定されるY、

   行/順序

8. ユーザの測定ルーチンを保存して実行します。PC-DMISが起動する場合、 測定されるXと測定されるY 値の順序は変更され、Z 列は非表示であるのを注意してください。

この最後のステップで、 ラベルテンプレートにTABLE/FORMATコマンドを挿入と使用して順序と列の可視性を定義することを学びます。最後完了したレポートは以下のようになります：



最後完了したレポートは測定されたY とX 列だけを表示します。

レポート内でのラベルの使用

レポート内でラベルを使用するには、レポートテンプレートを開き、次のオブジェクトのうち少なくとも1つを追加する必要があります:

- Label オブジェクト
- TextReportObject
- CadReportObject

一旦オブジェクトが存在する場合、それを右クリックして**プロパティ** ダイアログボックスにアクセスします。最後に、ルール ツリーエディタを使用して1つまたは複数のラベルテンプレートを使用するルールを定義します。

レポート テンプレートが適用された場合、指定されたルールに従い、選択されたラベルテンプレートが使用されます。

スタンドアロンラベルオーダーの理解

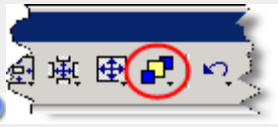
レポート テンプレートに、スタンドアロン**ラベル**
オブジェクトを使用する場合、デフォルトでは、PC-
DMISは測定データでそれらをレポートの前から後までの順序で記入します。これを説明するには、スタンドアロンのラベルを追加する場合、PC-DMIS はプログレッシブ英数字ID (Label1, Label2 …LabelN、ここでNは最終的なラベルの数を示します)で各ラベルを定義します。ラベルが記入されたところでラベルIDはその順序をコントロールできませんが、ここで順序付けがどのように行われるか簡単に説明できます。レポート作成中にラベルIDをまったく変更していないと仮定すると、LabelNが有効になり最初に記入され、Label1が有効になり最後に記入されます。

注記: これはスタンドアロンのラベルで発生されるだけで、TextReportObject または CadReportObject内のラベルには使用されません。

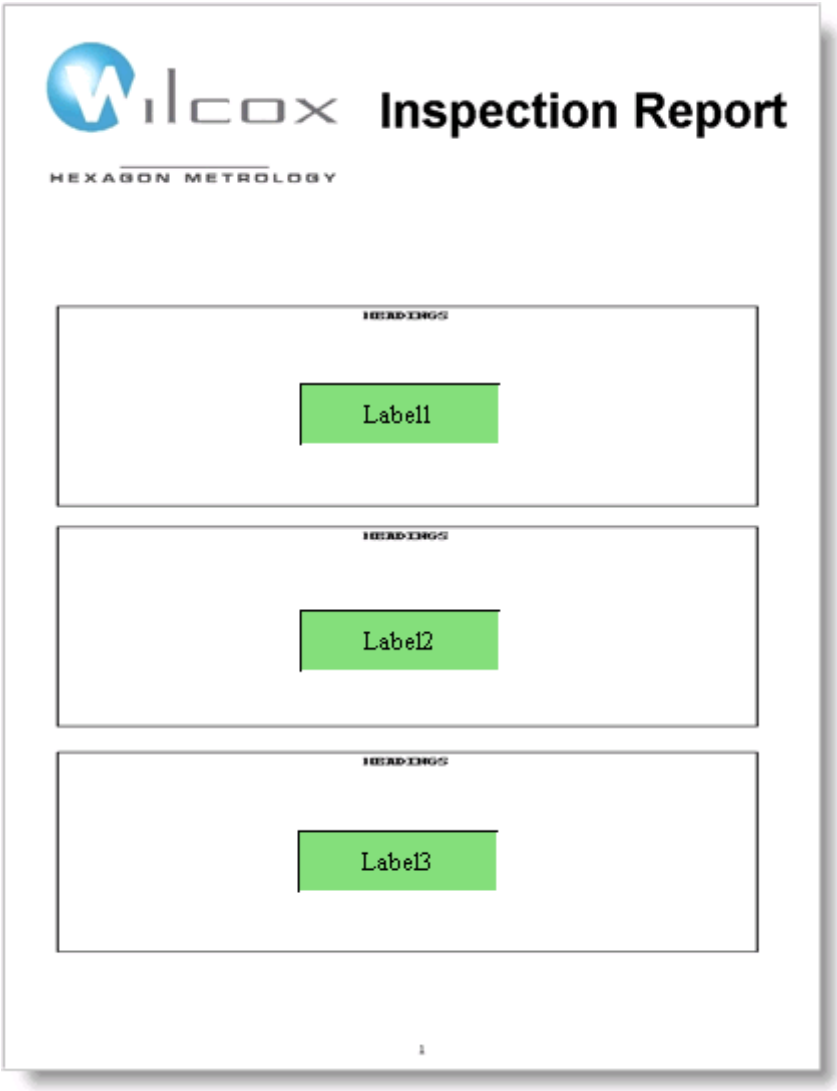
スタンドアロンラベルオーダーの変更

最初にPC-DMISはご希望の順序によりラベルに記入されないが、ラベルの描画順序を変更して**編集| 順序** サブメニューにあるメニュー項目の使用で最初に記入されるラベルを定義できます。

ヒント: レイアウトバー の[**前または後ろへ**]アイコンも使用できます。



描画の順序を変更した後は、PC-
DMISは一番上の描画ラベルを最初に記入してまた一番下の描画ラベルを最後に記入します。たとえば、*3つの大きなラベル*を持つと仮定して
トップのLabel1、中部のLabel2、また下部のLabel3でひとつのセクションを記入します。最初にはLabel3、次はLabel2、最後はLabel1を塗りつぶします。PC-
DMISが測定ルーチン順序にデータを表示するのを保証するには、
以下のようにラベルの描画順序を変更できます：



3つの大きなラベルを持つレポート テンプレートの例

1. Label1を選択して**編集| 順序| 最前へ**を選択します。
2. Label2を選択して**編集| 順序| バックに発送**を選択します。
3. Label3を選択して**編集| 順序| バックに発送**を選択します。

レポート ウィンドウでのラベル配置

レポート
テンプレートが測定ルーチンのデータを受け取ると、データに適合するために、ラベルを動的にサイズ変更しなければなりません。したがって、測定ルーチン実行の後には、これらのラベルは、最適の位置にない可能性があり、あるいは、その他のラベルと重複しているかもしれません。しかし、*ラベルを選択し*それを新しい位置にドラッグすることで、ラベルを置く場所を簡単に変更できます。

次のいずれかの方法でラベルを選択することができます。

- ラベルをダブルクリックします。
- Ctrlを押し、ラベルを左クリックします。
- ラベルの周りにボックスをドラッグします。

後者の2つの方法は、同様に複数のラベルを選択するために使用されます。

テーブル形式コマンドの使用

TABLE/FORMAT
編集ウィンドウのコマンドで、測定ルーチンにフライに**GridControlObject**の列と行の順序と可視性をコントロールできます。これは、ある特定の行または列を並べ替えたり非表示にするだけの場合、ラベル テンプレート エディタを使用して同じラベル
テンプレートの別の形式を作成する必要がないことを意味します。代わりに、プログラムにこのコマンドを挿入してラベル テンプレートに**GridControlObject** を表示する方法を定義できます。

重要: このコマンドが正常に動作するように、 **GridControlObject**の TableFormat プロパティの値を**編集ルール**ダイアログ ボックスの **グリッドフォーマット** ボタンに定義された同じテーブルの形式名に設定する必要があります。

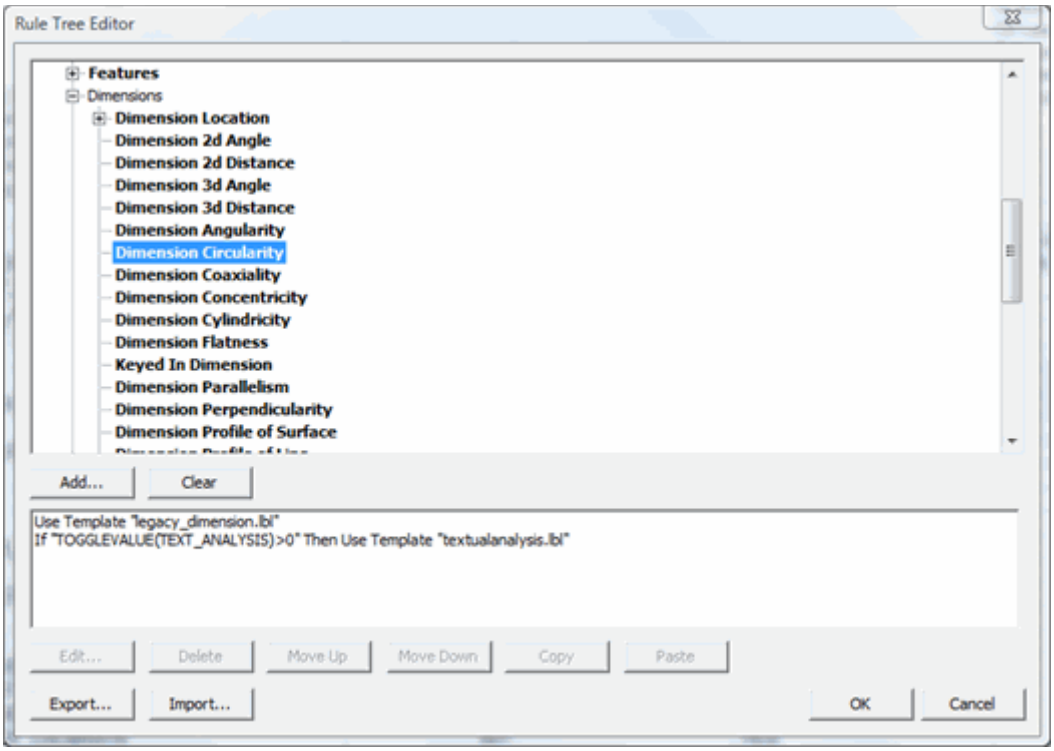
コマンドの挿入

このコマンドを挿入するには、 **[挿入| レポートコマンド | テーブル形式]**
を選択してください。**テーブル形式プロパティ** ダイアログ
ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスは**ルール ツリー**
エディタで使用されるダイアログ
ボックスと同じであり、**GridControlObject**を使用してラベルテンプレートの行列の可視性と順序をコントロールします。行や列の操作を終了したときに**OK**をクリックすると、PC-DMISがTABLE/FORMAT コマンドを編集ウィンドウに挿入します。

挿入されたTABLE/FORMAT コマンドは**ルールの編集** ダイアログ ボックスの**グリッドフォーマット**ボタンで定義された任意の順序よりも優先です。

規則系統図エディタについて

[*ルールツリーエディタ*] *ダイアログ ボックス*では、 ルール–または条件と応答–を定義でき、特定のオブジェクトがレポート情報を表示する場合に従います。たとえば、測定ルーチンが他の多くの機能が含まれても、レポートに円要素の真円度の測定結果の情報のみを表示したい場合もあるでしょう。このエディタを使用してこれを行うことができます。レポートテンプレートでは、 **CadReportObject** を追加してそのオブジェクトの*ルール ツリー エディタ*にアクセスできます。エディタ内では、円要素の種類を指定して、真円度のデータを表示するようプログラムされたラベルテンプレートを選択できます。



規則系統図エディタダイアログ ボックス

Supported Objects:

ルールツリーエディタ
は、レポートテンプレートエディタから利用可能な以下のオブジェクトとともに機能します。

- TextReportObject
- CadReportObject
- ラベルオブジェクト

また、**カスタム レポート エディタ** 内で利用可能な
ページオブジェクトと一緒に機能します。これらのオブジェクトのみが、**ルール ツリー エディタ**を使用して測定ルーチンからデータにアクセスできます。

ルール ツリー エディタへのアクセス：

1. レポート テンプレートにサポートされるオブジェクトを挿入して、または **カスタム レポート エディタ** から**ページ**オブジェクトを選択してください。

2. オブジェクトを右クリックします。

3. **RuleTree**プロパティの隣の**規則**をクリックします。**ルールツリーエディタ** ダイアログボックスが表示されます。

ルール ツリー エディタにルールを定義します

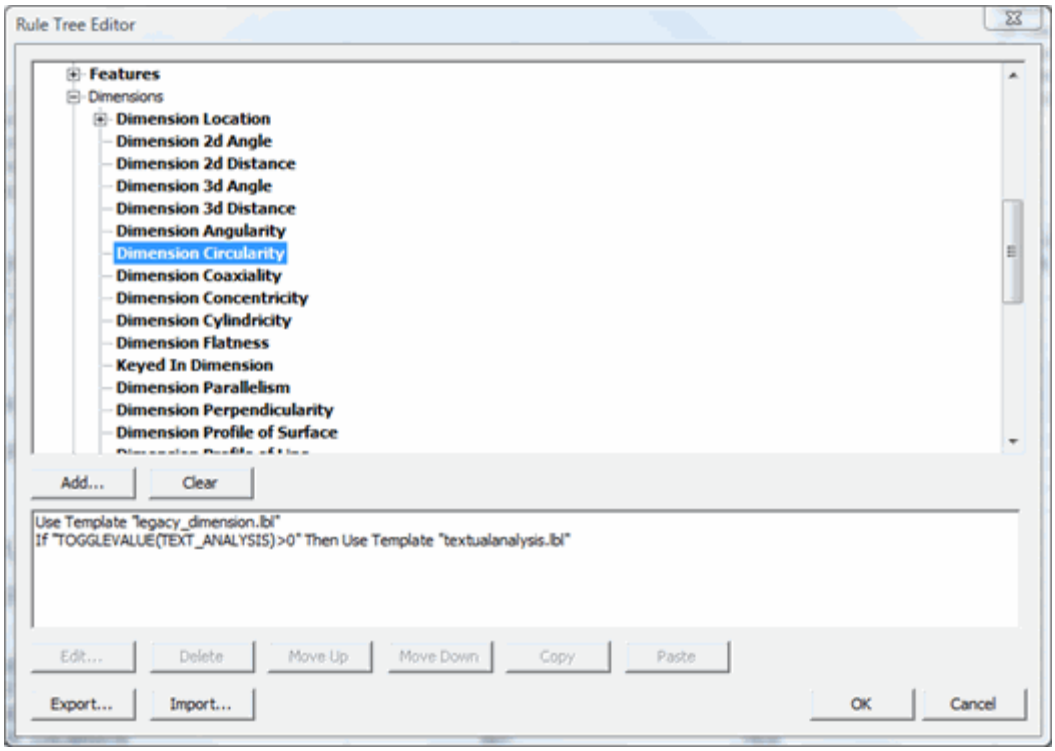
ルール ツリー エディタ ダイアログ
ボックスを使用してルールを定義するには、以下の手順をフォローしてください：

1. **ファイル| レポート| 新しい| レポートテンプレート** を選択してレポートテンプレートエディタにアクセスします。

2. テンプレートに **TextReportObject**、 **CadReportObject**、または **ラベル** オブジェクトを追加します。

3. オブジェクトを右クリックします。**プロパティ** ダイアログボックスが表示されます。

4. **[プロパティ]**ダイアログ ボックスから**[ルール ツリー]**プロパティを選択します。**ルール ツリー エディタ** *ダイアログ ボックス*が表示されます。測定ルーチンを構成している様々なアイテムの一覧が表示されます。ユーザはもっと具体的な項目やコマンドを表示するには、プラス記号（+）をクリックして、これらの項目の多くは展開することができます。一部の項目が自分の上に存在し、任意の拡大リストの中ではありませんが、これらの項目は、次のとおりです。



規則系統図エディタダイアログ ボックス

- 最初のページのセクションのトップへ -
  この項目を選択した場合、レポートウィンドウの現在のセクションの最初のページの上部にラベルまたはテキスト式を選択して表示します。

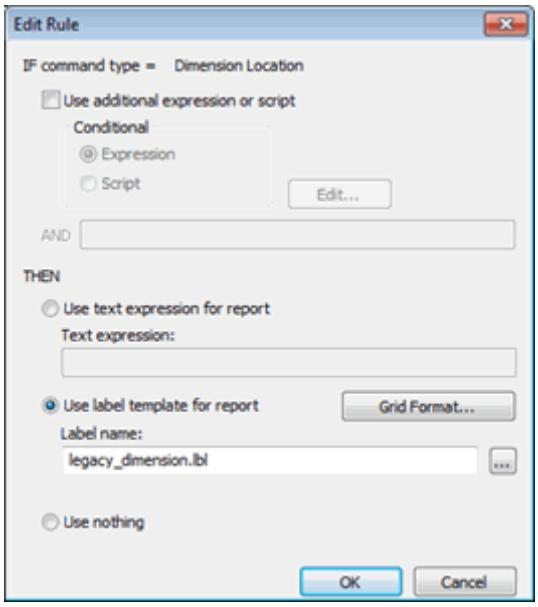
- 最後のページのセクションの下部へ -
  この項目を選択した場合、現在のセクションの最後のページの下部にラベルまたはテキスト式を選択して表示します。

- ファイルのヘッダー - この項目を選択した場合、PART NAME、REV NUMBER、SER NUMBER、またSTATS COUNTの一般レポートのファイルヘッダーの場所にラベルまたはテキスト式を選択して表示できます。[ファイルのヘッダー]のラベルまたはテキストは、レポートの現在のセクション内の1ページ目に表示されます。

5. 満たされるために条件を定義します。

   - 商品のリストから条件として定義したい項目を検索します。

   - 目的の項目を選択し、**[追加]**をクリックします。**[ルールの編集]** *ダイアログ ボックス*が現れます。



編集ルールダイアログ ボックス

- 別の条件を定義したい場合、条件としていずれかの報告言語式やBASICスクリプトを選択できます。これを行うには、**追加の式またはスクリプトを使用** チェックボックスを選択し、**条件付きの** エリアに、 **式** または**スクリプト** オプションのいずれかを選択します。

  - **式**を選択した場合、**条件式** ボックスに条件の式を入力します。例えば、測定円に対するルールを設定する場合、円のデータ型フィールドの値をチェックし、ラベルに表示するかどうか決定することができます。測定円が3つ以下のヒットを持つ場合のみラベルを表示すると仮定します。**条件式**ボックスでは、次のように入力します:

    ```
    N_HITS < 4
    ```

  - その後、もしこの条件がTRUEに評価すれば、PC-DMISは関連するラベルを使用します。式文全体のIF含める必要はありません。IFステートメントはすでに理解され、このボックスに評価されました。

  - **スクリプト編集** ボタンをクリックしてBASICスクリプトを作成します。**VBS ミニエディタ** コードを入力できる場所を表示します。このコードエディタ内にスクリプトを作成します。満たされるためにスクリプトがTRUEの状態を返す必要があります。終了したら、右クリックし、**構文チェック**を選択します。完

了後に、**OK**をクリックして下さい。PC-DMIS
は自動的に定義されたルールでスクリプトを保存します。

> **注記:**
> ルールはこれまで削除される場合、スクリプトを失います。それが削除されたことについて心配する場合、別のテキストファイルをスクリプトを保存する必要があります。

6. 条件または定義された条件が満たされる場合、表示するラベル、式または無しを定義します。[**ルールの編集**]ダイアログボックスが開いた状態では、次のいずれかを選択できます:

- **ﾚﾎﾟｰﾄに式ﾃｷｽﾄを使用**
  - *テキスト式の使用を選択した場合*、 **テキスト式**
    ボックスにシンプルなテキストメッセージを入力してまたは式を定義します。たとえば、いつでもPC-DMIS
    は円を測定したら、タティックテキストを以下のように入力できます：

    「私達は円を測定しました」

  - または、式を使用して円についての情報が含まれます。たとえば：

    「私達は円を測定しました。それは" + N_HITS + "
    先端を持ちます。」

- **レポートにﾗﾍﾞﾙﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄを使用**
  - *テンプレートのラベルの使用を選択する場合*、ラベルのテンプレートを選択します。式はラベルテンプレート名を評価する限り、このフィールドは式を受け入れることを注意してください。このフィールドで式を使用する場合、"="記号で、それを前にするのを確認してください。希望の場合は、**グリッド書式** ボタンをクリックして**テーブル形式のプロパティ**
    ダイアログ
    ボックスにアクセスします。このダイアログボックスを使用して、レポートのグリッドフォーマットを定義できます。グリッドフォームで、新しいラベルのテンプレートブランドを作成せずに列と行を並べ替えて非表示できます。また、グリッド形式を定義するのはTABLE/FORMAT編集ウィンドウがコマンドを使用して測定ルーチン測定ルーチン行と列の順序をコントロールします。「テーブル形式のプロパティダイアログボックスを使用」を参照してください。

- **何も使用しない**

- *何も使用しないことを選択した場合*は、 PC-DMISは、その条件には何も表示されません。特定の要素、コマンド、または条件のために何も出力したくない場合、これが役に立つとわかるかもしれません。

7. **編集ルール** ダイアログ ボックスを記入した場合、**OK**をクリックします。PC-DMISはリストからの項目を太字フォントに位置して**ルール ツリー エディタ** ダイアログボックスの下部にまたこの項目のルールを挿入します。

8. ルールを整理します。既定のコマンドの種類に対して、いくらでもルールを設定することが可能です。複数のルールを設定した場合、PC-DMISはルールが現れた順にそれを判断します。**[ルール ツリー エディタ]**ダイアログボックスでルールを選択し、**[上へ移動]**または**[下へ移動]**をクリックすることで判断する順序を変更することができます。

   - **[コピー]**および**[貼り付け]**ボタンを使用して、ルールをコピーし、1つの項目から別の項目、または複数の項目へ、あるいは全く別のツリーへ貼り付けることも可能です。「ルールのコピーと貼り付け」を参照してください。

   - **消去**
     または**クリア**をクリックして、個々の項目からルールを削除することができます。複数の項目のルールを削除する場合は、それらを選択して**クリア**をクリックします。「規則消去」を参照してください。

9. **OK** をクリックして**ルール ツリー エディタ**に作成される変更を保存します。

10. ルールをテストします。

    - レポート テンプレートを保存します。

    - レポートウィンドウのレポートツールバーを使用してレポートデータにレポートテンプレートを適用します。

    - 測定ルーチンを実行します。

重要:子要素を割り当てるルールは常に親要素に割り当てるルールを却下するのを注意してください。また、ルールは自分のルールが含まれないノードの各子要素に適用される親ノードに割り当てられます。

規則のインポートとエクスポート

コラボレーティブな環境で作業する時には、おそらくその別のレポートテンプレートから作成されたルールを共有したい場合があります。**ルール ツリー エディタ**ダイアログ ボックスを使用して、 **インポート**

ボタンを使用して簡単にこれを行い、その他の人のルールをインポートし**エクスポート**
ボタンを使用してその他の人と自分のルールを共有します。

ルールファイルは「.rul」ファイル名拡張子を持ちます。

ルールファイルのイんすポート

1. ルール ツリー エディタ ダイアログ ボックスにアクセスします。
2. **インポート**ボタンをクリックして下さい。**[開く]**ダイアログ ボックスが表示されます。
3. インポートしたいルールファイル(.rul)が含まれるディレクトリに移動します。
4. **開く**をクリックして下さい。PC-DMIS はルールファイルを**ルール ツリー エディタ**にインポートします。
5. **OK** をクリックしてインポートされたルールを保存します。

ルールファイルへのエクスポート：

1. ルール ツリー エディタ ダイアログ ボックスにアクセスします。
2. **エクスポート**ボタンをクリックして下さい。**[名前を付けて保存]**
   ダイアログボックスが現れます。
3. ルールファイル(.rul)を保存するディレクトリに移動します。
4. **Filename** ボックスのファイルに名前を入力します。
5. [保存]
   をクリックします。すべてのルールは、オブジェクトがエクスポートさに関連付けられます。誰かが、エクスポートされたルールをインポートして使用できます。

規則のコピーと貼り付けて

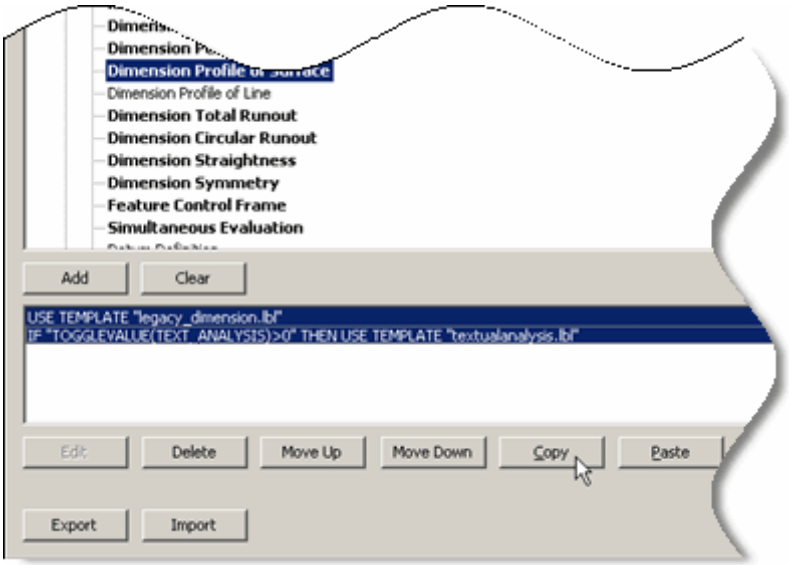
ルール ツリー エディタ は**Copy** と**Paste** ボタンを含まれ、
異なるオブジェクトまたは同じな**ルール ツリー エディタ** の異なる項目のために現在の**ルール ツリー エディタ**と **ルール ツリー エディタ**の間のルールをコピーと貼り付けができます。

注記:
コピールールはWindowsのクリップボードに保存されません。ここで特定のコンテキストの外でルールをコピーまた貼り付けることはできないと説明します。

ルールをコピーと貼り付けるには：

1. ルール ツリー
   エディタから1つのアイテムを選択します。ツリーエディタから複数の項目を選択した場合、**コピー** コピーボタンが有効になりません。

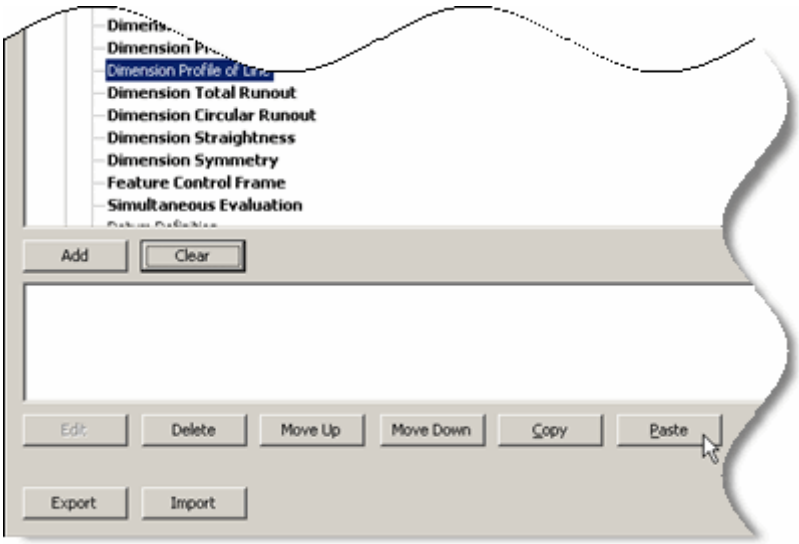
2. ルールリストボックスから1つ以上のルールを選択します。**コピー**ボタンが選択有効になります。



2つのルールをコピーするサンプル

3. **コピー**をクリックして下さい。

4. ルールのツリーから1つまたは複数の項目を選択してハイライトします。複数の項目を選択する場合にはCtrl キーを押し続けて下さい。**貼り付け** ボタンは利用可能になります。



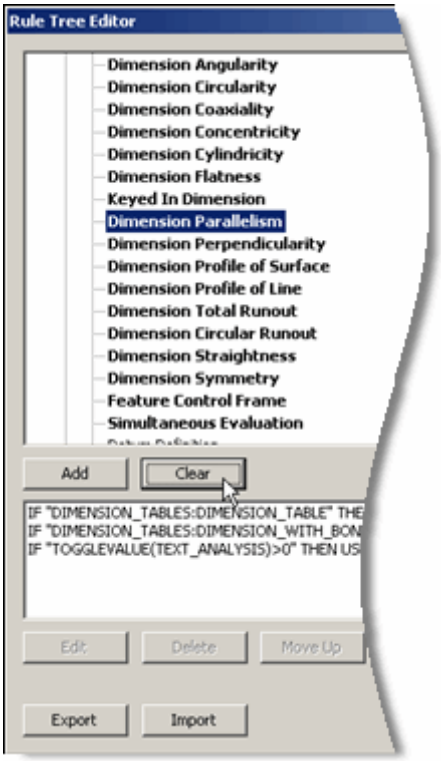
コピーされるルールを空アイテムに貼り付けるサンプル

5. **貼り付け**
   をクリックしてコピーされるルールを選択される項目に貼り付けます。コピーされるルールとルールをもう一つ以上のルールを含む項目に貼り付ける場合、既存のルールは新しいルールによって上書きされない、しかし、新しいルールは既存のリストに代わりに追加されます。**貼り付け**
   を複数回にクリックしていくつかの異なるルールツリー項目に挿入します。

6. ルール ツリー エディタ の**OK** をクリックして変更を保存します。

規則消去

クリア ボタンはルール ツリー
エディタから選択されたの1つまたは複数項目に関連付けられるすべてのルールを削除します。追加項目を選択している場合、Ctrlキーを押して1つ以上の項目を選択することができます。

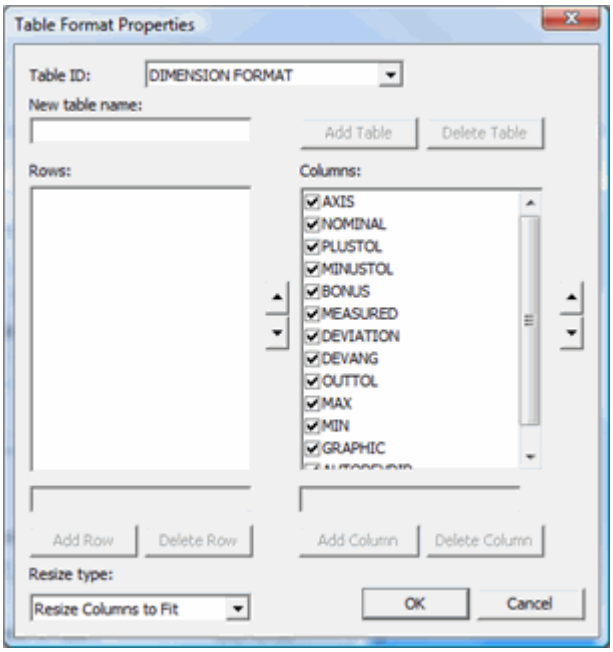


選択された項目のクリアルールのサンプル

[テーブル形式のプロパティ]ダイアログ ボックスの使用

テーブル書式 ダイアログ ボックスは
GridControlObjectに定義された列と行名と動作して、ラベルテンプレートの**GridControlObject**

にラベルと可視性と列の順序をコントロールできます。一旦に **ルールの編集**
ダイアログボックスから**グリッド形式**
をクリックしたら、このダイアログボックスが表示されます。**ルールの編集**ダイアログ
ボックスと**グリッド形式** ボタンの情報については「ルールの定義 」を参照してください。



[テーブル形式のプロパティ]ダイアログ ボックス

このダイアログボックスは別のテーブルのフォーマットを含まれます。テーブル形式は名前つけた行と列が最終的なレポートに表示する方法を簡単に定義できます。ダイアログ
ボックスで、順序とすべての既存のテーブル形式の表示状態を変更することができます。このダイアログ ボックスを使用して自分のカスタムテーブル形式を作成します。

既存のテーブル形式に対して変更できることは、行列の外観およびその並び順だけです。これらのテーブル形式を削除したり行または列に属するデータを変更することはできません。

テーブル形式を使用するためには、列または行はすでに名前つけた **GridControlObject**
があるラベル テンプレートを使用する必要があります。

以下のプロパティが利用可能です。

テーブルID
使用可能なテーブル形式を一覧表示します。

新規テーブル名
新しいテーブル形式を定義します。

テーブルを追加
新しいテーブル形式を追加します。このボタンは、**[新しいテーブル名]**ボックスに名前が入力された時のみ有効になります。

テーブルを削除
選択されたカスタム
テーブル形式を削除します。このボタンは、**[テーブルID]**リストからカスタム
テーブルが選択された時のみ有効になります。

行
テーブル形式の行および列を一覧表示します。上矢印および下矢印をクリックするとこれらを並び替えることができます。

行/列を追加
行 または列 エリアに行または列の名を追加します。カスタム
テーブル形式では、追加のみ可能です。

行/列を削除
行 または列 エリアから選択された行または列を消去します。カスタム
テーブル形式では、項目の削除のみ可能です。

リサイズタイプ
列を表示、または非表示にしたときにテーブルが行うことを定義します。次の3項目がリストに含まれます:

> グリッドをサイズ -
> これは既存の列のサイズを保持して新しい幅に合わせてグリッドのサイズを変更します。
>
> 合わせるために列のサイズを変更します -
> これはグリッドの既存の幅のサイズを保持して既存の幅に合わせて均等に各列のサイズを変更します。
>
> テキストを非表示にします -
> これはグリッドまたは列のサイズを変更していません。単にテキストが非表示となります。

キャンセル
変更を適用せずにダイアログ ボックスを閉じます。

OK
編集ウィンドウのルール ツリー エディタ または TABLE/FORMAT
コマンドでルールに選択されたテーブル形式を使用します。

GridControlObjectの列または行に名前を付けるには：

1. ラベル テンプレートエディタに **GridControlObject**を選択します。
2. 列または行の一番目のセルをダブルクリックします。
3. 右クリックしてプロパティエディタにアクセスします。
4. **セル** または**列** タブのいずれかをクリックしてください。
5. **行ラベル** ボックスまたは**列ラベル**
   ボックスに値を入力します。リストから選択するか、任意の値を入力することが可能です。カスタム テーブル形式では、カスタム ラベルが表示されるのみです。

列または行を並び替えるには、次の操作を行います:

1. **テーブルID** リストからテーブル形式を選択します。
2. 既に行または列が表示されています。
3. **行** または**列** エリアで、レコードしたい行または列を選択して、上または下
   矢印ボタンをクリックして
   その項目を発送してまたはリスト内で上または下にします。リストの上にある項目は下の項目の前に表示されます。

列または行を表示/非表示にするには、次の操作を行います:

1. **テーブルID** リストからテーブル形式を選択します。
2. 既に行または列が表示されています。
3. **行** または**列**
   エリアに、ラベルの項目を非表示する行または列の名の左にチェックボックスをクリアします。チェックボックスをオンにすると、対応する項目がラベルに表示されます。

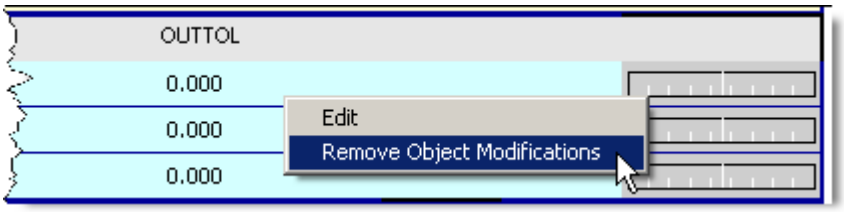
カスタムテーブル形式を作成するには：

1. **新しいテーブルの名前** ボックスに名前を入力します。
2. **追加テーブル** ボタンをクリックして下さい。カスタムテーブルテーブルは **Table ID**リストに表示され、削除されるまで残ります。
3. **行を追加** または**列を追加** ボックスに、
   GridControlObjectに与えった行または列のラベル名前に一致する名前を入力します。
4. **行を追加** または**列を追加** をクリックしてラベルに項目を追加します。

5. 目的のデータがテーブル形式に含まれるまで、必要に応じて行および列の追加、削除、または並べ替えを続けます。

変更を削除します

すぐに変更を削除するには、目的(TextReportObject、 CADReportObject、または Label オブジェクト)レポートオブジェクトを右クリックして、[**オブジェクトの変更を削除**] ボタンを選択します。

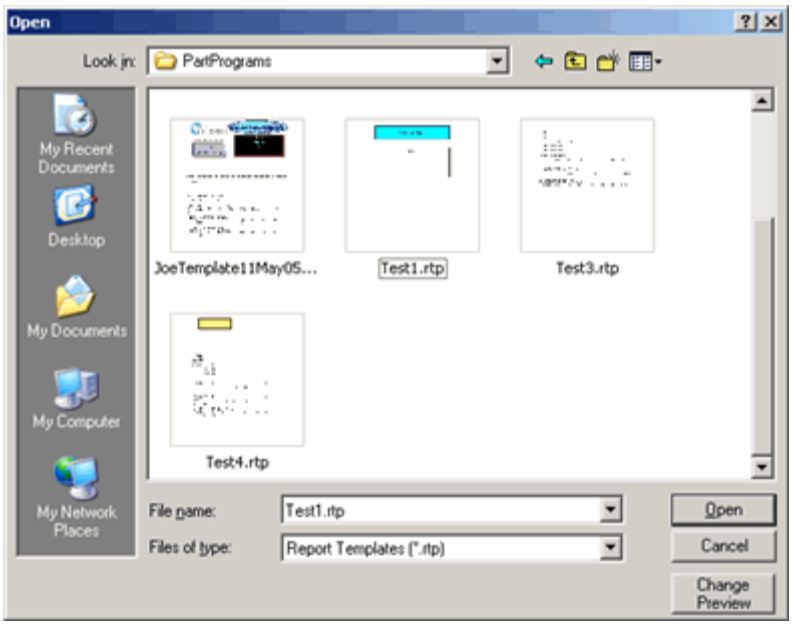


PC-DMISはレポートオブジェクトをそのデフォルトの状態に戻ります。

[テンプレートのプレビュー]サムネイルアイコンの変更

レポートまたはラベルのテンプレートを作成するたびに、PC-DMISは自動的にの最初のページまたはセクションをテンプレートに表示される内容に基づくテンプレートのサムネイルサイズのプレビューを作成します。

テンプレートを編集して[**開く**] ダイアログボックスにアクセスしようとするたびに、このサムネイルのプレビューが表示されます（[**ファイル| レポート| 編集| レポートテンプレート**] または[**ラベル テンプレート**]を選択してください)。



サンプル開くダイアログボックスがいくつかのレポートテンプレートプレビューのアイコンを表示します

テンプレートにデフォルト作成プレビューの変わりにカスタムイメージファイルを使用したい場合、**開く** ダイアログ ボックスにこれを行います。

テンプレートのプレビュー]サムネイルアイコンを変更するには：

1. **開く** ダイアログ ボックスからテンプレートファイルを選択してください。

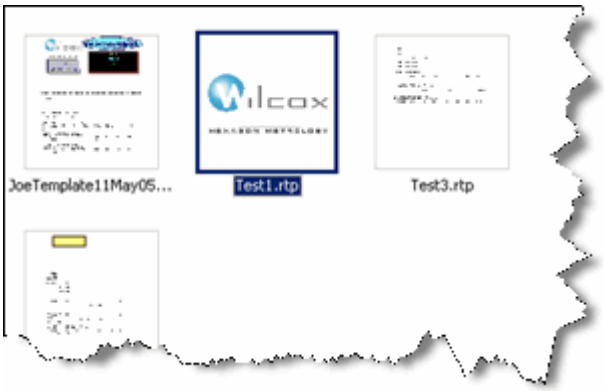
2. **[プレビューを変更]**
   ボタンをクリックしてください。**[テンプレートイメージ選択]***ダイアログボックス*が表示されます。

テンプレートイメージ選択ダイアログ ボックス

3. **ファイルから画像を選択** オプションボタンを選択して下さい。

4. **[OK]** をクリックします。その他の**開く**
   ダイアログボックスが表示して、既存のイメージファイルを選択できます。

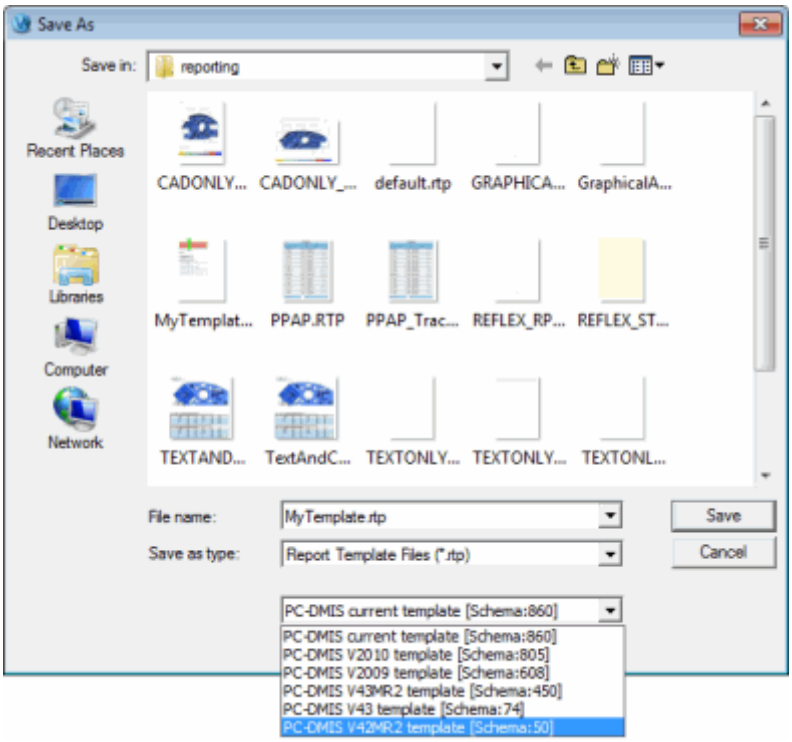
5. .bmp または.jpeg
   ファイルが含まれるディレクトリへ移動し、画像ファイルを選択、または
   開くをクリックしてください。PC-DMISは選択された画像をプレビューに使用します。



Test1.rtpをビットマップ画像で表示した例

テンプレートまたはフォームを以前のバージョンで保存

それらがさらにテンプレート報告を支援する初期のPC-DMISバージョンと後ろに互換性をもつように、報告書テンプレート、ラベル・テンプレートあるいはフォームを保存することができます。これに、単にそのそれぞれの編集環境（レポートテンプレートエディタ、ラベルテンプレートエディタまたはフォームエディタ）の中に望ましいレポートまたはラベル・テンプレートを開けて、**ファイル| 名前を付けて保存 ...**
メニュー項目を選んでください 。**改名で保存**ダイアログ ボックスが現れます。



新名でセーブ ダイアログ ボックス

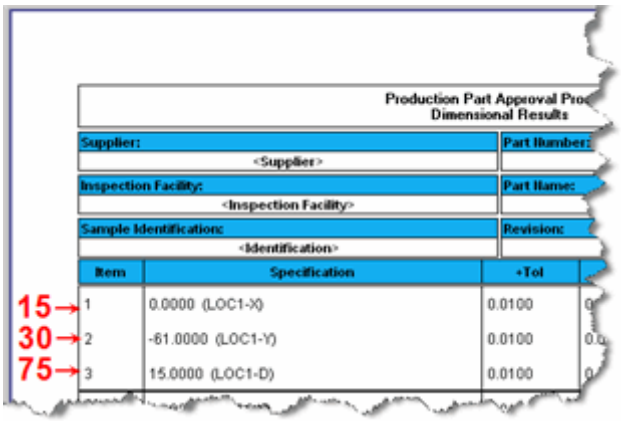
ダイアログボックスの底の近くで、**名前を付けて保存タイプ**リストは、あなたにPC-DMISがアイテムを保存しなければならないバージョンを指定させます。あなたがこれらのアイテムを保存することができる最も初期のPC-DMIS版は、バージョン4.2 MR2です。望ましいバージョンを選んで、「**保存**」をクリックしてください。

ファイル**|**
保存メニュー項目を使用する場合、それが初期のバージョンに以前に保存されたとしても、PC-DMISは自動的にPC-DMISの現在実行しているバージョンへアイテムを保存します。

チュートリアル — レポート テンプレートの利用

ほとんどの時間にはゼロから新規レポートテンプレートのブランドを作成して、その代わりにPC - DMISで発送された既存のテンプレートを基にする新しいテンプレートを作成します。

例えば、風船付きの(または番号付きした)
印刷があり、風船付きの数字をPPAPレポートの**アイテム**
列のような(下に示すように)最終レポートに表示したいと仮定します。



どのように膨れ上がったデータを取ってPPAP テンプレートにしますか?

たぶん印刷の要素#15は穴のX寸法で、要素#30はY寸法で、また要素#75穴の直径です。どのようにこの情報を最後レポートの **項目** 列に取りますか。1つの方法は、PPAPとラベルテンプレートを設定して測定ルーチンの変数から情報を取得します。

このチュートリアルでは、
PPAPレポートとラベルテンプレートのコピーを作成する方法を示しています。さらに、どのようにそれらを変更して **項目**
ヘッドの下に表示される情報がPPAPレポートに表示される数の通常のシーケンシャルリストの代わりに測定ルーチンから取られた変数を表示します。

このチュートリアルは「レポート テンプレートの作成」と「ラベルテンプレートの作成」チュートリアルに学んだスキルを使用します。これらのチュートリアルを完了する必要があり、このチュートリアルで適切な基盤があります。

ステップ 1: PPAP レポート及びラベル テンプレートの複製

最初にする必要があるのはすべてのコンポーネントPPAPのレポートを生成するために使用のコピーを作成します。これらはレポートテンプレートと基になるラベルがテンプレートを含みます。

1. レポート テンプレートエディタでPPAP.RTPレポート テンプレートを開きます。
2. **ファイル| 名前を付けて保存**を選択します。
3. レポート テンプレートに "BALLOON_PPAP.RTP"と名付けます。
4. レポート テンプレート エディタを閉じます。
5. ラベルテンプレートエディタで、それぞれにとして
   、これらのテンプレートを開いて、**File | 名を付けて保存**を選択して

以下のテーブルに表示されるように "BALLOON_"
ファイル名の接頭辞でそれらを保存します：

既存されるラベル テンプレート	ファイル名を付けて保存
PPAP_DIMENSION.LBL	BALLOON_PPAP_DIMENSION.LBL
PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBL	BALLOON_PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBL
PPAP_FCF_POSITION.LBL	BALLOON_PPAP_FCF_POSITION.LBL
PPAP_FCF_SIZE.LBL	BALLOON_PPAP_FCF_SIZE.LBL
PPAP_FCF_SUMMARY.LBL	BALLOON_PPAP_FCF_SUMMARY.LBL
PPAP_FCF_POSITION_LINE3.LBL	BALLOON_PPAP_FCF_POSITION_LINE3.LBL
PPAP_TRUE_POSITION_INBETWEEN.LBL	BALLOON_PPAP_TRUE_POSITION_INBETWEEN.LBL

PPAPレポートで使用されるテンプレートすべてのレポートとラベルのコピーが必要です。後続の手順でこれらのコピーをカスタマイズします。

ステップ2: レポート テンプレートのルールの変更

レポートテンプレートとラベルのコピーを作成したが、新しいレポートテンプレートにルールを変更する必要がありますので、新しく保存されたバルーンのラベルのテンプレートが通常のPPAPのラベルの代わりに使用されます。

1. レポート テンプレートエディタでBALLOON_PPAP.RTPレポート
   テンプレートを開きます。

2. テンプレートの**TextReportObject1**
   にアクセスしてそれを右クリックしてオブジェクトのプロパティにアクセスします。

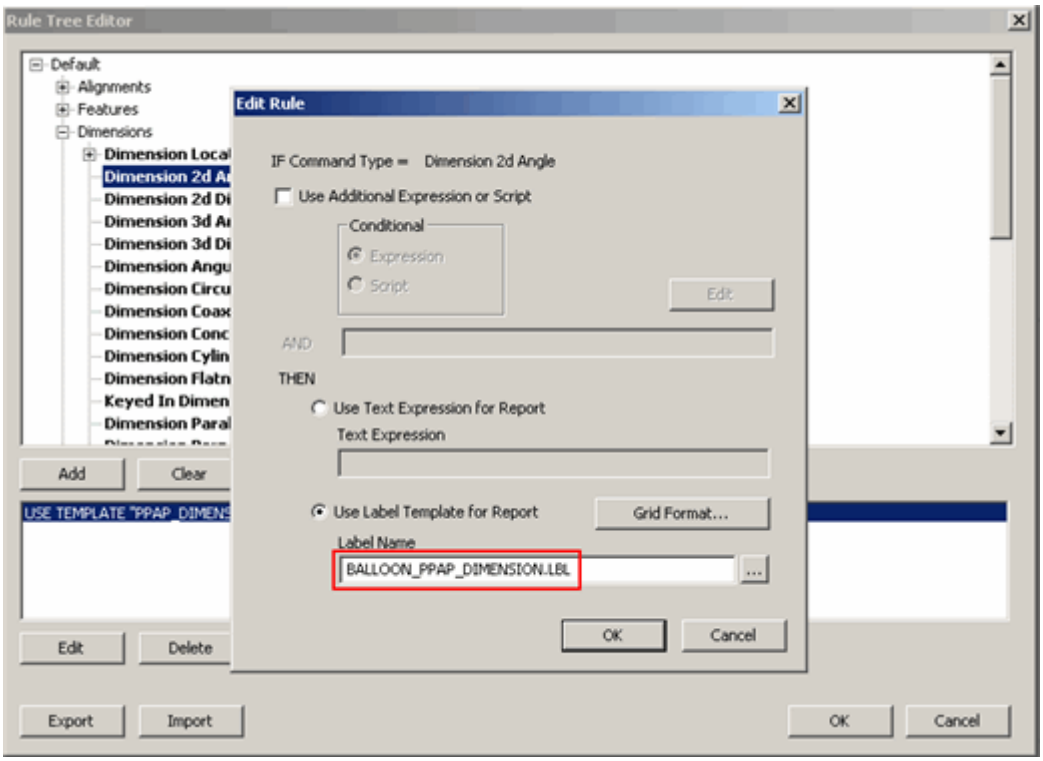
3. **プロパティ** ダイアログ ボックスから**ルール**をクリックして**ルール ツリー**
   エディタにアクセスします。

4. **ルール ツリー**
   エディタの**寸法**リストを拡大します。ルールはそのディメンションの型に適用されるのを表示する太字のフォントでいくつかの寸法が表示されます。

5. 寸法

リストの各太字の項目を選択してその既存ルールまたはルールを変更しますので、使用される"BALLOON_"接頭辞の代わりにラベルのテンプレートを対応します。

既存のラベル テンプレートが使用されます	新しいラベル テンプレートは使用します
PPAP_DIMENSION.LBL	BALLOON_PPAP_DIMENSION.LBL
PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBL	BALLOON_PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBL
PPAP_FCF_POSITION.LBL	BALLOON_PPAP_FCF_POSITION.LBL
PPAP_FCF_SIZE.LBL	BALLOON_PPAP_FCF_SIZE.LBL
PPAP_FCF_SUMMARY.LBL	BALLOON_PPAP_FCF_SUMMARY.LBL
PPAP_FCF_POSITION_LINE3.LBL	BALLOON_PPAP_FCF_POSITION_LINE3.LBL
PPAP_TRUE_POSITION_INBETWEEN.LBL	BALLOON_PPAP_TRUE_POSITION_INBETWEEN.LBL



ラベル テンプレートの変更

6. レポート テンプレートを保存します。

既存のルールを変更して、"BALLOON_"プレフィックスを持つラベルテンプレートは形式に使用されてレポートデータを表示します。

ステップ3: 測定ルーチンにASSIGN ステートメントを追加すること

今ではルールが変更され、次にする必要があるのは、
各膨れ上がった項目の測定ルーチンにASSIGNステートメントを挿入することです。測定ルーチンで各寸法の前に寸法に表示される特徴にASSIGNステートメントを追加します。たとえば、このトピックのはじめに、印刷の要素#15が穴のX寸法と要素#30が穴のＹ寸法また要素#75が穴の直径であることを提案します。X、Y、およびD値（3つの特性）を表示するロケーション寸法を持つ場合、3つのASSIGNステートメントを寸法の前に挿入する必要があります。

```
ASSIGN/V1[1] = 15
ASSIGN/V1[2] = 30
ASSIGN/V1[3] = 75
```

これらのステートメントはV1の変数に複数の値の配列を作成します。

測定ルーチンで各寸法の前に、様のASSIGNステートメントを適用します。

- 寸法は1つだけの特性を表示される場合、寸法ステートメントの前にASSIGN/V1[#]を配置する必要があります。

- 10の特性を表示する場合、(たとえば、TP FCF 寸法)
  配列で10個の要素のステートメントの10個ASSIGN 必要があります：

```
ASSIGN/V1[1] = 2
ASSIGN/V1[2] = 4
ASSIGN/V1[3] = 6
ASSIGN/V1[4] = 24
... 等々...
ASSIGN/V1[10] = 76
```

重要な注記: ほとんどの場合では、すべて の寸法に対してすべてのASSIGNをステートメントの同じ変数名を使用する必要があります。このチュートリアルは変数V1を使用します。例外は旧式の真の位置の寸法です。この寸法のタイプについて、XYZの軸のV1[1]、V1[2]
などを使用できます。ただし、要素の直径と基準要素と位置の引き出し線については、それぞれV2の[1]、V2の[2]、V3
[1]のように、固有の変数を使用する必要があります。また、変数は数値のみを取ることに注意してください。アルファベットの文字にすると、レポートにはゼロだけを表示ます。

ASSIGNステートメントの追加を終了した場合、測定ルーチンが終了され、実行する準備が整いました。残っているするのはラベル
テンプレートを変更して各寸法に値の変数の配列を読み込みます。

ステップ 4: ラベル テンプレートを変更して変数を読取ること

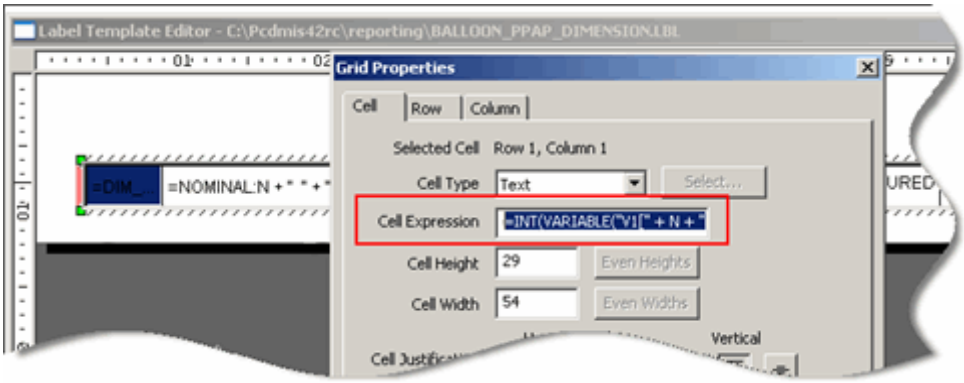
このステップに、各該当するラベルテンプレートを開いてそれを作成し、変数の値の配列を読み込みます。

1. ラベルテンプレートエディタより、BALLOON_PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBLで、 以前のバージョンで指定されたプレフィックス"BALLOON_"
   を持つその他のラベルテンプレートを開きます。

2. GridControlObjectまた最初のセルの内容にアクセスします。

3. 以下のように式を変更して読み込めます：

```
=INT(VARIABLE("V1[" + N + "]", ID:N))
```



4. 各ラベルテンプレートを保存します。

5. 最後に
   BALLOON_PPAP_DIMENSION_TRUE_POSITION.LBLを開きます。このテンプレートはGridControlObjectに複数の行があるので、V1の変数だけでなくさらに多く指定する必要があります。

   - *XYZの軸には*、式でV1の変数を使用することができます：

   ```
   =INT(VARIABLE("V1[" + N + "]", ID:N))
   ```

   - *データムと要素の直径について*、以前ユニークな変数を使用したの（V2のような）を使用する必要があります：

   ```
   =INT(VARIABLE("V2[" + N + "]", ID:N))
   ```

   - *位置コールについて*、
     別のユニークな変数を以前使用した（V3のような）のを使用します：

   ```
   =INT(VARIABLE("V3[" + N + "]", ID:N))
   ```

各寸法 (:Nの使用) を介するレポートインクリメントの原因で、変数の配列は"V1[" + N + "]"と呼ばれてまたV1配列のN番目の要素が表示されます。最後のステップは、実行、結果の表示は準備です。

ステップ5: 結果の実行及び表示

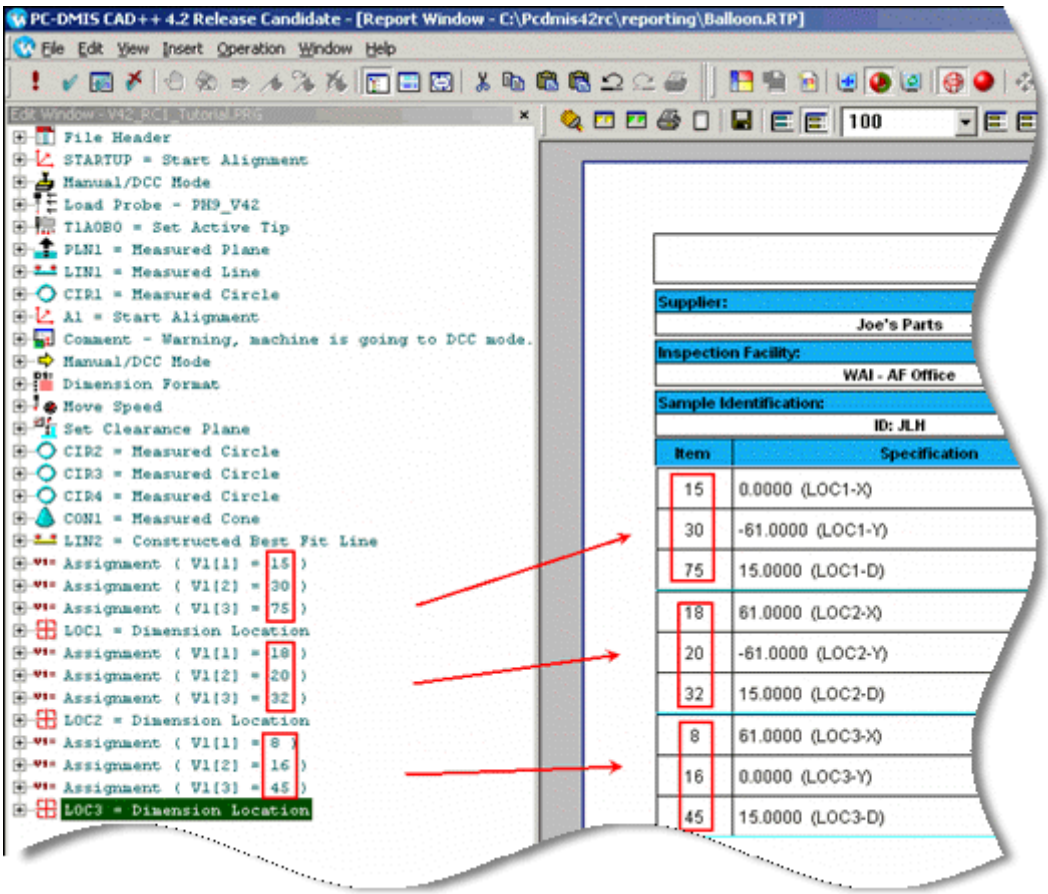
この最後のステップで
レポートウィンドウで使用するレポートテンプレートを定義して測定ルーチンを実行して最終的な結果を表示します。

1. このポイントに作成された変更を保存します。

2. レポートのウィンドウにアクセスしてBALLOON_PPAP.RPTテンプレートをロードします。

3. ユーザの測定ルーチンを実行します。実行の後にツールバーのレポートから**レポートを再描く** クリックする必要もあります。

レポートウィンドウが最終レポートを示しています。これは以下のようになり、PPAPレポートに番号付きしたプリントを表示します：



最終レポートはPPAP レポート内のカスタム番号項目を表示します。

フォームの作成

フォームエディタで、インタラクティブなフォームとダイアログボックスを構築でき、測定ルーチンがが実行される場合にはそれらを有効にします。これらのインタラクティブフォームは、Visual Basic言語を使用します。フォームはVisual Basic言語によく理解する上、PC - DMISオートメーションは測定ルーチンにパワーと柔軟性を与えます。

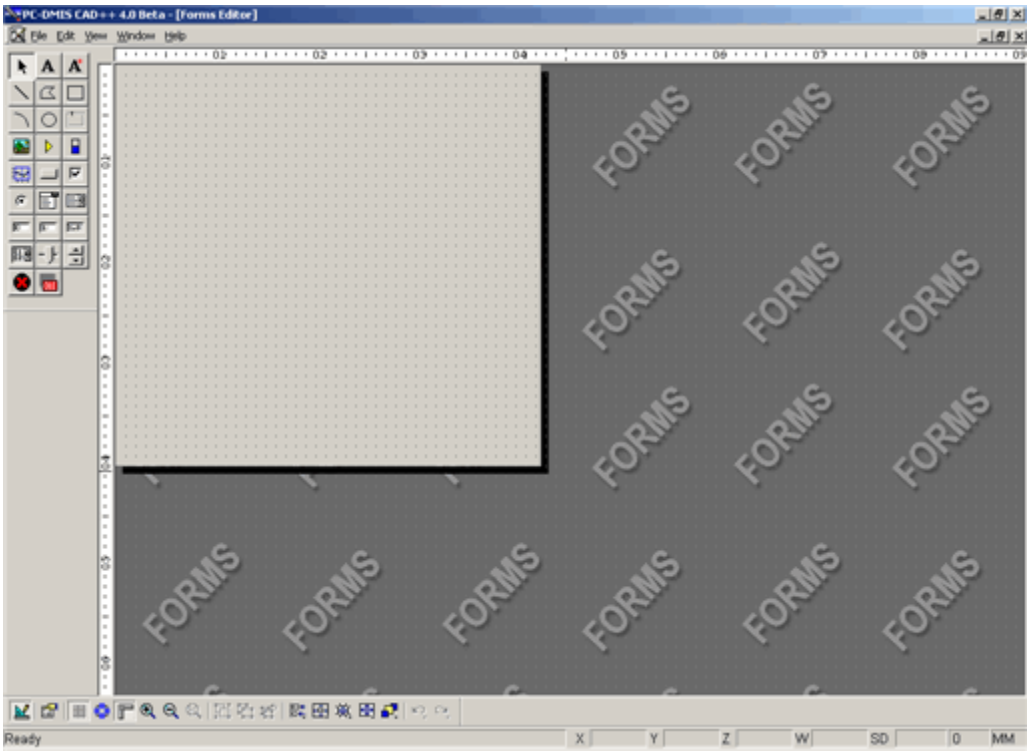
実行をコントロールするためにフォームを使用するときにフォームはまだ報告に積極的に役割を果たして、間接的にレポートの終了をコントロールします。

このセクションはフォームで行うことをカバーしようとしていません。代わりに、作成を使用する方法、一般的にフォームを使用し、レポートの意味で、どのようにユーザーから情報を取得し、標準的なPC - DMISコマンドを使用してレポートに入るのをカバーします。

フォームは演算子に役立つ手順を提供する手段としてレポート以外の役割で使用されます。これを行う方法の例について、「フォームのOLEオブジェクトを使用したオペレータへの指示」を参照してください。

フォーム エディタの説明

表示 | フォームエディタまたは**ファイル| レポート| 新規作成 | フォームレポート**を選択してフォームエディタにアクセスできます。新しいウィンドウにフォームエディタが表示されます。



フォーム エディタ

フォームエディタは作業エリアとして機能し、様々なインタラクティブなフォームオブジェクト（ボタン、リストボックス、編集ボックスなど）をドラッグ、サイズまた配置して、そのプロパティを設定します。オブジェクトはフォームと呼ばれるグレーの大きな領域に配置されます。PC-DMISの以前のバージョンのHyperViewレポートと動作した場合、
それは本質的に機能とほぼ同じ方法になったのと同じユーザーインターフェイスの多くな要素が含まれますので、このエディタで自宅である感じます。

新しいテンプレートを使用したレポート作成方法により、フォーム
エディタのみが実行モード機能を使用できます。レポートとラベルテンプレートエディタはそれを使用しません。

起動モード -
このモードは、フォームエディタで動作します。実行モードでは、フォームを実行して(走らせて)、実際の測定ルーチンの実行環境でどのように見え、作用するかをテストすることが可能です。

編集モード -
これはすべてのレポートエディタのデフォルトのモードであり、またレポートとラベルエディタのテンプレートのみのモードです。

CTRL+Eを押すと実行モードと編集モードの間の切り替えを行うことができます。

エディタには次の要素が含まれます:

- メニュー バー
- フォント バー（ツールバー）
- オブジェクトバー（ツールバー）
- レイアウトバー（ツールバー）
- オブジェクトプロパティシート
- オブジェクトシート

チュートリアル - フォームの作成

このトピックは非常に基本的なチュートリアルの手順を説明しますので、それはいくつかのダイアログボックスコントローラで単なレポートテンプレートを作成し、実行時には、リストからユーザー名を選択できるようになりますし、特定の要素のみを測定選択できます。選択した情報は最終報告書に表示されます。

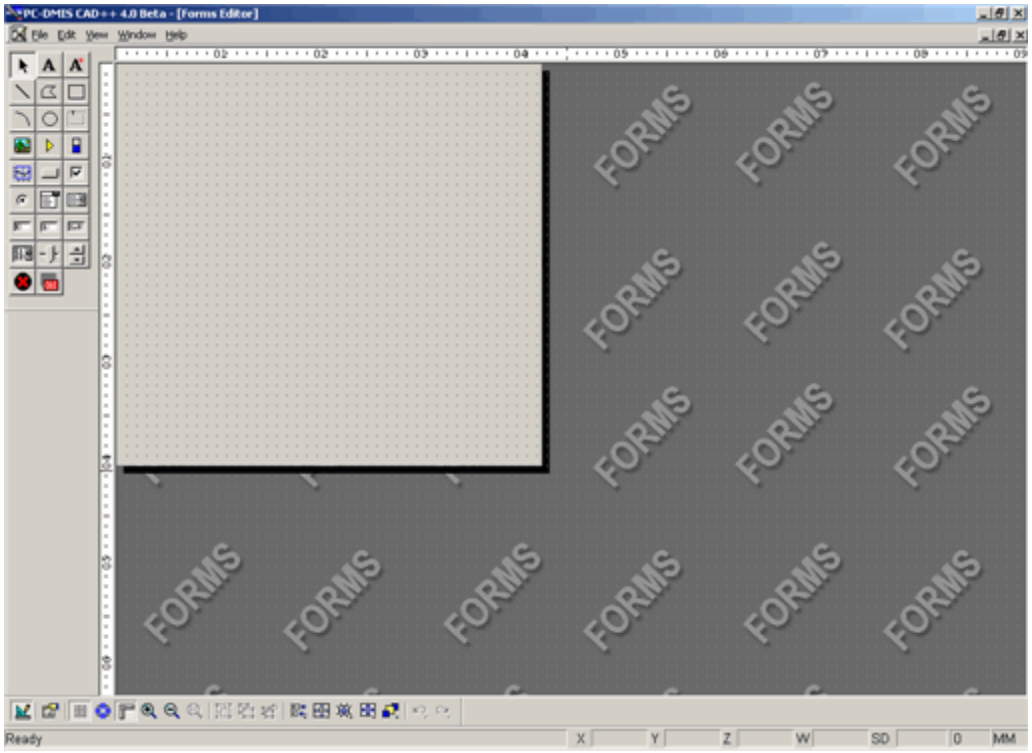
この特定の編集ウィンドウのコマンドを使用して確かに側面を複製することができますが、このチュートリアルはフォームエディタ、いくつかの想像力、そして少しのプログラミングスキルで可能な考えを与えます。

重要:
このチュートリアルは「カスタムレポートテンプレートを作成」と「レーベルテンプレートの作成」

チュートリアルに作成されたファイルを使用します。まだ行われていない場合、これらのチュートリアルをまず終了してください。

ステップ1: 作業環境を準備する

1. このチュートリアルで、フォームエディタとエディタウィンドウの間に切り替わるので、最初のエディタウィンドウを準備します。
    - エディタウィンドウを右クリックしてまたショートカットメニューから**ビューのドッキング** を選択してそれを解除します。
    - 最大限ボタンを選択しますので、それは画面を塗りつぶします。
    - 編集ウィンドウをコマンド モードにして下さい。
2. メニューバーから**ビュー| フォームエディタ** を選択してください。フォームエディタが表示されます。
3. 右ツールバーエリアをクリックしてそれらを削除して未使用の全部のツールバーを隠します。
4. **ビュー** メニューから開いているウィンドウを選択して全部の未使用のPC - DMISウィンドウを隠します。編集ウインドウを開きたままにします。
5. エディタのウィンドウの右上隅にある*最大化ボタン* をクリックして、フォームエディタを最大化します。エディタのウィンドウの右上隅に単語「FORM」が表示されます。フォームエディタは*以下のように*なります：



フォーム エディタ

ヒント: フォーム エディタを使用して作業する場合、通常のPC-DMISツールバーおよびウィンドウを非表示にし、画面のスペースを確保したほうが便利です。このエディタを頻繁に使用する場合、テンプレート用に画面のレイアウトを作成して保管する必要があるかもしれません。レイアウト情報については、「ツール バーの使用」の章にある「ウィンドウレイアウト ツール バー」トピックを参照して下さい。

ステップ2: フォームの作成

1. **TheFrame/TheView** の灰色背景をドラッグして、
   それを5インチの幅6インチの高さにします。

2. **境界**
   オブジェクトを追加し、ドラッグして、それをちょうどフォームの領域内に収まれるようにします。境界のプロパティを設定しますので、それは**LineWidth** 値は3 また **ForeColor** は濃い青(0.0.128)になります。

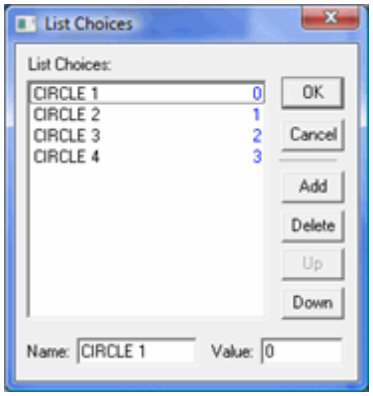
3. **ビットマップ** オブジェクトをフォームのトップに追加します。**Bitmap ダイアログ** が表示されます。**ロード**
   ボタンを使用してお好みのビットマップファイル（コーポレートロゴなど）に移動します

。ビットマップをサイズと位置しますので、それはフォームの上部に1.5インチの範囲内です。

4. **RadioButton** オブジェクトをビットマップオブジェクトの下に追加します。RadioButton プロパティにアクセスして**ListItems** 値をクリックします。**リストの選択** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、オブジェクトにオプションボタンのリストを作成できます。

   - **リストの選択** ボックスに既存**RadioButton1** を選択してください。**名前**ボックスに、名前を「CIRCLE 1」に変更します。インデックス**値**既に0が表示されます。

   - **[追加]**ボタンをクリックして、さらに3つの項目を追加します。次に、新たに追加した項目の名前を"円2"、"円3"、"円4"と変更します。これらのインデックスはそれぞれ1、2、3となります。**[選択肢リスト]**ダイアログボックスは*次のように*なります。



リストの選択ダイアログボックスで、4つのインデックス値0から3までの4つのオプションを表示します。

   - 完了後に、**OK**をクリックして下さい。

5. **(ObjectCode)** 値を「RadioButton1」から「optMeasure」まで変更してRadioButton オブジェクトを改名します。

6. フレーム
   オブジェクトを追加してそれをRadioButtonオブジェクトのまわりにドラッグします。フレームの**テキスト** プロパティを「測定するものを選択」に読むのに変更します。

7. **EditBox**オブジェクトをRadioButtonオブジェクトの右に追加し、それを「EditBox1」から「txtMeasure」までリネームします。

8. RadioButtonオブジェクトの下の**テキスト**
   オブジェクト（テキスト２）を追加し、「ユーザを選択」を読み取るために、その**テキスト** プロパティを設定します。

9. **ComboBox**
   をテキストオブジェクトの右に追加し、それを「ComboBox」から「cboUsers」までリネームします。このコントロールは、ユーザーのリストが含まれます。

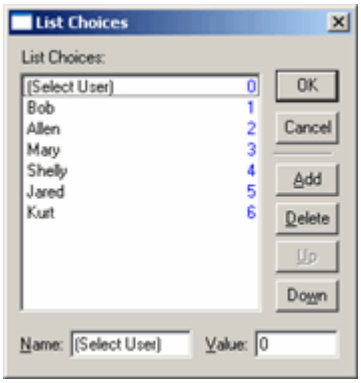
   - **ListItems**
     値をクリックしてユーザのリストを追加します。これは再度に**リストの選択**
     ダイアログ ボックスにアクセスします。

   - **追加**をクリックして下さい。PC-DMISは
     リストの選択の下の「（無し）」を挿入します。

   - リストの1番目の項目名を、"(なし)"から"[ユーザーを選択]"に変更し、インデックスの**[値]**を0に設定します。

   - 以前と同様に5,6のユーザー名を追加する前にこのダイアログボックスを使用続けてください。このチュートリアルでは「Bob」、「Allen」、「Mary」、「Shelly」、「Jared」、と「Kurt」を使用します。

   - **[上へ]**または**[下へ]**ボタンを使用し、必要に応じて各項目がリストに表示される順序を変更します。操作が終わったら、ダイアログ
     ボックスは*次のように*表示されるはずです：



リストの選択ダイアログボックスはComboBoxのユーザー名のリストを表示します

   - **[OK]** をクリックします。ComboBox
     オブジェクトは今それらのリスト項目を含みます。

10. **EditBox**
    オブジェクトをComboBoxの右に追加し、それを「EditBox2」から「txtUser」にリネームします。

11. 「ユーザを選択」と読み込めるオブジェクトの下の**テキスト**
    オブジェクト（テキスト２）を追加し、その**テキスト**
    プロパティを「報告書説明を入力:」と読むのを設定します。

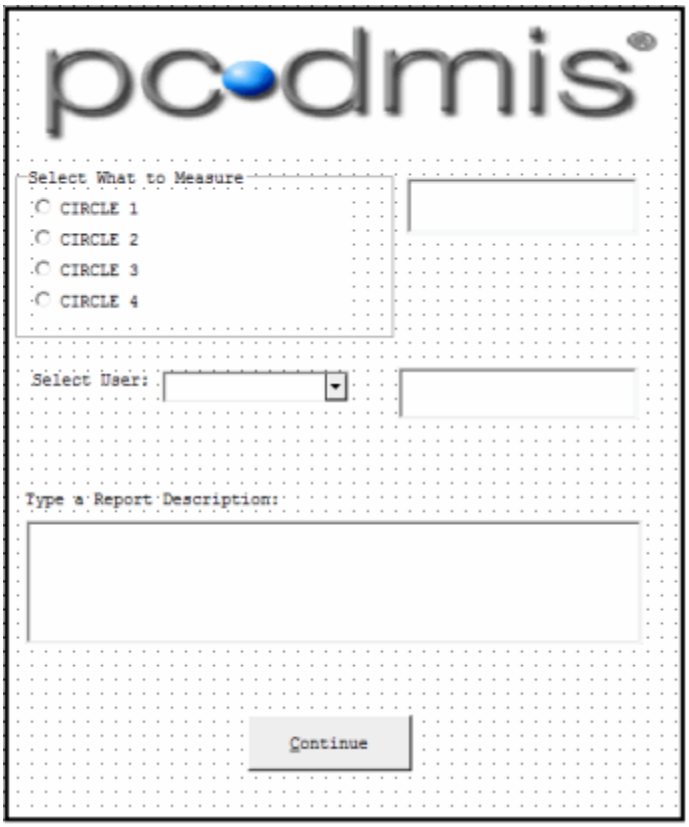
12. その他の **EditBox** オブジェクトをテキストオブジェクトの上に追加し、
    それを「EditBox2＝3」から「txtDescription」までリネームします。

13. **ボタン**
    オブジェクトをフォームの下部に追加し、それを「Button1」から「cmdContinue」までリネームします。「&Continue」を読取るようにそのテキストプロパティを変更します。アンパサンド記号で、ALTで使用されるショートカット文字としてはその後続の文字を定義できます。だから、実行モードでフォームに ALT + Cを押したら、 **続行**
    ボタンをクリックすると、それは同じのように動作します。

14. **[ファイル|**
    保存]を選択してフォームを保存します。名前を「TestForm.Form」にし、任意のディレクトリに保存します。

15. CTRL +
    Eを押して実行モードでフォームをテストします。すべてのコントロールに関連付けているコードはないので、いずれかをクリックしても、そのテキストが追加される以外、何も発生しません。終了する場合、 再度にCTRL + E を押したら編集モードに戻ります。

このステップでは、基本的なフォームに様々なコントロールを挿入しリストに項目を追加して完成させます。*以下のように*なるはずです。



さまざまなフォームコントロールが追加されるフォーム

ステップ3:RadioButtonのコントロールにコードを追加する

1. RadioButtonオブジェクトを選択し、**optMeasure**、またそのプロパティにアクセスします。

2. **EventChange** イベントをクリックしてください。**VBS ミニエディタ** が表示されます。この小さなコードウィンドウで、オプションボタンのリストから新しい値を選択するたびに実行されるVisual Basicのコードステートメントを入力できます。

3. このコードコードウィンドウで、このコードを入力してください：

```
Dim intIndex As Integer

intIndex = optMeasure.Index

Select Case intIndex

Case 0

     txtMeasure.Text = "円 1"
```

```
Case 1
     txtMeasure.Text = "円 2"
Case 2
     txtMeasure.Text = "円 3"
Case 3
     txtMeasure.Text = "円 4"
End Select
```

4. **[OK]** をクリックします。ミニエディタが閉じます。
5. **[ファイル| 保存]**を選択してフォームを保存します。
6. CTRL + Eを押してレポートをテストし、また実行モードに入ります。測定に要素を選択します。

リストから測定したい要素を選択するときにはこのコードは起動します。それはオプションボタンのリストから選択されたのが表示され、 またtxtMeasureの**テキスト**プロパティを選択して「サークル1」、「サークル2」などのテキスト文字列が表示されます。CTRL + E を押して実行モードを終了して編集モードに戻ります。

ステップ4:ComboBoxコントロールにコードを追加する

1. ComboBoxオブジェクトを選択し、**cboUsers**、またそのプロパティにアクセスします。
2. **EventChange** イベントをクリックしてください。**VBS ミニエディタ** が表示されます。
3. このコードコードウィンドウで、このコードを入力してください：

```
txtUser.Text = cboUsers.TextValue
```

4. **[OK]** をクリックします。ミニエディタが閉じます。
5. **[ファイル| 保存]**を選択してフォームを保存します。
6. CTRL + Eを押してレポートをテストし、また実行モードに入ります。ユーザーを選択します。

リストからユーザを選択するときにはこのコードが実行されます。これは選択されたリストのテキスト値の項目に見え、テキストユーザの **テキスト**

プロパティを選択したユーザのテキスト文字列を表示するのを設定します。CTRL + E を押して実行モードを終了して編集モードに戻ります。

ステップ5: 続行ボタンにコードを追加する

1. ボタンオブジェクトを選択し、**cmdContinue**、またそのプロパティにアクセスします。
2. **EventClick** イベントをクリックしてください。**VBS ミニエディタ** が表示されます。
3. このコードコードウィンドウで、このコードを入力してください：

```
If cboUsers.Value >0 And Len (txtDescription.Text) > 0 And Len
(txtMeasure.Text ) > 0 Then

     TheView.Cancel

Else

     MsgBox 「続行する前に、全フォームに記入してください」

End If
```

4. **[OK]** をクリックします。ミニエディタが閉じます。
5. **[ファイル| 保存]**を選択してフォームを保存します。
6. CTRL + Eを押してレポートをテストし、また実行モードに入ります。**続行** ボタンをクリックして下さい。

続行
ボタンをクリックする場合、このコードは起動します。これはチェックしてフォームがすべての方法が記入されるのかを確認し、そうである場合、それはフォームエディタを閉じます。そうでない場合、それはメッセージを何が欠けている必要事項を記入し、ユーザーに指示されます。

- Len（）関数は、長さ（または編集ボックス内のテキスト文字列の文字数）をテストし、そこに何かがあるのを確認します。
- cboUsers.Value > 0 コードはユーザー名がリストから選択されたかを確認します。

ステップ6: フォームのプロパティを保持ために編集ウィンドウの変数を割り当てる

これでフォームを定義した、今は編集ウィンドウとフォームの間にデータを渡す方法が必要です。

1. まだ行われていない場合、フォームを保存します。

2. **ウィンドウ** メニューから**編集ウィンドウ**
   を選択して編集ウィンドウを前面に来るようにします。

3. それがコマンドコードにあるのを確認してください。

4. 各円の要素がその円の場所ディメンションを挿入した後。

5. トップの近くに、円形要素の前に、測定される円形要素の
   *前*に編集ウィンドウでこのコードを入力し、フォームで動作したい変数を定義します:

```
ASSIGN/STR_DESCRIPTION = ""

ASSIGN/STR_USER = ""

ASSIGN/STR_MEASURE = ""
```

6. これらのステートメントの直後に、カーソルを置き、また**挿入|レポートコマンド|フォーム**を選択してください。**フォームを挿入** ダイアログ
   ボックスが現れます。「TestForm.FORM」が保存されている場所に移動して選択し、**開く**をクリックしてください。

7. 選択したファイルのパス名が入った`FORM/FILENAME`コマンド
   ブロックが、編集ウィンドウに挿入されます。このコマンドがマークされたり実行された場合、フォームを起動します。フォームが閉じられるまでは、編集ウィンドウの実行は待機状態になります。

   このコマンドは PARAM/=
   ステートメント、または「パラメータ」を含まれるのを注意してください。これらのパラメータで、PC-
   DMIS編集ウィンドウの変数とフォームコントロールのプロパティの間に値を渡すことができます。

8. ちょうど`PARAM/ =`で等号ステートメントの左側の前にクリックして、「TXTDESCRIPTION.TEXT
   」を入力します。等号の右側をクリックし、そして、「STR_DESCRIPTION」をタイプしてください。ENTERを押します。もう一つの`PARAM/=`記載が表示されます。

txtDescriptionが報告書のユーザに入力された記述を保持する形式のEditBoxオブジェクトを与えた名前であることを覚えておいてください。
実行時に、**txtDescriptionのTextプロパティ**は、最初`STR_DESCRIPTION`が保持している何の値を取得します。この場合、それは空の文字列を取ります。フォームを閉じた後、そのフォームが`STR_DESCRIPTION`に戻っている任意の値を渡します
。

9. このように両方の`STR_USER` と`STR_MEASURE`
   変数にパラメータを定義続け、それぞれにそれらを**txtUser** と**txtMeasure**
   オブジェクトの**テキスト** プロパティに結びます。

10. 編集ウィンドウへ変更を保存します。終了した場合、 `FORM/FILENAME`
    コマンドブロックは、このようになります。

```
CS7 =FORM/FILENAME= D:\PARTPROGRAMS\TESTFORM.FORM

PARAM/TXTDESCRIPTION.TEXT=STR_DESCRIPTION

PARAM/TXTMEASURE.TEXT=STR_MEASURE

PARAM/TXTUSER.TEXT=STR_USER

PARAM/=

 ENDFORM/
```

ステップ7: 測定をコンロロールするために編集ウィンドウ条件コードを追加する

フォームを作成した場合、正確に測定されるのをコントロールするためにオプションのボタンのリストを作成しました。これで編集ウィンドウにも条件文を追加する必要がありますので、適切な要素の測定はフォームから選択されるものによります。

1. 編集ウィンドウ内で、最初のCIR1要素の前にカーソルを配置してEnterキーを押します。
   カーソルがCIR1要素上の空白行にである必要があります。

2. **挿入| ローコントロールコマンド| コントロールペア| If / End If**を選択してください。PC-DMIS はIF / END IF 条件付きのステートメントを編集ウィンドウに挿入します:
   `IF/0`
   `END_IF/`

2. 条件を定義します。デフォルト値0をハイライトして以下を入力してください:
   `STR_MEASURE == 「Circle 1」`

3. ENTERを押します。

4. CIR1全体要素とフォローされる場所寸法を選択してまた**編集|**
   カットを選択します。次は**編集 | 貼り付け** を選択してそれを`IF/STR_MEASURE == "Circle 1"` ラインの後また`END_IF/`
   ラインの前の空白ラインに移動します。最初の条件ブロックは、このようになります :

```
IF/STR_MEASURE == "Circle 1"

CIR1 要素がここに行きます...

場所ディメンションがここに行きます...
```

```
END_IF/
```

STR_MEASUREは実行後に**txtMeasure オブジェクトのテキスト**プロパティの値を保持します。フォームのコードによると、これはどちらかになります:
"円 1"、 "円 2"、 "円 3"、 または "円 4"。

この最初ラインは STR_MEASUREの変数値を検査し、またそれが「Circle 1」の文字列値に一致する場合、それはCircle 1要素を測定します。そうでない場合、それはスキップしてEND_IF/ステートメントをフォローするところへ行きます。

5. 上記の手順の繰り返すのは続いて、他の円の条件ステートメントも定義します。終了したら、編集ウィンドウのコードは次のようになります：

```
ASSIGN/STR_DESCRIPTION = ""

ASSIGN/STR_USER = ""

ASSIGN/STR_MEASURE = ""

CS7 =FORM/FILENAME= D:\PARTPROGRAMS\TESTFORM.FORM

PARAM/TXTDESCRIPTION.TEXT=STR_DESCRIPTION

PARAM/TXTMEASURE.TEXT=STR_MEASURE

PARAM/TXTUSER.TEXT=STR_USER

PARAM/=

ENDFORM/

IF/STR_MEASURE == "Circle 1"

CIR1 =FEAT/CIRCLE...

DIM LOC1 LOCATION OF CIRCLE CIR1

END_IF/

IF/STR_MEASURE == "Circle 2"

CIR2 =FEAT/CIRCLE...

DIM LOC2 LOCATION OF CIRCLE CIR2

END_IF/
```

```
IF/STR_MEASURE == "Circle 3"

CIR3 =FEAT/CIRCLE...

DIM LOC3 LOCATION OF CIRCLE CIR3

END_IF/

IF/STR_MEASURE == "Circle 4"

CIR4 =FEAT/CIRCLE...

DIM LOC4 LOCATION OF CIRCLE CIR4

END_IF/
```

ステップ8: 仕上げの接触を追加

いくつかの仕上げを適用する必要があります。まず、PC-DMIS にレポートウィンドウで、最終レポートにレポートのコメントを使用して、フォームの値を送信すると指示する必要があります。次に、いくつかのオブジェクトがフォーム上の不可視にする必要があります。

1. 編集ウィンドウで、`FORM/FILENAME` コマンドブロックの直後にこれらのコマンドを入力します。

   ```
   COMMENT/REPT,

   "ユーザー: " + STR_USER"

   COMMENT/REPT,

   "レポートの説明: " + STR_DESCRIPTION

   COMMENT/REPT,

   "測定ルーチン: " + STR_MEASURE
   ```

2. **ウィンドウ|フォームエディタ** を選択してフォームエディタに戻ります。

3. 右クリックして**プロパティ** ダイアログボックスにアクセスしてください。ドロップダウンリストから**txtMeasure** を選択してください。PC-DMIS はこのオブジェクトを選択します。

4. **[詳細設定]**をクリックし、**[表示]** プロパティを [NO] に設定します。

5. ドロップダウンリストから**txtUser** を選択してください。PC-DMIS はこのオブジェクトを選択します。

6. **[詳細設定]**をクリックし、**[表示]** プロパティを [NO]
   に設定します。ユーザーはこれらの値を見る必要が無く、これらを使用するのは値をPC-DMISに返すためであるため、このプロパティは[NO]に設定して実行中これらのオブジェクトを表示しないようにします。

7. フォームを保存します。

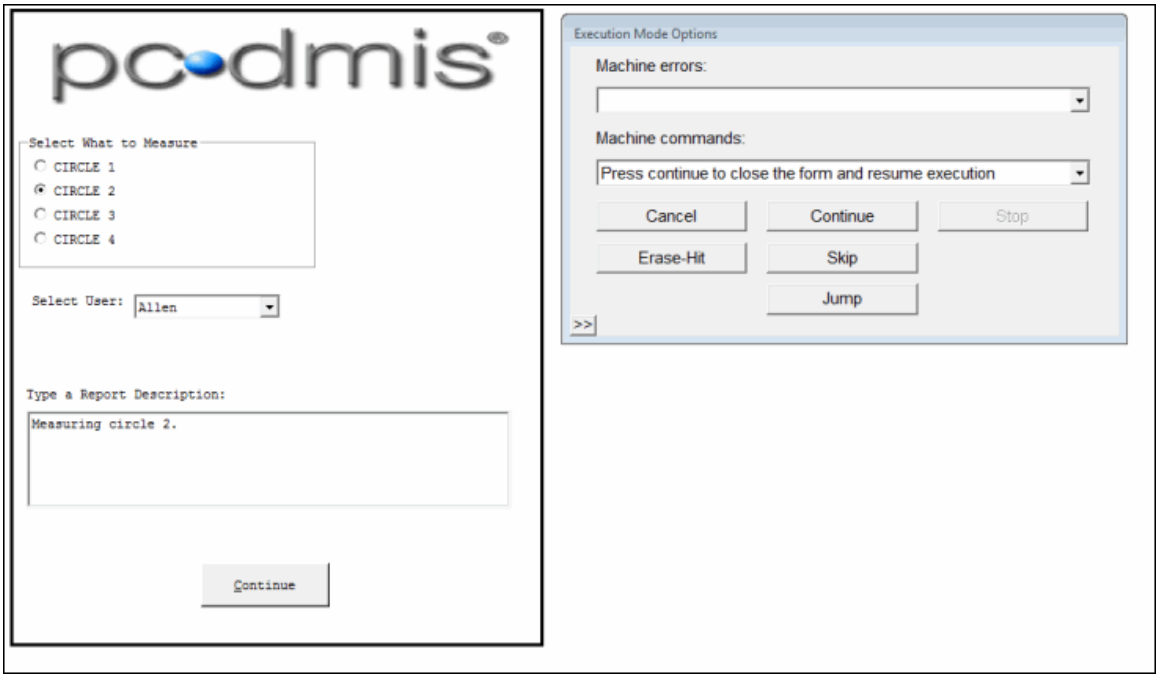
8. フォーム エディタを閉じます。

ステップ９：測定ルーチンの実行

1. **[表示 | レポート ウィンドウ]**を選択し、**[テンプレートの選択ダイアログ]**ツール バー
   アイコンを使用してレポートにデフォルトの標準レポート
   テンプレートを適用するよう設定します。

2. 編集ウインドウに戻ります。全体の編集ウィンドウをマークし、測定ルーチンを保存し、**ファイル| 実行** を選択して測定ルーチンをテストします。

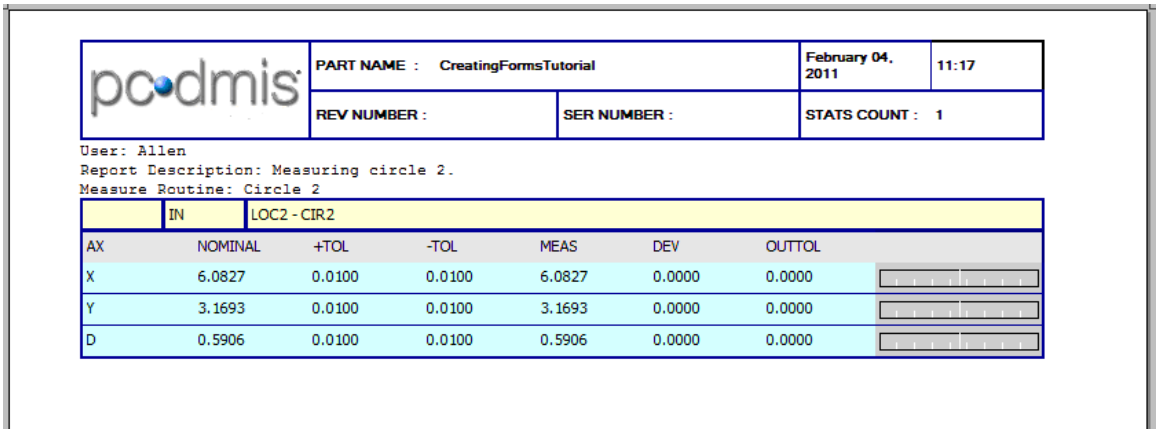
3. PC-DMISが`FORM/FILENAME`
   コマンドに着く時には、それはフォームに戻り、それを記入完了するまでは、フォームと実行を一時停止を実行します。



4. フォームを 記入して**続行** ボタンをクリックして下さい。PC-DMIS
   はフォームからの値を渡してPC-DMIS変数に挿入します。

5. 条件ステートメントは STR_MEASURE
   変数の値を検査してまたそれに応じて適切な円形要素を実行します。

6. PC-
   DMISはレポートウィンドウに測定要素のレポートのコメントと測定結果を印刷します。



pc-dmis	PART NAME : CreatingFormsTutorial		February 04, 2011	11:17
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1	

User: Allen
Report Description: Measuring circle 2.
Measure Routine: Circle 2

	IN	LOC2 - CIR2				
AX	NOMINAL	+TOL	-TOL	MEAS	DEV	OUTTOL
X	6.0827	0.0100	0.0100	6.0827	0.0000	0.0000
Y	3.1693	0.0100	0.0100	3.1693	0.0000	0.0000
D	0.5906	0.0100	0.0100	0.5906	0.0000	0.0000

レポート内でのフォームの使用

通常、フォームはレポートを間接的に変更するだけです。例えば、フォームを使用して特定の要素が実行されるかどうかを制御することができます。この場合、最終レポートは直接は変更されませんが、レポートは常に実行された結果を表示するので間接的に変更されます。

FORM/FILENAME
コマンドを使用して編集ウィンドウとフォームのオブジェクト間にパラメータを後と前にパスし、またコマンドを使用してこれらのパラメータは、最終報告書に表示させます。フォーム使用のこのタイプの例について、「フォームの作成」チュートリアルと「フォームのコマンドの挿入」トピックを参照してください。

また、編集ウィンドウにフォームから値を取った後、またREPORT/TEMPLATE
コマンドを使用して編集ウィンドウからFORM/FILENAME
コマンドを使用する同じな方法でレポートテンプレートにパラメータを渡します。

[挿入| レポートコマンド| テンプレートレポート] を選択して REPORT/TEMPLATE
コマンドを挿入し、パラメータ値を割り当てレポートのテンプレートにオブジェクトのプロパティを変更します。これを行う方法について「フォームの作成」チュートリアルを参照して、ガイドとしてFORM/FILENAME コマンドを使用し、 しかし .FORM ファイル名の代わりに、レポートテンプレート(.rtp
filename)を選択してください。また「測定ルーチンにHyperViewレポートまたはレポートテンプレートを埋め込み」を参照してください。

カスタム レポートの作成

バージョン4.2に追加されるカスタムレポートは、測定結果を報告するためには簡単に使用できる柔軟なアプローチを提供します。特定の測定ルーチンのためにすぐにまた簡単にレポートを生成するには、これが最も便利であり、テンプレートベースのアプローチに利用可能にする必要はありません。任意のレポートテンプレートを使用していないので、現在の測定ルーチンのデータを直接に使用する代わりに、カスタムレポートの作成とカスタマイズは一般的に簡単で、しかし、彼らはパワーとテンプレートのスコープレポートは欠けています。

カスタムレポートの利点：

- データをページに任意の順にいかなる場所にも置くことができます。
- レポートで単一元素として複数のコマンドからのデータを組み合わせることができます。
- ユニークなドラッグ・アンド・ドロップ方法によるレポートを生成することができます。
- レポートエディタが測定ルーチンからの実際のデータを使用して、ダミーデータではありません。これは単にレポートをカスタマイズすることができます。

カスタムレポートの短所：

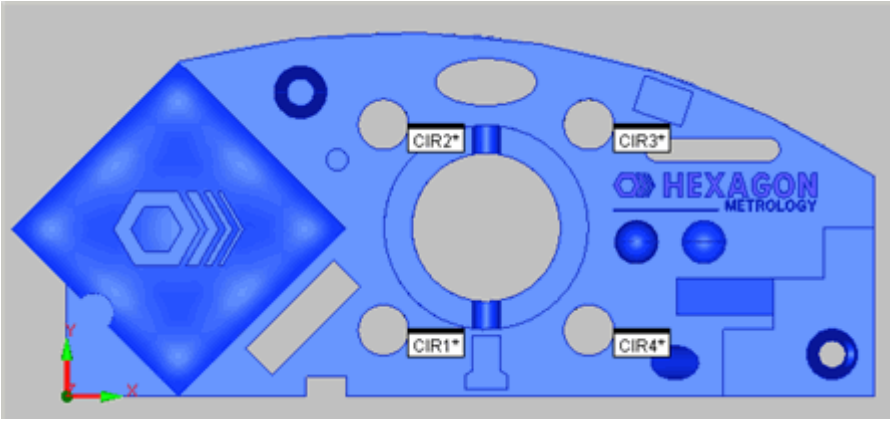
- あなたはテンプレートではなく、1つのレポートを作成していますが、このレポートはあなたの測定ルーチンに関連付けられています。他のレポート
テンプレートで使用してレポートの構造をインポートすることができますが、再利用は、報告書と大きな特定のルールでデザインされたテンプレートは同様ではありません。
- それはレポートテンプレートとして拡張されていません。新しい要素または測定ルーチン以降にディメンションを追加すると仮定します。それを表示するためには、レポートエディタに新しいアイテムをドラッグ＆ドロップする必要があります。

以下のトピックは最初のカスタムレポートを作成、ビューまた印刷する手順を説明チュートリアルを提供します。手続きのトピックも後で必要な迅速なアクセスのために提供されます。

チュートリアル — カスタム レポートの作成

このトピックでは、非常に基礎的なチュートリアルを順を追って説明し、簡単なカスタム
レポートを作成します。これは**カスタム レポート エディタ**内に作成されたカスタム
レポートの基本的な概観また既存のラベルテンプレートを相互作用する方法を与えますので、自分のカスタムレポートを後で作成と使用をできます。

このチュートリアルを開始する前に、簡単なパート上に4つの測定円および各円に対して真円度の測定結果が含まれた簡単な測定ルーチンを作成します。このチュートリアルは *Hexagon テストブロック(Hexblock_Wireframe_Surface.igs).*を使用します。

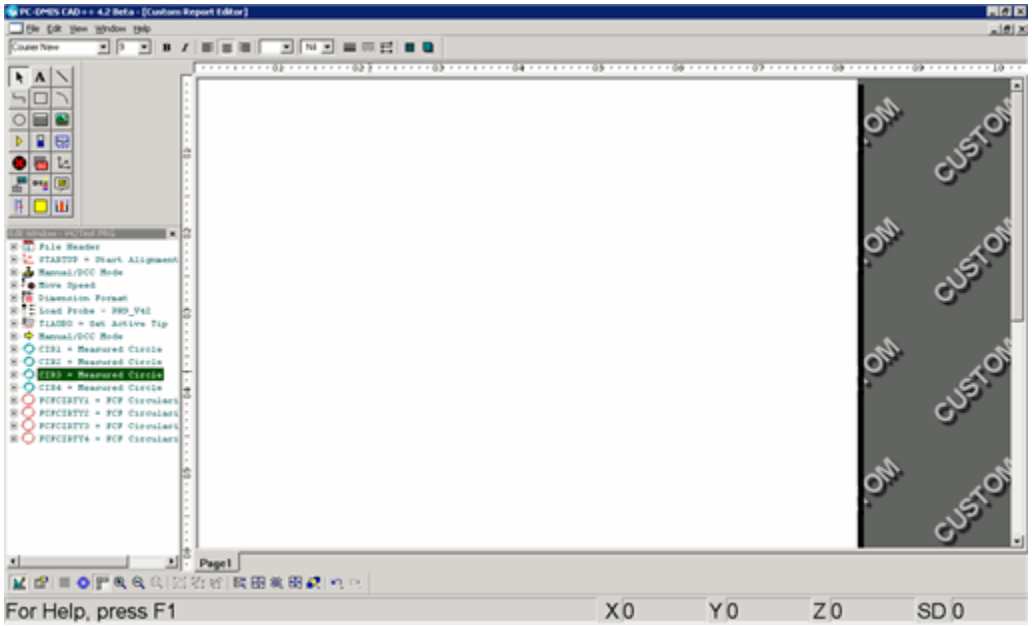


これと同じな方法で4つの円を測定する測定ルーチンを作成します。

ステップ1: 作業環境の設定

このチュートリアルでは、カスタム レポート
エディタと共に[概要]モードの編集ウィンドウが使用されています。それらを設定し、彼らは以下のように両方が表示されます。

1. 編集ウィンドウにアクセスして下さい。
2. 編集ウィンドウをSummaryモードにして下さい。
3. メニューバーから**ファイル| レポート| 新しい| カスタム レポート**を選択します。カスタム レポート エディタが表示されます。
4. 右ツールバーエリアをクリックしてそれらを削除して未使用の全部のツールバーを隠します。
5. **ビュー** メニューから開いているウィンドウを選択して全部の未使用のPC - DMISウィンドウを隠します。編集ウインドウを開きたままにします。
6. 編集ウィンドウの右上隅にある*最大化ボタン*をクリックすると、カスタム レポート エディタが最大化されます。エディタの背景に「CUSTOM」という言葉が表示されます。
7. 編集ウィンドウをカスタムレポートエディタの
オブジェクトバーの下にドラッグします。作業環境は*以下のように*なるはずです:



カスタム レポート エディタ

ヒント: カスタム レポートエディタで作業している場合、これは通常のPC-DMISのツールバーとウィンドウを隠すのに役立ち、これによりいくつかの画面スペースを開放することができます。頻繁にこのエディタで作業する場合、その保存画面のレイアウトを作成することがあります。レイアウト情報については、「ツールバーの使用」の章にある「ウィンドウレイアウト ツール バー」トピックを参照して下さい。

ステップ2: オブジェクトをドラッグ＆ドロップしまた配置します

このステップでは、レポートの項目をカスタム レポート エディタにドラッグします。

1. Summaryモードの[編集]ウィンドウで**ファイルのヘッダー**から、エディタにそれをドラッグします。作業領域にそれをドラッグする場合、その項目のアイコンの透明なイメージが表示されます。

2. マウスボタンをリリースして下さい。エディタ内に[ファイルのヘッダー]オブジェクトが作成されます。

3. CIR1およびCIR2をレポートにドラッグ アンドドロップします。適切な配置にする必要はありません。この時点では、レポートの最初のページの空いているスペースにドロップします。

4. レポートエディタで、すでにレポートにある**ファイルのヘッダー**オブジェクトを選択し、またそれをレポートのトップの隣にドラッグしてまたページでそれを水平方向に設定します。

5. 次に、CIR1のラベル オブジェクトを選択し、ラベルの上端が[ファイル ヘッダー]オブジェクトの下端に来るようにドラッグします。左辺も同様に位置を揃えます。

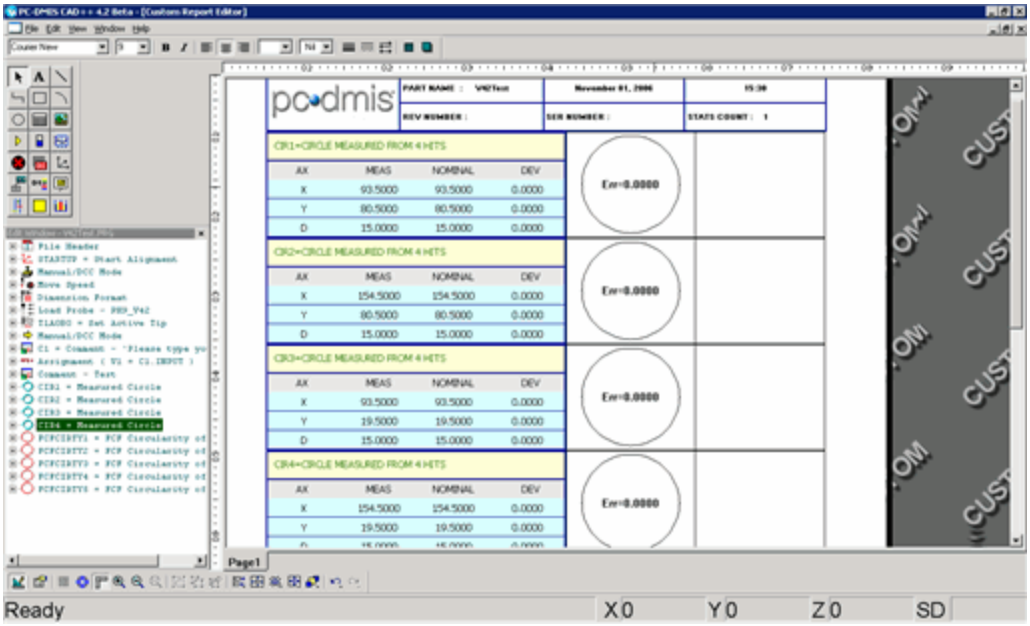
6. CIR2にこのステップを繰り返します。

7. 編集ウィンドウから円2に使用されるラベル下部に円3要素をドラッグします。既にエディタ内にある様々なラベルの上でマウスを動かすと、ラベルの周囲に緑色のハンドルが現れます。円2の真下に青矢印が現れたら、マウスを離します。要素が編集ウィンドウ内の円2の下にドロップされ、この要素に使用されるラベル オブジェクトが自動的に上のオブジェクトに揃えて配置されます。

8. CIR4に対しても上記の操作を繰り返し、CIR3の真下に配置します。

9. [ファイル| 保存] を選択します。レポートを保存するダイアログ ボックスが表示されます。すべての名前を選択し [保存] をクリックします。

カスタム レポート エディタは*次のように*なります:



ステップ3: 複数のページを使用します

このステップで複数のページで動作します。2ページを追加し、1ページは別のページサイズをサポートするように変更します。次にこれらのページを並べ替えます。

1. レポートエディタで、ページの下部に **Page1** タブを右クリックしてまた**挿入**を選択します。**Page2**という名前の新しいページが表示されます。

2. グラフィックを右クリックして **ページプロパティ** ダイアログ ボックスが表示されます。

3. **高さ** 850まで変更してTABを選択します。

4. **幅**
を850まで変更してTABを押します。これら2つのプロパティを変更すると、必然的にページは横向き印刷用に書式設定されます。

5. 3番目のページ、**[ページ3]**を作成します。

6. **Page2** を右クリックして**右を移動**をクリックします。これが**Page2**
タブを**Page3**の右に移動する方法を注意してください。

7. **ページ3**
を右クリックして**左を移動**をクリックします。これでさらにページが並べ替えられ、**ページ3**の次に**Page1**、その後**ページ2**が表示されます。このように簡単にページを並べ替えることができます。

8. レポートを保存します。

レポートは三つのページを持ちまたそれらの順序は変更されました。

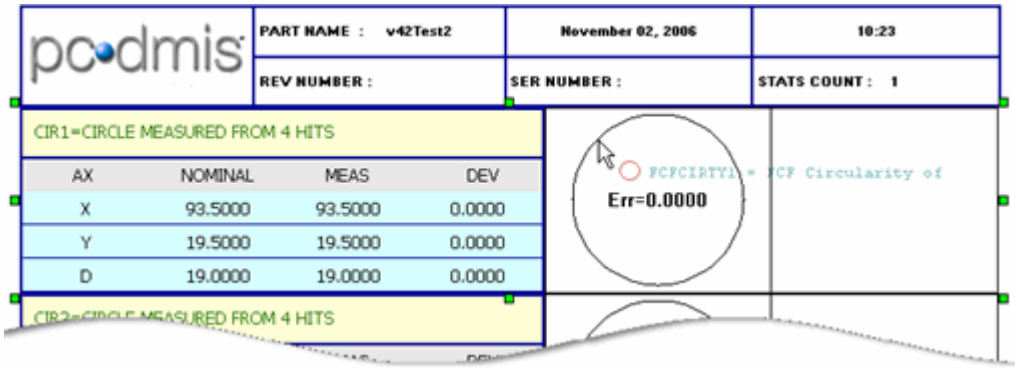
ステップ4: その他のオブジェクトにドロップすること

この手順は新しいラベルオブジェクトで既存するラベルオブジェクトを配置してまたカスタムレポートの**CADReportObject**を使用する方法を表示します。

1. カスタムレポートエディタに、**Page1**タブを選択してください。レポート内の任意のオブジェクトを置き換えるには、その上に似たようなタイプの他のアイテムをドラッグしてドロップします。たとえば、エディタ内の任意の既存のラベルの上にラベルを使用するすべてのアイテムをドロップすることができます。

2. CIR1要素のレポートにラベルを選択します。すでに4つの円形の大きさが必要です。そうでない場合、今から1つずつ円要素を作成します。

3. 編集ウィンドウからCIR1要素の円の測定結果をドラッグし、CIR1のレポートエディタに既に存在する要素ラベルの上に次のようにドロップします:



ラベル オブジェクトが新しいラベル オブジェクトに更新されるのを確認します。

4. 更新されたオブジェクトが移動したら、適切な位置に戻します。

5. 他の測定結果も、エディタ内の対応する要素ラベルの上にドラッグします。それに従って全てのラベルが更新され、次のように表示されます:

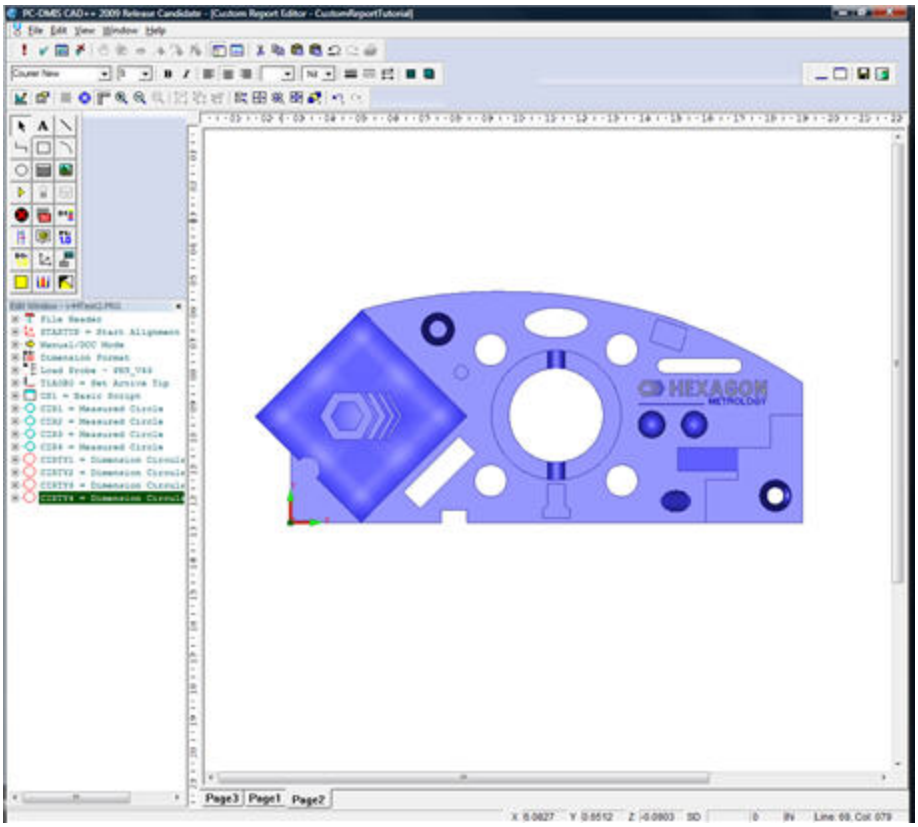
4つの寸法に対するラベルが表示されたレポート エディタ

6. 今、**Page2**タブをクリックします。Drag a
オブジェクトバーから**CADReportObject**をドラッグして、それをサイズしてそれがページに記入します

7. 4つの寸法を一度に**[CADReportObject]**の上にドラッグします。このオブジェクトに対しては、測定結果のラベル
オブジェクトは更新されないことにご注意ください。その代り、PC-DMIS
自動的に適切なラベルと寸法の
CADReportObjectのトップの上の引き出し線を作成します。

8. レポートを保存します。

Page1 は 要素ラベルの代わりに寸法ラベルを持って、**Page2**
のCADReportObjectは以下のようになります。



ステップ5: データ項目を挿入すること

このステップに**GridControlObject**
を挿入してそれを取って編集ウィンドウから値を示します。次に、要素のデータ項目より測定値および公称値をドラッグし、オブジェクトの利用可能なセルに配置します。

1. **Page3**タブをクリックします。

2. **GridControlObject**
   アイコンをクリックしてこのオブジェクトをページにドラッグします。

3. プロパティダイアログ ボックスにアクセスして **NumRows**
   を８に設定して**NumCols**を３に設定します。

4. 1行目の真ん中のセルをダブルクリックし、"公称値"と入力します。右のセルも同様に、"測定値"と入力します。

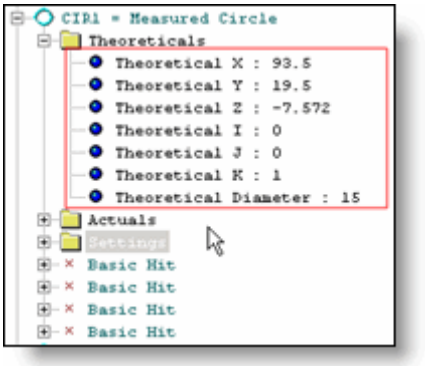
5. 最初の行の1列目から開始して下の行へ、"X"、"Y"、"Z"、"I、"J"、"K"、および"直径"と入力します。これにより、列1の行2から行8までが入力されます。GridControlObject
   は以下のようになります：

	Nominal	Measured
X		
Y		
Z		
I		
J		
K		
Diameter		

スタティックなテキストが表示されたGridControlObject

注記:
セルに情報を入力する場合、別のセルをクリックしてまたは自動に表示される値にTABを押す必要があるのを覚えてください。

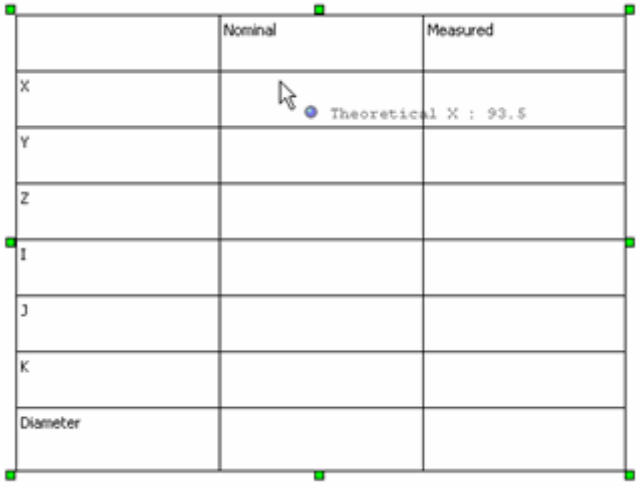
6. 編集ウィンドウで、
   CIR1の横にあるプラス記号をクリックして、また**Theoreticals**の横にあるプラス記号をクリックします。データ項目の一覧が表示されます。



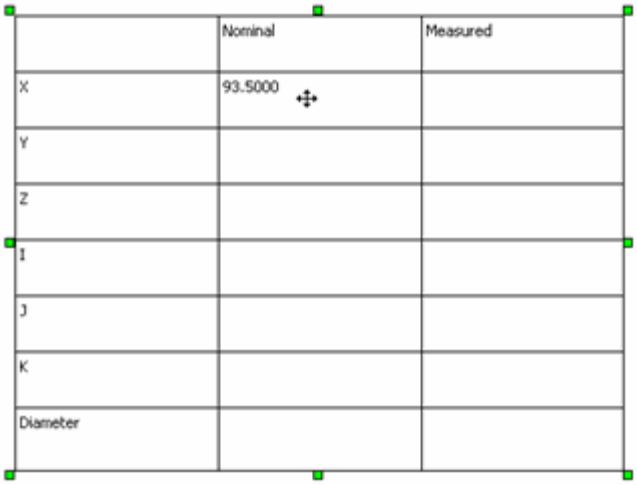
[理論値]リストのデータ項目

7. **理論値X** データ項目をドラッグしてそれを行2、列2にドロップします。

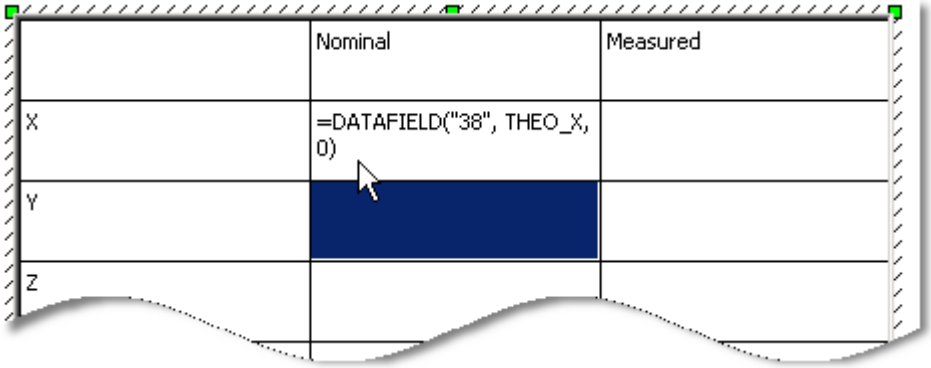
項目のドラッグ:



アイテムをドロップすること



8. セルにドロップした項目を右クリックしてください。セルは実際に静的テキストを保持していません。ボンネットの下で、セルが実際にデータを表示する必要がある式を保持します。情報がハードコーディングされなくてまたそれが変更する場合、レポートが同様に一致するには変更されます。



データ項目の式を表示

9. **理論値**
   リストから残りのデータ項目を**理論値**列にドラッグしてドロップするのを続きます。

10. 編集ウィンドウでCIR1の**実績** リストを拡大してデータを**測定された**
    列の適切なセルにドロップします。

11. CIR1の**設定**リストを拡大して、 **ID**
    データ項目を行１列１のセルにドラッグしてドロップします。

12. 最後に、行１と列１にお好みのいくつかのテキストと背景形式を適用し、レポートを保存します。**GridControlObject** はこのようになります:

CIR1	Nominal	Measured
X	93.5000	93.5000
Y	19.5000	19.5000
Z	-7.5716	-7.5716
I	0.0000	0.0000
J	0.0000	0.0000
K	1.0000	1.0000
Diameter	15.0000	15.0000

データ項目が含まれたGridControlObjectの例

13. **ファイル| 終了**を選択してカスタムテンプレートエディタを閉じます。

値はパーツや測定された円によって異なります.

このステップはデータ項目を **GridControlObject**にドラッグしてドロップする方法を説明します。

注記: データ項目は **GridControlObject**のみにドロップされる必要はありません;
それらを編集ページに直接にドロップできます。

ステップ6: レポートの表示、更新及び印刷

この最後のステップはレポートウィンドウにカスタムレポートをロードする方法、それを表示する方法、更新された測定ルーチンからレポートを更新する方法、また最後に印刷する方法を解釈します。

1. **[ビュー | レポート ウィンドウ]** を選択してレポート ウィンドウにアクセスします。
2. レポートウィンドウツールバーから、**カスタム レポート選択ダイアログ** *アイコン* を選択します 。ダイアログ ボックスがすべてのカスタム レポートを表示します。
3. レポートを選択して **開く**をクリックします。選択したレポートがレポート ウィンドウに表示されます。
4. 次に、レポートを更新します。**ファイル| レポート| 編集| カスタム レポート**を選択します。現在の測定ルーチン用に作成したレポートを全て表示したダイアログが現れます。
5. レポートを選択して **開く**をクリックします。選択したレポートが、カスタム レポート エディタ内に表示されます。
6. 続けて、エディタで必要な変更を行い、レポートを再び保存します。
7. 新しく更新されたレポートをレポートウィンドウに表示させるには、単に測定ルーチンを実行して、または**レポート**ツール バーから**再描画**アイコンをクリックします。
8. 最後に、レポートを印刷する必要があります。**ファイル| 印刷| レポートウィンドウの印刷設定...** メニュー項目を選択します。
9. ダイアログボックスで**プリンタ** チェックボックスを選択してそれを印刷デバイスに発送します。
10. レポートウィンドウの**レポート**ツールバーから**印刷** アイコンをクリックします。レポートが印刷されます。

このステップでは、レポート
ウィンドウ内で既存のレポートを読み込み、それを更新し、プリンタに送信します。

お疲れ様でした。正常にカスタムレポートのチュートリアルを作成します。

カスタム レポートの作成

カスタムレポートを作成するには、以下のステップに従ってください：

1. **ファイル| レポート| 新規| カスタム レポート**を選択します。**カスタム レポート エディタ**が表示されます。

2. 編集ウインドウが開かれない場合、それにアクセスし、それをSummaryモードに設定します。もう開かれた場合、 編集にアクセスする場合、PC-DMIS
は自動に編集ウインドウをSummaryモードに設定します。

3. 編集ウィンドウから項目をドラッグし、またエディタにドロップします。PC-DMIS
自動的に現在の**ページ**
オブジェクトのルールセットに定義されたラベルを使用してオブジェクトを表示します。関連付けられているラベルを持っていないオブジェクトをドロップする場合は、 **開く**
ダイアログボックスが表示されてドロップされたに定義されるラベルを選択できます。

4. 必要に応じて追加オブジェクトエディタの**オブジェクトバー**
から追加オブジェクトを追加また設定します。

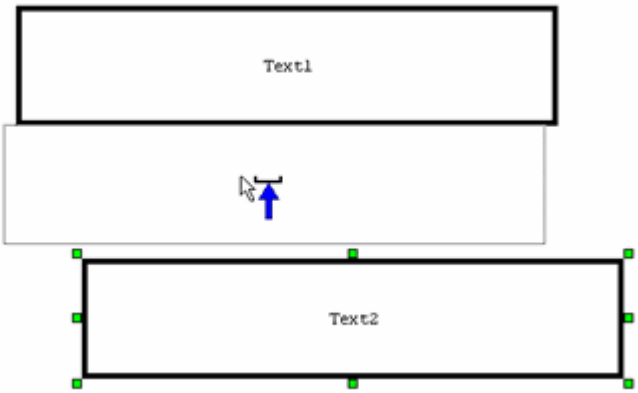
5. 必要に応じてレポート要素を位置します。

6. **ファイル| 保存**を選択してレポートを保存します。ダイアログ
ボックスが表示してレポートの名前を指定できます。

レポート オブジェクトの配置

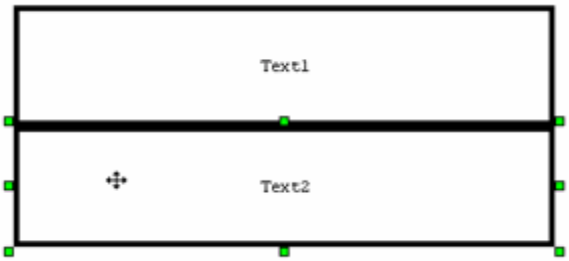
カスタム レポート エディタ 内(ファイル | 報告 | 新規 | カスタム
レポート)に、希望したいオブジェクトをドラッグすることまたはエディタの**レイアウトバー**からの適切なアライメントアイコンの使用で簡単にオブジェクトを配置します。

さらに、PC-
DMISではオブジェクトを上のオブジェクトへスナップする便利なツールが用意されています。このためには、オブジェクトをゆっくりとドラッグし、上辺および左辺がもう一方のオブジェクトの下辺および左辺に並ぶようにします。マウスポインタが*小さな青い矢印*を含むように変更されます。この矢印は、位置を決めようとしているオブジェクトの左辺がその上のオブジェクトの左辺に沿って配置されることを示します。



ブルーアローを使用してオブジェクトを配置します。

この矢印が表示されたら、マウスボタンを離します。ドラッグしていたオブジェクトがもう一方のオブジェクトに並びます。



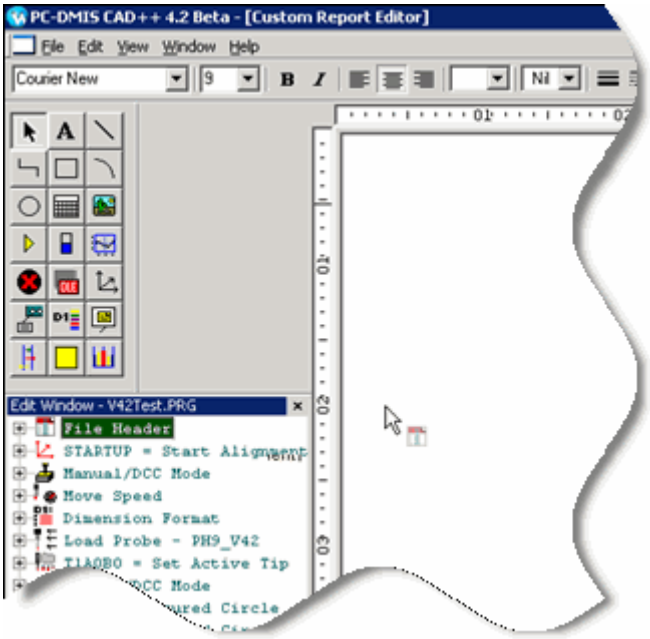
整列したオブジェクト

青矢印はまたオブジェクトを別のオブジェクトの下に並べて配置するのに便利です。移動したいオブジェクトを参照先オブジェクトの上にドラッグし、緑色のハンドルが参照先オブジェクトの周囲に現れたら、次に青矢印が現れるまでマウスをそのオブジェクトの下に少しドラッグします。青矢印が現れたらマウスを離します。するとオブジェクトがもう一方のオブジェクトの下に並んで表示されます。

これにより間に余白を入れずにオブジェクトのリストを作成することが可能であり、要素または寸法データを含めたラベルのリストを揃えて表示するのに便利です。

データをカスタム レポートへドラッグおよびドロップ

「カスタムレポートの生成」トピックに説明されたように、要素とその他の項目をサマリモードの編集ウィンドウからカスタム レポート エディタにドラッグできます (**ファイル | 報告 | 新規 | カスタム レポート**)。



ファイルのヘッダーオブジェクトを編集エリアにドラッグする例(ページオブジェクト)

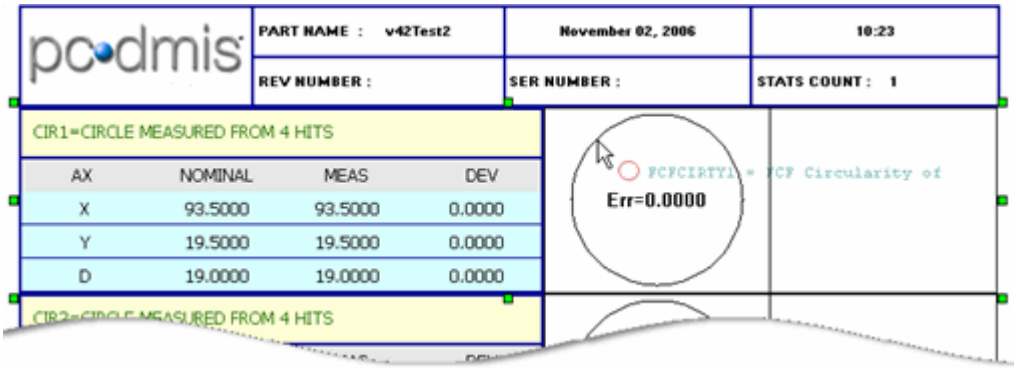
ある項目をエディタにドロップする場合、要素の適切なラベル、 **ページ** オブジェクト**ルールツリー エディタ**で定義されたように、自動的に作成されます：

pc-dmis	PART NAME : V42Test	October 28, 2006	12:50
	REV NUMBER :	SER NUMBER :	STATS COUNT : 1

ドロップされたファイルのヘッダーオブジェクトのサンプル

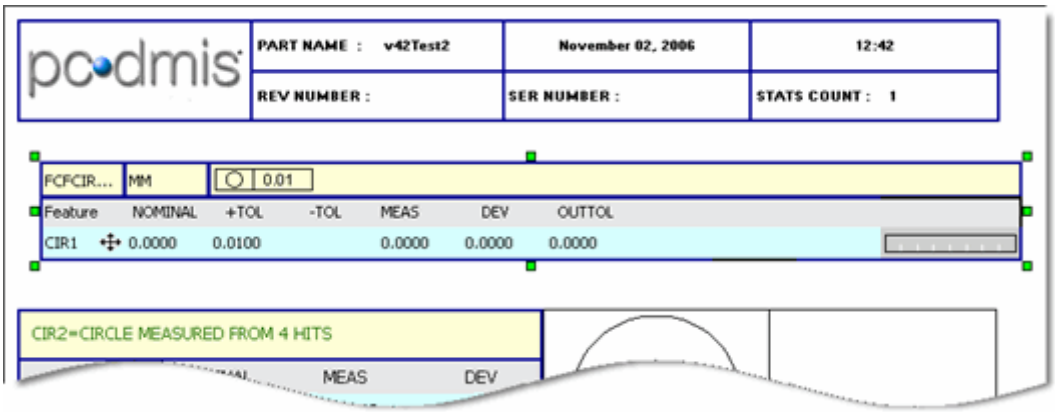
既存ラベルのトップをドロップして情報を交換します

このような既存のラベルの上にアイテムをドラッグする場合には：



既存のラベルの上に寸法をドロップするサンプル

PC-DMIS はアイテムドロップでラベルを置き換えます：



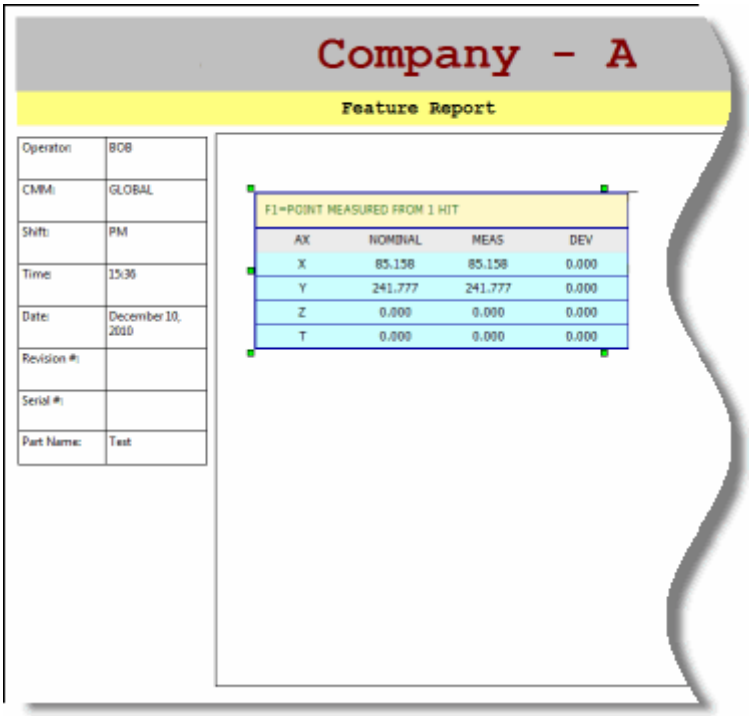
更新されるラベルの例

ALT キーを使用したフローティングラベルのドロップ

ALT
キーを押しながら既存ラベルの上に項目をドラッグ・アンド・ドロップすると、以下のようになります。

大ページサイズのラベルの上にドラッグした例

PC-DMIS
はラベルの情報をドロップしたものに置き換えることはしません。代わりに、新しいラベルが既存ラベルの上に浮かびます。

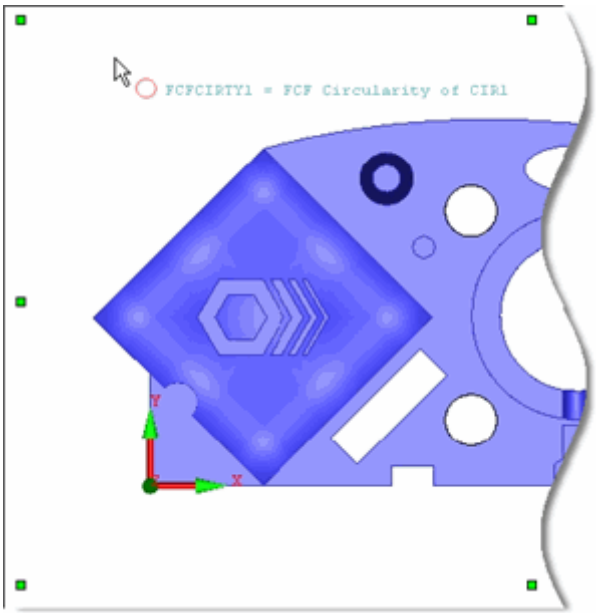


ALTキーを押しながら大ページサイズのラベルの上にドロップした例

ページの大部分を占める大きなカスタムラベルがあり、それを更新する代わりにそのラベルの上に新規ラベルを起きたい場合、この機能は便利です。

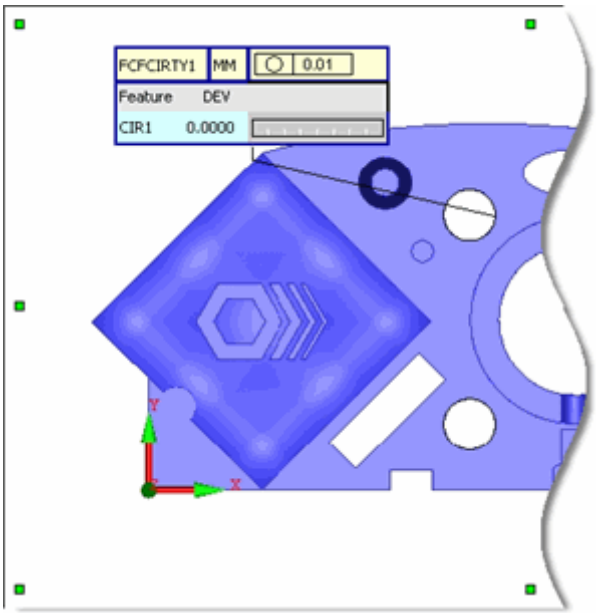
CADReportObjectの上にデータをドロップします

CADReportObjectのトップの上に要素または寸法をドラッグする場合、このようにしてください:



CADReportObjectの上に寸法をドロップするサンプル

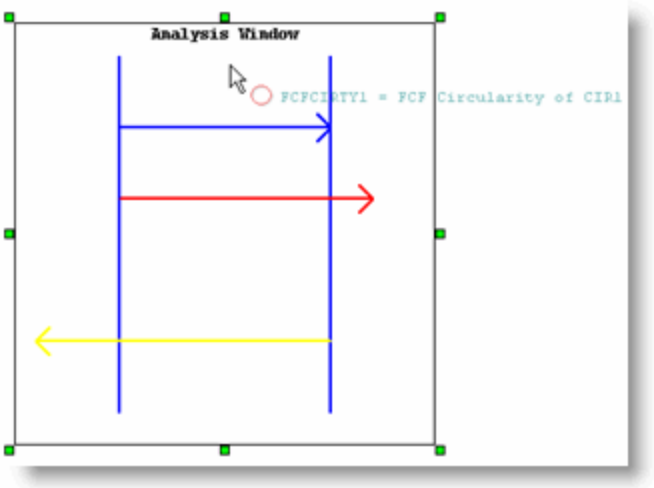
PC-DMIS
はCADReportObjectの上にドロップされたオブジェクト適切なラベルオブジェクトとリーダラインを追加します。ラベルはCADReportObjectのルールツリーエディタで指定されたラベルに依存して表示し、**ページ**オブジェクトのルール ツリー エディタではありません。



CADReportObjectの上に寸法をドロップしたサンプル

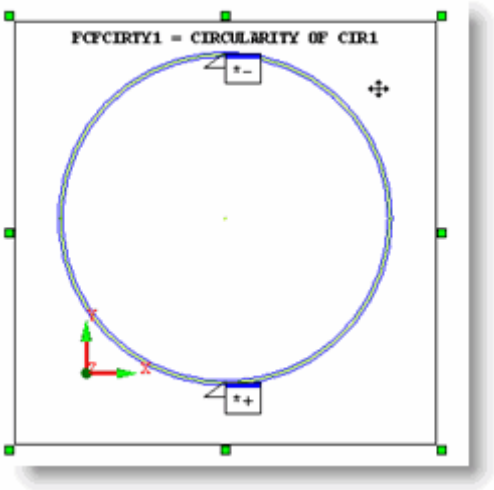
分析オブジェクトのデータのドロップ

分析 オブジェクトのトップに寸法をドラッグする場合、このようにしてください:



分析オブジェクトの上に寸法をドロップするサンプル

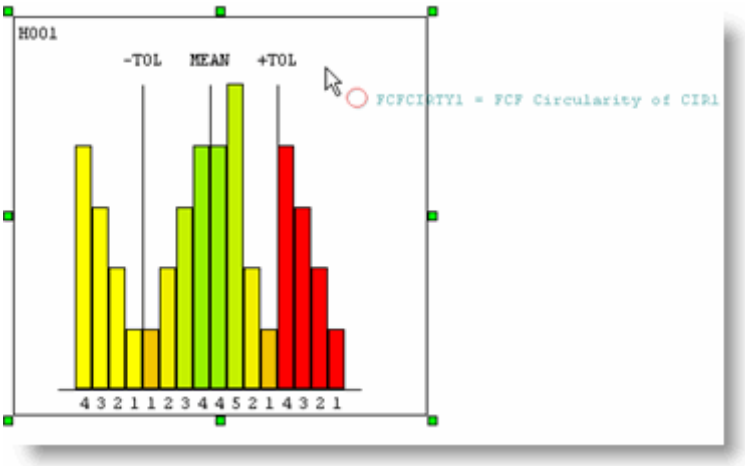
PC-DMIS は**分析** オブジェクト内のドロップされる寸法のグラフィカルな分析情報を表示します。



分析オブジェクトの上に寸法をドロップしたサンプル

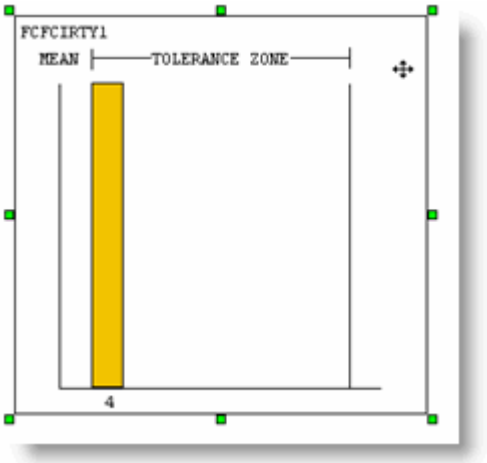
ヒストグラムオブジェクトのデータのドロップ

ヒストグラム オブジェクトのトップに寸法をドラッグする場合、このようにしてください:



ヒストグラムオブジェクトの上に寸法をドロップするサンプル

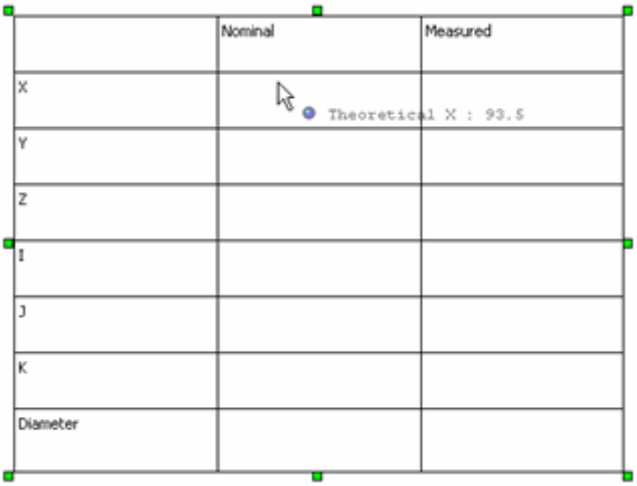
PC- DMISは
、**ヒストグラム**オブジェクトの内部にドロップされた次元のヒストグラム情報を表示します。



ヒストグラムオブジェクトの上に寸法をドロップしたサンプル

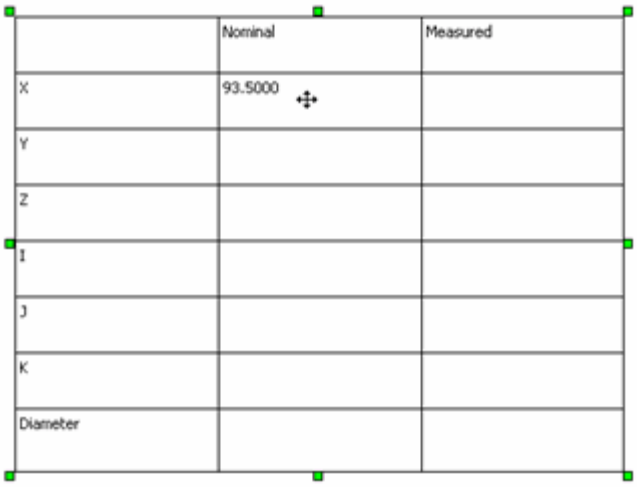
データ項目をドロップします

要約モードでのアイテムのリストを展開して別のデータ項目を表示し、 **ページ**
オブジェクトまたはGridControlObjectのセルに直接にこれらのデータ項目をドラッグとドロップできます。



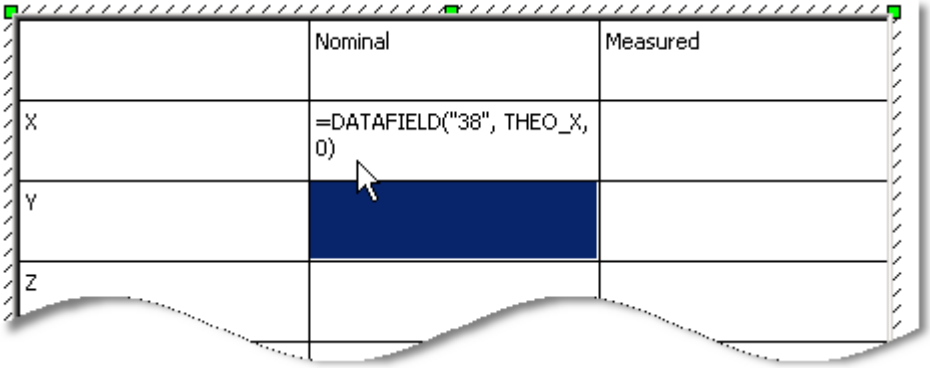
GridControlObject セルに要素理論X 値のデータ項目をドロップする例

PC-DMIS は自動的に適切にドロップされた値を表示します：



ドロップされたデータ項目の例

ボンネットの下から見る場合、PC-
DMISは自動に適切なレポート式を使用してドロップされたデータを表示します:

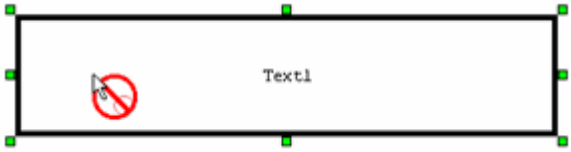


データ項目式の例

ハードコーディングされた値の代わりに式を使用し、それは何らかの理由でこのデータ項目を変更する場合、レポートを再実行または再描画する時にはそれは自動的にレポートに更新されます。

無効なドロップエリア

無効なオブジェクトの上にアイテムをドロップしようとする場合
(たとえば、テキストオブジェクトの上に要素または寸法をドラッグする時)、オブジェクトトップにアイテムをドラッグするときには、PC-DMISはマウスのアイコンを変更して赤い「許されません」アイコンを表示し、そこでその項目をドロップできません。



ドロップされたの無効ドロップエリアの例

ドロップする場合、Shiftキーと Ctrlキーを使用します

コマンドのドロップを実行中に (要素または寸法のよう)、SHIFT またはCTRL キーを押してこのボタンをリリースする場合、PC-DMISは以下を行います：

- SHIFT キー- PC-DMISはその項目にCommandTextObjectを挿入します。これで、テキストにその項目の情報を表示でき、非テーブル形式です。
- CTRLキー - PC-DMIS は**開く** ダイアログ ボックスを表示し、項目の異なるラベル テンプレートを選択できます。

データ項目のドロップを実行する場合には、 CTRLキーを押したら、PC-DMIS はデータ項目の評価式を表示だけではなく、またSummaryモードからのテキストの文字列の説明も同様に表示します。

複数のアイテムをドロップします

編集ウィンドウのSummaryモードからすぐに複数のアイテムをドラッグとドロップします。瞬時にレポートに複数の項目を追加する場合にはこれは便利です。

- 連続項目のリスト全体を選択するには、最初の項目をクリックして、キーボードのShiftキーを押して最後のアイテムをクリックします。間のすべての項目は選択されます。
- 既存の選択範囲から個々のアイテムを選択またはそれに選択を解除するには、項目をクリックする場合にCTRLキーを押したままにします。

一旦項目のリストを選択した場合、単にエディタにそれらをドラッグして、ドロップします。

ルールの使用

レポートをテンプレートと同様に、カスタム レポートは**ルール ツリー エディタ**を使用してレポートに使用されるラベル
テンプレートを定義します。トルールのデフォルセットは自動的に含まれて、カスタムテンプレートのラベルのようなものをロードする場合には、デフォルセットを変更する必要があります。

これらのルールと作業するには、

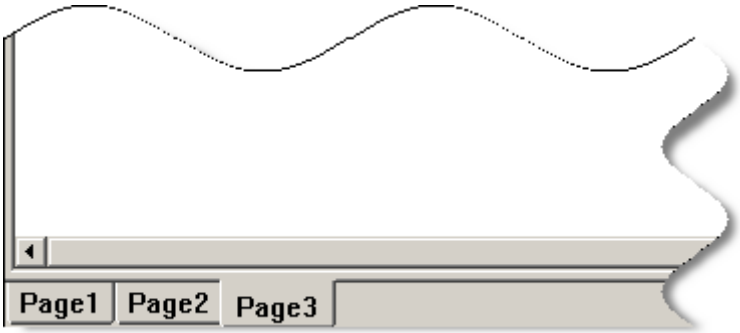
1. **カスタム レポート エディタ (ファイル | レポート | 新規 | カスタム レポート)**の編集エリア（**ページ**）を右クリックします。
2. 小さなポップアップ メニューより、**[プロパティ]**を選択します。**プロパティ** ダイアログボックスが表示されます。
3. **ルール ツリー エディタ** プロパティから**ルール...** をクリックします。**ルールツリーエディタ** が表示されます。
4. 必要に応じて、ルールを変更します。

ルール ツリー エディタのアクセス及び使用の情報については、「ルールツリーエディタについて」を参照してください。

複数のページを使用した作業

カスタム レポート エディタで **(ファイル | レポート | 新規 | カスタム レポート)**、新規のカスタムレポートを作成する場合、編集エリアは空くです。編集領域自体を除いてオブジェクトは編集領域に存在しません。編集エリアは実際に **ページ**
オブジェクトで、その他の任意のオブジェクトで、そのプロパティは変更できます。オブジェクトを右クリックして**プロパティ**を選択します。

レポート テンプレートエディタの セクション タブに似てますが、**カスタム レポート エディタ**に複数の**ページ**
タブ（**ページ**オブジェクト）を作成できます。これを行うために、タブを右クリックしてポップアップメニューから**挿入**を選択します。編集領域の下部に追加されたタブが表示されます。



複数のページタブの例

ここでは、後にレポート
ウィンドウに表示される追加のレポート用ページを作成します。**セクション** タブに似てますが、**ページ** タブは最終報告書に1つの追加のページを表示し、しかし **セクション**
タブは実際にそのセクションのオブジェクトのルールと測定ルーチンの長さにより最後のレポートの複数のページの表示を終わります。

さまざまなニーズを満たすためにページオブジェクトをサイズできます。たとえば、1つのページのプロパティを変更して標準的なポートレート形式でその内容を表示でき、またはランドスケープ形式で別のページのプロパティでその情報を表示し、または特定のロケール用のプリンタやページ設定と一致します。

同様に、ページの並べ替えも簡単に行えます。これを行うために、 **ページ**
タブを右クリックして、**右を移動** または
左を移動のいずれかを選択します。それに伴い、編集領域の下部にあるタブが並べ替えられます。

カスタム レポートの表示および印刷

カスタム レポートはビューされ、 レポートウィンドウを使用して印刷されます。

レポートを表示するには

1. **ビュー | レポート ウィンドウ** を選択してレポート ウィンドウにアクセスします。

2. レポートウィンドウツールバーから、**カスタム レポート選択ダイアログ** アイコン を選択します 。ダイアログ ボックスがすべてのカスタム レポートを表示します。

3. レポートを選択して **開く**をクリックします。選択したレポートがレポートウィンドウに表示されます。

レポートを印刷するには

1. **ファイル| 印刷| レポートウィンドウの印刷設定...**
   メニュー項目を使用してアウトプットを定義します。

2. 測定ルーチンを実行してまたは**レポート**ツールバーから**印刷** アイコンをクリックします。

カスタム レポートの削除

カスタムレポートは実際のファイルとしてではなく、測定ルーチンファイルのパーツとして保存されますが、Windowsエクスプローラまたは**Windows]**ダイアログボックスを使用して削除することはできません。PC - DMIS以内に彼らを削除する必要があります。

カスタム レポートを消去するには：

1. **ビュー | レポート ウィンドウ** を選択してレポート ウィンドウを選択します。

2. レポートウィンドウから、**カスタム レポート選択ダイアログ** アイコン をクリックします 。

3. レポートを選択して消去します。

4. **削除**キーを押します。

他の測定ルーチンからのカスタム・レポートの使用

現在の測定ルーチンのその他の測定ルーチンからのカスタムレポートを使用してある程度にします。

このためには次の操作を行います:

1. **ファイル| レポート| 編集| その他の測定ルーチンからのカスタム レポート**
   メニュー項目を選択します。**開く** ダイアログボックスが全部の測定ルーチンを表示します。

2. ユーザの測定ルーチンを選択して**開く**をクリックします。**カスタム レポート** ダイアログボックスが表示されます。選択された測定ルーチンのために存在するレポートがある場合、それはこのダイアログ ボックスに表示されます。

3. ダイアログボックスから、使用したいレポートを選択して**開く**をクリックします。カスタム レポートエディタにレポートが表示されます。

測定ルーチン内に要素または項目が検出されない場合は、ラベルおよびオブジェクトは空白になります。

式レポートについて

レポート式は特別なコマンドで、その内部にサポートレポートを配置でき、またはテンプレートオブジェクトをラベルしてPC-DMISからの特定のデータを取得でき、これらのオブジェクトにそれらを配置します。たとえば、要素IDをラベルテンプレートに挿入したいとします。このためには、レポートに式をサポートする**GridControlObject**のようなオブジェクトを追加するだけです。次に、グリッドの式セル内に「=ID」と入力します。

レポート式を挿入できるエリアが4箇所あります:

- **条件式** と**テキスト式** ボックス内のルールツリーエディタ 。
- グリッドセルのGridControlObject。
- 繰り返し式の**行**タブの**繰り返し式**のボックスにあるGridControlObjec 。
- テキスト値を取る編集フィールドまたはコンボボックスのプロパティシートの値。

レポート式のコードを挿入する場所については、これらのトピックを参照してください。

利用可能な式については「関数と演算子」を、利用可能な関数、演算子、およびデータ型のリストについては「データ型を使用してレポート式を検索」を参照して下さい。

注記: 「式と変数の使用」の章に説明されるように、レポート式は多くの正規のPC-DMIS式を使用できます。それらをセル内に入力する時は、単に、「=」記号をその式の前に入力します。

関数および演算子

下記は、報告する式言語に利用可能な要素およびオペレーターのリストです。これらは、 PC-DMIS式言語と同様に機能します。

レポート式の言語は、変数、構造、またはPC -DMIS式の言語のような関数をサポートしていません。変数の代わりに、data_typeという新しいタイプは言語に追加されました。もっと多くの情報について「データタイプ使用でのレポート式検索」を参照してください。もう1つのレポート言語の新たな違いは、"既定の定数"で説明したように定数一式が追加できることです。

注記:
等号（=）で式を先立つことをおぼえてください。また、データを取得しているコマンドが使用したい式をサポートするのを確認してください。

() 括弧は式のグループと評価順序の定義に使用されます。

レポート式用関数

アスタリスク記号（*）で先立たれた項目は報告式の言語に特有されます。

ABS(<式>)
入力値の絶対値を返します。

COS(<式>)
入力値の弧の余弦を返します。入力および戻り値はラジアンで表示されます。

ANGLEBETWEEN(<式1>, <式2>)
式1と式2
の2つの入力の間の角度を返します。型はベクトルでなければなりません。結果は度(°)で表されます。

ARRAY(<式1>,<式2>, & <式N>)
入力値からアレイを作成します。

ASIN(<式>)
入力値の逆正弦を返します。入力および戻り値はラジアンで表示されます。

ATAN(<式>)
入力値の逆正接を返します。入力および戻り値はラジアンで表示されます。

COMMANDDATA(<式1>,<式2>)
この式は、レポートデータイベントからコマンドオブジェクトによって参照されている要素から情報を計算または表示します。これは、PC-DMISへどのような情報を要素から表示したいかを知らせる式1のために単一の必須パラメータを取ります。二番目のオプションのパラメータである式2には、将来のサポートのために提供されていますが、現在使用されていません。

このコマンドは、現在これらの文字列値だけを式1に通させられます。

- 「RMS」－これは、二乗平均平方根を表します。それは、要素の二乗平均平方根値を計算します。
- 「T」－これは、特徴（それは寸法に関してT軸と同じです）のT値を返します。

CHR(<式>)
入力値に対応するASCII文字列を返します。入力値は整数型である必要があります。

*COLOR(<式1>, <式2>)
カラー ツリーに現在定義されている4色のうち、1色を式1のテキスト値に使用します。1 = マークされた色 2 = マークされなかった色3 = ステップモード色4 =
エラー色。「文字列のテキスト色の変更」を参照してください。

*GetTolColor(式1, 式2, 式3)
この関数は偏差、正の公差、および負の公差という3つのパラメータをとり、偏差に基づく現在の公差範囲の色をCOLORREF型で返します。

式1 はダブル型の値として偏差です、式2
はダブル型の値としてプラス公差です、また式3ダブル型の値としてマイナス偏差です。

ForeColor
と**BackColor**のように、レポート内のオブジェクトの色のプロパティをリターンされた色を使用することができ、動的に現在の公差値を反映するオブジェクトの色を変更します。

これらの色は**編集 寸法色** ダイアログ ボックスに指定されます。「CAD
表示の編集」の章の「寸法色の編集」を参照してください。

CONCAT(<式1>, <式2>, & <式N>)
式1から式Nまでの文字列を1つの文字列に連結します。

COS(<式>)
入力値の余弦を返します。入力および戻り値はラジアンで表示されます。

*COUNT(式1)
現在のコマンドに対して式1で定義されたデータ型のインスタンス数を返します。

CROSS(<式1>, <式2>)
式1および式2の外積を返します。式1および式2はベクトル型である必要があります。

*DATAFIELD(<式1>, <式2>, <式3>)
カスタム レポート
エディタ内でのみ使用され、要素、寸法、またはコマンド内の一定のデータ型から得られた値を返します。この関数は次の3つのパラメータを取ります:
式1は一意のIDまたはコマンドIDを表す文字列、式2はデータ型を表す文字列、式3は型インデックスです。通常タイプのインデックスは0ですが、場合においてDタイプは、2回以上発生した場合、それは1以上になります。

編集ウィンドウからカスタム
レポートに項目をドラッグとドロップする場合には、この式は自動的に作成して使用されます。

DATEVALUE()
PC-DMIS式言語で使用されているものと同様です。

DEG2RAD(<式>)
入力角度を度(°)からラジアンへ変換します。

DELTA(<式1>, <式2>, <式3>)
出力は式1で指定された点から式2に指定されたベクトルに沿って式3に指定された距離だけ移動した新しい点となります。

DISTANCEFROMEDGE()
CADの最も近いエッジからコマンドの基本的要素の測定重心の距離をとります。

- 基礎的なコマンドが要素である場合、距離をリターンするように測定要素を使用します。
- 基礎的なコマンドは寸法である場合は、距離をリターンするように寸法の一番目の要素を使用します。

ルール ツリー エディタの機能を使用してリターンされた距離に基づく異なるラベル
テンプレートを指定できます。

DOT(<式1>, <式2>)
式1および式2の内積を返します。入力値は点型である必要があります。

DOUBLE(<式>)
入力値を現在の型から倍精度型に変換します。点の場合は、原点からの距離が返されます。

*ELAPSEDTIME()
実行にかかった時間が返されます。

ELEMENT(<式1>, <式2>, <式3>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

EQUAL(<式1>, <式2>)
2つの配列が同じであるかテストし、同じ場合は1、違う場合は0を返します。

<式1> ^ <式2>
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`EXPON(<式>)`
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`*FILENAME()`
測定ルーチンの完全パスおよびファイル名を返します。

`FORMAT(<式1>, <式2>)`
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`*GETCOUNT(式1)`
式 1 に指定される、ENUM_FIELD_TYPESデータタイプとして存在するインスタンスの数をLong型の値で返します。例えば、X、Y、ZおよびDで表示される位置の寸法は、軸データ型に対して4を返します。

`GETFEATURESSETID(<式1>)`
実行中に、現在のコマンドが寸法である場合、関数はこの寸法の参照要素が要素セット内にあるかどうかをチェックします。参照要素が要素セット内にあると判定された場合、その要素セットの
IDは、文字列の最後に「.lbl」拡張子が追加された文字列の値として返されます。参照要素付きの要素セットコマンドが発見されない場合、それは<式1>で与えられたデフォルトの文字列値を返します。このデフォルト値は.lbl
拡張子を含むラベルファイル名である必要があります。

たとえば、CIR1という名前の円を参照する以下の場所寸法を持つのを仮定します。

```
DIM LOC1= LOCATION OF CIRCLE CIR1 UNITS=IN ,$

GRAPH=OFF TEXT=OFF MULT=10.00 OUTPUT=BOTH

...

END OF DIMENSION LOC1
```

ルールのGetFeatureSetID
機能を使用して自動的にラベルを定義し、それはCIR1が要素の設定内に存在するかどうかに応じて、このディメンションの表示を取得します。

たとえば、CIR1を含むFEAT/SETコマンドを発見できない場合、このルールは自動的にLEGACY_DIMENSION.LBLラベルを使用します。

```
USE TEMPLATE "=GetFeatureSetID("LEGACY_DIMENSION.LBL")"
```

FEAT/SET
コマンドがある場合、コマンドのIDを変更して使用する目的のラベル名に一致して(またはラベルファイルを変更してIDに一致します) またPC-DMIS がその代わりにそのラベルを使用します。

このコードのここの部分では、FEAT/SET
がCIR1を参照します。また、通常のラベル識別子を"REFERENCE_ID"に変更します。つまり、GetFeatureSetID関数は、次のように "REFERENCE_ID.LBL" を返します:

```
REFERENCE_ID=FEAT/SET,CARTESIAN

THEO/<0,0,0>,<0,0,1>

ACTL/<0,0,0>,<0,0,1>

CONSTR/SET,BASIC,CIR1,,
```

GETTEMP(<式1>)
指定された温度または閾値を返します。式1のために使われるこれらの文字列値の1つは、何が返されるかについて決定します：

- 「TEMPP」 - パーツの温度を返します。
- 「TEMPX」 - X軸の温度を返します。
- 「TEMPY」 - Y軸の温度を返します。
- 「TEMPZ」 - Z軸の温度を返します。
- 「REF_TEMP」温度補償基準温度を返します。
- 「HIGH_THRESHOLD」温度補償に高いしきい値を返します。
- 「LOW_THRESHOLD」温度補償に低いしきい値を返します。

GETPROGRAMINFO(<string>,<optional string>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

IF(<式1>, <式2>, <式3>)
式1がゼロ以外の値を取る場合、式2の値が返され、それ以外は式3の値が返されます。

INDEX(<式1>, <式2>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

INTEGER(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

ISMARKEDFORARM(<式>)
複数のアームモードのコンテキストで使用される場合、
この関数はコマンドが<式>で指定されたアームにマークされている場合は1を返し、それ以外の場合は0を返します。これで、コマンドの実行アームに基づいてレポートに表示する内容をコントロールできます。

=IsMarkedForArm(1)

現在のコマンドはアーム 1 にマークされたら、1をリターンして、またはそれは 0 をリターンします。

=IsMarkedForArm(2)

現在のコマンドはアーム 1 にマークされたら、2をリターンして、またはそれは 0 をリターンします。

=IsMarkedForArm(1) AND IsMarkedForArm(2)

現在のコマンドは両方のアームにマークされたら、1をリターンして、またはそれは 0 をリターンします。

LEFT(<式1>, <式2>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

LEN(<式>)
文字列の場合、文字列内の文字の数を返します。配列に対しては、配列要素の数を返します。

LN(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

*LOADSTR(<式>)
数値を使用してリソースファイルから文字列を読み込みます。負の数値の場合、文字列リソースから文字列が読み込まれます。詳しくは、「"PC-DMISから文字列を読み込み」を参照してください。

LOG(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

LOWERCASE(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

<式1> < <式2>
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MAX(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MAXINDEX(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MAXINDICES(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

*MEASSCALE()
測定時に使用される再倍率を返します。

MIN(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MININDEX(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MININDICES(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MID(<式1>, <式2>, <式3>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

MPOINT(<式1>, <式2>, <式3>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

*NUMMEAS()
レポートされる寸法の数を表す数値を表示します。

*NUMOUTTOL()
レポートされた寸法のうち、公差範囲外にある数を表示します。

ORD(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

PCDMISUSERHIDDENDATAPATH()
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

PCDMISUSERVISIBLEDATAPATH()
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`PCDMISSYSTEMHIDDENDATAPATH()`
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`PCDMISSYSTEMVISIBLEDATAPATH()`
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`PCDMISSYSTEMREPORTINGPATH()`
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`PCDMISAPPLICATIONPATH()`
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`*PARTNAME()`
パーツ名を表示します(ファイルヘッダーに表示されたのと同じ)。

`*PAGE()`
現在のページ番号を表示します。

`*PAGES()`
総ページ数を表示します。

`PAGEDIMCOUNT("CadReportObjectId",Range)`
この関数は2つのパラメータを取ります。最初のパラメータは（引用符の内側には何もない）が空の場合、これは*公差範囲よりも最大偏差以下で現在のページでは次元数を返し、二番目のパラメータに指定できる範囲は、浮動小数点数です。ユーザが最初のパラメータでCadReportObject
IDを含める場合、これは指定されたCADReportObjectに関連付けられている許容範囲内の寸法の数を返します。ユーザがCADReportObject1と公差範囲外の寸法の数を返したいと仮定します。以下のようなコードを使用することができます:

```
=TotalPageDimCount("CadReportObject1") -
PageDimCount("CadReportObject1",1.0)
```

「N」をIDに追加することによって、軸の固有の番号が含まれている寸法の数を計算することができます。ここで、Nは軸の数を表す数値です。たとえば、次のように入力して`=PageDimCount （" CadReportObject1 ：4" 、 1.0）`
1.0指定した公差範囲内の4番目の軸を持っていた少なくとも4つの軸が含まれているCadReportObject1に関連付けられた寸法の数を返します。軸の数を指定しない場合は、CadReport Object1に関連付けられる寸法数を返します。すべて
の軸の場合、1.0の指定された公差にあります。

`RAD2DEG(<expression>)`
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

`REAL(<expression>)`
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

*REGSETTING(<expression1>, <expression2>)
特定のレジストリ設定の値を表示します。2つのパラメータが使用されます:
式1はセクションを指定し、式2はエントリを指定します。

REPORTDIMCOUNT("<式1">, <式2>)
この関数は、現在のページの公差範囲外の寸法の数を表示する代わりに、レポート全体の公差範囲外の寸法の数を表示することを除いては、PageDimCount()関数と同様に機能します。また、<式1>の場合はCADReportObject1を使用してIDとする必要があり、それ以外に場合はそれを空（引用符だけ）にします。

*REPORTVALUE(<式1>)
別のオブジェクトのプロパティの値を表示します。式1に示すように、パラメータを1つ取ります。これは、オブジェクト固有のIDにピリオド、そしてプロパティ名が続いた文字列である必要があります。 例: =REPORTVALUE("text1.text")

*REVNUM()
改訂番号を表示します(ファイルのヘッダーに表示されるものと同じです)。

*RGB(<式1>, <式2>, <式3>, <式4>)
式1で指定された文字列の色を式2、3、4のRGB値で指定される色に設定します。「文字列のテキスト色の変更」を参照してください。

RIGHT(<expression1>, <expression2>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

ROUND(<expression1>, <expression2>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

*SECTION()
現在のセクション番号を表示します。

*SERNUM()
シリアル番号を表示します(ファイルのヘッダーに表示されるものと同じです)。

SIN(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

SORTUP(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

SORTDOWN(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

SQRT(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

*STATCOUNT()
統計値を返します(ファイルのヘッダーに表示されるものと同じです)。

STR(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

STRING(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

SUM(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

SYSTIME()
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

SYSTEMDATE(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

SYSTEMTIME(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

*TOGGLESTR(<式1>, <式2>)
式1のリソースIDの値に基づいて、リソースベースから得られた文字列を入れ替えます。再度説明しますが、負の値は文字列が文字列リソースから取得される場合に使用されます。式2の値はトグル文字列内のサブストリングを指定するために使用されます。返される値はサブストリングとなります。

*TOGGLESTRING(DATA_TYPE)
与えられたコマンドに対して指定したデータ型がトグル文字列型である場合、トグル文字列全体が返されます。

*TOGGLEVALUE(DATA_TYPE)
与えられたコマンドに対して指定したデータ型がトグル文字列型である場合、トグル文字列のインデックス値(またはトグル値)が返されます。

*TOL(<式1>, <式2>, <式3>, <式4>)
式1
は色付けされる文字列です。式2はテスト値、式3は正の公差、式4は負の公差です。テスト値が公差範囲内(式3および式4の間の値)である場合、カラー
ツリーから現在のマーク用の色が使用されます。その他の場合はエラー用の色(通常は赤)がテキストの色に使用されます。

*TOLF(<式1>, <式2>, <式3>, <式4>, <式5>)
TOL式以外の追加のフォーマット機能を提供します。最初の4つのパラメータは上記のTOL

にリストされるのと同じ物です。5番目の式はフォント、サイズ、フォーマットおよび公差範囲外の状態の色を決定します。それは、次の構文になるはずです:

"f:s:w:c"

fは使用するフォントの名前です。

sは点単位でのフォントのサイズです。

wは、フォントの書式であり、これらのいずれかを使用して行うことができます:

太字体書式はB或はBOLDで表します。

斜体書式はIあるいはITALICで表します。

普通字体はRあるいはREGULARで表します。

BI、 BOLDITALIC、 IB、 及び ITALICBOLD
はボールドとイタリック書式の両方の字体です。

cはRGB（r、g、b）の色書式であり、ここで、r =赤、 g =緑、およびb =青。各値は、 0～255の範囲にあります。

これらのアイテムはオプションで、コロン（:)で区切る必要があります。たとえば、フォントサイズだけをセットするには、「:14」を使って、しかし、色だけを設定するには、「:::RGB(0,0,0)」を必要とします。

次の例では、太字の書式と赤色のArialフォント、サイズ12で公差範囲外である任意の測定した寸法をフォーマットします。

```
=TOLF(DIM_MEASURED:N,DIM_OUTTOL:N,0.0,0.0,"Arial:12:B:RGB(255,0
,0)")
```

`TOTALPAGEDIMCOUNT("CadReportObjectID")`
この関数にはパラメータが一つ含まれます。空の場合(引用符の間に何もない場合)、現在のページ内にある寸法の総数が返されます。ユーザーがパラメーターの中でCadReportOjbectのIDを入力した場合、PC-DMISはそのCadReportObjectに関連した寸法の総数を返します。

例えば、そのときこの式`=TotalPageDimCount(「CadReportObject3」)`を使用したならば、PC-
DMISは、CadReportObject3に関連した寸法の総数を返します。「N」をIDに追加することによって、軸の固有の番号が含まれている寸法の数を計算することができます。ここで、Nは軸の数を表す数値です。たとえば、次のように入力して`=TotalPageDimCount （ " CadReportObject1 ：4`

"）は、少なくとも4つの軸が含まれているCadReportObject1に関連付けられている寸法の合計数を返します。

TOTALREPORTDIMCOUNT("CADREPORTOJECTID")
この関数はTotalPageDimCount()
関数のように動作しますが、以下の点が大きく異なります:
現在のページの寸法数を返す代わりに、レポート全体の寸法の合計数を返します。ただし、CADReportObjectがある場合のみ動作します。オブジェクトIDをパラメータとする場合、それをCADReportObject1に名前つける必要があります。

TRACEFIELD(<式>)
指定されたトレースフィールドの名前とレポートの値を表示します。式の値は、測定ルーチン内でリスト表示されたトレースフィールドの上から下への順番を表す数値です。つまりリストの最初のトレースフィールドを表示するには、コードは次のようになります:
=TRACEFIELD(1)

UNIT(<expression>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

USERSTRING(<式1>,<式2>)
この関数はカンマ区切り値 (CSV)
テキストファイルからカスタム文字列を取得して、その文字列をラベルに表示します。この関数の例は「テキストファイルから文字列を読み込み」を参照してください。

*VARIABLE(<式1>,<式2>)
定義された変数の値を表示します。この関数は1つまたは2つのパラメータをとります。式1は変数のIDを表す文字列です。式2は別のコマンド、またはUIDに対する任意のIDです。詳しくは「変数値の表示」を参照してください。

VECX(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

VECY(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

VECZ(<式>)
PC-DMIS 式言語のものと同じです。

レポート表示式の演算子

<式1> == <式2>
式1が式2に等しいか評価します。それ以外の場合は0を返します。

<式1> >= <式2>
式1 が式2
より大きいか、または同等であるの場合には１に評価します。それ以外の場合は0を返します。

<式1> <= <式2>
式1 が式2
より小さいか、または同等である場合には１に評価します。それ以外の場合は0を返します。

<式1> > <式2>
式1 が式2 より大きい場合は１に評価します。逆には０に評価します。

<式1> < <式2>
式1 が式2 より小さい場合は１に評価します。逆には０に評価します。

<式1> - <式2>
式1から式2を引きます。

<式1> / <式2>
式1を式2で割ります。

<式1> % <式2>
式1を式2で割った余りを返します。

<式1> * <式2>
式1と式2を乗算します。

<式1> <> <式>
式1と式2を比較します。一致しない場合は1を返します。一致する場合は0を返します。

-<式>
式のオペランド値を負にする単項マイナス演算子

!<式>
論理非演算子。変数または式の値を反対にします 。<式> がTRUEの場合、!<式>
はFALSEを返します。。<式> がFALSEの場合、!<式> はTRUEを返します。

<式1> AND <式2>
2つの数でバイナリ AND
演算を実行します。それ以外の場合、混合型の場合は文字列や数字を連結します。

<式1> OR <式2>
2つの数でバイナリ OR 演算を実行します。

<式1> + <式2>
式1と式2を加算します。

レポート式の例

次のトピックで、レポートの表示式を使用して行えることをいくつか例を挙げて説明します。

- 変数の値を表示
- 文字列の色を変更
- PC-DMISから文字列を読み込み
- テキストファイルから文字列を読み込み

「機能と操作」トピックに機能と操作を使用して、自分のレポート式を作成します。

変数の値を表示

PC-DMISのレポート言語で、
変数（）関数を使用してレポートに変数の値を表示できます。この関数は、次の構文があります：

Variable(<varname>, [<optional command id or uid>])

最初のパラメータは、文字列型に強制的にし、変数の名前を表します。2番目のオプションのパラメータは、変数の値を別のコマンドに相対的な解決するために使用できます。

例えば、ユーザの測定ルーチンでこのコードをするとします。

```
ASSIGN/V1 = 2

F1 = FEAT/CIRCLE...

ASSIGN/V1 = F1.X

COMMENT/OPER,"Some comment text"
```

このサンプルの目的のために、そのコメントは一意のIDまたは""245のUIDを持つと仮定します。

上のコードで以下の例を参考にして下さい:

=VARIABLE("V1") -
他のステートメントはレポートのV1の値を設定しない場合、その値は0、2であり、または要素F1の測定重心xの値と同じである可能性があります。これはすべてのコマンドが既に実行さによって異なってきます、そのポイントでレポート式が評価されるまたどのコマンドが現在のレポートの処理中です。

`=VARIABLE("V1", "F1")` -
プログラムに「F1」という名前の要素のみある場合、この式を評価した結果は2にはずで、V1は要素F1の上の2に直接割り当てます。

`=VARIABLE("V1", 245)` -
この場合、UIDが使用されるので、レポートのこの式の値はF1.Xと同じ値になります。

注記: GridControlObject
の個々のセルは測定ルーチンから変数の値を取得することはできません。ほとんどの場合、**テキスト** オブジェクトを使用する必要があります。

変数とヘッダー

通常、レポートのファイルヘッダー内の変数の値を *表示*できなく、 PC-DMISは測定ルーチンにステートメントを実行する前にファイルヘッダーを評価します。したがって、ファイルヘッダーがまだ作成されない変数を参照しようとするときには、PC-DMISはゼロ値を表示します。しかし、いくつかのオプションは測定ルーチンからヘッダへ情報を取得します。

オプション 1 - 変数の代わりにトレースフィールドを使用
測定ルーチンで変数の代わりトレースフィールドを使用して情報を取得し、ヘッダーのラベルのテンプレートの**GridControlObject**の目的セル内の =TRACEFIELD() 関数を使用してそれを参照します。トレースフィールドは強制的にテンプレートにトレースフィールドが標示される新しい情報に基づくレポートを再評価します。

メリット/デメリット

- **利点** - 比較的簡単にセットアップします。
- **短所** -
  実際に変数を使用しません。代わりにトレースフィールドは使用されて自分の限界を持ちます。

手順

ステップ2： PC-DMISでFile_Header.lblファイルを開き、データの別の行を保持するようにGridControlobjectを変更します。

1. PC-DMISでラベル テンプレートエディタ(**[ファイル| レポート| 編集| ラベルテンプレート]**)
   にアクセスし、File_Header.lblを開きます。当該ファイルがラベル テンプレートエディタに表示されます。GridControlObjectと呼ばれるオブジェクトに内部に含まれる情報を見ることができます。

2. **GridControlObject**を選択して、右クリックします。**プロパティダイ**アログボックスがGridControlObjectを構成するプロパティを含むが表示されます。**NumRows**を3に変更し、
Tabキーを押して、新規の行を追加します。背景が追加された行をサポートするのに十分な高さではないことに注意してください。

3. [**プロパティ**]ダイアログボックスのドロップダウンリストから、
TheFrame / TheViewを選択して、
高さプロパティを100に変更し、変更を受け入れるために、Tabキーを押します。

ステップ2:
フィールドのトレース情報を受け入れるようにGridControlObjectにレポート式を追加します。

1. GridControlObject をもう一度選択します。

2. ハンドル（緑箱）がまだ新しく追加された行を含んでいない場合、彼らはそうするまでに緑ハンドルを下方にドラッグします。

3. ダブルクリックしてGridControlObject
を「活性か」します。これはすべての舞台裏の式を示しています。

4. トレースフィールドの値を保持するセルを選択し、=TRACEFIELD(1)
と入力してTABを押します。この式はPC-
DMISにそのセルに最初のトレースフィールドのデータを保存するよう指示します。たとえば、二番目の
トレースフィールドのデータを要する場合、=TRACEFIELD(2)を使用します。(添付のイメージファイルを参照してください。)

5. セルと再生回避してまた必要に応じてそれらをフォーマットします。これを行う最良の方法は、その上にグリッド内にひとつまたは複数のセルを選択し、右クリックします。**プロパティ** ダイアログ
ボックスが表示されます。

6. その外でクリックしてGridControlObjectを無効にします。

7. 変更を保存します。

ステップ3 : 変更内容をテストします。

1. ユーザの測定ルーチンを実行します。

2. レポート ウィンドウの**ビュー | レポート ウィンドウ** にアクセスします。

3. レポートウィンドウのツールバーの**レポートを再描画**アイコンをクリックしてください。

4. トレースフィールドの情報は現在のヘッダーに表示されます。

オプション 2 - レポートテンプレートを埋め込み

測定ルーチンにレポートテンプレートを埋め込みは、場合によってはASSIGNステートメントが定義された後、パラメータとしてラベルテンプレートに変数の値を引き渡します。必要に応じて行または列を追加し、その追加されたセルの上に、表示したい変数ごとに**[テキスト]**オブジェクトを追加してサイズを調整します。最後に、REPORT/TEMPLATEコマンドのパラメータを通して**[テキスト]**プロパティを次のように変更します:

```
ASSIGN/V1="A String Value to Pass"

CS1=REPORT/TEMPLATE, FILENAME= TEXTONLY.RTP, AUTOPRINT=NO,
Section=-1

    PARAM/TEXT1.TEXT=V1

    PARAM/=

    ENDREPORT/
```

ラベル テンプレートが
レポートテンプレートにマージされたので、上記の方法でレポートのテンプレートを参照することによって、ラベルのテンプレートに特定のパラメータを変更することができます。

メリット/デメリット

- **利点** - 最終報告書のヘッダーに変数が表示されます。

- **短所 - テキスト** オブジェクトをラベル
  テンプレートに追加してコードに加えて、レポートを測定ルーチンにテンプレートを埋め込みますので、設定するのは難しいです。このアプローチの主な欠点は、しかし、いちいちにそのレポートを2回に生成されます。PC-DMISデフォルト要素から一回、また埋め込まれたREPORT/TEMPLATE
  コードブロックからもう一回です。

オプション 3 - ヘッダー情報をレポートに直接配置

ヘッダー用にFile_Header.lblのような外部のラベル テンプレートを参照するレポート
テンプレートを使用する代わりに、レポート テンプレート内で直接、ヘッダーのラベル
テンプレートから**GridControlObject**を再生成します。必要に応じて行または列を追加し、その追加されたセルの上に、表示したい変数ごとに**[テキスト]**オブジェクトを追加してサイズを調整します。次に、各**[テキスト]**オブジェクトに対して=VARIABLE()関数を使用し、変数を取得します。例えば、=VARIABLE("V1") です。

レポートテンプレート内にこれらの残っている変更をします：

1. **TextReportObject**に値を変更してヘッダーのラベルは使用されません。
2. これらのプロパティを現在のセクションに設定します セクション1:

   コマンドセット = すべてのコマンド

   最大ページ数= 1

3. 2番目のセクションを追加し、 セクション2、またそれにも **TextReportObject** を与え、再びそのルールを変更してヘッダラベルが使用されません。
4. プロパティをセクション2に設定します:

   コマンドセット = 前項から続行

   最大ページ数= 0 (最大はないという意味です)

メリット/次点

- 利点 - 最終報告書のヘッダーに変数が表示されます。
- 短所 - レポート テンプレート内の**GridControlObject** を作成する必要があり、各関数の**テキスト** オブジェクトを追加して、追加のレポートセクションを追加します。また、レポートに任せた任意の編集は、「要素表示」にオップンとまたは「公差範囲外のみ」に寸法の変更で、二回は必要で、一回はページ1に (一番目セクション)もう一回はその他のページにします(セクション2)。

オプション 4 - 一般要素を使用して強制的にレポートを生成
このオプションは空の一般要素を使用してラベルテンプレートに強制的にレポートを再評価させ、また必要な変数の値を最終レポートに引渡します。

測定ルーチンに、空の一般要素を作成し、それにわかりやすい名前を付けます、たとえば：

```
REPORTHEADER=GENERIC/NONE,DEPENDENT,CARTESIAN,OUT,$
```

次に、ヘッダーのラベルテンプレートを変更し、
GridControlObjectの必要に応じて追加のセルを追加して、なた追加のセルのトップに、表示したい各変数の**テキスト** オブジェクトを追加してサイズします。**テキスト** オブジェクトの**テキスト** プロパティに=VARIABLE()
関数を使用して変数情報を引き出すのを設定します。このオプションで、 =VARIABLE()
関数内に追加のパラメータを使用して一般的な機能を参照する必要があります。たとえば、
=VARIABLE("V1","REPORTHEADER")

メリット/デメリット

- 利点 -
  たぶん最も汎用性のアプローチです。最終報告書のヘッダーに変数が表示されます。オプション2のように2回最終報告書を編集する必要はありません。

- 短所 - 測定ルーチンで空の一般的な要素を含むこととラベル
  テンプレート内の各変数の **テキスト**
  オブジェクトを追加しますので、設定するのは難しいです。

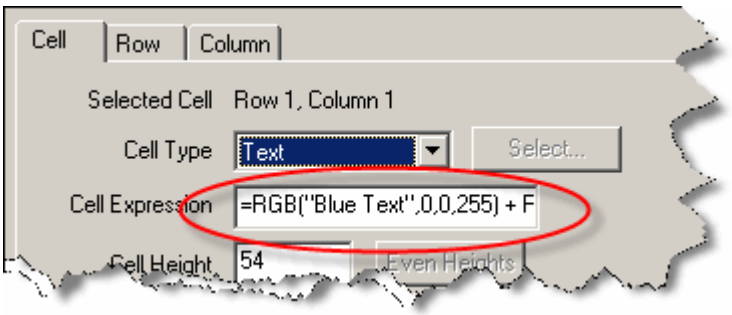
文字列の色を変更

RGB 機能の使用

レポートの表現言語で、RGB関数を使用してRGB（赤緑青）カラー値を定義してまた式のテキスト内の文字の文字列にそれを適用できます。この関数は4つのパラメータ、文字列パラメータ、カンマで分離されるRGBのパラメータに続かれて、以下のようです：

```
=RGB(文字列,R,G,B)
```

GridControlObject
のセル式ボックスにこの機能を入力する場合、**OK**をクリックして、オブジェクトの外でクリックして、PC-DMISは式を評価してテキストに指定された色の値を与えます。



セル式ボックスはRGB式を示します

たとえば、セルにこの式を入力する場合、

```
=RGB("Blue Text",0,0,255) + RGB(" Black Text",0,0,0) + RGB(" Yellow
Text",255,255,0)
```

言葉はエディタテンプレートでこのようになります：

Blue Text Black Text Yellow Text

色機能の使用

カラー関数は2つのパラメータを受け取ります。第一、色のパラメータは一つの原則編集ウィンドウの色を表示する実際な数です。第二、PC-DMIS が適用する色の文字列値です。

```
=COLOR(1, "My Text")
```

最初のパラメータは1～4の値でまた以下に関連付けられている編集ウィンドウカラーにパスします。

1 マークされる色をパスします

2 マークされない色をパスします

3ステップモード色をパスします

4 エラー色をパスします

これらの背景色は、編集ウィンドウ用の **色エディタ**ダイアログ ボックス(**編集 | 優先設定 | 編集ウインドウの色**)で定義されています。ダイアログの情報については、「カスタマイズ設定」の項の「編集ウィンドウの色を定義」を参照して下さい。

PC-DMISから文字列を読み込み

「式のテキストの色の変更」トピックのセルのテキスト色の方法と同じ、レポートの式言語では、PC-DMISの現在実行中の言語からこの式を使用して文字列を引くことができます：

```
=LOADSTR(<整数型の式>)
```

この関数は1つのパラメータ、すなわちresource.dllまたはstrings.dllファイル内の文字列の値に対応する整数を取ります。

- 正の値の場合、resource.dllファイルから文字列が取得されます。
- 負の値の場合、strings.dllファイルから文字列が取得されます。

この関数をGridControlObjectの[**セルの式**]ボックス(またはセル)内に入力する場合、**[OK]**をクリックし、次にオブジェクトの外側をクリックします。すると、PC-DMISは式の値を求めて指定した整数に割り当てられた文字列が返されます。

注記: この機能は主に追加されました、PC - DMISに付属するラベルテンプレートは現在の言語から文字列データを使用します。

テキストファイルから文字列を読み込み

PC-DMISで、カンマ区切り値 (CSV)
テキストファイルからカスタム文字列を読み込み、それをカスタマイズしたラベル内に表示する機能を搭載しています。これは、カスタム文字列を異なる言語で表示する必要がある場合に非常に便利です。ユーザが単にcsvファイルだけをローカライズし、オペレータにそれを提供する必要があります。

構文

USERSTRING 関数は次の2つのパラメータを取ります：

```
=USERSTRING(<式1>,<式2>)
```

- 最初のパラメータ、式1 は CSV
  ファイルの位置を定義する文字列のパスです。これは引用符で囲む必要があります。ファイルが見つからない場合、パス名が間違っている、あるいは読み込み権限が無い場合、この関数は「ファイルを開けません」というメッセージを返します。

- 2番目のパラメータ、式 2 は表示するテキストの文字列に関連した CSV
  ファイルのインデックス番号を示します。CSV
  がアクセス可能であるが、指定のインデックス番号が CSV
  ファイルに存在しない場合、この関数は「インデックスが見つかりません」というメッセージを返します。

CSV ファイル

CSV
ファイルは個別の行で一意なインデックス番号、次にカンマ、それから文字列を含む必要があります。

複数の文字列は改行文字(\n)を使用して定義できます。

例えば、次のサンプル CSV ファイルを考えます：

```
10,宇宙のあなたの遊び場です。

1,テーブルにパーツを置きます。

3,これは \n複数行の文字列です。

...

230,"エッジの裁ち落とし。エッジの切断。"

200,円 6001

201,5+5
```

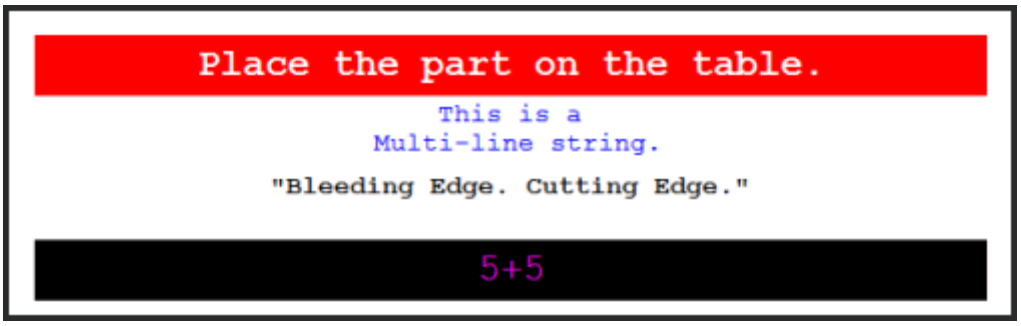
各文字列の前にある数字は連続する必要はありません、単に一意であれば構いません。CSV ファイルに入力する際に引用符およびその他の文字が入ります。数字は数学的に計算されるわけではありません。

例

上述のCSV ファイルが MyStrings.csv というファイル名で d:\temp\ ディレクトリに保存されていると仮定します。一つのラベルに4つの異なるカスタム文字列を表示したい場合、そのラベルの GridControlObjectのセルにある式は以下のようになります：

```
=USERSTRING("d:\temp\MyStrings.csv",1)

=USERSTRING("d:\temp\MyStrings.csv",1)

=USERSTRING("d:\temp\MyStrings.csv",230)

=USERSTRING("d:\temp\MyStrings.csv",201)
```

ラベルが算出されると、次のようになります：



データ タイプ使用でのレポート式検索

式を使用している場合、通常はPC-DMISからデータを引く式を使用します。これを行う関係するラベルテンプレートのコマンドまたは要素は表示したいデータを持つのを確認する必要があります。データタイプは使用にできる正しい式を見つけることができます。

たとえば、 **GridReportObject**を備えたラベル テンプレートを作成したのを想定して、またセルの一つの中に、この式を入力して要素の測定されたXデータを表示します。

```
=MEAS_X
```

レポート テンプレートを作成する場合、 **TextReportObject**を追加して、 また**ルール ツリー エディタ** を使用してPREHIT コマンドで

ラベルのテンプレートに関連付けて、レポートウィンドウ内のセルは何も表示されません。原因は ? PREHIT
コマンドは測定Xフィールドを持たないからです。正しい式を使用するには、編集ウィンドウのコマンドモードで、異なるフィールドに対してデータ型を表示する必要があります。

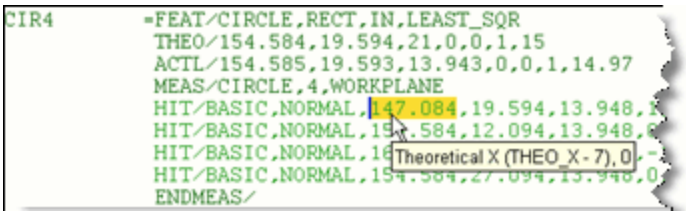
次の手順で、データ型をオンにして表示する方法を説明します。

1. 編集ウィンドウにアクセスして下さい。
2. 編集ウィンドウをコマンド モードにして下さい。
3. 編集ウィンドウを右クリックして下さい。*ショートカット メニュー*表示されます。

[データ型の情報]メニュー項目

4. **ポップアップ表示を変更| データタイプの情報**を選択してください。
5. マウスポインタをコマンドフィールドの上でホバーして、またPC-DMISはフィールドデータタイプを表示する小さな黄色いポップアップを表示します。括弧内の値の一番目のパートは データタイプで、また同等の式が式のリストに存在します。

この例を考慮してください:



このデータタイプのポップアップはTHEO_X
がこのコマンドの有効な式であるのを表示します。適切な場所に"=THEO_X"
を入力した場合、PC-DMISはこの要素の理論Xの値を表示します。

データ型を使用すると、レポートおよびラベル
テンプレートで使用する式がコマンドでサポートされているか確認することができます。

使用可能なデータ タイプ一覧

データの種類がアルファベット順のデータ型の名前のこのリストに表示され、関連付けられているタイプの番号、説明、インデックス値と、適切な値として文字列などです。VBスクリプト内でテンプレートイベントとルールにデータ型を使用する場合、すべてのスクリプトの場所が列挙データ型の値を受け入れないので、データ型の番号を使用する必要があります。

-A-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
481	ABOVEBELOW_CONFIG			
409	ADDITIONAL_CHART	SPCの場合		
153	ALIGN_LIST	整列のリストにアライメントを表示します(はい/ いいえ)		
300	ANGLE_COMP_TOGGLE	補角度寸法の状態にフィールドをトラグします		
149	ANGLE_OFFSET	ループと回転テーブルのオフセット角度		
373	ANGULARITY_NOM_ANGLE	参照の角度は使用され、ディメンションの公称は使用されません。		
103	ANGVEC_I	角度ベクトル I	0	数値
104	ANGVEC_J	角度ベクトル J	0	数値
105	ANGVEC_K	角度ベクトル K	0	数値
164	ARROW_MULTIPLIER	寸法矢印の倍率値		
479	ARTICULATEDARM_TYPE			
234	AUTO_CLEAR_PLANE	オートクリア平面フラグ		
461	AUTO_ONERROR_TYPE			

533	AUTO_PH9			
219	AUTO_PRINT	超レポートオブジェクトの自動印刷フラグ		
295	AUTOBEEPING	自動トリガビープをオン/オフにします		
52	AUTOFIT_CONSTRAINT	最適配置に制約の種類をトグルします		
298	AUTOTOLZONE	自動トリガ公差範囲		
294	AUTOTRIGGERONOFF	自動トリガをオン/オフにします		
140	AVERAGE_ERROR	反復アライメントにフラグします		
749	AXIS_DESCRIPTION			
747	AXIS_MINUS_TOL			
132	AXIS_NOMINAL	軸		
748	AXIS_NOMINAL			
746	AXIS_PLUS_TOL			

-B-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
51	BF_MATH_TYPE	数学型を使用して最適化を計算します		
50	BOUND_TYPE	バウンド/アンバウンド		
967	BOUDARY_OFFSET	無効検出中に境界オフセット 距離を取得し設定します。		
360	BOUNDARY_POINT_X	xの境界点		
361	BOUNDARY_POINT_Y	yの境界点		
362	BOUNDARY_POINT_Z	zの境界点		
476	BSMETHOD_TYPE			
207	BUFFER_SIZE_TYPE	ファイルi/o バッファサイズ		

-C-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列

492	CAD_COMP			
237	CAD_TOLERANCE	境界スキャン用CADトレランス		
471	CALC_STYLE_FILE			
413	CENTER_POINT	SPCの場合		
478	CENTER_ROTATION_MEAS	最適化アラインメント		
477	CENTER_ROTATION_THEO	最適化アラインメント		
445	CHART_SUB_TYPE	SPCの場合		
388	CHART_TYPE	SPCの場合: チャート		
42	CIRC_TYPE	円形または直線プローブの 動作（円と円柱）		
614	CLIP_LEFT_DIST			
604	CLIP_LOW_DIST			
615	CLIP_RIGHT_DIST			
603	CLIP_UP_DIST			
244	COL132_TYPE	列132オブジェクトのオン/オフ設定		
701	COLUMN_HDR			
296	COLUMN_ID	ロードまたはアンロード列のコマンド に列IDを設定します		
245	COMMAND_STRING	外部コマンドオブジェクト用		
189	COMMENT	コメント テキスト		
709	COMMENT_INPUT	コメントの入力値に新しい タイプを追加します		
190	COMMENT_TYPE	コメントの種類		
724	COMPOSITE			
468	CONE_CONVEX_TYPE			

60	CONE_LENGTH_ANGLE_TYPE	コーンの場合：長さや角度を示します		
39	COORD_TYPE	座標システム		
621	COP_BOOLEANTYPE			
618	COP_COLORMAP			
619	COP_COPLEMENT			
616	COP_EXPORTFILETYPE			
543	COP_FILTER			
622	COP_IMPORTFILETYPE			
617	COP_SELECTIONTYPE			
544	COP_SIZE			
545	COP_TYPE			
425	CPOINT_DIAM			
428	CPOINT_F_SCANSPEED			
422	CPOINT_I			
423	CPOINT_J			
424	CPOINT_K			
426	CPOINT_SCAN_CROSS_TOTAL			
427	CPOINT_SCAN_DENSITY			
430	CPOINT_TYPE			
419	CPOINT_X			
420	CPOINT_Y			
421	CPOINT_Z			
433	CREATE_WEIGHTS	2D/3D最適化アラインメントの場合		
65	CURVE_TYPE	曲線の場合-曲線の種類		

-D-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
252	DATA_MEM_PAGES	統計情報オブジェクトに メモリページをデ ータベースします		
250	DATA_READ_LOCK	統計情報オブジェクト に読むロックをデ ータ ベースします		
251	DATA_WRITE_LOCK	統計情報オブジェクトに書き込めロックをデータベースします		
731	DATUM1_MODIFIER			
734	DATUM1_MODIFIER2			
725	DATUM2	これは、DATUMとDATUM2 は要約モードで二つの異なるグループ で使用されている ことが原因です。		
732	DATUM2_MODIFIER			
735	DATUM2_MODIFIER2			
733	DATUM3_MODIFIER			
736	DATUM3_MODIFIER2			
389	DB_CHART_NAME	SPCの場合: チャート名		
386	DB_QUERY_OP	SPCの場合		
387	DB_SOURCE_NAME	SPCの場合		
459	DB_SOURCE_TYPE	SPCの場合		
539	DELETE_TYPE	FILE/CLOSE, fptr, KEEP | DELETE		
203	DESCRIPTION	サブルーチンのパラメータの説明		
727	DESCRIPTION2	これは、DESCRIPTIONと DESCRIPTION2が 要約モードで二つの異なるグ ル ープで使用さ れて いること が原因です。		

133	DEST_EXPR	宛先式 (割り当て、サブルーチン、ハイパーレポート)		
353	DEV_DIAM	偏差直径値		
280	DEV_PERPEN_CENTERLINE			
350	DEV_X	偏差X値		
351	DEV_Y	偏差y値		
352	DEV_Z	偏差 z 値		
390	DEVIATION_ANGLE	偏差角度		
180	DEVIATION_SYMBOLS	ディメンション形式dev シンボルトグル		
737	DEVPERCENT_NOM			
739	DEVPERCENT2			
199	DIGIT_COUNT	ファイルコマンドの読み込み/書き込むの桁数		
324	DIM_BONUS	ディメンションのボーナス		
340	DIM_DEVIATION	寸法偏差		
182	DIM_HEADING	寸法形式の見出しの項目		
304	DIM_ID	2D最適化アラインメントの場合		
160	DIM_INFO_LOC	測定結果情報のオブジェクト位置軸トグル		
159	DIM_INFO_ORDER	測定結果情報の順序トグル		
161	DIM_INFO_TP_LOC	測定結果情報のオブジェクトtp位置軸トグル		
173	DIM_LENGTH	測定結果の長さ		
754	DIM_LENGTH2			

332	DIM_MAX	寸法最大値		
328	DIM_MEASURED	測定される寸法値		
336	DIM_MIN	寸法最小値		
344	DIM_OUTTOL	寸法公差外		
703	DIM_RPT_DATUM			
705	DIM_RPT_DEVPERCENT			
704	DIM_RPT_GRAPHIC			
706	DIM_RPT_ISBILATERAL			
702	DIM_RPT_ISDATUM			
707	DIM_RPT_NUMZONES			
177	DIM_TEXT	ディメンション形式dim テキストトグル		
178	DIM_TEXT_OPTIONS	ディメンション形式dim テキストオプショントグル		
510	DISPLAY_ADVANCED_PARAMETERS			
236	DISPLAY_HITS	ヒットスキャンの表示 にフラグをスキャ ンします（はい/いいえ）		
184	DISPLAY_ID	点情報はidトグルを表示します		
607	DISPLAY_PROBE_PARAMETERS			
256	DISPLAY_TRACE	ダイアログ表示のフィールド オブジェクトのは い/いいえトグルをトレースします		
185	DISPLAY_TYPE	点情報はタイプトグルを表示します		
155	DISTANCE	距離		
676	DRF_COLUMN_HDR			

681	DRF_ROTATIONX			
682	DRF_ROTATIONY			
683	DRF_ROTATIONZ			
677	DRF_SEGNAME			
678	DRF_SHIFTX			
679	DRF_SHIFTY			
680	DRF_SHIFTZ			
641	DRF_TBLHDR			
291	DTYPE_LEAPFROGFULLPARTIAL	リープフロッグのタイプ： フル跳びまたは部分跳び		
290	DTYPE_LEAPFROGNUMHITS	跳び手順に多くのヒットが取られます。		
289	DTYPE_LEAPFROGTYPE	跳びの種類が行われています。		

-E-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
99	END_ANG	終了角度	0	ラジアン値
144	END_NUM	ループの終了番号		
787	END_OFFSET	深さの編集	0	深さの値の終了
467	ERROR_LABEL			
202	ERROR_MODE	エラーフローコントロー ルコマンドのためのエラーモード		
201	ERROR_TYPE	エラーフローコントロー ルコマンドのためのエラー種類		
292	EXCLUSION_ ZONE	除外域コマンドオンまたはオフですか		
293	実行	添付の測定ルーチンが実行 されましたか（はい/いいえ）		

595	EXPOSURE			

-F-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
79	F_AUTOMOVE	自動距離		
85	F_BOXLENGTH			
84	F_BOXWIDTH			
88	F_CHECK	CPCDcheck機能に関連付けられて数値のみ		
87	F_CIRCRADIN			
86	F_CIRCRADOUT			
81	F_CORNER_RADIUS			
78	F_DEPTH	測定の深さ	0	深さの値
82	F_INCREMENT			
80	F_INDENT	さまざまな要素の測定オフセット	1	オフセット値
243	F_LOCATION	セクションスキャンの場所値		
89	F_MAXACCELX	最大X加速		
90	F_MAXACCELY	最大Y加速		
91	F_MAXACCELZ	最大Z 加速		
168	F_MINUS_TOL	寸法負の公差値		
95	F_MOVESPEED	Move speed		
74	F_OFFSET	オフセット値		
76	F_PITCH	自動要素の間隔		
167	F_PLUS_TOL	寸法正の公差値		
97	F_SCANSPEED	スキャン速度		

434	F_SIZE	SPCの場合		
75	F_SPACER	自動幾何学要素隔たり	0	最大距離値
77	F_THICKNESS	板金厚	0	厚さの値
593	F_THICKNESS_EDGE			
83	F_TOLERANCE			
96	F_TOUCHSPEED	タッチ速度		
208	FAIL_ON_EXIST	ファイルi/o は存在のモードに失敗します		
303	FEAT_TYPE	フィーチャーのタイプ		
198	FIELD_WIDTH	ファイルコマンドの読み込み/書き込むに副をフィールドします		
206	FILE_COMMAND_TYPE	ファイルi/o コマンドタイプ		
152	FILE_NAME	ファイル名		
197	FILE_POINTER	ファイル i/o コマンドのファイルポインタ名		
598	FILTER_NEIGHBOR_NUM			
606	FILTER_TOGGLE			
600	FILTER_TOL_ABOVE			
601	FILTER_TOL_BELOW			
602	FILTER_TOL_RIGHT			
472	FILTER_TYPE	基本的なスキャンフィルタの種類		
460	FIND_HOLE_PERCENT	チェックコマンドとホールのチェック距離の発見について		
54	FIND_NOM_AXIS_TYPE	X、Y、Z、またはユーザ定義の名目上の軸の間で選択		
233	FIND_NOMS_TYPE	入力してnomsモードを発見します		

47	FINDHOLE_TYPE	穴のアルゴリズムの発見を使用します(はい / いいえ)		
527	FINDNOMS_BESTFIT			
528	FINDNOMS_ONLYSELECTED			
452	FIT			
465	FIXTURE_TOL			
226	FIXTURE_TYPE	負荷フィクスチャオブジェクトの型		
246	FLY_MODE_TYPE	フライモードオン/オフトグル		
560	FREQUENCY			

-G-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
183	GAP_ONLY_TYPE	オン/オフトグル		
708	GDT_SYMBOL			
730	GDT_SYMBOL2			
64	GEN_ALIGN_TYPE	一般化要素独立タイプ(独立/依存)		
63	GEN_FEAT_TYPE	一般要素タイプ		
162	GRAPH_ANALYSIS	ディメンションのグラフィカル分析を使用します(はい / いいえ)		
785	GRAPH_ANALYSIS_MINUS_TOL	自動要素上点マイナス公差		
784	GRAPH_ANALYSIS_PLUS_TOL	自動要素上点プラス公差		
783	GRAPH_ANALYSIS_POINT_SIZE	自動要素上点サイズ		
458	GRAPH_OPTION	寸法情報とポイント情報コマンド		
408	GRID	SPCの場合		

-H-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列

483	HIGH_ACCURACY			
223	HIGH_THRESHOLD	一時コンプポイントオブジェクトの高閾値		
407	HISTOGRAM	SPCの場合		
359	HIT_TYPE	ヒットの種類		
68	HITINT_TYPE	インテリア/エクステリア測定フラグ		

-I-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
2	ID	オブジェクト id		
392	IGNOREMOTIONERRORS_TYPE	コマンド動作エラーを無視について		
205	INDEX_END	配列のインデックスの終了番号		
204	INDEX_START	配列のインデックスの開始番号		
72	INIT_HITS	初期ヒット		
40	INOUT_TYPE	内部/外部		
596	INTENSITY			
150	INTERNAL_EXTERNAL	パーツ配置呼び出し		
454	IOCHANNEL_NUMBER	IOチャネル管理コマンドについて		
457	IOCHANNEL_PULSE_DURATION	もう使用されないので、たぶん削除される必要があります		
456	IOCHANNEL_PULSE_INTERVAL	もう使用されないので、たぶん削除される必要があります		
455	IOCHANNEL_PULSE_WIDTH	もう使用されないので、たぶん削除される必要があります		
634	ISLAND_AI			
635	ISLAND_AJ			

636	ISLAND_AK			
638	ISLAND_CLEARANCEDIST			
625	ISLAND_DIAM			
631	ISLAND_I			
632	ISLAND_J			
633	ISLAND_K			
626	ISLAND_LENGTH			
637	ISLAND_TYPE			
627	ISLAND_WIDTH			
628	ISLAND_X			
629	ISLAND_Y			
630	ISLAND_Z			
138	ITEM_USED	ベストフィットの項目はアライメントの計算に使用されます		
354	ITERATE_COLUMNS	コラムの反復設定		

-J-

利用可能なエントリーはありません

-K-

利用可能なエントリーはありません

-L-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
200	LABEL_ID	ラベルを参照するフローコントロールオブジェクトのラベルフィールド		
729	LEADER_LINE_ID			
480	LEFTYRIGHTY_CONFIG			
4	LEVEL_REF_ID	反復配置のレベル要素のRef id		

62	LIN_POL_FILT_TYPE	フィルタオブジェクト - リニアまたは極フィルタ		
782	LINE1_BONUS			
643	LINE1_CALLOUT			
644	LINE1_COLUMN_HDR			
650	LINE1_DEV			
651	LINE1_DEVPERCENT			
750	LINE1_DEVPERCENT_NOM			
752	LINE1_DEVPERCENT2			
645	LINE1_FEATNAME			
652	LINE1_ISBILATERAL			
768	LINE1_MAX			
647	LINE1_MEAS			
769	LINE1_MIN			
649	LINE1_MINUSTOL			
646	LINE1_NOMINAL			
653	LINE1_NUMZONES			
765	LINE1_OUTTOL			
648	LINE1_PLUSTOL			
642	LINE1_TBLHDR			
751	LINE1_USE2DEVIATIONS			
686	LINE2_AXIS			
658	LINE2_BONUS			
655	LINE2_CALLOUT			
656	LINE2_COLUMN_HDR			

660	LINE2_DATUMSHFT			
662	LINE2_DEV			
663	LINE2_DEVANG			
664	LINE2_DEVPERCENT			
740	LINE2_DEVPERCENT_NOM			
742	LINE2_DEVPERCENT2			
657	LINE2_FEATNAME			
697	LINE2_ISBILATERAL			
695	LINE2_MAX			
688	LINE2_MEAS			
696	LINE2_MIN			
694	LINE2_MINUSTOL			
687	LINE2_NOMINAL			
698	LINE2_NUMZONES			
766	LINE2_OUTTOL			
693	LINE2_PLUSTOL			
654	LINE2_TBLHDR			
659	LINE2_TOL			
661	LINE2_UNUSEDZONE			
741	LINE2_USE2DEVIATIONS			
669	LINE3_BONUS			
666	LINE3_CALLOUT			
667	LINE3_COLUMN_HDR			
671	LINE3_DATUMSHFT			
673	LINE3_DEV			

674	LINE3_DEVANG			
675	LINE3_DEVPERCENT			
743	LINE3_DEVPERCENT_NOM			
745	LINE3_DEVPERCENT2			
668	LINE3_FEATNAME			
699	LINE3_ISBILATERAL			
774	LINE3_MAX			
771	LINE3_MEAS			
775	LINE3_MIN			
773	LINE3_MINUSTOL			
770	LINE3_NOMINAL			
700	LINE3_NUMZONES			
767	LINE3_OUTTOL			
772	LINE3_PLUSTOL			
665	LINE3_TBLHDR			
670	LINE3_TOL			
672	LINE3_UNUSEDZONE			
744	LINE3_USE2DEVIATIONS			
355	LOAD_TYPE	設定をロード		
287	LOCATOR_BMP	幾何学要素位置BMPオン/オフ		
288	LOCATOR_WAV	幾何学要素位置WAVオン/オフ		
210	LOW_FORCE	オプションプローブオブジェクトの最低強度		
224	LOW_THRESHOLD	一時コンプポイントオブジェクトの低閾値		

-M-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列

227	MACHINE_TYPE	機械のオブジェクトをロードする機械種類		
485	MAGNIFICATION			
176	MAN_RETRACT			
94	MANUAL_FINE_PROBING	精巧な手動プロービング		
534	MANUAL_PREPOSITION	マニュアル中古位置がビジョンターゲット上で必要かどうか		
221	MATERIAL_COEFFICIENT	一時コンプポイントオブジェクトの素材係数		
242	MAX_ANGLE	スキャンの変数法の設定		
209	MAX_FORCE	オプションプローブオブジェクトの最高強度		
240	MAX_INCREMENT	スキャンの変数法の設定		
491	中項			
569	MEAS_A			
612	MEAS_A2	CMT特徴点1について		
30	MEAS_ANGLE	測定された角度		
721	MEAS_AREA			
556	MEAS_DEPTH			
29	MEAS_DIAM	測定された直径		
584	MEAS_EA			
585	MEAS_EH			
624	MEAS_END_ANG			
583	MEAS_ER			
313	MEAS_EX	測定されたエンドポイントx成分		
314	MEAS_EY	測定されたエンドポイントy 成分		

315	MEAS_EZ	測定されたエンドポイントz成分		
552	MEAS_FLUSH			
554	MEAS_GAP			
570	MEAS_H			
613	MEAS_H2	CMT特徴点1について		
306	MEAS_HEIGHT	測定された高さ		
25	MEAS_I	測定値 I		
26	MEAS_J	測定値 J		
27	MEAS_K	測定値 K		
28	MEAS_LENGTH	測定された長さ		
305	MEAS_MINOR_AXIS	測定された短軸（楕円）		
719	MEAS_PERIMETER			
568	MEAS_R			
611	MEAS_R2	cmt特徴点1について		
581	MEAS_SA			
582	MEAS_SH			
307	MEAS_SLOTVEC_I	測定済みのスロットベクトル i - 以下の注「スロットベクトルデータ型」 を参照してください。		
308	MEAS_SLOTVEC_J	測定済みのスロットベクトル j - 以下の注「スロットベクトルデータ型」 を参照してください。		
309	MEAS_SLOTVEC_K	測定済みのスロットベクトル k - 以下の注「スロットベクトルデータ型」 を参照してください。		
580	MEAS_SR			

623	MEAS_START_ANG			
310	MEAS_SX	測定されたスタートポイントx成分		
311	MEAS_SY	測定されたスタートポイント y 成分		
312	MEAS_SZ	測定されたスタートポイントz 成分		
316	MEAS_WIDTH	測定された幅		
22	MEAS_X	ヒット測定点X	ポイント番号	X-座標
396	MEAS_X2	CMT特徴点1について		
23	MEAS_Y	ヒット測定点y	ポイント番号	Y-座標
397	MEAS_Y2	CMT特徴点1について		
24	MEAS_Z	ヒット測定点z	ポイント番号	Z-座標
398	MEAS_Z2	CMT特徴点1について		
141	MEASURE_ALL_FEATURES	反復アライメントにフラグします		
59	MEASURE_ORDER_TYPE	エッジ要素SURFACE/ EDGE/ BOTHにオーダーを測定します		
66	MEASURED_2D3D_TYPE	その解決策はあるだろう かまたは3Dソリュー ションを平面に定義します。		
106	MEASVEC_I	ベクトルiの測定		
107	MEASVEC_J	ベクトルJの測定		
108	MEASVEC_K	ベクトル Kの測定		
357	METHOD_TYPE	Scan 方法の種類		
100	MIDPOINT_X	中間点x		
101	MIDPOINT_Y	中間点 y		
102	MIDPOINT_Z	中間点 z		

241	MIN_ANGLE	スキャンの変数法の設定		
239	MIN_INCREMENT	スキャンの変数法の設定		
486	MINOR_WORD_TOGGLE			
58	MODE_TYPE	MANUAL または DCC		
45	MOVE_TYPE	自動移動を使用します (はい/ いいえ)		

-N-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
429	N_CONTROLPOINTS	scanの制御点の数		
70	N_HITS	1行あたりのヒット数	0	1 つ以上
55	N_INIT_HITS_TYPE	initヒットの固定数のフィールドをトグルします		
56	N_PERM_HITS_TYPE	パーマヒットの固定数のフィールドをトグルします		
71	N_ROWS	行数	0	1 つ以上
489	N_SIDES	多角形側面の数		
249	NEW_STATS_DIR	統計情報オブジェクトのエディタでの統計情報のdirフィールドを空きます		
157	NEW_TIP	移動 ph9 オフセットの新しい先端		
0	NINGUNO_TIPO	タイプ、デフォルト値はなし、定数を使用します		
826	NO_APPROACH_VECTOR_FLIP	最適化中に要素ベクトルが反転することを許可します	0	「はい 」/「いいえ」
482	NOFLIPFLIP_CONFIG			
166	NOMINAL	寸法公称値		
321	NOMINAL_COLOR	ビジョン公称値の色		
232	NORM_RELEARN	ノーマルスキャンモードまたは再学習公称値モード		
317	NUM_CONTROL_POINTS	制御点の数		

320	NUM_FIT_POINTS	継手表面に使用されるポイント数		
356	NUM_ITERATIONS	反復回数		
215	NUM_RETURN_DATA	オプションプローブオブジェクトのデータをリターンします		

-O-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
61	OFFSET_LINE_METHOD	オフセットラインのための方法		
238	OFFSET_TOLERANCE	境界スキャン用オフセットトレランス		
156	OLD_TIP	移動 ph9 オフセットの古い先端		
285	ONOFF_TYPE	当初IGNOREROTABで使用するために実装されていましたが、任意のオン/オフトグルフィールドで使用できます		
620	OPERTYPE			
220	原点	一時コンプポイントオブジェクトのオリジナルデータ		
6	ORIGIN_REF_ID	反復配置のオリジナル要素のRef id		
449	OUTPUT_DMIS_REPORT	DMO レポート		
448	OUTPUT_FEAT_W_DIMENS	DMO レポート		
447	OUTPUT_FEATURE_NOMS	DMO レポート		
165	OUTPUT_TYPE	寸法の出力モード		
558	OVERLAP			
559	OVERSCAN			
446	OVERWRITE	DMO レポート		

-P-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
374	_PRINT_TO_FILE	編集ウィンドウ定数との混同を避けるために、_前に付加		
375	_PRINT_TO_PRINTER	編集ウィンドウ定数との混同を避けるために、_前に付加		
191	PART_NAME			
519	PATTERN_TYPE	自動平面パターン	0	「SQUARE」または「RADIAL」
487	パーセント			
73	PERM_HITS	パーマの（サンプル）ヒットの数	0	零以上
170	PERP_PARALLEL_TYPE	ディメンションperindicularパラレルタイプ		
115	PINVEC_I	ピン ベクトル i		
116	PINVEC_J	ピン ベクトル j		
117	PINVEC_K	ピン ベクトル k		
605	PIXEL_TOGGLE			
186	POINT_INFO_HEADING	点情報の見出しタイプ		
380	POINTINFO_FILTER_DEVIATION	ポイント情報コマンドの偏差フィルタ 状態の切り替えフィールド		
381	POINTINFO_FILTER_DEVIATION_NUMBER	番号フィールドはポイント情報コマンドの偏差フィルタの状態に関連付けられます		
301	POINTINFO_FILTER_INTERVAL	ポイント情報コマンドの間隔フィルタ状 態の切り替えフィールド		
302	POINTINFO_FILTER_INTERVAL_NUMBER	番号フィールドはポイント情報コマンドの間隔フィルタの状態に関連付けられます		
382	POINTINFO_FILTER_	ポイント情報コマンドのouttolフィルタ状態の切り		

	OUTTOL	替えフィールド		
378	POINTINFO_FILTER_WORST	Toggle field for worst filter state of point info commands		
379	POINTINFO_FILTER_WORST_NUMBER	番号フィールドはポイント情報コマンドの最悪フィルタの状態に関連付けられます		
218	POLAR_VECTOR_COMPENSATION	極ベクトルの補正オブジェクト		
277	POS_REPORT_AXIS_X	軸の値を常に正の値で表示		
278	POS_REPORT_AXIS_Y	軸の値を常に正の値で表示		
279	POS_REPORT_AXIS_Z	軸の値を常に正の値で表示		
462	POS_REPT_DISPLAY_OPTION			
214	POSITIONAL_ACCURACY	オプションプローブオブジェクトの位置精度		
786	PPAP_INDEX			
399	PPROG	（データベースクエリで使用される）測定ルーチン名		
175	PRECISION	測定結果の表示精度		
377	PRINT_DELETE_RUNS			
376	PRINT_DRAFTMODE			
213	PROBE_ACCURACY	オプションプローブオブジェクトのプローブ精度		
228	PROBE_COMP	プローブ（オン/オフ）トグル		
299	PROBING_MODE	オプションプローブのプロービング モード		
174	PROFILE_FORM_TYPE	ディメンションプロファイルフォームタイプのトグル		
550	PROFILE_TYPE			
521	PROGRAM_GAGE_FEAT_TYPE			
522	PROGRAM_GAGE_TYPE			

118	PUNCHVEC_I	パンチベクトルi		
119	PUNCHVEC_J	パンチベクトル j		
120	PUNCHVEC_K	パンチベクトルk		

-Q-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
470	QUERY_SHOW_GRAPHIC_SETTINGS			

-R-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
171	RADIUS_TYPE	測定結果の2次元距離半径タイプ		
196	READ_WRITE	読み取り/書き込みのトグル		
46	READPOS_TYPE	位置を読み込め（はい/いいえ）		
3	REF_ID	オブジェクトIDと呼ばれて		
222	REF_TEMP	一時コンプポイントオブジェクトの参照温度		
412	REGR	SPCの場合		
142	REPIERCE_CAD	反復アライメントにフラグします		
383	REPORT_SURFVEC_I	DCCエッジの拡大された板金ベクトル図表		
384	REPORT_SURFVEC_J	DCCエッジの拡大された板金ベクトル図表		
385	REPORT_SURFVEC_K	DCCエッジの拡大された板金ベクトル図表		
121	REPORTVEC_I	レポートベクトル i		
122	REPORTVEC_J	レポートベクトル j		
123	REPORTVEC_K	レポートベクトル k		
188	RET_ONLY_TYPE	レトロリニアオン/オフトグル		
216	RETURN_SPEED	オプションプローブオブジェクトの スピードをリターンします		

192	REVISION_NUMBER	ファイルヘッドの改訂番号		
48	RMEAS_TYPE	相対測定を使用します(はい/ いいえ)		
69	RMEASFEATID	測定の名前要素		
524	RMEASFEATIDX	参照要素 (x 軸)	0	要素ラベル
525	RMEASFEATIDY	参照要素 (Y 軸)	0	要素ラベル
526	RMEASFEATIDZ	参照要素 (Z 軸)	0	要素ラベル
5	ROTATE_REF_ID	反復配置の回転要素のRef id		
158	ROTATION_TYPE	回転テーブルタイプを移動します		
286	ROW_ID			
639	RPT_DIMENSION_ TABLES			

-S-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
151	SAVE_ALIGN_CAD_ TO_PARTS	列保存タイプを保存します		
92	SCAN_ACCELERATION	スキャンの加速		
265	SCAN_AXISVEC_I	軸ベクトル i - 境界条件のために...		
266	SCAN_AXISVEC_J	軸ベクトルj - 境界条件について...		
267	SCAN_AXISVEC_K	軸ベクトルk - 境界条件のために...		
432	SCAN_BNDRY_TYPE			
274	SCAN_CROSS_TOTAL	番号踏切境界条件を許可される		
259	SCAN_CUTPLANEVEC_I	カットの平面のベクトル i		
260	SCAN_CUTPLANEVEC_J	カットの平面のベクトル j		
261	SCAN_CUTPLANEVEC_K	カットの平面のベクトル k		

217	SCAN_DENSITY	オプションプローブオブジェクトのスキャン密度		
276	SCAN_EDGE_THICK	エッジスキャンのエッジ厚		
268	SCAN_ENDVEC_I	終了接触ベクトル i		
269	SCAN_ENDVEC_J	終了接触ベクトル j		
270	SCAN_ENDVEC_K	終了接触ベクトル k		
271	SCAN_INITDIR_I	ユニット方向ベクトル iのスキャン		
272	SCAN_INITDIR_J	ユニット方向ベクトル jのスキャン		
273	SCAN_INITDIR_K	ユニット方向ベクトル Kのスキャン		
262	SCAN_INITVEC_I	初期接触ベクトル i		
263	SCAN_INITVEC_J	初期接触ベクトル j		
264	SCAN_INITVEC_K	初期接触ベクトル k		
93	SCAN_OFFSET_FORCE	スキャンのオフセット力		
358	SCAN_TECHNIQUE	スキャンの技術		
275	SCAN_TIME_INCR	マニュアルスキャンの時間インクリメント		
540	SCREEN_CAPTURE_ AUTO_TIME	画面キャプチャ時間（常にまたは一時エラに）		
536	SCREEN_CAPTURE_ AUTO_TYPE	画面キャプチャオートタイプ（基本的な画面キャプチャのオプションを与える）		
503	SCREEN_CAPTURE_ QUALITY	画面キャプチャの画像色深さ		
502	SCREEN_CAPTURE_ SCALE	画面キャプチャの画像サイズ		
535	SCREEN_CAPTURE_TYPE	画面キャプチャのタイプ (CADと同様にライブ画像表示をできます)		
57	SEARCHMODE_TYPE	ハイポイント要素のボックスまたは円形検索モード		
764	SECTION_INDEX			

225	SENSOR_LIST	一時コンプポイントオブジェクトのセンサーのリスト		
193	SERIAL_NUMBER	ファイルヘッダーのシリアル番号		
494	SHOW_COLUMN			
136	SHOW_DETAILS	アライメントとスキャンの詳細を表示します		
179	SHOW_HEADINGS	ディメンション形式ヘッドトグル		
135	SHOW_IDS	アライメントとループIDを表示します		
414	SHOW_MORE_SPC_CALCS	SPCの場合		
723	SHOW_NOMS			
728	SHOW_OPTIONS			
187	SHOW_POINT_INFO	ポイント情報/ポイント情報を表示します		
493	SHOW_ROW			
402	SHOW_SPC_CALCS	SPCの場合		
763	SIMULT_EVAL			
235	SINGLE_POINT	dcc スキャンオブジェクトのポイントモード		
145	SKIP_NUM	ループのナビゲーション番号		
53	SLOT_MIN_MAX_TYPE	5 (NORM) or 6 (MINMAX) ヒットを使用し てスロットを測定します		
297	SLOT_NUMBER	列のロードおよびアンロードに列スロッ ト番号を設定します		
563	SLOT_TYPE			
109	SLOTVEC_I	理論上のスロットベクトル i - 以下の注「スロットベクトルデータ型」 を参照してください。		
110	SLOTVEC_J	理論スロットベクトルj - 下の「スロットベクトルのデータタイプ」 の注を参照してください。		

111	SLOTVEC_K	理論スロットベクトルk - 下の「スロットベクトルのデータタイプ」 の注を参照してください。		
43	SNAP_TYPE	ベクター要素/表面要素		
416	SOLID	SPCの場合		
403	SPEC_LIMITS	SPCの場合		
415	SPEC_OFFSET	SPCの場合		
134	SRC_EXPR	ソース式(割り当てる、サブルーチン、コードのサブ、基本スクリプト、フローコントローラ)		
181	STANDARD_DEVIATION	ディメンション形式std dev トグル		
98	START_ANG	開始角度	0	ラジアン値
466	START_LABEL			
143	START_NUM	ループの開始番号		
254	STAT_CALC_TYPE	統計情報オブジェクトにタイプオン/オフのトグルを計算します		
194	STAT_COUNT	ファイルヘッド統計データ数		
253	STAT_NAME_TYPE	統計情報オブジェクトの変数名		
1	STATIC_TOGGLE	式を含めないトグルフィールドに使用されます		
391	STATS_DATASOURCE	統計情報オブジェクトのデータソース		
453	STATS_DB_TYPE	統計コマンドデータベース オプションについて		
248	STATS_DIR	統計オブジェクトの転送統計		
247	STATS_TYPE	統計情報オブジェクトの統計タイプ		
405	STDDEV	SPCの場合		
195	SUB_NAME	サブルーチン名		

690	SUMMARY_AXIS			
781	SUMMARY_BONUS			
684	SUMMARY_COLUMN_HDR			
640	SUMMARY_DEV			
685	SUMMARY_FEAT			
779	SUMMARY_MAX			
692	SUMMARY_MEAS			
780	SUMMARY_MIN			
778	SUMMARY_MINUSTOL			
691	SUMMARY_NOMINAL			
776	SUMMARY_OUTTOL			
777	SUMMARY_PLUSTOL			
689	SUMMARY_TBLHDR			
484	SURFACE			
112	SURFVEC_I	面ベクトル i		
113	SURFVEC_J	面ベクトル j		
114	SURFVEC_K	面ベクトル k		
546	SURFVEC_MEAS_I	面ベクトル i 測定		
547	SURFVEC_MEAS_J	面ベクトル j測定		
548	SURFVEC_MEAS_K	面ベクトル k 測定		

スロットベクトルデータ型

SLOTVEC_I、SLOTVEC_J、およびSLOTVEC_Kは列挙型です。これらは自動化コンテキスト内のみで機能します。

列挙型を使用する自動化の例として、SLOTVEC_I、SLOTVEC_J、およびSLOTVEC_Kを以下のように使用する必要があります:

```
FeatureCommand.PutData(LocSlotVector, FDATA_SLOT_VECTOR, FDATA_MEAS,
FDATA_PART, "", PLANE_TOP)

Command.PutText("0", MEAS_SLOTVEC_I, 1)

Command.PutText("1", MEAS_SLOTVEC_J, 1)

Command.PutText("0", MEAS_SLOTVEC_K, 1)
```

PC-DMIS
式言語を介して編集ウィンドウでポインタまたは変数を直接使用する場合、TANGVEC_IJKまたはANGVEC_IJKを使用する必要があります:

- TANGIJKは*理論上の* IJK スロットベクトルを取得します。

  また、特定の値を取得することもできます:

  - TANGI は I 値を取得します。
  - TANGJ は J 値を取得します。
  - TANGK は K 値を取得します。

- ANGIJK は *測定された* IJK スロットベクトルを取得します。

  また、特定の値を取得することもできます:

  - ANGI は I 値を取得します。
  - ANGJ は J 値を取得します。
  - ANGK は K 値を取得します。

式の例として、変数 V1 および V2 に丸溝の理論的 IJK 値と測定された IJK 値を代入するには、以下のように使用します:

```
ASSIGN/V1=SLTR.TANGIJK

ASSIGN/V2=SLTR.ANGIJK
```

-T-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列

345	T_VALUE	ヒットのT の値		
572	TARG_A			
590	TARG_EA			
591	TARG_EH			
589	TARG_ER			
516	TARG_EX	ターゲットエンドポイントx成分		
517	TARG_EY	ターゲットエンドポイントｙ成分		
518	TARG_EZ	ターゲットエンドポイントｚ成分		
573	TARG_H			
31	TARG_I	ターゲットi - ベクトル		
32	TARG_J	ターゲットｊ - ベクトル		
33	TARG_K	ターゲットｋ - ベクトル		
571	TARG_R			
587	TARG_SA			
588	TARG_SH			
586	TARG_SR			
513	TARG_SX	ターゲットスタートポイントx成分		
514	TARG_SY	ターゲットスタートポイントｙ成分		

515	TARG_SZ	ターゲットスタートポイント z 成分		
19	TARG_X	ターゲット x - 重心		
20	TARG_Y	ターゲット ｙ - 重心		
21	TARG_Z	ターゲット ｚ - 重心		
557	TARGET_BLOB_TYPE			
282	TARGET_COLOR	ビジョンターゲット色		
474	TARGET_DIRECTION			
520	TARGET_EDGE_ANGLE			
508	TARGET_EDGE_DENSITY			
712	TARGET_EDGE_ EDGEDETECT			
538	TARGET_EDGE_ EDGENUM			
537	TARGET_EDGE_ EDGESELECT			
717	TARGET_EDGE_ GRADIENT			
711	TARGET_EDGE_HEIGHT			
505	TARGET_EDGE_ILLUM			
475	TARGET_EDGE_ POLARITY			
504	TARGET_EDGE_SIZE			

507	TARGET_EDGE_STRENGTH			
506	TARGET_EDGE_TOL			
509	TARGET_EDGE_TYPE			
549	TARGET_EDGE_ UNDERSCAN			
710	TARGET_EDGE_WIDTH			
715	TARGET_FILTER_AREA			
716	TARGET_FILTER_ AREA_SIZE			
713	TARGET_FILTER_CLEAN			
714	TARGET_FILTER_CLEAN_ STRENGTH			
561	TARGET_FILTER_ OUTLIER			
562	TARGET_FILTER_ OUTLIER_ DISTANCE_ THRESHOLD			
599	TARGET_FILTER_ OUTLIER_ STD_DEV_THRESHOLD			
523	TARGET_FOCUS			
722	TARGET_SURFACE_ CROSSHAIR_HEIGHT			
722	TARGET_SURFACE_ CROSSHAIR_HEIGHT			

499	TARGET_SURFACE_ DURATION			
497	TARGET_SURFACE_ HEIGHT			
501	TARGET_SURFACE_HIACC			
490	TARGET_SURFACE_ILLUM			
500	TARGET_SURFACE_MODE			
498	TARGET_SURFACE_RANGE			
511	TARGET_SURFACE_TYPE			
496	TARGET_SURFACE_WIDTH			
564	TARGET_TYPE			
124	TARGSLOT_I	ターゲットスロットベクトル i		
125	TARGSLOT_J	ターゲットスロットベクトル ｊ		
126	TARGSLOT_K	ターゲットスロットベクトル ｋ		
532	TEMPP	現在のパート温度:		
529	TEMPX	現在のX 軸温度:		
530	TEMPY	現在のＹ 軸温度:		
531	TEMPZ	現在のＺ 軸温度:		
163	TEXT_ANALSYIS	ディメンションのテキスト 解析を使用します(Yes / No)		

761	TEXTANAL_LABEL_DEV			
758	TEXTANAL_LABEL_ MEAS_I			
759	TEXTANAL_LABEL_ MEAS_J			
760	TEXTANAL_LABEL_ MEAS_K			
755	TEXTANAL_LABEL_ MEAS_X			
756	TEXTANAL_LABEL_ MEAS_Y			
757	TEXTANAL_LABEL_ MEAS_Z			
762	TEXTANAL_LABEL_ MINMAX			
566	THEO_A			
609	THEO_A2	CMT特徴点1について		
38	THEO_ANGLE	理論上の角度		
720	THEO_AREA			
555	THEO_DEPTH			
34	THEO_DIAM	理論上の直径		
578	THEO_EA			
579	THEO_EH			

284	THEO_END_ANG	ビジョン円要素		
577	THEO_ER			
13	THEO_EX	理論点x - 終了点		
14	THEO_EY	理論点ｙ - 終了点		
15	THEO_EZ	理論点ｚ - 終了点		
551	THEO_FLUSH			
553	THEO_GAP			
567	THEO_H			
610	THEO_H2	CMT特徴点1について		
37	THEO_HEIGHT	理論上の高さ		
16	THEO_I	ヒットポイント理論i- ベクトル	ポイント番号	数値
17	THEO_J	ヒットポイント理論ｊ - ベクトル	ポイント番号	数値
18	THEO_K	ヒットポイント理論k - ベクトル	ポイント番号	数値
36	THEO_LENGTH	理論上の長さ		
130	THEO_MINOR_AXIS	理論マイナーアクセス		
718	THEO_PERIMETER			
565	THEO_R			
608	THEO_R2	CMT特徴点1について		
575	THEO_SA			
576	THEO_SH			

574	THEO_SR			
283	THEO_START_ANG	ビジョン円要素		
10	THEO_SX	理論値ｘ - 開始点		
11	THEO_SY	理論値ｙ - 開始点		
12	THEO_SZ	理論値z - 開始点		
35	THEO_WIDTH	理論上の幅		
7	THEO_X	ヒットポイント理論 ｘ - 重心	ポイント番号	X-座標
393	THEO_X2	CMT特徴点1について		
8	THEO_Y	ヒットポイント理論 ｙ - 重心	ポイント番号	Y-座標
394	THEO_Y2	CMT特徴点1について		
9	THEO_Z	ヒットポイント理論 z - 重心	ポイント番号	Z-座標
395	THEO_Z2	CMT特徴点1について		
49	THEOBF_TYPE	理論値を最良適合アルゴリズム(はい/ない)に使用します。		
41	THICKNESS_TYPE	理論や実際の厚さ	0	"THICKNESS_NONE"、"THEO_THICKNESS"、または "ACTL_THICKNESS"
594	THICKNESS_TYPE_ EDGE	理論や実際の厚さ		
67	THINNING_TOL	曲線細線化公差		
488	THRESHOLD			
450	TIME_ARG	SPCの場合		

401	TIME_FILTER	SPCの場合: タイムスタンプに基づくフィルタリング		
229	TIP_I	ヒントシャンクベクトルiコンポーネント		
230	TIP_J	ヒントシャンクベクトルjコンポーネント		
231	TIP_K	ヒントシャンクベクトルkコンポーネント		
418	TITLE	SPCの場合		
349	TOOL_DIAM	ツールの直径		
346	TOOL_X	ツールxの値		
347	TOOL_Y	ツールyの値		
348	TOOL_Z	ツールzの値		
169	TP_MODIFIER	測定結果の位置修正		
726	TP_MODIFIER2	これは TP_MODIFIER and T P_MODIFIER2は要約モー ドで二つ異 なるグル ープに使用される原因です。		
400	TRACE_FILTER	SPCの場合: トレースフィールドに基づく フィルタリング		
451	TRACE_FILTER_ARG	SPCの場合		
257	TRACE_NAME	トレースフィールド名		
258	TRACE_VALUE	トレースフィールド値		
473	TRACE_VALUE_LIMIT	値フィールドのトレースコ マンド文字の制限		
255	TRANSFER_DIR	統計オブジェクトの転送ディレクトリ		
212	TRIGGER_FORCE	オプションプローブオブジェ クトの引き金強度		
469	TRIGGERPLANE			

463	TRIGGERTOLERANCE			
464	TRIGGERTOLVALUE			
131	TWO_D_THREE_D_TYPE	2d または 3d		

-U-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
318	U_HITS	表面のUポイント数		
417	U_L_BOUNDS	SPCの場合		
406	UCL_LCL	SPCの場合		
172	UNIT_TYPE	ユニットタイプ（インチ/ mm）		
211	UP_FORCE	オプションプローブオブジェクトの最高強度		
127	UPDATEVEC_I	ベクトルIの更新		
128	UPDATEVEC_J	ベクトルJの更新		
129	UPDATEVEC_K	ベクトルKの更新		
431	USE_3DFILTER			
139	USE_AXIS	反復アライメントに弛まんでまた TPディメンションを開始します		
753	USE_AXIS2			
968	USE_BOUNDARY_ OFFSET	無効検出中にヒットが自動的 に配置された位置で、 境界(エッジ)からの最小距離とし て境界オフセット を使用することを有効または無効 にします。いいえに設 定すると、チップの半径の値が最 小距離となります。		はい/いいえ
541	USE_HSSDAT			
542	USE_ STARTENDDELAY			

281	USE_THEO	BRN added 5/2/2002		
44	USEPIN_TYPE	ピンベクトルや法線ベクトルを使用してください		
738	USETWODEVIATIONS			

-V-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
319	V_HITS	表面のVポイント数		
363	VIDEO_GAIN			
366	VIDEO_LASERLIGHT1			
367	VIDEO_LASERLIGHT2			
365	VIDEO_LEDLIGHT			
370	VIDEO_LSEG			
364	VIDEO_OFFSET			
371	VIDEO_XSEG			
369	VIDEO_YEND			
368	VIDEO_YORIGIN			
372	VIDEO_YSEG			
512	VOID_DETECT	無効な検出をオフします	0	「はい 」/「いいえ」

-W-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
322	WAVE_FILE	幾何学要素位置Waveファイル		
137	WEIGHT	最適化アラインメントの重さの値		
154	WORK_PLANE	作業平面		

-X-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列

146	X_OFFSET	ループのX オフセットル		

-Y-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
147	Y_OFFSET	ループのYオフセットル		

-Z-

ヒット数	データのタイプ名	データタイプ説明	インデックス	値文字列
148	Z_OFFSET	ループのZオフセットル		
404	範囲	SPCの場合		

型インデックスを使用した特定のデータ表示

タイプインデックスで、レポートに非常に具体的なデータを引き出します。たとえば、８個の先端のシリンダの機能があれば、タイプインデックスを使用して測定のX値の二番目の先端をグラブできます。タイプインデックスを使用するには、式に単にコロンとポート番号を追加して先端または寸法データの行をとります。

型インデックスを使用した特定のデータ表示

この操作の説明として、例えば次のように入力します:

```
=MEAS_X
```

型インデックスは使用されず(型インデックスはデフォルトの0に設定)、要素の中心点に対するXの測定値が表示されます。

一方、次のように入力した場合:

```
=MEAS_X:1
```

最初のヒットに対するXの測定値が表示されます。

次のように入力した場合:

```
=MEAS_X:2
```

2番目のヒットに対するXの測定値が表示されます。

行を繰り返して全てのデータを表示

インデックスを入力して、**GridControlObject**には「繰り返している行」のように行を定義できます。繰り返し行では、文字"N"が表示される行に対する現在の繰り返しインデックスの値となります。繰り返し行を指定する場合、繰り返し行に対する式もまた定義可能であり、その値が求められると行を繰り返す回数が定義されます。

つまり、要素の全てのヒットに対してXの測定値を表示する場合、次の式のを使用して1つの繰り返し行を定義します:

```
=MEAS_X:N
```

次に、繰り返し行に対する式を"=N_HITS"と定義し、ヒットの総数を取得します。全てのヒット数が表示されるまで、付随するヒットデータを持った行が繰り返されます。

プレフィックス番号を使用した要素の参照データへのアクセス

レポート式は括弧内のオプションの接頭辞の番号を取って、データが取られる参照コマンドを表示します。

たとえば、丸みの寸法のラベルテンプレートを作成して、テンプレートのラベルで測定径を表示したい場合、この式を使用できます：

```
={1}MEAS_DIAM()
```

{1}を注意してください。これがデータが最初の参照コマンド（機能）から来てテンプレートが作成されたコマンドを代わる必要があると表示します。

1つ以上の参照要素を使用する場合、括弧内の番号はPC-DMIS
が情報を引くところから要素を表示します。例えば、距離を計算するのに2つの要素が使用されるとします。{1}を使用すると、データは最初の参照要素から取得され、{2}は2番目の参照要素からデータを取得します。

既定定数

レポートの表示式はまた、DIMENSION_TABLESデータ型が使われている型インデックスの既定定数を使用します。

```
LINE1_SIZE_TABLE = 1

LINE2_POSITION_TABLE = 2

LINE3_POSITION_TABLE = 3

DATUM_SHIFT_TABLE = 4

SUMMARY_TABLE = 5

LINE2_ORIENTATION_TABLE = 7
```

```
LINE3_ORIENTATION_TABLE = 8

LINE2_BASIC_DIMENSION_TABLE = 9

LINE3_BASIC_DIMENSION_TABLE = 10

TRUE_POSITION_TABLE = 11

DIMENSION_TABLE = 12

DIMENSION_WITH_BONUS_TABLE = 13
```

新しいライン

NEWLINEはテキストの表示式で、改行復帰文字を挿入する場合に使用します:

次の式:

```
=”これは、行1です。” + “ これは、行2です”
```

が表示され、

```
これは、行1です。これは、行2です。
```

レポートで。

次の式:

```
=「これは、行1です」 + NEWLINE + 「これは、行2です」
```

は、レポートでは、下記のように表示されます。

```
これはライン１

またこれはライン２
```

レポートで。

N:

グリッドで行が繰り返される場合、Nは繰り返しの行における現在の行番号を表します。これは繰り返し行に2回以上にデータタイプを使用する式を配置する時には有用です。

下記は、テーブルにヒットの値を表示したグリッドの例です。Nは繰り返し行の式で使用されます。繰り返し行の最初のインスタンスの式が評価される場合、N
は1に等しい、一番目の先端のまたX, Y, とZ 値は表示されます。二番目の行が追加される場合、N
は2に等しい、二番目の先端のまたX, Y, とZ 値は表示されます。

Hit #	Measured X	Measured Y	Measured Z
=N	=MEAS_X:N	=MEAS_Y:N	=MEAS_Z:N

標準テンプレートで使用される式

様々な標準レポートとラベルテンプレートで、情報の異なる部分を表示するまたは情報の表示をフォーマットするのに使用されるいくつかのレポート式を見えます。例えば、PC-DMISに標準装備されているラベル テンプレート、feature.lblの裏にあるコードを見てみます。

このテンプレートでは、いくつかのレポートの式が表示されて(=LOADSTR, =DIM_MEASURED, =NOMINAL など) それはどのような情報のPC - DMISのセルに表示されるかを決定します。

コマンド式

次のリストは様々な規格テンプレートで使用される最も一般的な式を説明します。

これらのいくつかの関数も「Functions and Operators」トピックに説明されます。

- =<Expression>:N -
  これで、繰り返す情報を表示できます。繰り返しの行の詳細について、「タイプインデックスを使用して指定されたデータを表示」と「定義済み定数」を参照してください。

- =AXIS - これは現在の軸の名前を表示します(XAXIS, YAXIS, またはZAXIS)。

- =DIM_MEASURED - これが寸法から測定された値を表示します。

- =DEVIATION_ANGLE -
  これは、真位置のディメンションの度の偏差角を表す10進数の値が表示されます。これはテンプレートを放射状位置のディメンションのグラフィックを描画するために使用されます。

- =DEVPERCENT_NOM -
  これは、0偏差（公称値）リニアグラフィック上の位置をマーク合計公差の割合を表す10進値が表示されます。+ / -
  値がこれに等しい両側公差は50.0（%）になり;リニアグラフィックの中心部は0偏差を表しています。非両側公差の場合にはこれが0.0になり；リニアグラフィック左端側は0偏差を表しています。

- =DEVPERCENT2 -
  USETWODEVIATIONSが真である場合(以下のUSETWODEVIATIONSを参照してください)、これはフォームの場所としてレポートされた両側のプロファイルの最大偏差で使用され

る+公差の割合を表示する10進数の値が表示されます。最小偏差で使用される -
公差の割合はDIM_RPT_DEVPERCENTで与えられます。

- =DIM_DEVIATION - これがどれぐらいの寸法は公称値から外れるのを表示します。
- =DIM_OUTTOL - これが寸法の公差値の以外を表示します。
- =DIM_MAX -
これはすべての点の入力要素に関連する間に指定された軸の最大値を表示します。
- =DIM_MEASURED - これがディメンションの測定値を表示します。
- =DIM_MIN -
これはすべての点の入力要素に関連する間に指定された軸の最小値を表示します。
- =DIM_RPT_DEVPERCENT -
これは、この寸法の偏差をマークする合計公差の割合を表す10進値が表示されます。
- =DIM_RPT_GRAPHIC - これは PC-
DMISが寸法に表示するのをグラフィックコントロールの型を表す整数値を表示されます。

  グラフィックコントロールはないとレポートします

  1 リニアグラフィックコントロールをレポートします

  2 放射状グラフィックコントロールをレポートします

- =DIM_RPT_ISBILATERAL - この式はリニアグラフィックは両側公差(+/-
公差値）を示すかどうかを定義し、フォームや場所としてレポートされた穴またはプロファイルのサイズなどです。（ある公差値）両方ではない公差の例はフォームの公差であり、真円度、平坦性、真直度、フォームとしてレポートされたプロファイルなどのようです。その値は「0」（false）と「1」のいずれかにできます。
- =DIM_RPT_NUMZONES -
線形のグラフィックに描かれる公差範囲の数(偏差0から最大許容偏差まで)を10進数で表示します。これは、**[寸法の色を編集]**ダイアログ ボックス(**[編集 |
グラフィックの表示ウィンドウ |
寸法の色]**を選択)で設定可能です。各範囲に固有の色を設定することが可能で、寸法の偏差がどのくらいの公差であるかを線形グラフィックの色で表します。
- =F_PLUS_TOL - これがプラス耐性要素を表示します。
- =F_MINUS_TOL - これがマイナス耐性要素を表示します。
- =ID - これは要素または寸法IDを表示します。

- =LOADSTR - これはPC-DMISから保存された文字列のテーブルの文字列をロードします。詳しくは、「"PC-DMISから文字列を読み込み」を参照してください。
- =NOMINAL - これは要素の公称データを表示します。
- =Page() - これはレポートウィンドウの現在のページ番号を表示します。
- =Pages() - これはレポートウィンドウのページの総数を表示します。
- =TOL - この関数は任意のテキストまたは式を染めます。
- =UNIT_TYPE - これは要素またはディメンションの測定単位を表示されます。
- =USETWODEVIATIONS - この式は従来の寸法のラベルのテンプレートリニアグラフィックが2つの偏差値を使用するかどうかを定義します。フォームと位置として報告された両側プロフィールはどれぐらいの+公差は最大偏差で使用されてまたどれぐらいの-公差は最小偏差で使用されるのを表示します。その値は「0」（false）と「1」のいずれかにできます。

複合式

また、次のようにLegacy_Dimension_Cad.lblラベルテンプレートから取得したコードの文字列に示されるように、式を結合したり他の式と共に使用することも可能です:

```
=TOL(DIM_DEVIATION:N,DIM_OUTTOL:N,0.0,0.0)
```

これは=TOL 関数を使用して寸法偏差値を表示してまたそれにエラー色（普通は赤）を与えます。

もう一つの例はversion 4.2以降の標準のレポートテンプレートで発見されます。それらのテンプレート下部にある**テキスト** オブジェクトは総ページ数によって **テキスト** プロパティ内の組み合わせた式を表示します:

```
=page() + " Of " + pages()
```

だから10ページの報告書のページ6はレポートウィンドウでページの下部にフォローされるように読み込めます。

6 の 10

PC-DMIS ActiveXコントロールの使用

トピックのこのシリーズは様々なPC - DMIS ActiveXコントロールとのプロパティを設定する方法の例とラベルのテンプレートにそれらを使用して寸法情報を表示する方法の例を提供します。

- ActiveX コントロールの追加
- ActiveXコントロールへデータの引渡し
- PC-DMIS ActiveXコントロールの例

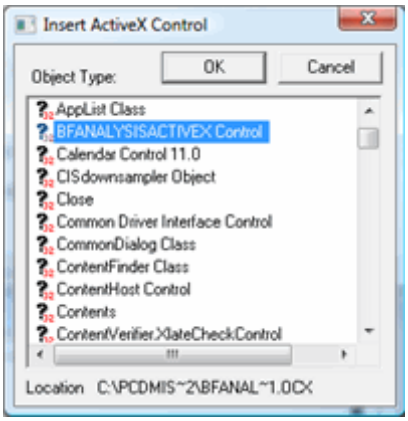
次のトピックでは、各コントロールに対してActiveX固有のプロパティの説明に焦点が当てられています。

ActiveX コントロールの追加

2つの方法でラベルテンプレートエディタにActiveX コントロールをラベルテンプレートに追加できます：

- **オブジェクト バーからのActiveX オブジェクト** - ActiveX コントロールは、エディタのオブジェクト バーにある**ActiveX** アイコン上をクリックし、それから、コントロールが配置されるエリアを定義することによって、ラベル テンプレートに直接付け加えることが可能です。「ActiveX オブジェクト」トピックを参照してください。)
- **GridControlObject**からの**ActiveXオブジェクト** - GridControlObjectでは、オブジェクトをダブルクリックし、選択してから、右クリックして、**グリッドのプロパティ**ダイアログボックスを示し、かつ**セル類型**を**ActiveX**に設定します。これは**[選択]**ボタンがアクティブにします。**選択**をクリックします。（詳細については、「 GridControlObject 」トピックを参照してください）。

どのようなメソッドを使用しても、PC-DMIS は**ActiveX コントロールを挿入** ダイアログボックスを示します。



ActiveX コントロールの挿入ダイアログ ボックス

リストから目的のコントロールを選択して**OK**をクリックします。

PC-DMISによって追加されたそれらのコントローラだけではなく、このダイアログボックスはシステム上のすべてのコントロールが表示されます。ラベルのテンプレートサードパーティ製のコントロールを使用する場合は、同じ方法でそれを追加できます。

ActiveXコントロールへデータの引渡し

ここで説明するPC-DMISのActiveXコントロールについては、全てEventReportDataイベントを使用してコントロールにデータを引渡します。PC-DMISでは、ある寸法に特化したデータはReportDataと呼ばれるオブジェクトに要約されます(詳しくはPCDBASICマニュアルの、「ReportDataオブジェクトの概要」トピックを参照)。例えば、TextOnly.rtpレポート テンプレートのルール ツリーエディタを見ると、[測定結果の位置]項目に次のルールが表示されています:

テンプレート「legacy_dimension.lbl」の使用

Legacy_dimension.lbl ラベル
テンプレートはこのReportDataオブジェクトを通して寸法の位置に関する寸法データを受け取ります。この時点では、この情報はラベル上にありますが、まだActiveXコントロールには引き渡されていません。

このデータは次の方法により引き渡されます:

1. [ラベル テンプレート]エディタで legacy_dimension.lbl ラベル テンプレートを開きます。**ActiveX12**と名付けられたGridControlObjectが含まれているのを確認します。

2. 右クリックしてオブジェクトの**プロパティ** ダイアログ ボックスを表示します。

3. グリッド コントロール内のセルの1つをダブルクリックし、編集モードに入ります。

4. 下の右コーナーのセルをクリックします。このセルは**寸法レポートリニア**コントロールを使用します。**[プロパティ]**ダイアログボックスに4つのプロパティカテゴリ(**標準**、**詳細**、**イベント**、**ActiveX**)があることに注目してください。通常、オブジェクトは3つのカテゴリ(**標準**、**詳細**、**イベント**)を持ちます。四番目のカテゴリ、**ActiveX**はActiveXコントロールに固有でありまたそれは以下のセクションに集中されるエリアです。

5. **イベント** セクションを展開します。

6. **EventReportData** プロパティにアクセスします。VBAミニ
   エディタが表示されます。エディタには以下のコードの行が含まれます:

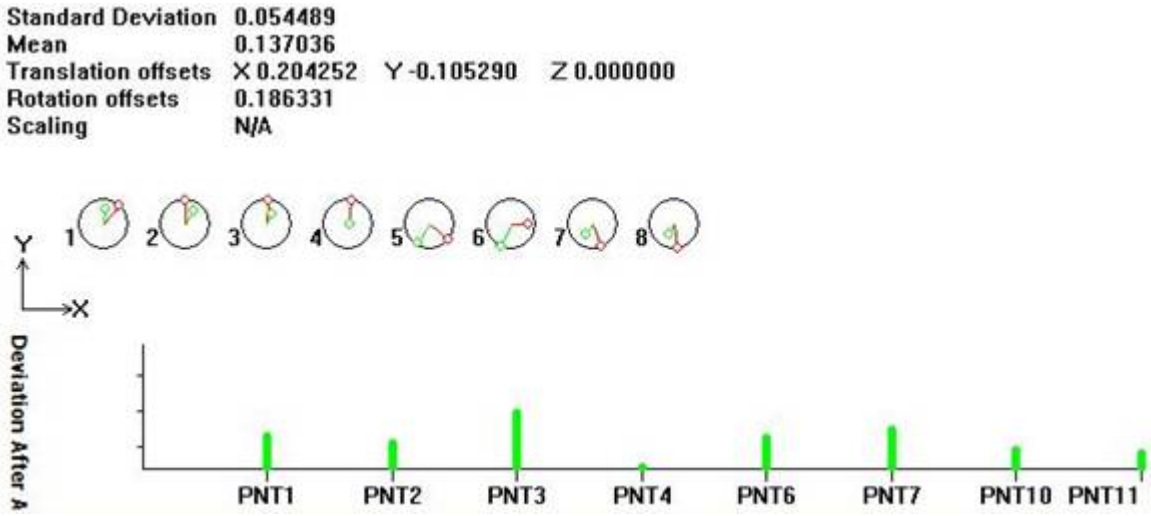
```
This.X.EventReportData ReportData
```

このコードはReportData（次元情報）をActiveX
コントロールにパスする機構です。だから、ActiveX コントロールをラベル
テンプレートに追加するたびに、theコードのラインの使用でEventReportDataプロパティを同じなことをするのを設定する必要があります。

PC-DMIS ActiveXコントロールの例

次のセクションはいくつかのPC-
DMISレポートActiveXコントロールとそれらのプロパティを説明します。ここではDimAnalysisActiveX
コントロールについては触れないことにご注意ください。それがActiveXリストに表示されますが、それは内部的にラベルのテンプレートエディタの解析オブジェクト に使用されます。

BFAnalysisActiveX



プロパティ	説明	例
AfterColor	最後のバーの色	未定[デフォルト - 65280 (緑)]
BeforeColor	最初のバーの色	未定[デフォルト - 255 (青)]

NumberFeatures	X軸に表示される要素の数	tbd

AfterColorおよびBeforeColorは色を表示するのにLong型の値を使用します。

次の式が使用されます:

(赤 * 256 * 256) + (緑 * 256) + 青

つまり、赤= 16711680; すなわち (255 * 256 * 256) + (0 * 256) + 0; 緑= 65280; すなわち (0 * 256 * 256) + (255 * 256) + 0; 青= 255; すなわち (0 * 256 * 256) + (0 * 256) + 255となります。

ラベル テンプレートの例: Best_Fit_Analysis.lblの、BFANALYSISACTIVE1

寸法レポート 線形

プロパティ	説明	例
DeviationNominalPercent	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DEVPERCENT_ NOM:N
DeviationPercent	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DIM_RPT_DEVPERCENT:N
DeviationPercent2	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DEVPERCENT2:N
Is Bilateral	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DIM_RPT_ ISBILATERAL:N

UseTwoDeviations:	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=USETWODEVIATIONS:N

ラベル テンプレートの例: Legacy_Dimension.lbl内の右下のセル

寸法レポート 線形2

プロパティ	説明	例
誤差:	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DIM_DEVIATION:N
負の公差:	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=F_PLUS_TOL:N
正の公差：	例の式の説明について「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=F_MINUS_TOL:N

例のラベル テンプレート: 現在は標準のラベルのテンプレートに使用されません。

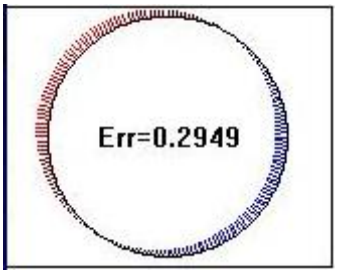
寸法レポート 円形

プロパティ	説明	例

円筒誤差	例の式の説明について 「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DIM_RPT_ DEVPERCENT:101
円筒の偏差角度	例の式の説明について 「標準テンプレートに使用された式」を参照してください。	=DEVIATION_ ANGLE:101

ラベル テンプレートの例: Legacy_Dimension_True_Position.lbl内の右下のセル

FeatureAnalysisActiveX



このコントロールの設定するプロパティはありません。これはデータを使用してそれにReportDataに渡されます。

ラベル テンプレートの例: Feature.lbl. 内のFEATUREANALYSISA1

DataFileFormatControl

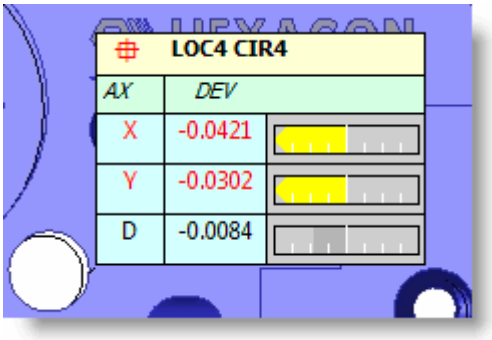
プロパティ	説明	例
DataFileName	解釈される.datファイル名(logo.dat、elogo.dat、またはheader.dat)です。 PC-DMISがインストールされたディレクトリの外にある.datファイルを使用する場合は、ファイルの完全パスを入力します。	logo.datを入力した場合、 PC-DMISは.datファイル内のキーワードを解釈し、ファイル内の.datファイルキーワードに基づき、指定されたビットマップ、日付、時間等を表示します。

例のラベル テンプレート: 無し。「.DAT ファイルキーワードの使用のレポート」トピックを参照してください。

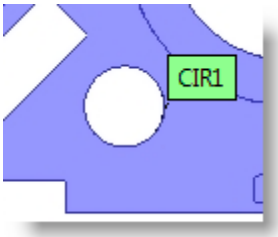
チュートリアル - 報告を強化するためにスクリプトを使用します

このチュートリアルは、スクリプトの力でそれをカップルする場合にはPC-DMIS
レポートのいくつかの利用可能な機能を表示します。

このチュートリアルはCADOnlyタイプのレポートを表示するレポート
テンプレートを作成し、寸法が公差内である場合を除いて、 *Reference_ID.lbl
に似たラベルテンプレートが使用されます*。公差範囲外の場合、*Legacy_Dimension_CAD.lbl
ラベル テンプレートが使用されます*。また、Reference_ID.lbl-like
ラベルはその背景色に寸法の色を使用します。



要素公差以外のサンプル



要素公差のサンプル

> **注記:**
> これは要素コントロールフレーム(FCF)の測定結果で使用されるラベルに必要な変更をカバーしないので、このチュートリアルは完全なソリューションではありません。このため、完璧なソリューションにするためには、FCF_Label.lblに対して同様の手順を実行し、FCF測定結果が同じパターンに従うようにします。

チュートリアルを開始する前に、「実装手順の概要 」と以下の「知っておくべきこと
」トピックを読んでおくと良いでしょう。

チュートリアルのステップの要約

1. CADONLY.RTPをCADONLYREF_ID.RTPにコピーします。
   CADONLYREF_ID.RTPが新しいレポートテンプレートとなります。

2. REFERENCE_ID.LBL を REFERENCE_ID_COLOR.LBLにコピーします。
REFERENCE_ID_COLOR.LBLが公差内の測定結果に使用される新しいラベルテンプレートとなります。

3. VBスクリプトをREFERENCE_ID_COLOR.LBLに追加します。
ラベル テンプレート エディタを使用して、 VBスクリプトコードを新しいラベルテンプレート、REFERENCE_ID_COLOR.LBLに追加し、背景色を測定結果の色に基づいて設定します。

4. CAD2.RULルールをCADONLYREF_ID.RTPにインポートします。
このステップでは、.RULファイルに含まれるルールを新しいレポートテンプレートCADONLYREF_ID.RTPにインポートします。.RUL ファイルはTextAndCADレポートのCAD部分に使用されるルールのセットを含み、またそれはREFERENCE_ID.LBLを使用して寸法を表示します。REFERENCE_ID.LBLを使用するルールを変更して新しいルールと新しいラベルのテンプレートREFERENCE_ID_COLOR.LBLを使用できます。

5. VB スクリプトコードをCADONLYREF_ID.RTPに追加します
レポートエディタのテンプレートを使用して、ルールツリー内の各場所でスクリプトコードCADONLYREF_ID.RTPを追加して、REFERENCE_ID.LBLを参照して測定結果が公差内にあるかどうかをチェックできます。公差範囲内の場合、コードによってREFERENCE_ID_COLOR.LBLが使用されるようになります。そうでない場合、コードによってLEGACY_DIMENSION_CAD.LBLが使用されるようになります。

> **注記:**
> この時新しいFCF_LABEL.LBL、すなわちFCF_LABEL_COLOR.LBLを作成している場合、公差内である場合は要素コントロールフレームのルールを変更してFCF_LABEL.LBLの代わりにFCF_LABEL_COLOR.LBLを使用します、公差外の場合はその他のラベル（例えばLINE2.LBL）を使用します。

6. このルールを変更して、残っているディメンションにこのVBスクリプトコードを使用します。
この時点で新ルールのみは寸法場所に確立されます。このステップに ルール ツリー エディタ 内のコピー と貼り付け
機能を使用してその他の寸法のタイプが同じルールを使用することができます。

7. レポートウィンドウでCADONLYREF_ID.RTPをテストします。
このステップでは、CADONLYREF_ID.RTP
テンプレートを選択してレポートウィンドウの内部でそれをテストします。このステップでは、CADONLYREF_ID.RTP
テンプレートを選択し、レポートウィンドウ内でそれをテストします。このチュートリア

ルの終了時には、公差内の測定結果のみページ下部に要素名に測定結果のカラーキーから一致する背景の測定結果の色を付けて表示するレポートテンプレートが出来上がります。公差外の測定結果はLEGACY_DMENSION_CAD.LBLラベルを使用します。

知っているもの

- PCDBASIC ドキュメンテーションの「ReportData Object Overview」はこのオブジェクトのメソッドの説明を提供します。この例では、いくつかのReportDataメソッドを使用します。

- Dtype
  情報を取得するには、編集ウィンドウ内の測定結果を右クリックします。表示されるメニューの下部には「ポップアップ表示を変更」項目があります。それを選択して「データタイプ情報」を選択します。編集ウィンドウの項目の上にカーソルを置くと、ヘルプのヒントがDtype 情報を表示します。たとえば、OUTTOL
  値の上にマウスを置くと、ヒントの説明に「公差範囲外(DIM_OUTTOL – 344), 0」と表示されます。Dtype は
  DIM_OUTTOLであり、Dtype番号は344です。この例ではDtype
  番号を使用します。今後のPC-DMIS
  バージョンではDtype自体を使用することができます。

- VBS
  ミニエディタはMsgBoxステートメントを受け入れます。このステートメントを使用してスクリプトのデバッグに役立ちます。MsgBoxステートメントを介して表示される情報はレポートの生成中に表示されます。

- VBS ミニエディタは「ミニ」エディタです。Visual Basic / Visual Studioで慣れている場合、このエディタおよびBASIC言語はすべて、大規模なBASICのシステムの機能を持っていません。

ステップ1: CADONLYREF_ID.RTPにCADONLY.RTPをコピー

このステップでは、CADONLYREF_ID.RTPが新しいレポート テンプレートの名前となります。

Windowsエクスプローラで、*レポートのサブディレクトリ*にCADONLY.RTPファイルのコピーを作成し、その名前をCADONLYREF_ID.RTPに変更します。

レポートウィンドウが使用するテンプレートすべてを含むレポートディレクトリの場所は以下のとおりです。

- **Vista/Windows 7:**
  C:\Users\Public\Documents\WAI\PC-DMIS\<version>\Reporting

- **XP:**
  C:\Documents and Settings\All Users\Documents\WAI\PC-DMIS\<version>\Reporting

<バージョン> とは PC-DMIS
のバージョンを意味します。既存のテンプレートをカスタマイズ、または新規のテンプレートを作成したい場合、このディレクトリで行います。

PC-DMIS に同梱されたテンプレートのバックアップが必要な場合、PC-DMIS
インストールディレクトリ内にある DefaultReportingTemplateBackup
ディレクトリからコピーしてレポートディレクトリに貼り付けることができます。バックアップディレクトリのテンプレートは変更しないようにしてください。

ステップ2: REFERENCE_ID.LBLをREFERENCE_ID_COLOR.LBLにコピー

このステップでは、REFERENCE_ID_COLOR.LBLが公差範囲内の測定結果に使用される新しいラベル テンプレートとなります。

同じレポートのサブディレクトリから、REFERENCE_ID.LBLのコピーを作成し、REFERENCE_ID_COLOR.LBLに名前を変更します。

ステップ3: VB スクリプトをREFERENCE_ID_COLOR.LBLに追加

このステップでは、ラベル テンプレート エディタを使用して、
VBスクリプトコードを新しいラベル
テンプレートのREFERENCE_ID_COLOR.LBLに追加し、背景色を測定結果の色に基づいて設定します。

1. **ファイル| レポート| 編集 | ラベル テンプレート**を選択して
   またREFERENCE_ID_COLOR.LBLを開きます。ラベルが開きます。ラベルが開きます。ラベルには一つの行と一つの列があるGridControlObjectが含まれています。セルをダブルクリックすると、以下のような式が表示されます:

   ```
   =REF_ID:1
   ```

   これはラベルが参照要素のIDを表示するのを意味します。

2. エディタを右クリックして**プロパティ**ダイアログ ボックスを表示します。

3. オブジェクトリストから **GridControlObject1** を選択します。

4. **プロパティ**ダイアログ ボックスから**イベント**を展開します。

5. **EventReportData** プロパティの右に[なし] をクリックして。**VBS ミニエディタ** が表示されます。広いために **VBSミニエディタ** を展開する必要があり、全体Subステートメントがトップにすることを発見できます。

> ReportDataオブジェクトが渡されたのが表示されます。これは PC-DMISが寸法に渡された情報を抽出する場所です。ReportDataオブジェクトの追加情報について、PCDBASIC ドキュメンテーションの「ReportData Object Overview」トピックを参照してください。GridControlObjectを参照する必要があれば、オブジェクトにショートカットとして「これ」を使用できます。

6. **VBS ミニエディタ**にこのコードを挿入します:

```
Dim Count 整数として

Dim I 整数として

Dim MaxIndex整数として

Dim MaxDev ダブルとして

Dim CurrentDev バリアントとして

Dim Dev バリアントとして

Dim PTol バリアントとして

Dim MTol バリアントとして

Dim iReturn ブールとして

' 初期化の最大誤差と最大インデックス

MaxDev = 0.0

MaxIndex = 1

' 寸法の軸の数を取得します

' 132 はDタイプの軸です

Count = ReportData.GetCount(132)

' ループを介して最大の誤差を見つけます

' ループが完了すると、MaxIndexは

' 最大誤差のインデックスです
```

```
For I = 1 to Count

' 340 はDtype DIM_DEVIATIONです

CurrentDev = ABS(ReportData.GetValue(340, I))

CurrentDev > MaxDevの場合、では、

MaxDev = CurrentDev

MaxIndex = I

End If

次 I

' MaxIndexを使用して、軸の誤差を取って、 + Tol と- Tol

' 167 はDtype F_PLUS_TOL; 168は Dtype F_MINUS_TOL

Dev = ReportData.GetValue(340, MaxIndex)

PTol = ReportData.GetValue(167, MaxIndex)

MTol = ReportData.GetValue(168, MaxIndex)

' この情報を使用してグリッドセルの背景色を調整します

iReturn = This.SetCellBackgroundColor(0, 0,
ReportData.GetTolColor(Dev,PTol,MTol))
```

コードの説明:

このコードは、Dtypesの数値を使用します。変数MaxDevがゼロに初期化されて、大きな誤差が発見される場合、それはMaxDevに配置されます。For/Next
ループの終了後に、MaxDevはこの測定結果の最大偏差を保持し、MaxIndexはその軸のインデックスを保持します。ReportData.GetCount文は、この寸法の軸の数を取得します。For/Next ループは各軸をループします。

ReportData.GetTolColorは指定の偏差値と公差値用に公差の色を取得します。MaxIndexを使用して最大偏差を持つ軸の偏差値および公差値を取得します。GetTolColorは色の値をlongとして返します。

"This"を使用するとGridControlObject1オブジェクトを参照できます。SetCellBackgroundColorは背景色に特定のセルを設定します。引数1と2は、セルの行と列の番号です。グリッドコ

ントロールの行と列の最初のセルは行/列0です。3番目の引数は、ユーザーがこのセルの背景色に設定したい色となります。Long値となります。

7. 一旦コードを追加したら、**OK**をクリックします。ミニ編集は任意の構文エラーをチェックします。コードにエラーがある場合、メッセージはこの時点で表示されます。エラーがない場合、**VBS ミニエディタ**は終了します。

8. **ファイル| 保存**を選択してREFERENCE_ID_COLOR.LBLの新しいコピーを保存します。

9. **ファイル| 終了**を選択します。これはラベルテンプレートエディタを閉じます。

ステップ4: CAD2.RULルールをCADONLYREF_ID.RTPにインポート

このステップでは、新しいレポートテンプレートであるCADONLYREF_ID.RTPに.RUL ファイルに含まれるルールをインポートします。.RUL ファイルにはTextAndCAD レポートのCAD部分で使用されるルールセットが含まれ、またそれはREFERENCE_ID.LBLを使用して測定結果を表示します。REFERENCE_ID.LBLを使用するルールを変更し、新しいルールと新しいラベルテンプレートREFERENCE_ID_COLOR.LBLを使用するようにします。

1. **ファイル| レポート| 編集| レポート テンプレート**を選択し、CADONLYREF_ID.RTPを開きます。

2. **プロパティ** ダイアログボックスが表示されます。

3. オブジェクトのリストから**CadReportObject1** オブジェクトを選択します。

4. **プロパティ** ダイアログ ボックスに、**標準** リストを展開して**ルールツリー**プロパティの隣の**ルール** をクリックします。**ルールツリーエディタ**が開きます。

5. **[インポート]** ボタンをクリックし、CAD2.RULを選択して**[開く]**をクリックします。ここでレポートテンプレートはTextAndCAD レポートテンプレートのCAD部分に使用されるのと同じルールを含みます。

6. **ルール ツリー エディタ**で[**測定結果位置**]をクリックして、**テンプレート「Reference_ID.lbl」を使用**というルールを選択します。

7. **編集**をクリックして下さい。**編集ルール**ダイアログ ボックスが現れます。

8. 「Reference_ID.lbl」 から「Reference_ID_Color.lbl」へ **ラベル名前**
   を変更します。これは直接入力するかまたは **...**
   ボタンをクリックしてこのファイルに移動することで実行できます。

ステップ5:VB スクリプトのコードを CADONLYREF_ID.RTPに追加

このステップでは、**レポート**
テンプレートエディタを使用して、ルールツリーエディタの中でREFERENCE_ID.LBL
を参照する各場所でCADONLYREF_ID.RTPにスクリプトコードを追加して、測定結果が公差範囲内であるかをチェックします。公差範囲内の場合、コードによってREFERENCE_ID_COLOR.LBLが使用されるようになります。そうでない場合、コードによってLEGACY_DIMENSION_CAD.LBLが使用されるようになります。

1. まだ **編集ルール** ダイアログ
   ボックスに残る場合には**追加の式またはスクリプトを使用**をクリックして**スクリプト**オプションを選択し、 また**編集** ボタンをクリックします。**VBS ミニエディタ**
   が表示されます。

2. VBS ミニエディタに以下のコードを挿入します::

```
Dim Count 整数として

Dim CurrentOutTolバリアントとして

Dim I 整数として

' iRetVal = 1 公差以内の場合; iRetVal = 0 if 公差以外の場合

iRetVal = 1

' 132 = Dtype AXIS

Count = ReportData.GetCount(132)

' 各軸をループしてOutTolが非ゼロであるかどうかを確認します

For I = 1 to Count

' 344 = Dtype DIM_OUTTOL

CurrentOutTol = ReportData.GetValue(344, I)

CurrentOutTol > 0 の場合には

iRetVal = 0

閉じる
```

```
End If

次 I
```

コードの説明:

このコードは、Dtypesの数値を使用します。それはこの寸法の各軸をループして公差値以外に見つかります。戻り値は1に初期化されます（真）。ゼロ以外の公差値が発見される場合、それは戻り値を0（False）に設定します。

1. 一旦コードを追加したら、**OK**をクリックします。ミニ編集は任意の構文エラーをチェックします。コードにエラーがある場合、メッセージはこの時点で表示されます。エラーがない場合、**VBS ミニエディタ**は終了します。
2. **追加**ボタンをクリックして新しいルールを定義します。**編集ルール**ダイアログボックスが現れます。
3. **ラベル名**ボックスに、LEGACY_DIMENSION_CAD.LBLを選択または入力します。
4. また、 **追加の式またはスクリプトを使用**をクリックして **Script** オプションを選択し、また**編集** ボタンをクリックします。**VBS ミニエディタ**が表示されます。
5. **VBS ミニエディタ**に以下のコードを挿入します:

```
Dim Count 整数として

Dim CurrentOutTolバリアントとして

Dim I 整数として

' iRetVal = 1 公差以内の場合; iRetVal = 0 if 公差以外の場合

iRetVal = 0

' 132 = Dtype AXIS

Count = ReportData.GetCount(132)

' 各軸をループしてOutTolが非ゼロであるかどうかを確認します

For I = 1 to Count

' 344 = Dtype DIM_OUTTOL

CurrentOutTol = ReportData.GetValue(344, I)
```

```
CurrentOutTol > 0 の場合には
iRetVal = 1
閉じる
End If
次 I
```

コードの説明:

戻り値は逆になる場合を除いて、このコードは前のコードと同じです。戻り値は0に初期化されます（偽）。ゼロ以外の公差値が発見される場合、それは戻り値を1（真）に設定します。

6. 一旦コードを追加したら、**OK**をクリックします。**VBS ミニエディタ**は任意の構文エラーをチェックします。コードにエラーがある場合、メッセージはこの時点で表示されます。エラーがない場合、**VBS ミニエディタ**は終了します。

7. **OK** をクリックして、**編集ルール**ダイアログ ボックスを閉じて下さい。

ステップ6: このルールを変更して、残っているディメンションにこのVBスクリプトコードを使用します。

このステップに **ルール ツリー エディタ** 内の**コピー** と**貼り付け**機能を使用してその他の従来の寸法のタイプが同じルールを使用することができます。

このポイントで、 **ルール ツリー エディタ** が開かれて**寸法場所** が選択されます。

1. 選択されたディメンションの両方のルールをクリックしてハイライトします。

2. **コピー**ボタンをクリックして下さい。

3. ルールツリー内の各従来のディメンションを通過して、またクリックしてそれがこのルールを持つかどうかを確認します:

   テンプレート「Reference_Id.lbl」を使用します

4. それがする場合、ルールを選択してまた**貼り付け**ボタンをクリックします。これは選択したディメンションのタイプにコピーされたルールを追加します。

5. 一旦新しいルールを使用してすべてのディメンションのタイプを変更したら、 **OK**をクリックして**ルール ツリー エディタ**を閉じます。

6. **ファイル| 保存**を選択してCADONLYREF_ID.RTPの新しいコピーを保存します。
7. **ファイル| 終了**を選択します。これはラベルテンプレートエディタを閉じます。

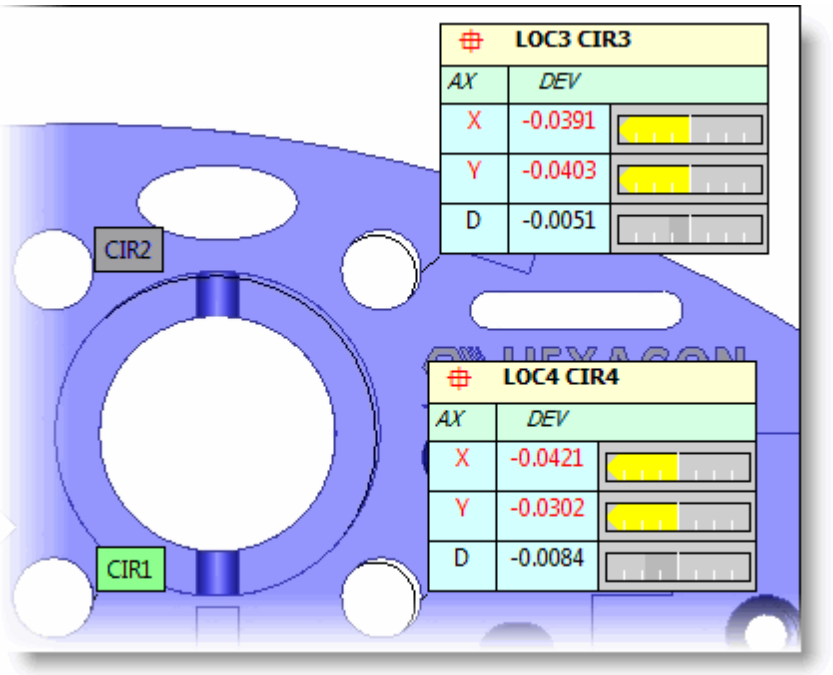
ステップ7: レポート ウィンドウで CADONLYREF_ID.RTPをテスト

このステップでは、CADONLYREF_ID.RTP
テンプレートを選択し、レポートウィンドウ内でそれをテストします。

1. 測定ルーチンは従来の寸法を使用するのを確認してください。
2. ユーザの測定ルーチンを実行します。
3. **ビュー| レポートウィンドウ**を選択してレポート ウィンドウが表示されます。
4. **レポート** ツール バーから、**テンプレートの選択ダイアログ** アイコン
をクリックします。**レポート テンプレート** ダイアログ ボックスは表示されます。
5. [追加]ボタンをクリックして下さい。
6. **開く**ダイアログ
ボックスから、CADONLYREF_ID.RTPを選択し、**開く**をクリックします。レポート
テンプレートが**レポート テンプレート**ダイアログ ボックスに追加されます。
7. **レポート テンプレート**ダイアログ
ボックスから、CADONLYREF_ID.RTPを選択して**開く**をクリックします。
8. PC-DMIS がレポート
テンプレートをロードします。レポートウィンドウには新しく作成されたCADONLYREF_ID.RTP レポート テンプレートを使用する測定ルーチンの結果が含まれます。

公差内の測定結果は要素名のみが表示され、背景色は測定結果の色であり、このページの下部にある測定結果のカラーキーの色と一致することに注目してください。公差外の測定結果はLEGACY_DIMENSION_CAD.LBL ラベルを使用します。

次の画面キャプチャはレポートの外観を表示します：



例のレポートは公差以内の要素(CIR1 とCIR2) と公差以外の要素(CIR3 とCIR4) を表示します。

おめでとう、チュートリアルを完了しました！

Excelテンプレートの作成または編集

ユーザは、PC - DMISエクセルビューアを使って、PC - DMISに直接的にExcelのテンプレートを作成することができます。Excelテンプレートを使用すると、複数のレポートが同一の書式、数式、または情報Excelに使用された場合、時間を節約することができます。

Excelのビューアの詳細については、「その他のウィンドウ、エディタ、およびツールの使用」章の「検査レポートの表示」を参照してください。

Excelテンプレートの作成または編集

1. **ファイル|レポート|新規| Excelのテンプレート**を選択して、PC- DMISのExcelビューアで新規のテンプレートを作成するか、または**ファイル| レポート|編集| Excelのテンプレート**を選択して、既存のテンプレートを編集することができます 。

2. 必要に応じて、テンプレートを変更します。

3. 新規のテンプレートが作成されている場合は、**ファイル|名前を付けて保存**を選択すると、**名前を付けて保存**ダイアログ・ボックスを開きます。

a. **[ファイル名]**ボックスにテンプレートの名前を入力します。

b. 「**改名保存の種類**」一覧から、**エクセル・テンプレート・ファイル(*.xltx)**を選択してから、**保存**をクリックします。

4. 既存のテンプレートを編集している場合、ただ「**ファイル|保存**」を選択してください。

イメージの使用

Excelテンプレートにイメージを追加するには：

1. **[開く]**ダイアログボックスを表示するには、新規または開いたテンプレートから「**挿入 | 画像**」選択します。
2. 有効フォーマットを備えたイメージを含んでいるディレクトリーに進みます。
3. 画像を選択して **[開く]** をクリックして、それを挿入します。

イメージのサイズを変更するには:

1. イメージを選択します。
2. 画像の境界に近い四角形のハンドルのいずれかをドラッグします。

画像の位置を変更するには：

1. イメージを選択します。
2. 新しい位置までそれをドラッグします。

重要:気をつけててください。イメージが一旦変更されると、変更を元に戻すことはできません。